



Elysium
3DxSUITE™

Elysium 3DxSUITE

インストールガイド

2024年 1月

株式会社エリジオン

目次

| | |
|---|----|
| 1. はじめに | 3 |
| 1.1. Front-End 製品ごとのインストール手順概要 | 3 |
| 1.2. Utility Tools のインストール手順概要 | 5 |
| 1.3. 想定されるユースケースごとのインストーラー実行手順 | 6 |
| 1.4. Sentinel RMS License Manager のインストール | 11 |
| 2. Elysium 3DxSUITE Components | 13 |
| 2.1. インストール手順 | 13 |
| 2.1.1. 統合インストーラーでのインストール | 13 |
| 2.1.2. 選択インストール | 25 |
| 2.1.3. サイレントインストール | 37 |
| 2.2. アンインストール手順 | 43 |
| 2.2.1. 手動アンインストール | 43 |
| 2.2.2. サイレントアンインストール | 44 |
| 3. Elysium 3DxSUITE Viewer | 45 |
| 3.1. インストール手順 | 45 |
| 3.1.1. 手動インストール | 45 |
| 3.1.2. サイレントインストール | 51 |
| 3.2. 起動手順 | 52 |
| 3.2.1. ライセンス設定 | 52 |
| 3.3. 終了手順 | 52 |
| 3.4. アンインストール手順 | 52 |
| 3.4.1. 手動アンインストール | 53 |
| 3.4.2. サイレントアンインストール | 53 |
| 4. Elysium 3DxSUITE Editor | 54 |
| 4.1. インストール手順 | 54 |
| 4.1.1. 手動インストール | 54 |
| 4.1.2. サイレントインストール | 57 |
| 4.1.3. CADmeister 独立型入出力オプション | 58 |
| 4.2. 起動手順 | 58 |
| 4.2.1. ライセンス設定 | 59 |
| 4.3. 終了手順 | 60 |
| 4.4. アンインストール手順 | 60 |
| 4.4.1. 手動アンインストール | 60 |

| | |
|--|-----|
| 4.4.2. サイレントアンインストール | 61 |
| 5. Elysium 3DxSUITE SmartLauncher | 62 |
| 5.1. インストール手順 | 62 |
| 5.1.1. SmartLauncher (Standalone) の手動インストール | 62 |
| 5.1.2. SmartLauncher (Plug-in) の手動インストール | 74 |
| 5.1.3. SmartLauncher (Standalone) のサイレントインストール | 78 |
| 5.1.4. SmartLauncher (Plug-in) のサイレントインストール | 79 |
| 5.2. SmartLauncher (Plug-in) 設定手順 | 79 |
| 5.2.1. CAD 別初期設定 / 注意事項 | 81 |
| 5.3. 起動手順 | 84 |
| 5.3.1. SmartLauncher (Standalone) の起動 | 84 |
| 5.3.2. SmartLauncher (Plug-in) の起動 | 85 |
| 5.4. アンインストール手順 | 87 |
| 5.4.1. SmartLauncher (Standalone) の手動アンインストール | 87 |
| 5.4.2. SmartLauncher (Standalone) のサイレントアンインストール | 87 |
| 5.4.3. SmartLauncher (Plug-in) の手動アンインストール | 87 |
| 5.4.4. SmartLauncher (Plug-in) のサイレントアンインストール | 88 |
| 6. Elysium 3DxSUITE SmartController | 89 |
| 6.1. インストール手順 | 89 |
| 6.1.1. 手動インストール | 89 |
| 6.1.2. サイレントインストール | 92 |
| 6.2. 起動手順 | 93 |
| 6.3. 終了手順 | 94 |
| 6.4. アンインストール手順 | 94 |
| 6.4.1. 手動アンインストール | 94 |
| 6.4.2. サイレントアンインストール | 94 |
| 7. Elysium 3DxSUITE SmartController Pro | 95 |
| 7.1. インストール手順 | 95 |
| 7.1.1. 手動インストール | 95 |
| 7.1.2. サイレントインストール | 104 |
| 7.2. 起動手順 | 105 |
| 7.3. 終了手順 | 106 |
| 7.4. アンインストール手順 | 106 |
| 7.4.1. 手動アンインストール | 106 |
| 7.4.2. サイレントアンインストール | 106 |

| | |
|--|-----|
| 8. Elysium 3DxSUITE TransServer | 107 |
| 8.1. インストール手順 | 107 |
| 8.1.1. 入出力ファイルの授受に利用するファイルサーバーの設定 | 107 |
| 8.1.2. PostgreSQL のインストール | 110 |
| 8.1.3. PostgreSQL への接続を許可するための設定 (オプション) | 111 |
| 8.1.4. Command Line Tools のインストール (オプション) | 112 |
| 8.1.5. TransServer のインストール | 113 |
| 8.1.6. Apache のインストール | 125 |
| 8.1.7. WorkerNode の設定 | 130 |
| 8.1.8. 複数の WorkerNode の導入 | 131 |
| 8.2. アップグレードインストール | 131 |
| 8.2.1. インストール前の注意事項 | 131 |
| 8.2.2. TransServer のインストール | 131 |
| 8.2.3. データベースの削除 | 135 |
| 8.3. インストール後の設定変更 | 136 |
| 8.3.1. アプリケーションサーバーのインスタンス数変更方法 | 136 |
| 8.3.2. リソースの保存フォルダー変更方法 | 136 |
| 8.3.3. ライセンスサーバーの変更方法 | 137 |
| 8.3.4. ファイルサーバーの変更方法 | 137 |
| 8.3.5. データベース名の変更方法 | 138 |
| 8.3.6. データベースパスワードの変更方法 | 138 |
| 8.3.7. Apache の更新方法 | 139 |
| 8.3.8. TransServer を Windows サービスとして登録する方法 | 139 |
| 8.3.9. TransServer の Windows サービスを登録解除する方法 | 141 |
| 8.3.10. アップロードされたモデルを一時的に格納するフォルダーの変更方法 | 141 |
| 8.4. 起動手順 | 142 |
| 8.4.1. サーバー設定 | 143 |
| 8.5. 終了手順 | 143 |
| 8.6. アンインストール手順 | 144 |
| 9. Elysium 3DxSUITE WorkerNode | 146 |
| 9.1. インストール手順 | 146 |
| 9.1.1. 事前準備: 入出力ファイルの授受に利用するファイルサーバーの設定 | 146 |
| 9.1.2. 手動インストール | 149 |
| 9.1.3. サイレントインストール | 151 |
| 9.2. WorkerNode の設定 | 152 |

| | |
|--|-----|
| 9.2.1. [共通設定] ダイアログ | 153 |
| 9.2.2. [共通] タブ | 155 |
| 9.2.3. [コンポーネント] タブ | 156 |
| 9.2.4. Windows サービスの登録と削除 | 158 |
| 9.2.5. 複数の WorkerNode の設定 | 161 |
| 9.2.6. 高度な設定 | 162 |
| 9.2.7. 設定の引き継ぎ | 162 |
| 9.3. 起動と停止 | 163 |
| 9.4. アンインストール手順 | 166 |
| 9.4.1. 手動アンインストール | 166 |
| 9.4.2. サイレントアンインストール | 166 |
| 9.5. 補足 | 167 |
| 9.5.1. WorkerNode の実行状態を確認する方法について | 167 |
| 9.5.2. WorkerNode のログについて | 167 |
| 10. Elysium 3DxSUITE Inspector | 168 |
| 10.1. インストール手順 | 168 |
| 10.1.1. 手動インストール | 168 |
| 10.1.2. サイレントインストール | 170 |
| 10.2. 起動手順 | 171 |
| 10.3. 終了手順 | 173 |
| 10.4. アンインストール手順 | 173 |
| 10.4.1. 手動アンインストール | 173 |
| 10.4.2. サイレントアンインストール | 173 |
| 11. Elysium 3DxSUITE ScenarioEditor | 175 |
| 11.1. インストール手順 | 175 |
| 11.1.1. 手動インストール | 175 |
| 11.1.2. サイレントインストール | 181 |
| 11.2. 起動手順 | 182 |
| 11.3. 終了手順 | 182 |
| 11.4. アンインストール手順 | 182 |
| 11.4.1. 手動アンインストール | 183 |
| 11.4.2. サイレントアンインストール | 183 |
| 12. Elysium 3DxSUITE Data Package Studio | 184 |
| 12.1. インストール手順 | 184 |
| 12.1.1. 手動インストール | 184 |

| | |
|---|-----|
| 12.1.2. サイレントインストール | 191 |
| 12.2. 起動手順 | 192 |
| 12.3. 終了手順 | 192 |
| 12.4. アンインストール手順 | 192 |
| 12.4.1. 手動アンインストール | 192 |
| 12.4.2. サイレントアンインストール | 193 |
| 13. Elysium 3DxSUITE Validation Configurator | 194 |
| 13.1. インストール手順 | 194 |
| 13.1.1. 手動インストール | 194 |
| 13.1.2. サイレントインストール | 202 |
| 13.2. 起動手順 | 203 |
| 13.3. 終了手順 | 204 |
| 13.4. アンインストール手順 | 204 |
| 13.4.1. 手動アンインストール | 204 |
| 13.4.2. サイレントアンインストール | 204 |
| 14. Elysium 3DxSUITE PDQ Checker Configurator | 206 |
| 14.1. インストール手順 | 206 |
| 14.2. 起動手順 | 206 |
| 14.3. 終了手順 | 206 |
| 14.4. アンインストール手順 | 206 |
| 15. Elysium 3DxSUITE 設定ユーティリティー | 207 |
| 15.1. インストール手順 | 207 |
| 15.2. 起動手順 | 207 |
| 15.3. 終了手順 | 207 |
| 15.4. アンインストール手順 | 207 |
| 16. トラブルシューティング | 208 |
| Appendix A: 3DxSUITE インストーラー一覧 | 210 |
| Appendix B: サンプルシナリオについて | 215 |
| B.1. DFM Studio を実行するためのサンプルシナリオ | 215 |
| B.2. DFAS Studio を実行するためのサンプルシナリオ | 215 |
| B.3. CAD Validator を実行するためのサンプルシナリオ | 216 |
| B.4. Drawing Validator を実行するためのサンプルシナリオ | 217 |

モジュールパッケージについて

3DxSUITE の全モジュールパッケージは、3DxSUITE カスタマーページで公開されています。公開されているモジュールパッケージの一覧は以下の通りです。

- 3DxSUITE Base パッケージ
- 3DxSUITE Components パッケージ
- 3DxSUITE Viewer パッケージ
- 3DxSUITE Editor パッケージ
- 3DxSUITE SmartController パッケージ
- 3DxSUITE SmartController Pro パッケージ
- 3DxSUITE TransServer パッケージ
- 3DxSUITE WorkerNode パッケージ
- 3DxSUITE Inspector パッケージ
- 3DxSUITE Daimler Bundle パッケージ
- 3DxSUITE Honda Bundle パッケージ
- 3DxSUITE Standard Format パッケージ
- 3DxSUITE Module for CADmeister パッケージ
- 3DxSUITE ScenarioEditor パッケージ
- 3DxSUITE Data Package Studio パッケージ
- 3DxSUITE Validation Configurator パッケージ
- 3DxSUITE PDQ Checker Configurator パッケージ
- 3DxSUITE Component binary パッケージ
- 3DxSUITE DFX Analyzer Base パッケージ
- 3DxSUITE Drawing Validator Base パッケージ



本ドキュメント中で各パッケージに言及する際には、3DxSUITE を省略した上で <> で囲って表記します。
(例: "サンプルスクリプトは <Base パッケージ> に含まれています。")

なお、3DxSUITE カスタマーページのログイン情報については、以下のフォームから申請してください。カスタマーページへのログインを申請するためには、製品の保守契約を継続いただいている必要があります。

<https://www.elysium-global.com/ja/support/3dxsuite/>

3DxSUITE 設定ユーティリティーについて

ライセンスサーバーの情報やシナリオフォルダーのパスなど 3DxSUITE 製品群で共通して利用する設定項目については、"3DxSUITE ユーザー共通設定" もしくは "3DxSUITE ローカルユーザー設定" で設定することができます。設定可能な項目の詳細については [Elysium 3DxSUITE 設定ユーティリティーマニュアル] を参照してください。

なお本ドキュメントでは、以降 "3DxSUITE ユーザー共通設定" と "3DxSUITE ローカルユーザー設定" をまとめて "3DxSUITE 設定" と記載します。

3DxSUITE 製品の略称について

本ドキュメント内では、各 3DxSUITE 製品の名称を以下の通り省略して記載します。

- 3DxSUITE Components → Components
- 3DxSUITE Viewer → Viewer
- 3DxSUITE Editor → Editor
- 3DxSUITE SmartLauncher (Standalone) → SmartLauncher (Standalone)
- 3DxSUITE SmartLauncher (Plug-in) → SmartLauncher (Plug-in)
- 3DxSUITE SmartController → SmartController
- 3DxSUITE SmartController Pro → SmartController Pro
- 3DxSUITE TransServer → TransServer
- 3DxSUITE WorkerNode → WorkerNode
- 3DxSUITE Inspector → Inspector
- 3DxSUITE Drawing Validator Viewer → Drawing Validator Viewer
- 3DxSUITE ScenarioEditor → ScenarioEditor
- 3DxSUITE Data Package Studio → Data Package Studio
- 3DxSUITE Validation Configurator → Validation Configurator
- 3DxSUITE PDQ Checker Configurator → PDQ Checker Configurator
- 3DxSUITE Setting Utility → Setting Utility
- 3DxSUITE DFM Studio Parameter Settings Tool → DFM Studio Parameter Settings Tool
- 3DxSUITE DFAS Studio Parameter Settings Tool → DFAS Studio Parameter Settings Tool

1. はじめに

本ドキュメントでは、3DxSUITE 製品群のインストール手順について説明します。3DxSUITE は複数の製品から構成されており、インストーラーも各製品、もしくは機能単位で提供しています。想定している使用方法、お持ちのライセンス、負荷の分散などを考慮して、いずれの製品をどのコンピューターにインストールするかを決定してください。

なお 3DxSUITE 製品それぞれの概要については、別冊 "Elysium 3DxSUITE 製品概要" マニュアルを参照してください。

1.1. Front-End 製品ごとのインストール手順概要

どの Front-End 製品を使用するかを基準として、3DxSUITE 製品群をセットアップする手順の概要を以下にまとめました。実行するインストーラー、実行する対象となるコンピューター、実行する順序を Front-End 製品ごとに記載しています。ここで記載しているのはあくまでも手順の概要となりますので、詳細については 2 章以降を参照してください。



ここでは、統合インストーラーで Components をインストールする際に SmartLauncher も同時にインストールするものとして記載しています。

• Viewer

Viewer をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

| 導入順序 | 対象コンピューター | インストーラー |
|------|-----------|------------------------------------|
| 1 | コンピューター A | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Viewer.exe |

• Editor

Editor の利用には Components が必要です。Editor をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

| 導入順序 | 対象コンピューター | インストーラー |
|------|-----------|--|
| 1 | コンピューター A | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe |
| 2 | コンピューター A | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Editor.exe |

• SmartLauncher

SmartLauncher は Components の統合インストーラーからインストールすることができます。SmartLauncher をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

| 導入順序 | 対象コンピューター | インストーラー |
|------|-----------|--|
| 1 | コンピューター A | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe |

• SmartLauncher Plug-in

SmartLauncher Plug-in は Components の統合インストーラーからインストールすることができます。SmartLauncher Plug-in をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

| 導入順序 | 対象コンピューター | インストーラー |
|------|-----------|--|
| 1 | コンピューター A | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe |

• SmartController

SmartController をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

| 導入順序 | 対象コンピューター | インストーラー |
|------|-----------|---|
| 1 | コンピューター A | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController.exe |
| 2 | コンピューター B | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe |

• SmartController Pro

SmartController Pro は、実際の処理を WorkerNode で実行します。一般的には、SmartController Pro と WorkerNode を別々のコンピューターにインストールすることができます。SmartController Pro をインストールする対象を "コンピューター A"、WorkerNode をインストールする対象を "コンピューター B" としたとき、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

| 導入順序 | 対象コンピューター | インストーラー |
|------|-----------|---|
| 1 | コンピューター A | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController_Pro.exe |
| 2 | コンピューター B | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe |
| 3 | コンピューター B | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_WorkerNode.exe |

• TransServer

TransServer は実際の処理を WorkerNode で実行します。また TransServer はサーバー OS の動作するコンピューターに、WorkerNode はクライアント OS の動作するコンピューターにインストールする必要があります。TransServer をインストールする対象を "コンピューター A"、WorkerNode をインストールする対象を "コンピューター B" としたとき、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

| 導入順序 | 対象コンピューター | インストーラー |
|------|-----------|---|
| 1 | コンピューター A | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_TransServer.exe |
| 2 | コンピューター B | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe |
| 3 | コンピューター B | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_WorkerNode.exe |

• Inspector

Inspector をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

| 導入順序 | 対象コンピューター | インストーラー |
|------|-----------|---------------------------------------|
| 1 | コンピューター A | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Viewer.exe |
| 2 | コンピューター A | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Inspector.exe |

• Command Line

Command Line での利用には Components が必要です。Components をインストールする対象を "コンピューター A" とすると、インストーラーの実行順序、対象コンピューター、インストーラーは以下の通りになります。

| 導入順序 | 対象コンピューター | インストーラー |
|------|-----------|--|
| 1 | コンピューター A | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe |



"Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" は統合インストーラーになっています。このインストーラーから並びのフォルダー内にあるインストーラーを呼び出すことで、Adapter や SmartLauncher など複数の製品をまとめてインストールできます。インストールウィザードの中で必要な製品を選択し、インストールを実行してください。

なお特定の Adapter だけをインストールしたい場合などには、並びのフォルダー内にあるインストーラーを個別に実行してインストールすることも可能です。インストーラーの情報については、[Appendix A, 3DxSUITE インストーラー一覧](#) を参照してください。

1.2. Utility Tools のインストール手順概要

Utility Tools は 3DxSUITE 製品群の各種設定を行うためのツールです。これらのツールで設定した内容はファイルとして保存することができ、そのファイルを Front-End および Components がインストールされているコンピューターに配置すれば意図した動作を実現できます。このため、Utility Tools 自体は Front-End または Components がインストールされているコンピューター以外のコンピューターにインストールすることも可能です。

以下の表には、Utility Tools に含まれる各製品のインストーラーと、その製品と組み合わせて使用する可能性のある Front-End をまとめています。

| Utility Tools | インストーラー | Front-End |
|--------------------------|--|--|
| 3DxSUITE Scenario Editor | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_ScenarioEditor.exe | <ul style="list-style-type: none"> 3DxSUITE SmartLauncher 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in 3DxSUITE SmartController 3DxSUITE SmartController Pro |

| | | |
|-----------------------------------|--|---|
| 3DxSUITE Data Package Studio | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_32bit.exe Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_64bit.exe | <ul style="list-style-type: none"> • 3DxSUITE SmartLauncher • 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in • 3DxSUITE SmartController • 3DxSUITE SmartController Pro |
| 3DxSUITE Validation Configurator | Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Validation_Configurator.exe | <ul style="list-style-type: none"> • 3DxSUITE SmartLauncher • 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in • 3DxSUITE SmartController • 3DxSUITE SmartController Pro |
| 3DxSUITE PDQ Checker Configurator | (*1) | <ul style="list-style-type: none"> • 3DxSUITE Editor • 3DxSUITE SmartLauncher • 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in • 3DxSUITE SmartController • 3DxSUITE SmartController Pro |

- *1: PDQ Checker Configurator のインストーラーはありません。使用する際には、<PDQ Checker Configurator パッケージ>に含まれる "PDQCheckerSetting.xlsm" を Microsoft Excel で開いてください。

1.3. 想定されるユースケースごとのインストーラー実行手順

以下では想定されるいくつかの状況を具体例として、どのような場合にどのインストーラーを実行する必要があるかを説明します。

ケース 1: Editor で NX から JT への変換を行う (NX (Plug-in) Adapter を使用)

【このケースに対応する旧製品での使用方法】

CADdoctor 本体 と CADdoctor 用 NX 入力オプション (組込) を用いて NX から JT への変換を行う

a. NX がインストールされているコンピューターに Editor をインストールする場合

- "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 NX Adapter
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 JT Adapter

- "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Editor.exe" を実行して Editor をインストールします。
- b. NX がインストールされているコンピューターとは別のコンピューターに Editor をインストールする場合
 - NX がインストールされているコンピューターで "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 NX Adapter
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 SmartLauncher (NX Plug-in)
 - Editor をインストールするコンピューターで "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して Component をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 JT Adapter
 - Editor をインストールするコンピューターで "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Editor.exe" を実行して Editor をインストールします。

ケース 2:
SmartLauncher で Creo Parametric から SOLIDWORKS への変換を行う (Creo Parametric (Plug-in) Adapter を使用)

[このケースに対応する旧製品での使用方法]

ASFALIS SmartLauncher または DirectTranslator で Creo Parametric アダプター (CAD 組込) を用いて Creo Parametric から SOLIDWORKS への変換を行う

- a. Creo Parametric と SOLIDWORKS が同じコンピューターにインストールされている場合
 - "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して、Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 Creo Parametric Adapter
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 SOLIDWORKS Adapter
- b. Creo Parametric と SOLIDWORKS が別々のコンピューターにインストールされている場合
 - Creo Parametric のインストールされているコンピューターで "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して、Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 Creo Parametric Adapter
 - SOLIDWORKS のインストールされているコンピューターで "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して、Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。

- Elysium 3DxSUITE EX10.0 SOLIDWORKS Adapter

ケース 3:
NX 向けの SmartLauncher CAD 組込メニューで CATIA V5 モデルを出力する (NX (Plug-in) Adapter および CATIA V5 (Plug-in) Adapter を使用)

[このケースに対応する旧製品での使用方法]

CADdoctor Option for NX の CAD 組込メニューで .drx ファイルを出力し、出力した .drx を CADdoctor に読み込んでヒーリングを行ってから再度 .drx を出力し、その .drx を CADdoctor Option for CATIA V5 の CAD 組込メニューでインポートする

- a. NX と CATIA V5 が同じコンピューターにインストールされている場合
 - "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して、Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 NX Adapter
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 SmartLauncher (NX Plug-in)
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 CATIA V5 Adapter
- b. NX と CATIA V5 が別々のコンピューターにインストールされている場合
 - NX のインストールされているコンピューターで "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して、Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 NX Adapter
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 SmartLauncher (NX Plug-in)
 - CATIA V5 のインストールされているコンピューターで "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して、Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 CATIA V5 Adapter

ケース 4:
SmartController で CATIA V5 モデル同士の CAD 比較を行う (CATIA V5 (Plug-in) Adapter を使用)

[このケースに対応する旧製品での使用方法]

CATIA V5 アダプター (CAD 組込) を用いて CATIA V5 モデルを中間ファイルに変換し、ASFALIS Controller で CAD 比較を行う

- "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して Component をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 CATIA V5 Adapter
- "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController.exe" を実行して SmartController をインストー

ルします。

ケース 5: SmartController Pro で NX モデルの形状簡略化を行う (NX (Plug-in) Adapter を使用)

[このケースに対応する旧製品での使用方法]

NX アダプターでインポートした NX モデルを簡略化し、その結果を再度 NX アダプターで出力するという処理を ASFALIS Controller で実行する

- ジョブの管理を行うためのコンピューター上で
"Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController_Pro.exe" を実行し、SmartController Pro をインストールします。
- NX のインストールされているコンピューター上で
"Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して Component をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 NX Adapter
- NX のインストールされているコンピューター上で
"Elysium_3DxSUITE_EX10_0_WorkerNode.exe" を実行して WorkerNode をインストールします。

ケース 6: TransServer で SOLIDWORKS から CATIA V5 への変換を行う (CATIA V5 (Plug-in) Adapter を使用)

[このケースに対応する旧製品での使用方法]

ASFALIS TransServer、SOLIDWORKS アダプター、CATIA V5 アダプター (CAD 組込) を用いて SOLIDWORKS から CATIA V5 への変換を行う

- a. SOLIDWORKS と CATIA V5 が同じコンピューターにインストールされている場合
 - ジョブの管理を行うためのコンピューター上で
"Elysium_3DxSUITE_EX10_0_TransServer.exe" を実行し、TransServer をインストールします。
 - SOLIDWORKS と CATIA V5 がインストールされているコンピューター上で
"Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して Component をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 SOLIDWORKS Adapter
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 CATIA V5 Adapter
 - SOLIDWORKS と CATIA V5 がインストールされているコンピューター上で
"Elysium_3DxSUITE_EX10_0_WorkerNode.exe" を実行して WorkerNode をインストールします。
- b. SOLIDWORKS と CATIA V5 が別々のコンピューターにインストールされている場合
 - ジョブの管理を行うためのコンピューター上で

"Elysium_3DxSUITE_EX10_0_TransServer.exe" を実行し、TransServer をインストールします。

- SOLIDWORKS がインストールされているコンピューター上で "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して Component をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 SOLIDWORKS Adapter
- SOLIDWORKS がインストールされているコンピューター上で "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_WorkerNode.exe" を実行して WorkerNode をインストールします。
- CATIA V5 がインストールされているコンピューター上で "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して Component をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 CATIA V5 Adapter
- CATIA V5 がインストールされているコンピューター上で "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_WorkerNode.exe" を実行して WorkerNode をインストールします。

ケース 7: CADdoctor Bundle Package を使用する

[このケースに対応する旧製品での使用方法]

CADdoctor を使用して IGES ファイルや STL ファイルの入出力を行う

- "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 IGES Adapter
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 STL Adapter
- "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Editor.exe" を実行して Editor をインストールします。



- CADdoctor Bundle Package 以外に CAD の変換オプションライセンスも保有している場合には、Components をインストールする際にそれらのライセンスに対応する Adapter も選択してください。
- CADdoctor Bundle Package の詳細については、"3DxSUITE CADdoctor Bundle Package マニュアル" を参照してください。

ケース 8: Daimler Bundle Package を使用して CATIA V5 to/from JT 変換を実行する

[このケースに対応する旧製品での使用方法]

CATIA V5 to/from JT DirectTranslator もしくは ASFALIS の forDaimlerSupplier パッケージを

用いて CATIA V5 to/from JT 変換を実行する

- "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を実行して Component および SmartLauncher をインストールします。セットアップタイプとしては "完全インストール" を選択するか、"カスタムインストール" で以下を選択します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 CATIA V5 Adapter
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 SmartLauncher (CATIA V5 Plug-in)
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 JT Adapter
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 PLM XML Adapter
- "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController.exe" を実行して SmartController をインストールします。
- "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController_Pro.exe" を実行して SmartController Pro をインストールします。
- "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_WorkerNode.exe" を実行して WorkerNode をインストールします。
- "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_TransServer.exe" を実行し、TransServer をインストールします。



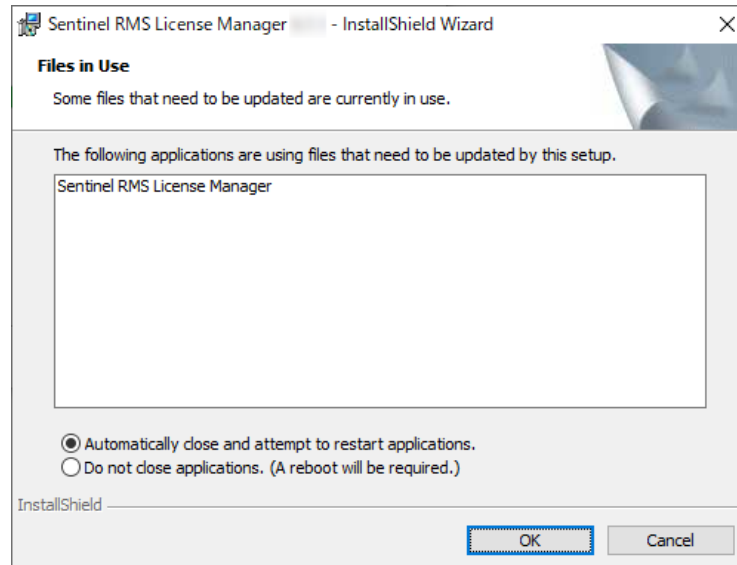
- Components 以外のインストーラーについては、どの Front-End 製品を用いて処理を実行するかを踏まえ、適切なものを選択して実行してください。
- 処理方法の詳細などについては、"3DxSUITE Daimler Bundle Package マニュアル" を参照してください。

1.4. Sentinel RMS License Manager のインストール

3DxSUITE 製品群は、Thales 社製の Sentinel RMS License Manager によりライセンス管理されます。以下のインストーラーを実行して、Sentinel RMS License Manager を導入してください。導入手順の詳細は、別冊 "Sentinel RMS License Manager セットアップ&クイックスタートガイド" を参照してください。

- [Sentinel RMS License Manager インストーラー]
<Base パッケージ>\license_server\installer\setup.exe
- [Sentinel RMS License Manager セットアップ&クイックスタートガイド]
<Base パッケージ>\doc\LicenseServer_QuickStartGuide_ja.pdf

以前のバージョンの Sentinel RMS License Manager がインストールされている環境でインストーラーを実行した場合、インストール中に以下のようなダイアログが表示される場合があります。このダイアログが表示された場合には、"Automatically close and attempt to restart applications." を選択して [OK] をクリックしてください。



Sentinel RMS License Manager は、3DxSUITE 製品をインストールするコンピューターと同じコンピューターにインストールすることも、別のコンピューターにインストールすることも可能です。別のコンピューターにインストールする場合には、そのコンピューターに対して 3DxSUITE 製品がインストールされるコンピューターから通信ができるように設定してください。また Sentinel RMS License Manager は対象となる環境で 1 台のコンピューターにだけインストールすればよく、3DxSUITE 製品をインストールするすべてのコンピューターにインストールする必要はありません。

2. Elysium 3DxSUITE Components

事前にインストールする必要があるプログラム

- なし

2.1. インストール手順



インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。Components をインストールするには、統合インストーラーで一括インストールする方法と、Component を個別のインストーラーで選択インストールする方法のいずれかを選択することができます。それぞれの方法の概要は以下の通りです。

• 統合インストーラーによるインストール:

インストールする Component を選択すると、その前提となる Component も併せて選択され、それらがまとめて自動的にインストールされます。インストーラーを 1 回実行するだけで済むため、最小限の工数でインストールを実行できます。通常はこちらの方法を選択してください。

• 個別のインストーラーによる選択インストール:

必要最小限の Component だけを選択してインストールできます。関連しない Component は一切インストールされないため、記憶領域の消費を最小限に抑えられます。また初期セットアップの時点では統合インストーラーを利用し、後から機能を追加する際には選択インストールを用いるという用途もあります。

それぞれの方法でのインストール手順は以下の通りです。

2.1.1. 統合インストーラーでのインストール



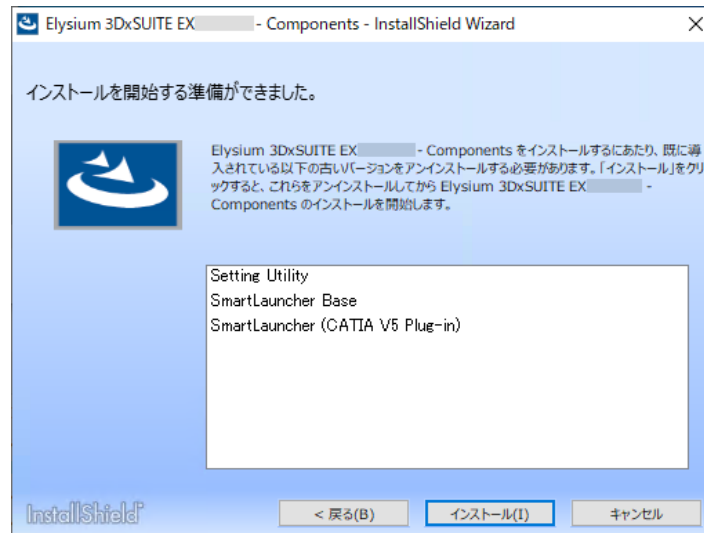
- ネットワークドライブに配置したインストーラーを管理者として実行したコマンドプロンプトから実行した場合、インストールが失敗します。以下のいずれかの方法でインストールを実行してください。

- コマンドプロンプトをログインユーザーの権限で起動し、インストーラーを実行する。
- Components インストーラーを UNC パスで指定して実行する。
- Components インストーラーをローカルドライブにコピーしてから実行する。



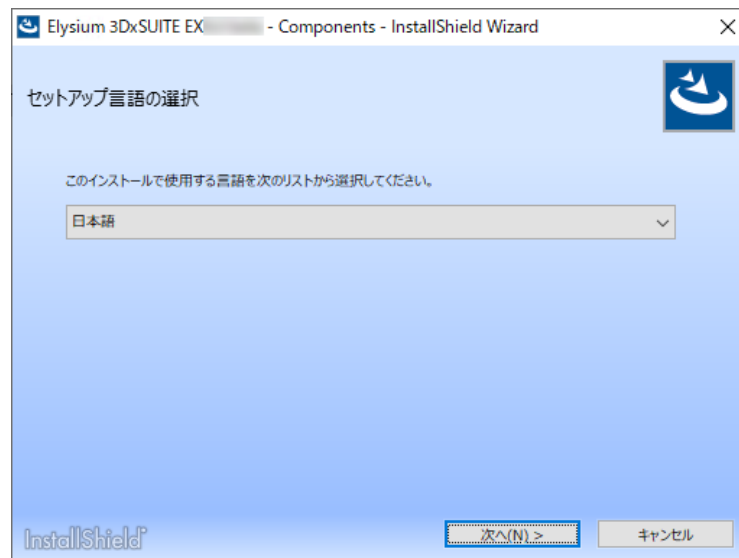
- 統合インストーラーによるインストールの実行中に [キャンセル] をクリックした場合、そこまで実行されたインストールはロールバックされません。必要な場合には、インストール済みのアプリケーションを手動でアンインストールしてください。

- 統合インストーラーから Setting Utility、3DxSUITE SmartLauncher Base、SmartLauncher (Plug-in) をインストールする場合、先に古いバージョンのアプリケーションがアンインストールされます。その後最新バージョンがインストールされますが、インストール処理が途中で失敗すると Setting Utility、3DxSUITE SmartLauncher Base、SmartLauncher (Plug-in) が導入されていない状態となる可能性があります。

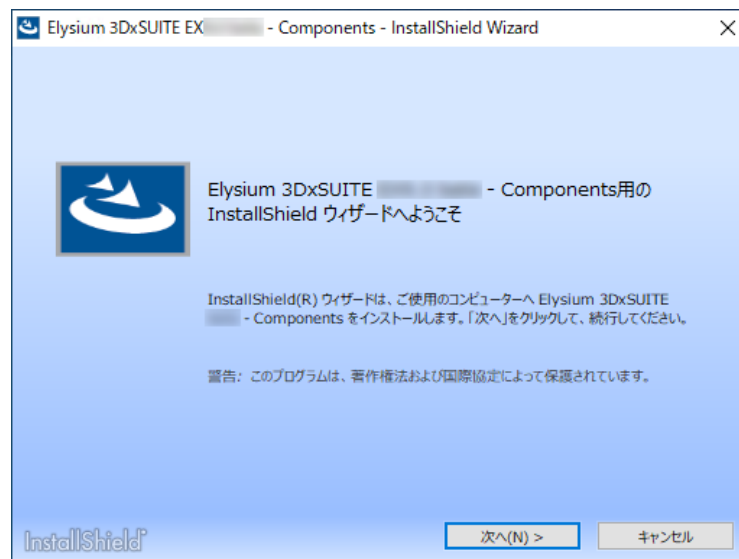


- 3DxSUITE EX10.0 の Setting Utility または SmartLauncher がインストールされている状態で 3DxSUITE EX9.0.5 または 3DxSUITE EX9.0.14 をインストールした場合、アプリケーションが正常に動作しなくなる可能性があります。3DxSUITE EX9.0.5 または 3DxSUITE EX9.0.14 をインストールする場合には、あらかじめ 3DxSUITE EX10.0 に含まれるアプリケーションをすべてアンインストールしてください。

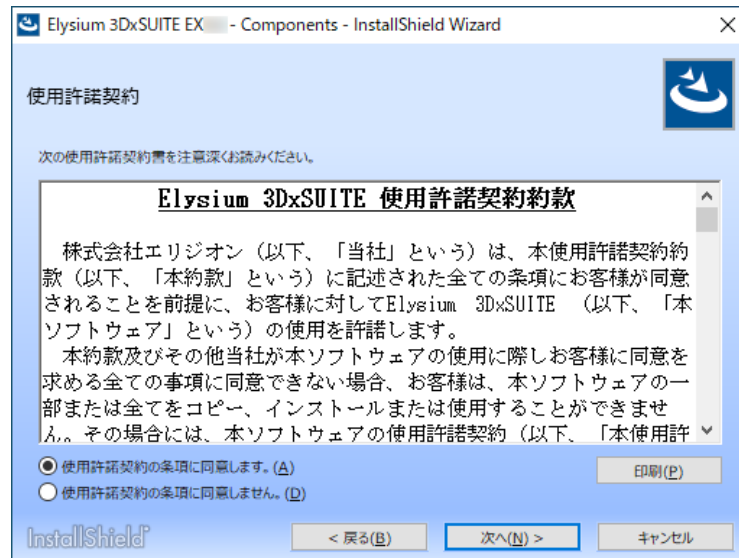
1. Components のインストーラーを実行します。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe
2. インストールで使用する言語を選択して [次へ] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



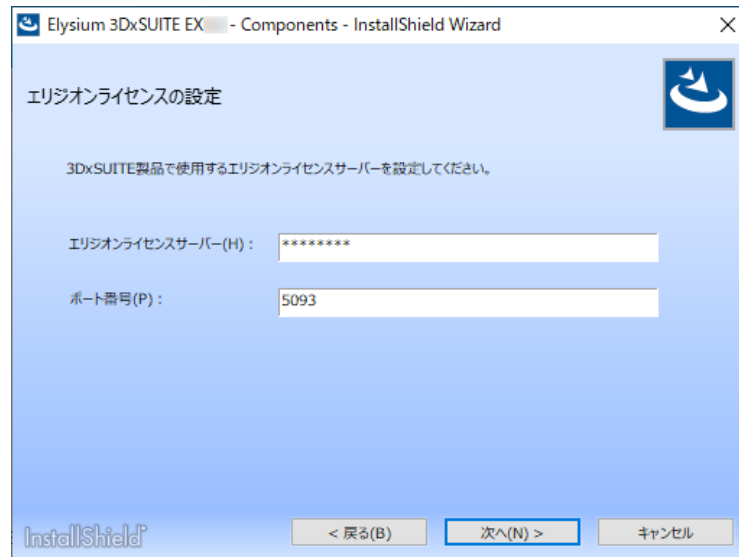
3. インストール開始画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



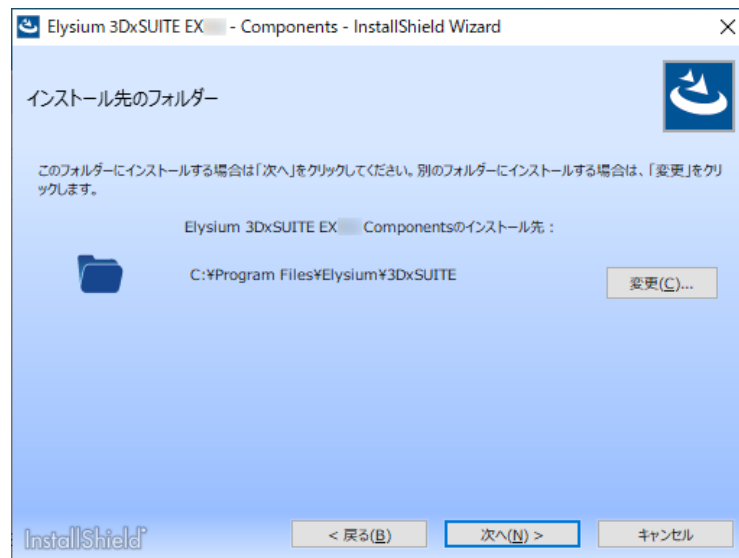
4. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



5. ライセンスの設定画面が表示されます。Sentinel RMS License Manager をインストールしたコンピュータのホスト名とポート番号を入力します。

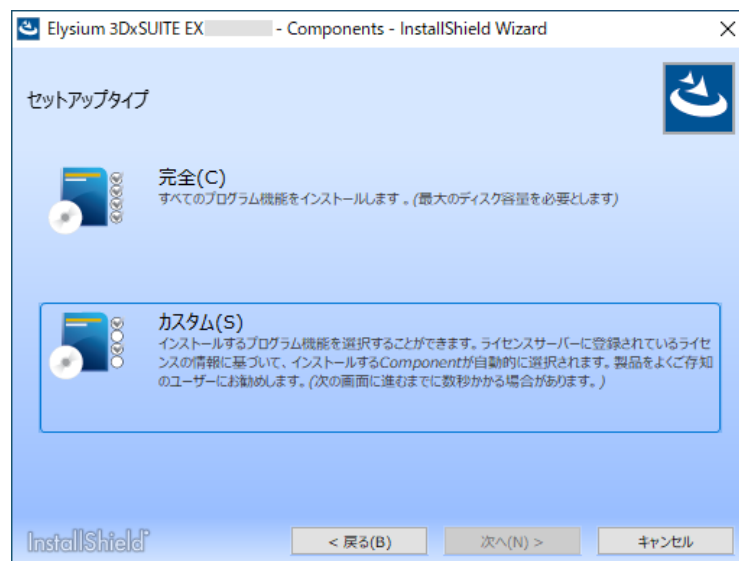


6. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



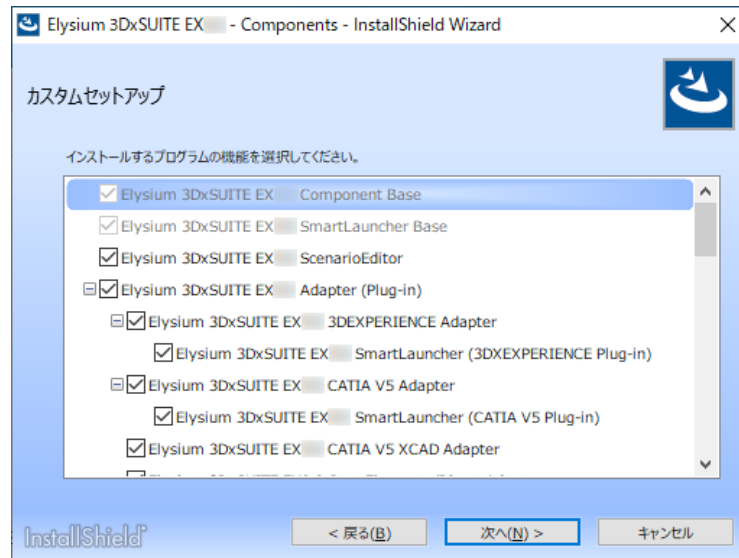
インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

7. セットアップタイプを選択します。

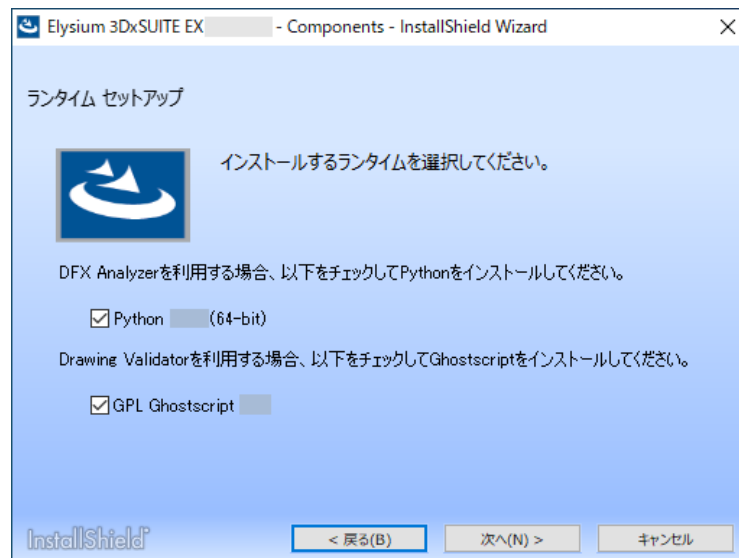


カスタムを選択した場合、次のダイアログが表示されるまでに時間がかかることがあります。

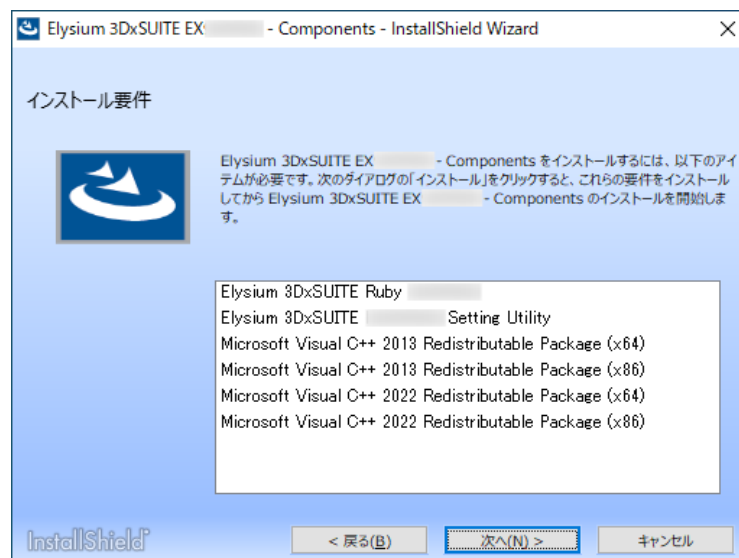
カスタムを選択した場合には、インストールする機能を選択します。このとき、手順 5. で指定したライセンスサーバーを参照してインストールする Component が自動選択されています。必要に応じて選択状態を変更してから [次へ] をクリックします。



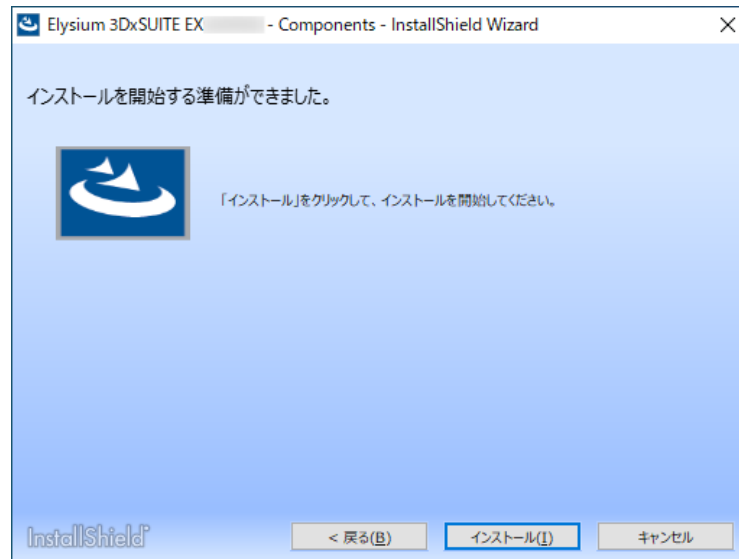
8. ランタイム セットアップの画面が表示されます。必要に応じてチェックを入れ、[次へ] をクリックします。



9. 以下の内容が表示された場合には、[次へ] をクリックします。

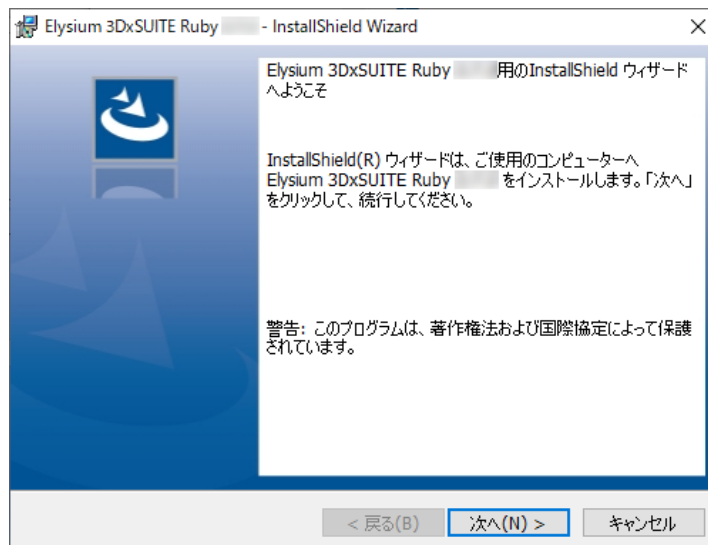


10. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

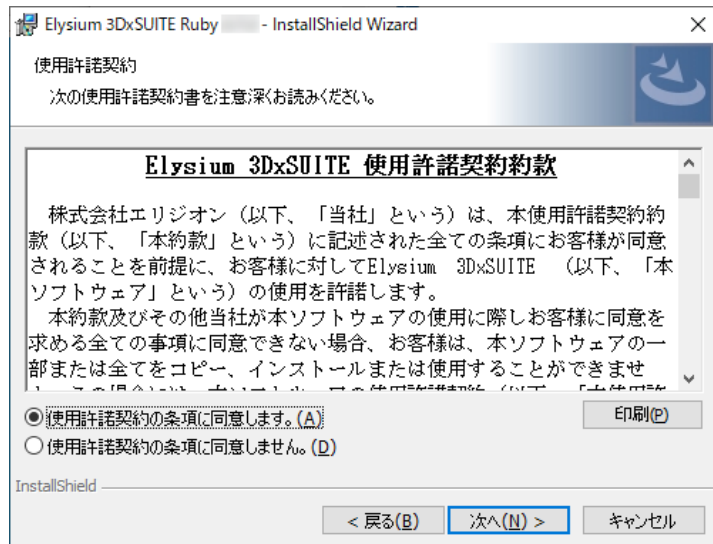


11. Elysium 3DxSUITE Ruby がインストールされていない場合、Elysium 3DxSUITE Ruby のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。すでに Elysium 3DxSUITE Ruby がインストールされている場合は、Elysium 3DxSUITE Ruby インストール後の手順へ進んでください。

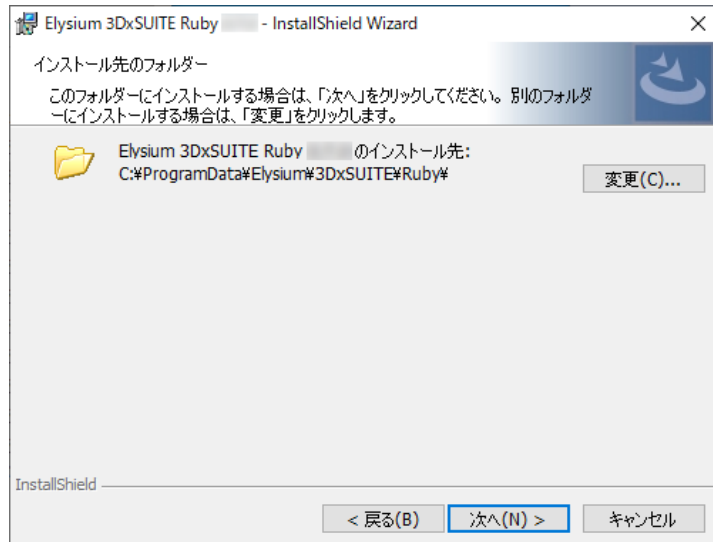
- a. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



- b. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。

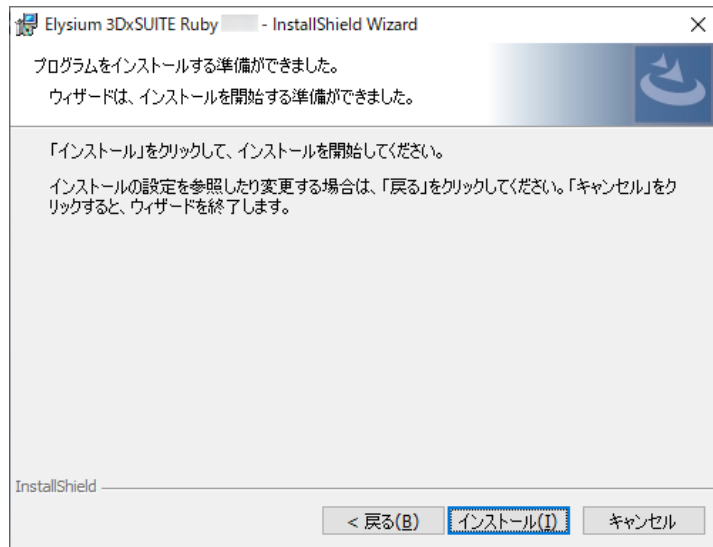


- c. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

- d. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

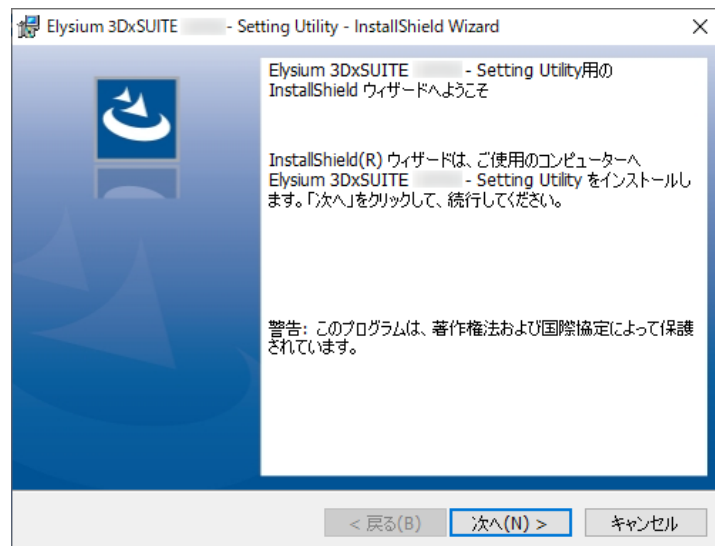


- e. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。

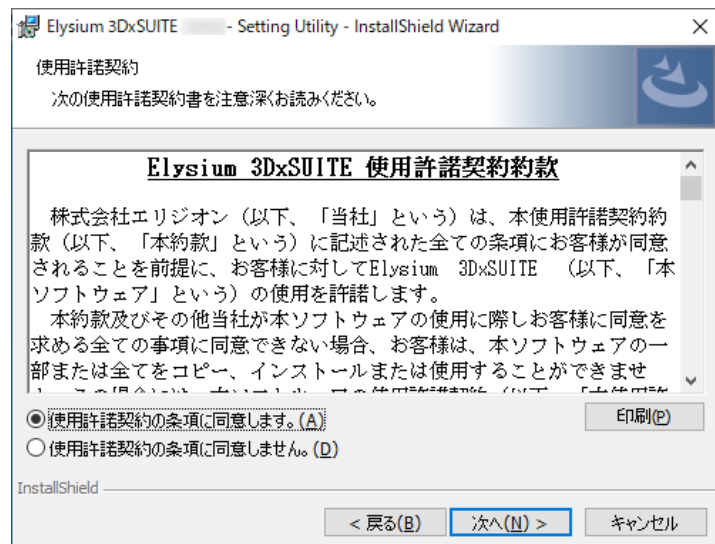


12. Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。

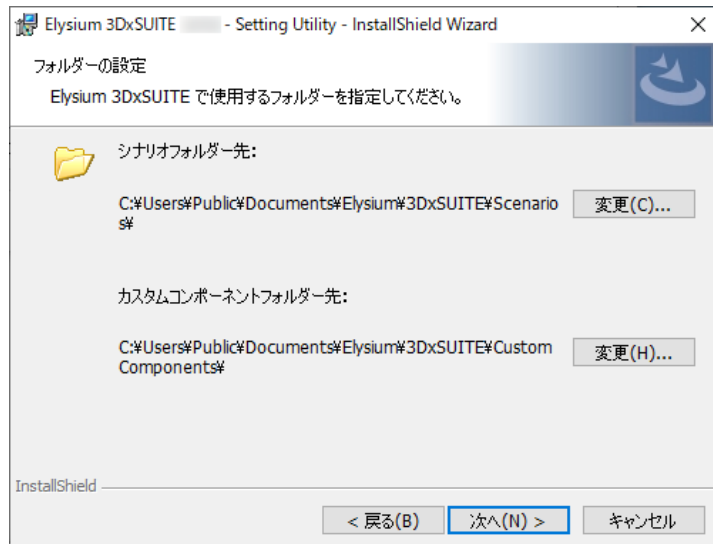
- a. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



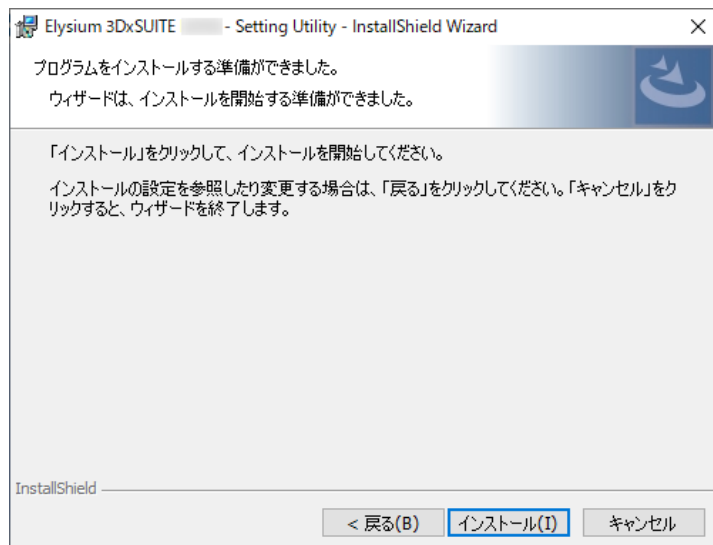
- b. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



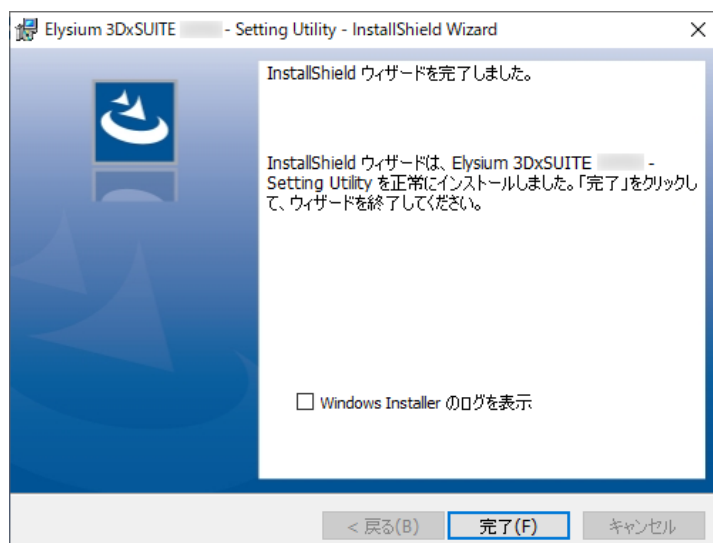
- c. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



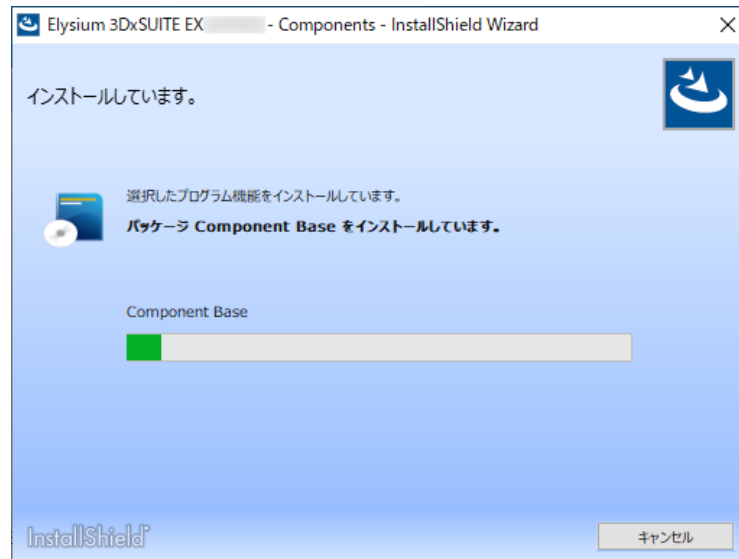
d. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



e. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



13. Components のインストールが実行されます。処理が終了するまで待機します。

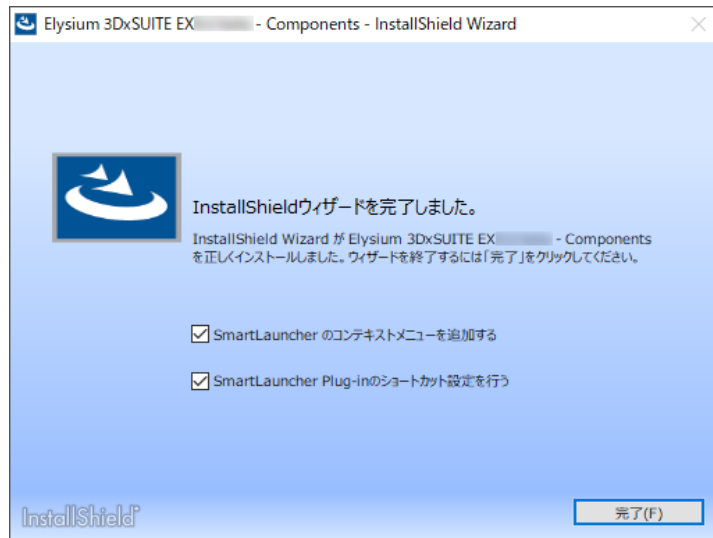


統合インストーラーによるインストールの実行中に [キャンセル] をクリックした場合、そこまで実行されたインストールはロールバックされません。必要な場合には、インストールされたアプリケーションを手動でアンインストールしてください。

14. Components のインストールが終了すると以下のダイアログが表示されます。必要な項目を選択して [完了] をクリックします。

終了後に OS の再起動が必要になる場合があります。

- SmartLauncher のコンテキストメニューを追加する
オンの場合、エクスプローラーでファイルを右クリックした際に表示されるメニューに [Elysium] が追加され、ファイルの変換やシナリオの実行を行えるようになります。オンにすると、SmartLauncher を Windows コンテキストメニューに追加します。
- SmartLauncher Plug-in のショートカット設定を行う
オンの場合、引き続き SmartLauncher (Plug-in) のショートカット設定を実施できます。SmartLauncher (Plug-in) のショートカット設定については、"3DxSUITE SmartLauncher マニュアル" を参照してください。



[完了] をクリックした際、OS の再起動を求めるダイアログが表示される場合があります。ショートカット設定を行う前にこのダイアログで [はい] をクリックすると、すぐに OS が再起動されてしまい、この時点で設定を行うことができなくなります。



SmartLauncher Plug-in のショートカット設定を行う場合には、再起動を求めるダイアログで [はい] をクリックする前に実行してください。なおショートカット設定を行う前に [はい] をクリックした場合でも、後ほど "3DxSUITE 設定" から同じ設定を実行できます。

2.1.2. 選択インストール



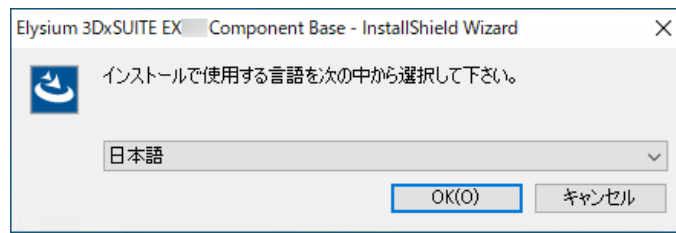
統合インストーラーによるインストールを実施している場合、通常は本手順を実施する必要はありません。

Components インストーラーの並びにあるフォルダー内のインストーラーを実行することで、必要な Component を選択してインストールすることができます。

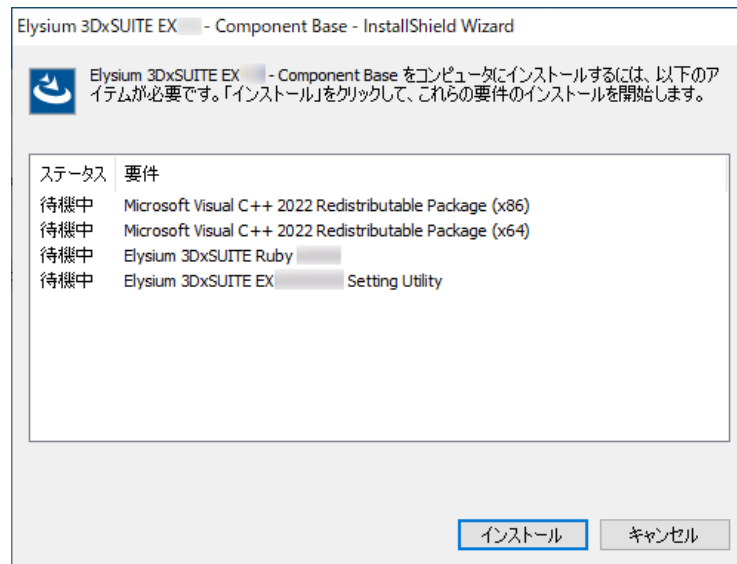
- [3DxSUITE Component Base](#)
 - 3DxSUITE 製品を実行するために必ずインストールする必要があります。
- [Adapter](#)
 - Adapter ごとにインストールできます。ただし、Adapter のインストールを実行する前に 3DxSUITE Component Base をインストールする必要があります。

Component Base

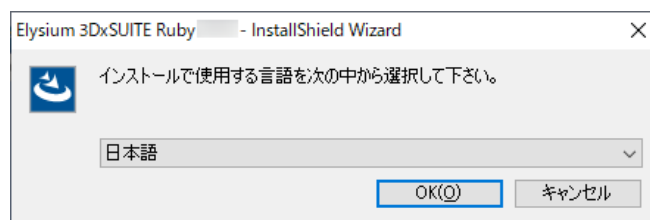
1. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



2. 以下のダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックしインストールを行います。(すでにインストールされている環境では、このダイアログは表示されません。)



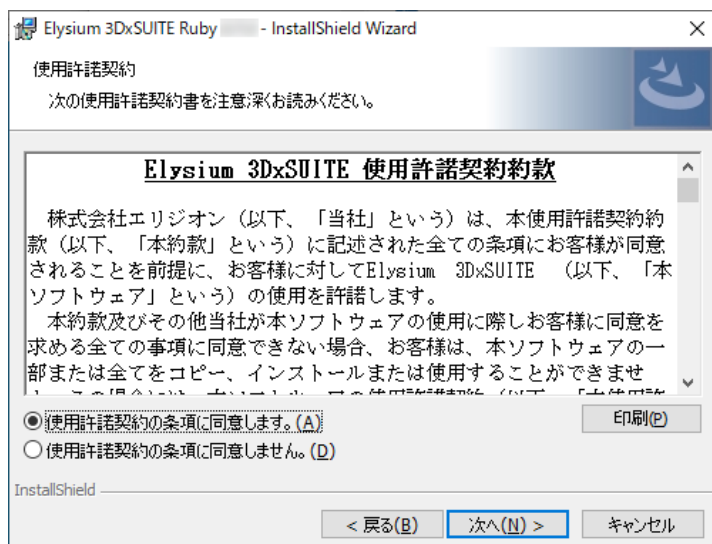
3. Elysium 3DxSUITE Ruby が導入されていない環境の場合、Elysium 3DxSUITE Ruby のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。すでに Elysium 3DxSUITE Ruby が導入されている場合は、Elysium 3DxSUITE Ruby インストール後の手順へ進んでください。
 - a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



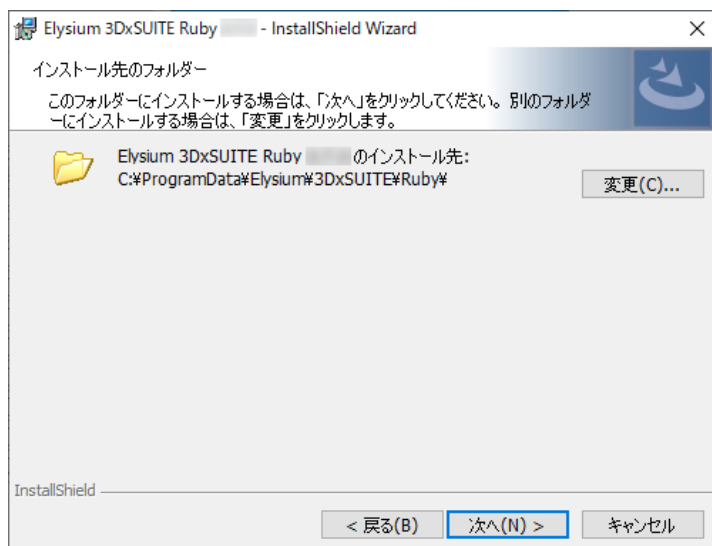
- b. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



- c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。

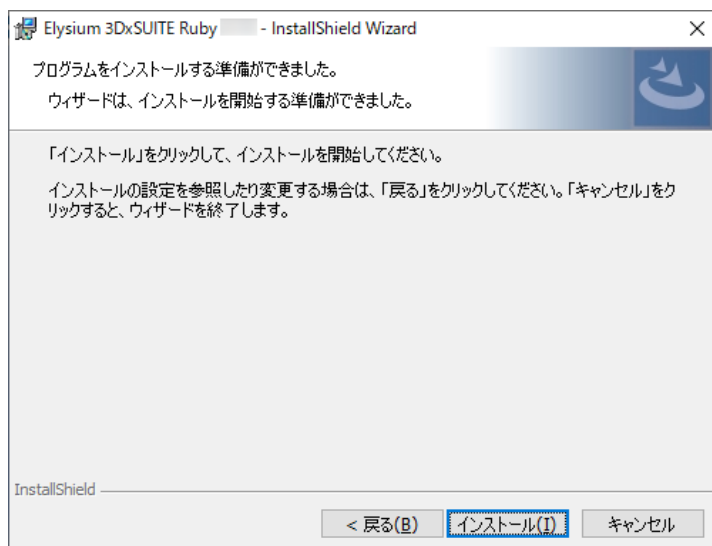


- d. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。

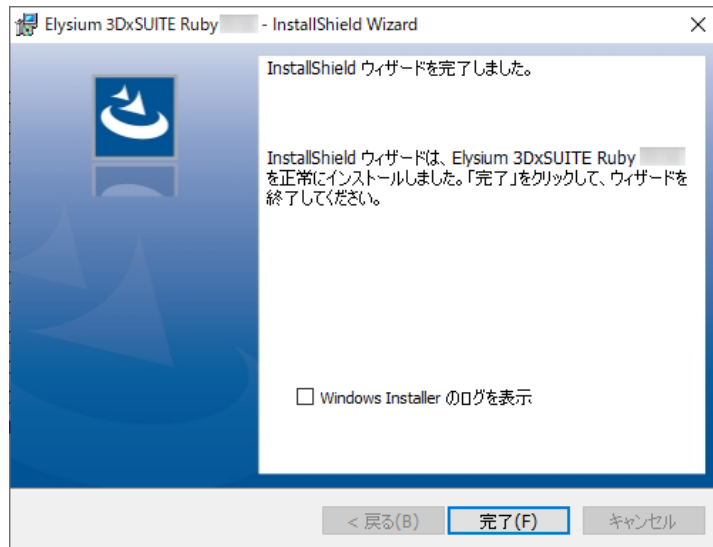


インストール先フォルダーのパスは半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

e. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

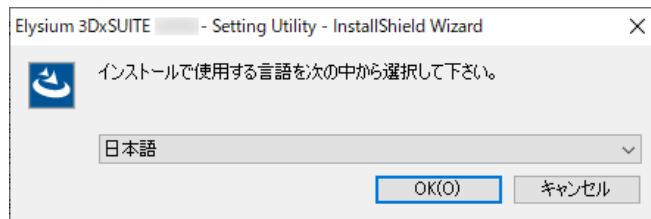


f. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。

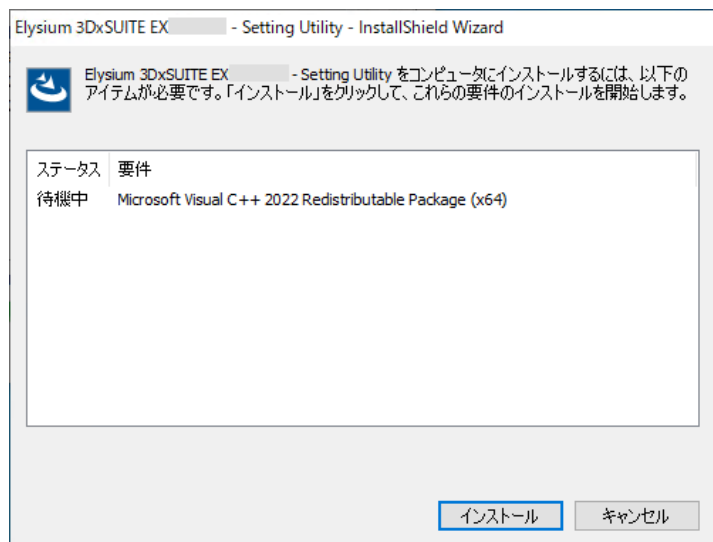


4. Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。

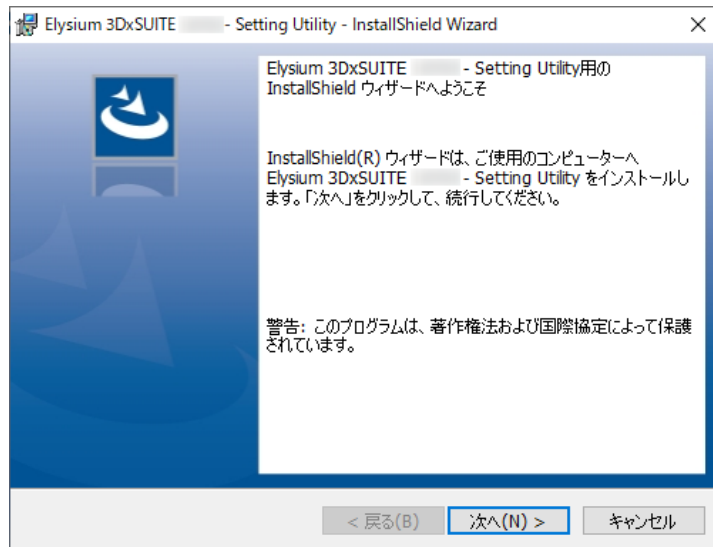
a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



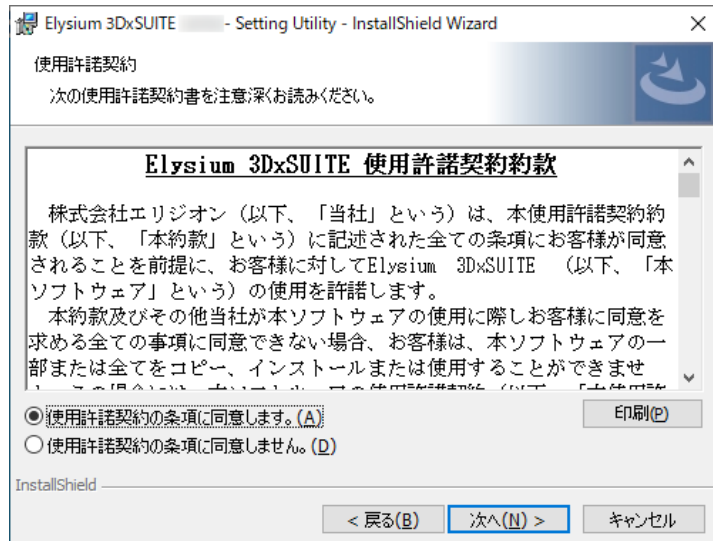
b. このダイアログが表示された場合には [インストール] をクリックしてインストールを実行します。(すでにインストールされている環境では表示されません)



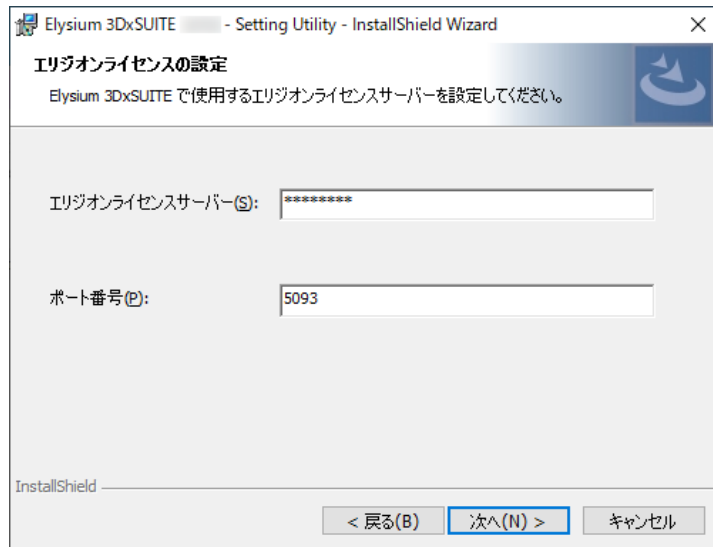
c. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



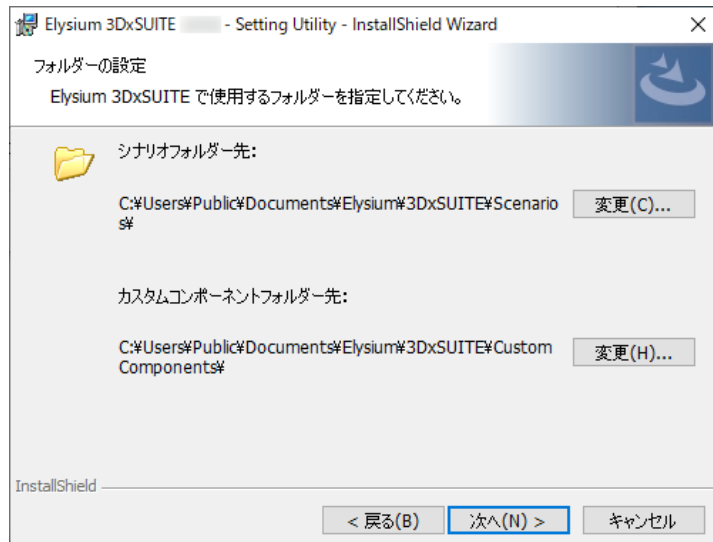
- d. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



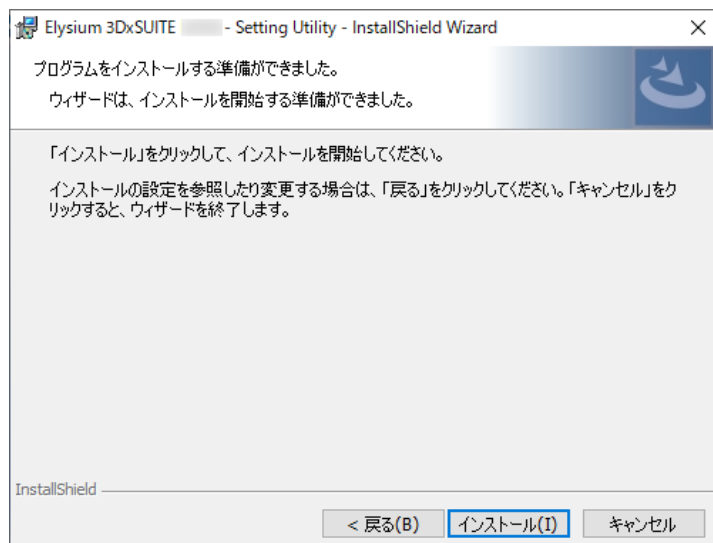
- e. ライセンスの設定画面が表示されます。Sentinel RMS License Manager をインストールしたコンピューターのホスト名を入力し、必要であればポート番号も変更した上で [次へ] をクリックします。



- f. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



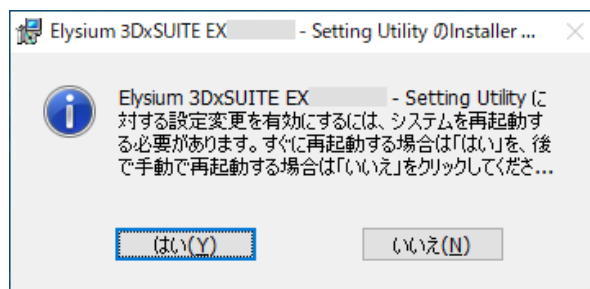
- g. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



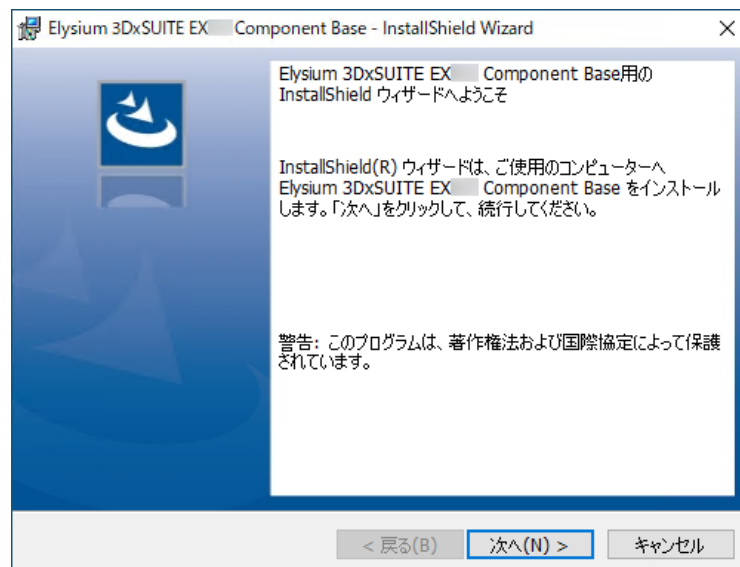
- h. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



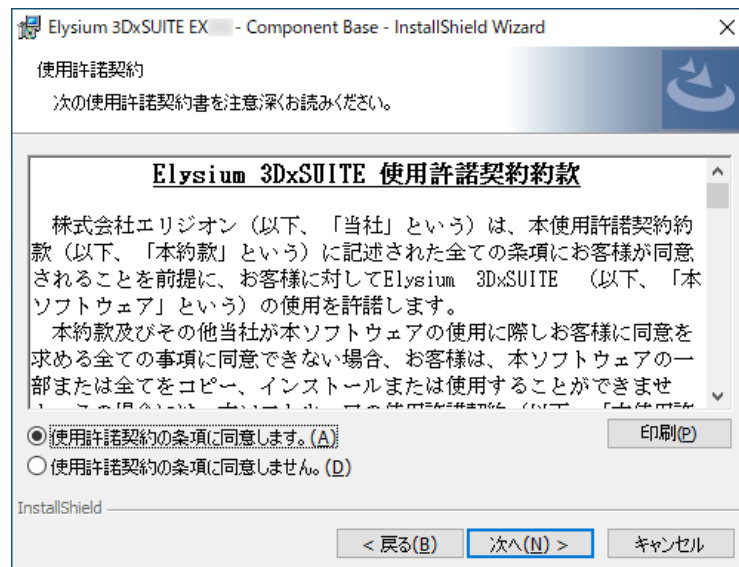
- i. 再起動を求めるダイアログが表示された場合には、OS を再起動します。再起動後に次のステップに進んでください。



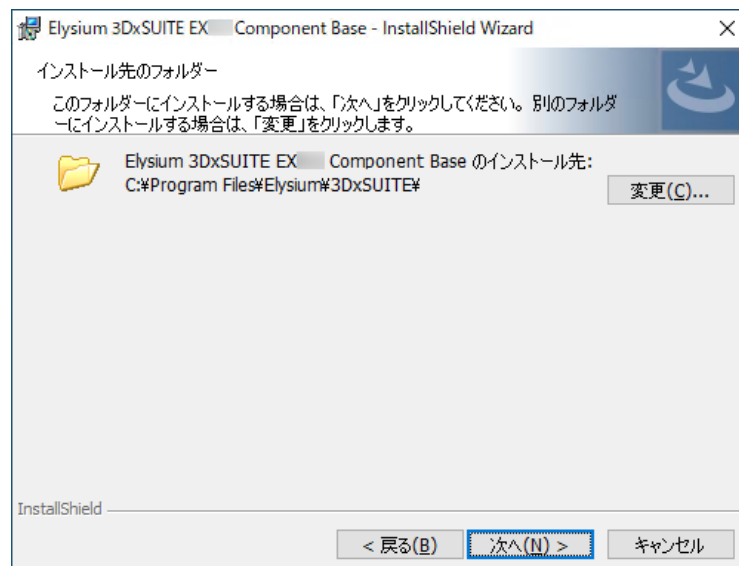
5. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



6. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。

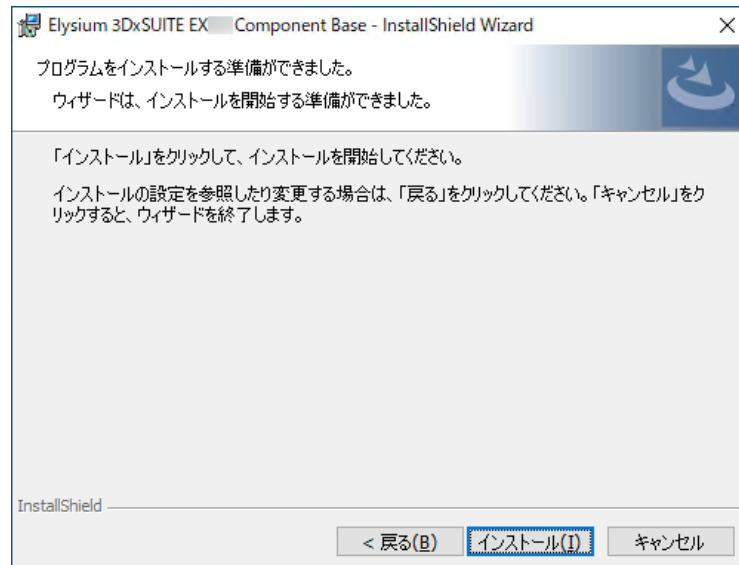


7. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら、[次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

8. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

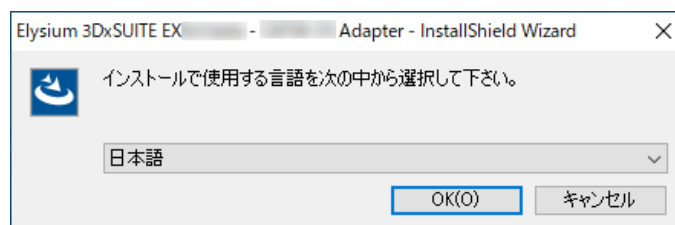


9. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックします。終了後に OS の再起動が必要になる場合があります。

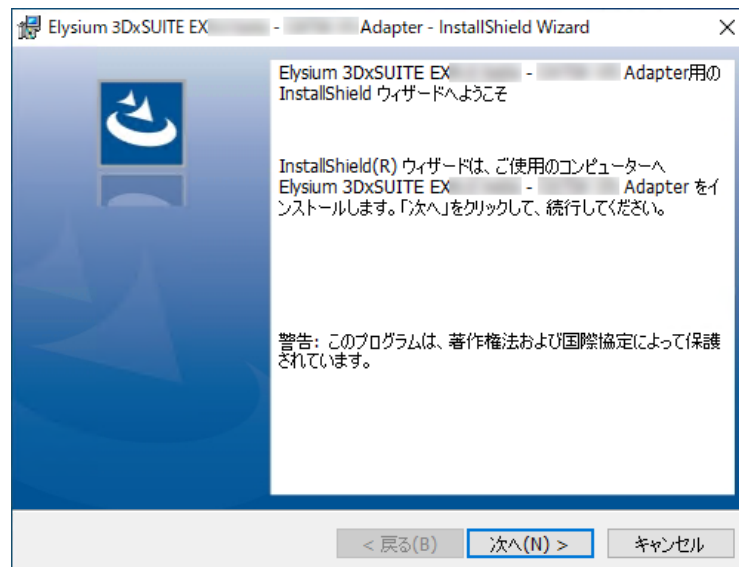


Adapter

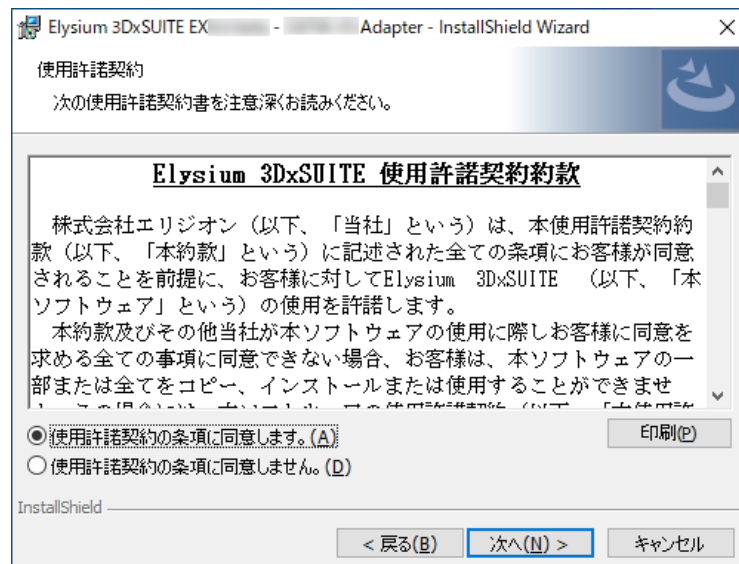
1. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



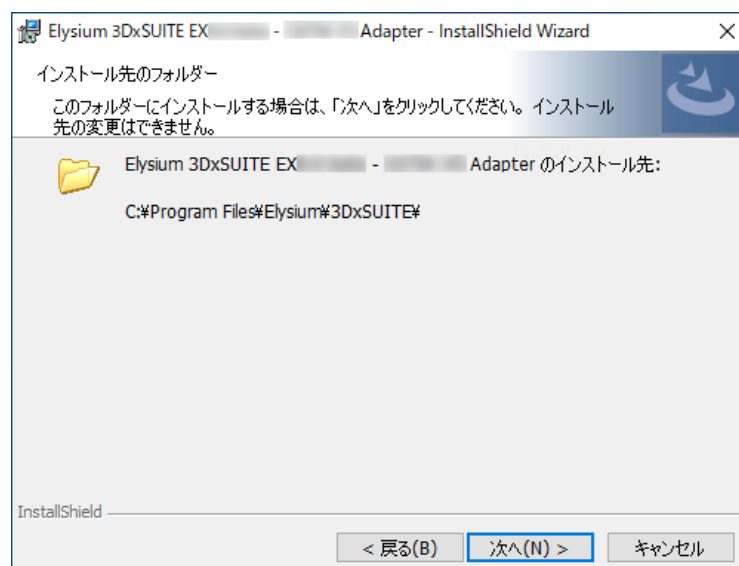
2. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



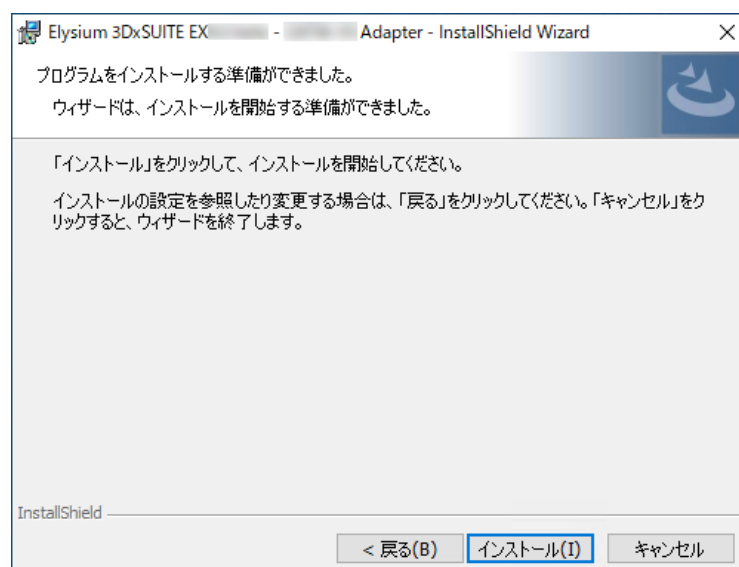
3. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



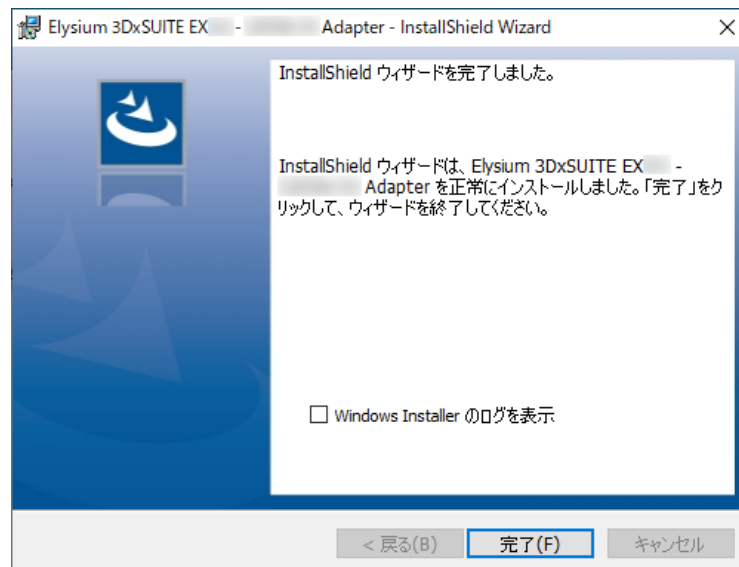
4. インストール先のフォルダーが表示されます。3DxSUITE Component Base で指定したフォルダーにインストールされるため、変更はできません。[次へ] をクリックします。



5. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



6. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックします。終了後に OS の再起動が必要になる場合があります。



2.1.3. サイレントインストール

統合インストーラーの場合

管理者として実行したコマンドプロンプトからオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、Components をユーザーの入力を必要とせずにインストールすることができます。

- インストーラー "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" は以下のパスにあります。
 - <Components パッケージ>\
- コマンドの形式は以下の通りです。
 - 完全インストール (改行は不要)

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe /silent
INSTALLDIR=<任意のフォルダーパス> ELY_SEC_SERVER=<ホスト名>
ELY_SEC_PORT=<ポート番号>
```

- カスタムインストール (改行は不要)

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe /silent
INSTALLDIR=<任意のフォルダーパス> ELY_SEC_SERVER=<ホスト名>
ELY_SEC_PORT=<ポート番号> ISFeatureInstall=<インストールするコンポーネント>
```

指定可能なオプションは以下の通りです。

- INSTALLDIR

| | |
|--------|--------------------|
| 説明 | インストールフォルダーを指定します。 |
| 指定可能な値 | 任意のフォルダーパス |

| | |
|--------|-------------|
| デフォルト値 | 指定なし (空文字列) |
| 備考 | - |

- ELY_SEC_SERVER

| | |
|--------|-----------------------|
| 説明 | ライセンスサーバーのホスト名を指定します。 |
| 指定可能な値 | 任意の文字列 |
| デフォルト値 | 指定なし (空文字列) |
| 備考 | - |

- ELY_SEC_PORT

| | |
|--------|------------------------|
| 説明 | ライセンスサーバーのポート番号を指定します。 |
| 指定可能な値 | 任意の数字 |
| デフォルト値 | 5093 |
| 備考 | - |

- /debuglog

| | |
|--------|---|
| 説明 | インストーラーログを書き出すパスを指定します。本オプションを指定するとログが書き出されます。このオプションはサイレントインストール以外の場合でも使用できます。 |
| 指定可能な値 | ログファイルのパス ("/debuglog" との間にスペースを入れなくて、パスをダブルクォーテーションで囲って指定してください) |
| デフォルト値 | 指定なし (空文字列) |
| 備考 | <p>実行例は以下の通りです。</p> <pre>Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe /debuglog"C:\temp\components.log"</pre> |

- ISFeatureInstall

| | |
|--------|---|
| 説明 | インストールするコンポーネントおよび Utility Tool を指定します。 |
| 指定可能な値 | インストールするコンポーネントおよび Utility Tool を示す文字列 (複数指定可、コンマ区切り) |
| デフォルト値 | 指定なし (空文字列) |
| 備考 | このオプションを指定しない場合にはすべてのコンポーネントと Utility Tool がインストールされます。 |

- RUBY_INSTALL_DIR

| | |
|--------|------------------------------------|
| 説明 | Elysium Ruby をインストールするフォルダーを指定します。 |
| 指定可能な値 | 任意のフォルダーパス |
| デフォルト値 | 指定なし (空文字列) |
| 備考 | - |



下記の "SETTING_COMMON_DATA_FOLDER"、"SETTING_CATEGORY"、"SETTING_SL_DATA_FOLDER" は、3つのパラメーターがすべて設定されているときのみ有効なパラメーターになります。

- SETTING_COMMON_DATA_FOLDER

| | |
|--------|---|
| 説明 | 本オプションでフォルダーを指定すると、指定フォルダー内のファイル (preference.json および user_environment.bat) がコピーされます。コピー先は下記の "SETTING_CATEGORY" オプションで指定します。 |
| 指定可能な値 | 任意のフォルダーパス |
| デフォルト値 | 指定なし (空文字列) |
| 備考 | - |

- SETTING_CATEGORY

| | |
|--------|--|
| 説明 | 上記 "SETTING_COMMON_DATA_FOLDER" オプションを指定した際にコピーされるファイルの保存先を指定します。 |
| 指定可能な値 | UserCommon もしくは LocalUser |
| デフォルト値 | 指定なし (空文字列) |
| 備考 | UserCommon を指定すると、ファイルは以下に保存されます。 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <pre>%PUBLIC%\Documents\Elysium\3DxSUITE\Config\Common</pre> </div> LocalUser を指定すると、ファイルは以下に保存されます。 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <pre>%LOCALAPPDATA%\Elysium\3DxSUITE\Config\Common</pre> </div> |

- SETTING_SL_DATA_FOLDER

| | |
|--------|---|
| 説明 | 本オプションで指定されたフォルダー内にあるファイル (sl_preference_v1.json) が、インストール対象のコンピューターにコピーされます。 |
| 指定可能な値 | 任意のフォルダーパス |
| デフォルト値 | 指定なし (空文字列) |

| | |
|----|---|
| 備考 | <p>ファイルは以下に保存されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; text-align: center;"> <code>%LOCALAPPDATA%\Elysium\3DxSUITE\Config\SmartLauncher</code> </div> |
|----|---|

コンポーネント、Utility Tools、ランタイムに対応する設定用文字列は以下の通りです。CB および SLB は必ず指定してください。インストールするコンポーネント間で共通する設定用文字列がある場合、その文字列は1度だけ指定してください。(コマンドの例を参照してください)

| コンポーネントおよび Utility Tools | 設定用文字列 |
|---|-------------|
| 3DxSUITE Component Base | CB |
| 3DxSUITE SmartLauncher Base | SLB |
| ScenarioEditor | SE |
| 3DEXPERIENCE Adapter | DEXP |
| SmartLauncher (3DEXPERIENCE Plug-in) | DEXP,DEX_SL |
| CATIA V5 (Plug-in) Adapter | V5P |
| SmartLauncher (CATIA V5 Plug-in) | V5P,V5_SL |
| Creo Elements/Direct Adapter | CREDP |
| Creo Parametric (Plug-in) Adapter | CRPP |
| SmartLauncher (Creo Parametric Plug-in) | CRPP,CRP_SL |
| Inventor Adapter | AIP |
| NX (Plug-in) Adapter | NXP |
| SmartLauncher (NX Plug-in) | NXP,NX_SL |
| NX I-deas Adapter | IDEP |
| SOLIDWORKS Adapter | SWP |
| SmartLauncher (SOLIDWORKS Plug-in) | SWP,SW_SL |
| 3D PDF Adapter | PDFS |
| 3DXML Adapter | XMLS |
| ACIS Adapter | ACISS |
| CADmeister Adapter | CDMS |
| CATIA V4 Adapter | V4S |
| CATIA V5 (Standalone) Adapter | V5S |
| Creo Parametric(Standalone) Adapter | CRPS |
| Creo View Adapter | CVS |

| コンポーネントおよび Utility Tools | 設定用文字列 |
|---------------------------------|--------|
| HTML Adapter | HTMLS |
| iCAD Adapter | ICADS |
| IGES Adapter | IGESS |
| JT Adapter | JTS |
| Nastran Adapter | NSTRS |
| NX (Standalone) Adapter | NXS |
| OBJ Adapter | OBJS |
| Parasolid Adapter | PARS |
| PLM XML Adapter | PLXMS |
| PointCloud Adapter | POCLS |
| QIF Adapter | QIFS |
| Solid Edge Adapter | SEP |
| STEP Adapter | STPS |
| STEP XML Adapter | STPBS |
| STL Adapter | STLS |
| VRML Adapter | VRMLS |
| XPDMXML Adapter | XPDXMS |
| XVL Adapter | XVLS |
| Python | PYTHON |
| Creo Parametric Drawing Adapter | CRPPD |
| Inventor Drawing Adapter | AIPD |
| NX Drawing Adapter | NXPD |

コマンドの例:

- 完全インストール (改行は不要)

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe /silent INSTALLDIR="C:\\Program Files\\Elysium\\Components" ELY_SEC_SERVER=Server ELY_SEC_PORT=5093
```

- カスタムインストール (改行は不要)

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe /silent INSTALLDIR="C:\\Program  
Files\\Elysium\\Components" ELY_SEC_SERVER=Server ELY_SEC_PORT=5093  
ISFeatureInstall=CB,SLB,V5P,V5_SL,STPS
```



Drawing Validator を使用する場合に必要となる Ghostscript は、サイレントインストールに対応していません。必要に応じて手動でインストールしてください。

ライセンスサーバー上のライセンスを参照して設定用文字列を出力する方法

ライセンスサーバーに登録されているライセンスの情報を参照して、有効なライセンスがあるコンポーネントに対応する設定用文字列を出力することができます。手順は以下の通りです。

1. 以下のファイルを、サイレントインストールを実行するコンピューター上の任意のフォルダーにコピーします。

```
<Installer パッケージ>\Silent-Installation\ComponentListCreator.exe  
<Installer パッケージ>\Silent-Installation\ClientUtility.exe
```

2. コマンドプロンプトを起動し、手順 1 でファイルをコピーしたフォルダーに移動します。
3. 以下のコマンドを実行します。

```
ComponentListCreator.exe /LicenseHost:<ホスト名> /LicensePort:<ポート番号>
```

- <ホスト名>: ライセンスサーバーのホスト名を指定します。
- <ポート番号>: ライセンスサーバーのポート番号を指定します。

コマンドの実行に成功すると、以下のような文字列が出力されます。この結果は、リダイレクトを用いてテキストファイルに出力することもできます。

```
ISFeatureInstall=CB,SLB,DEXP,CVS,HTMLS,V5XP,XVLS
```

この文字列をコピーして、以下の例のようにサイレントインストール用コマンドを作成し、実行してください。

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe /silent INSTALLDIR="C:\\Program  
Files\\Elysium\\Components" ELY_SEC_SERVER=Server ELY_SEC_PORT=5093  
ISFeatureInstall=CB,SLB,DEXP,CVS,HTMLS,V5XP,XVLS
```

個別の Component インストーラーの場合

管理者として実行したコマンドプロンプトからオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、各 Component をユーザーの入力を必要とせずにインストールすることができます。

- 各 Component のインストーラーは以下のパスにあります。
 - <Components パッケージ>\<Component 名>
- コマンド例は以下の通りです。ここでは 3D PDF Adapter を例として記載していますが、他の Component についても同様です。

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_3D_PDF_Adapter.exe /s /v"/l* "C:\temp\install.log\" /qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /s | インストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /v | /v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> /l* "<ログファイル>": ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 /qn: ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 /qn+: インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |



3DxSUITE Component Base インストーラーをサイレントインストールで実行した場合、処理の終了後に OS が再起動される場合があります。ご注意ください。

2.2. アンインストール手順



アンインストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

2.2.1. 手動アンインストール

統合インストーラーでインストールした場合

- Windows の [スタート] メニューから [設定] を選択します。
- [アプリ] を選択します。
- "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX10.0 -

Components" を選択して、アンインストールを実行します。

個別の Component インストーラーでインストールした場合



以下は 3D PDF Adapter を例として記載していますが、他の Component も同様です。

1. Windows の [スタート] メニューから [設定] を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX10.0 - 3D PDF Adapter" を選択して、アンインストールを実行します。

2.2.2. サイレントアンインストール

統合インストーラーでインストールした場合

管理者として実行したコマンドプロンプトから以下の通りオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、Components をユーザーの入力を必要とせずアンインストールすることができます。

コマンドの例:

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe /silent /remove
```



"/debuglog" オプションを指定することもできます。オプションの詳細については、[こちら](#) を参照してください。

個別の Component インストーラーでインストールした場合

管理者として実行したコマンドプロンプトから以下の通りオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、各 Component をユーザーの入力を必要とせずにアンインストールすることができます。

- コマンド例は以下の通りです。ここでは 3D PDF Adapter を例として記載していますが、他の Component についても同様です。

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_3D_PDF_Adapter.exe /s /x /v"/l* "C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

3. Elysium 3DxSUITE Viewer

事前にインストールする必要があるプログラム

- なし

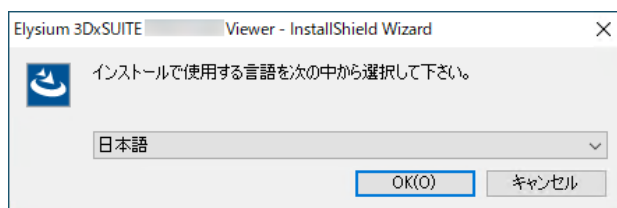
3.1. インストール手順



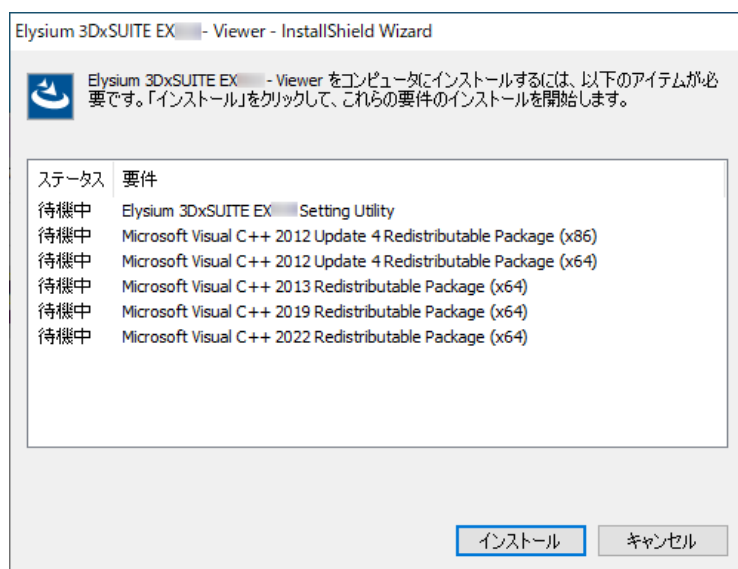
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

3.1.1. 手動インストール

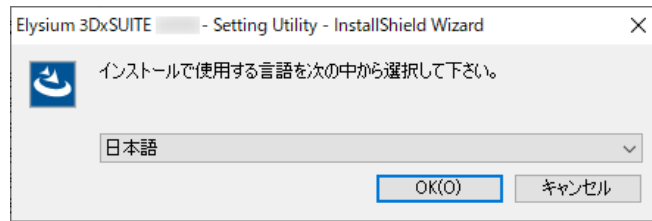
- Viewer のインストーラーを実行します。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <Viewer パッケージ>
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Viewer.exe
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



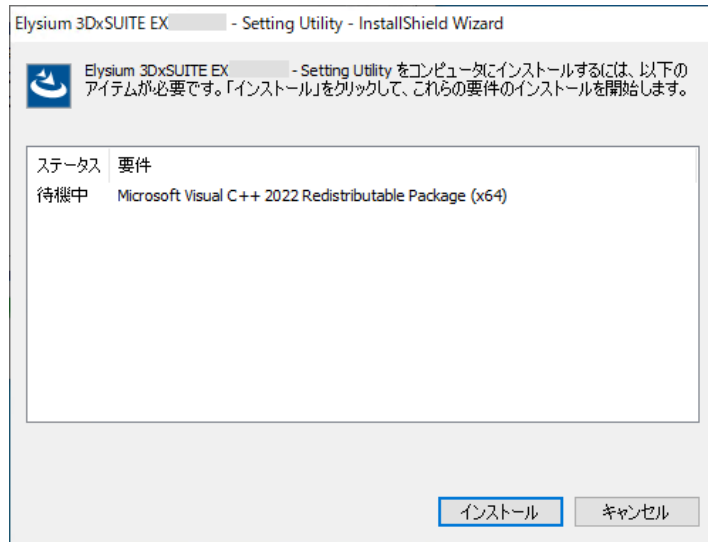
- このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックしてインストールを行います。(すでにインストールされている環境では、このダイアログは表示されません。)



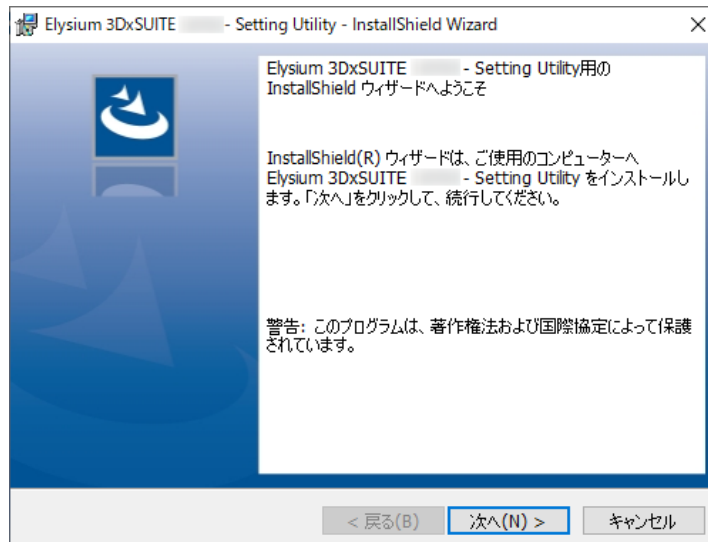
- Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。
 - インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



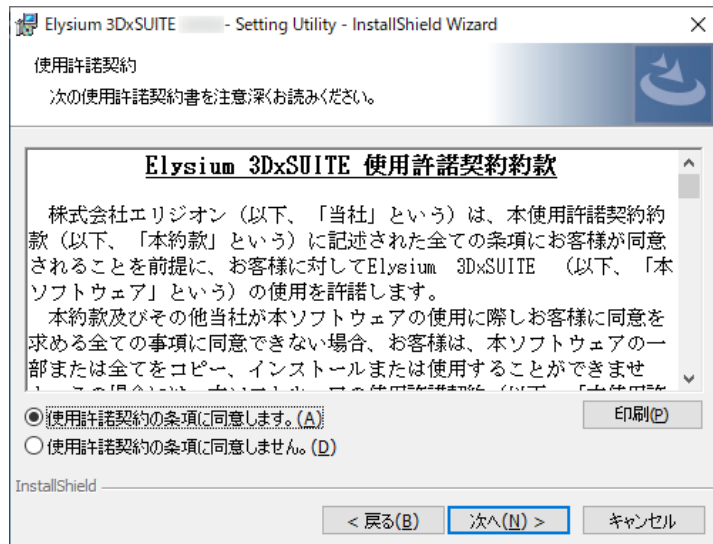
- b. このダイアログが表示された場合には [インストール] をクリックしてインストールを実行します。(すでにインストールされている環境では表示されません)



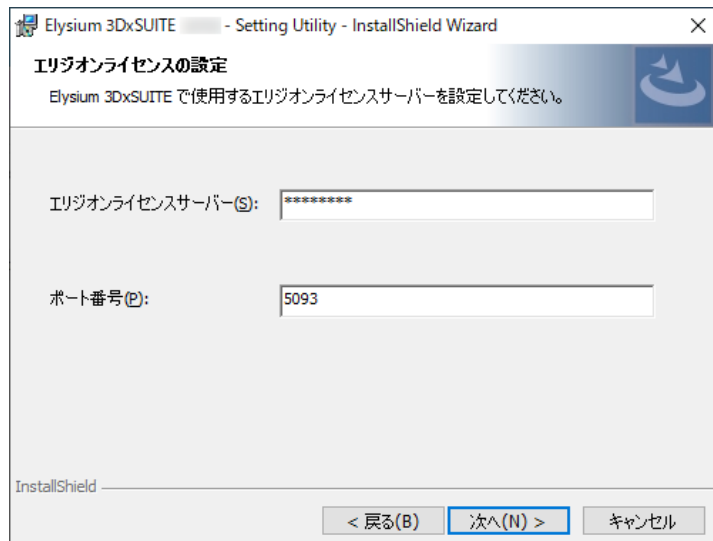
- c. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



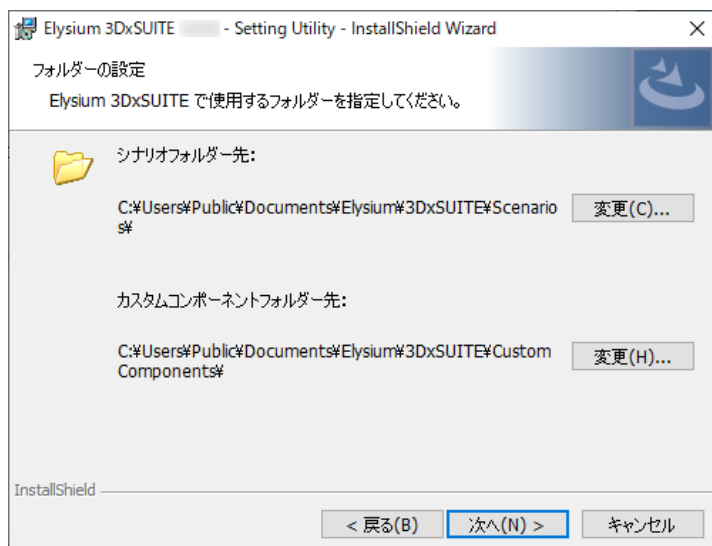
- d. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



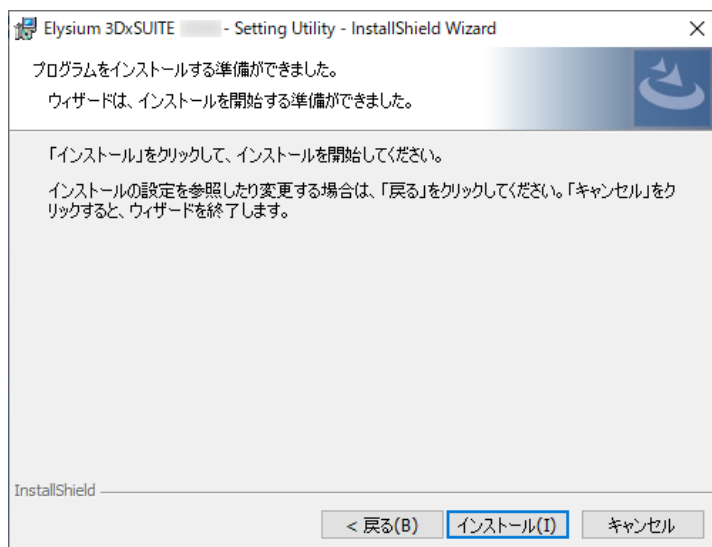
- e. ライセンスの設定画面が表示されます。Sentinel RMS License Manager をインストールしたコンピュータのホスト名を入力し、必要であればポート番号も変更した上で [次へ] をクリックします。



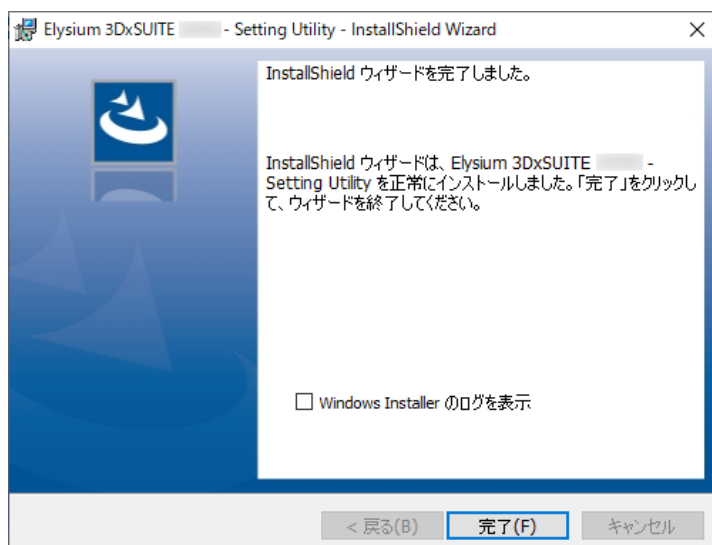
- f. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



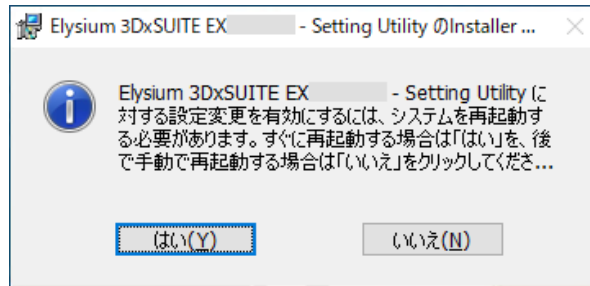
g. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



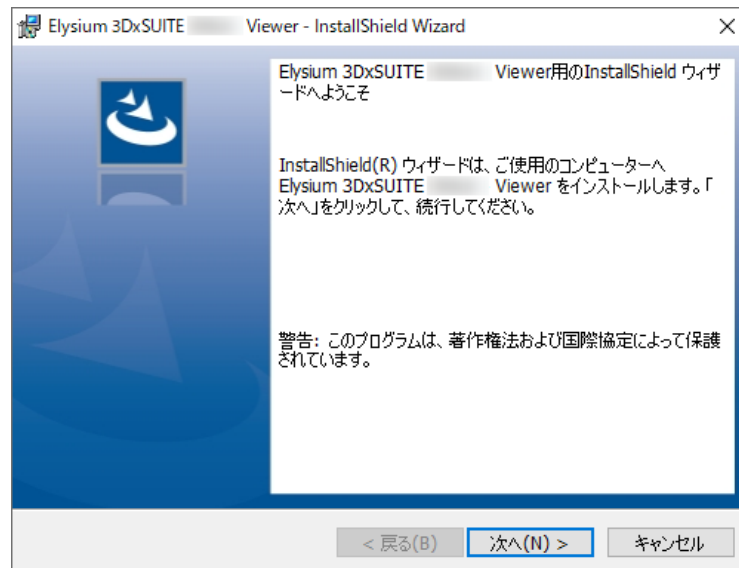
h. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



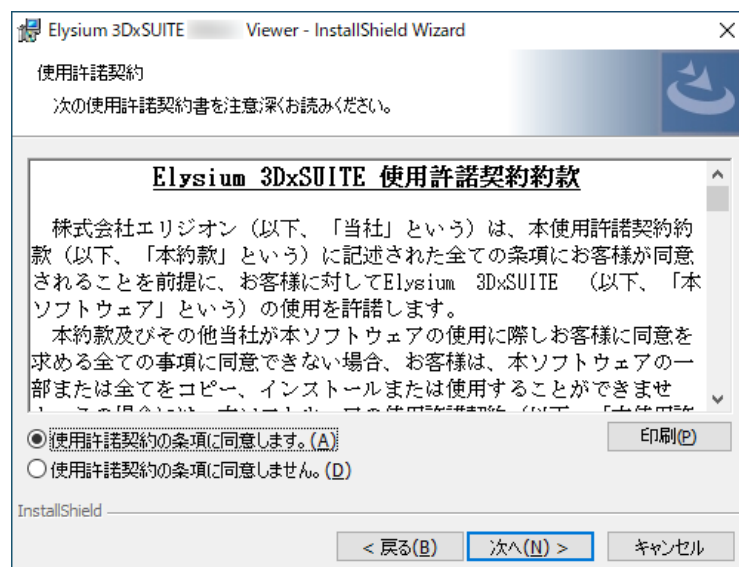
- i. 再起動を求めるダイアログが表示された場合には、OS を再起動します。再起動後に次のステップに進んでください。



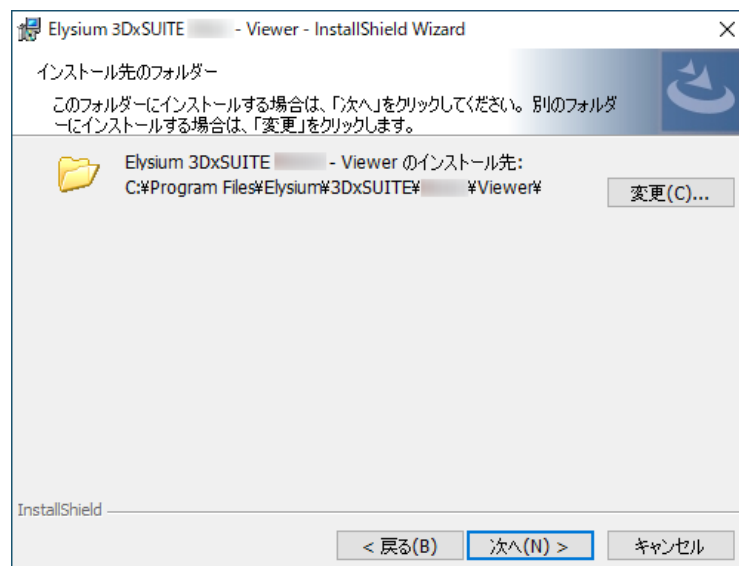
5. Viewer のインストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



6. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択してから [次へ] をクリックします。

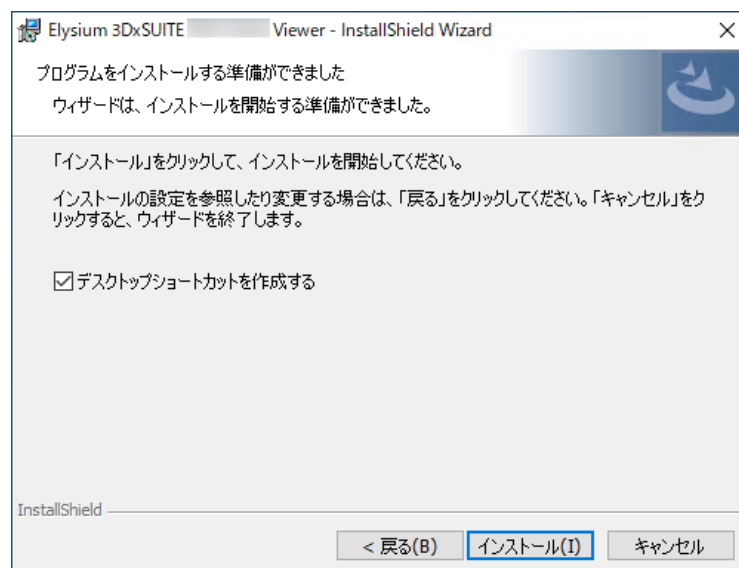


7. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら、[次へ] をクリックします。

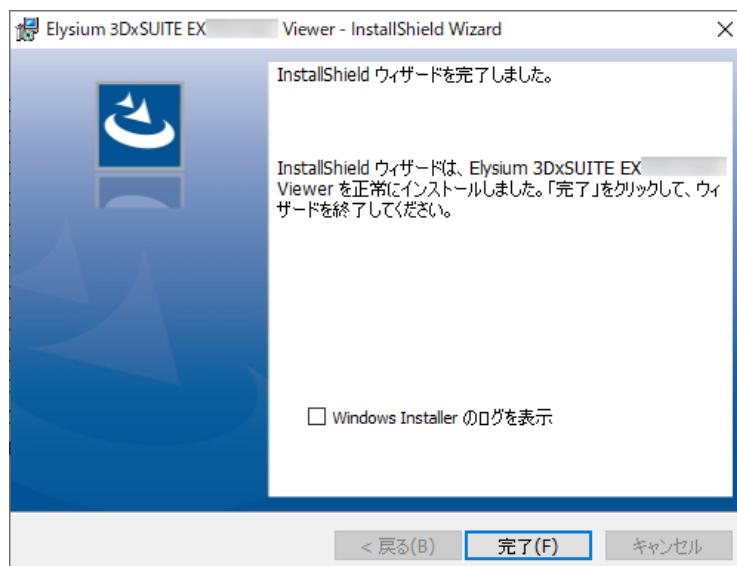


インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

- 以下のダイアログが表示されます。デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外します。[インストール] をクリックしてインストールを開始します。



- インストールが終了すると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてダイアログを閉じます。



3.1.2. サイレントインストール

コマンドにて Viewer の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明をご参照ください。

- コマンド例

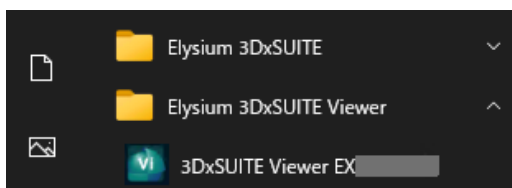
```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Viewer.exe /s /v"/l* "C:\temp\install.log"
INSTALLDIR="C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\EX10.0\Viewer\" /qn"
```

サイレントインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|--|---------|
| /s | インストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /v | /v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • /l* "<ログファイル>": ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 • INSTALLDIR="<インストールフォルダー>": インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。 • /qn: ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+: インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

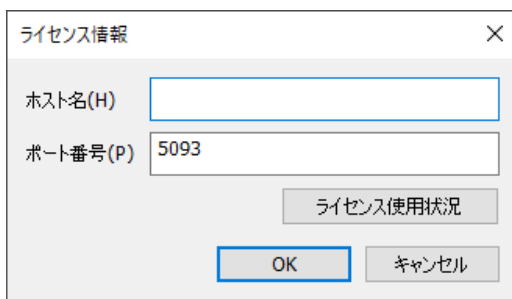
3.2. 起動手順

Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE Viewer] - [3DxSUITE Viewer EX10.0] を選択します。



3.2.1. ライセンス設定

インストール後、初めて Viewer を起動する時にライセンス設定のダイアログが表示される場合があります。次回起動時からは、このダイアログは表示されません。なお本ダイアログは Viewer 起動後に [ヘルプ] - [ライセンス情報] を選択して開くこともできます。



[ライセンス使用状況] をクリックするとライセンスの使用状況を確認することができます。



- ライセンス情報ダイアログで初期値を変更して [OK] をクリックした場合、Viewer を利用する全ユーザー共通の設定としてライセンス情報が保存されます。その場合、後で 3DxSUITE 設定からライセンスに関する設定を変更しても、Viewer のライセンス情報は変更されません。
- ライセンス情報ダイアログで初期値を変更しても [OK] を一度もクリックしていない場合、3DxSUITE 設定に設定されている内容を参照してライセンスを確保します。そのため 3DxSUITE 設定でライセンスに関する設定を変更すると、Viewer のライセンス情報も変更されます。

3.3. 終了手順

メニューの [ファイル] - [アプリケーションの終了] を選択するか、ウインドウを閉じて終了してください。

3.4. アンインストール手順

3.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX10.0 - Viewer" を選択して、アンインストールを実行します。

3.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Viewer.exe /s /x /v"/l* "C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|--|---------|
| /s | アンインストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /x | アンインストールを実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /l* "\"<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

4. Elysium 3DxSUITE Editor

事前にインストールする必要があるプログラム

- [Components](#)

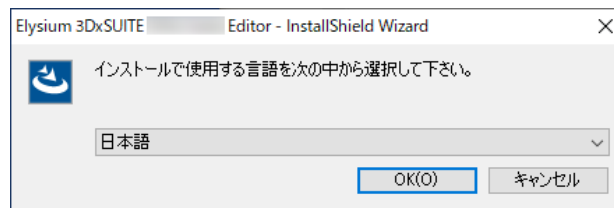
4.1. インストール手順



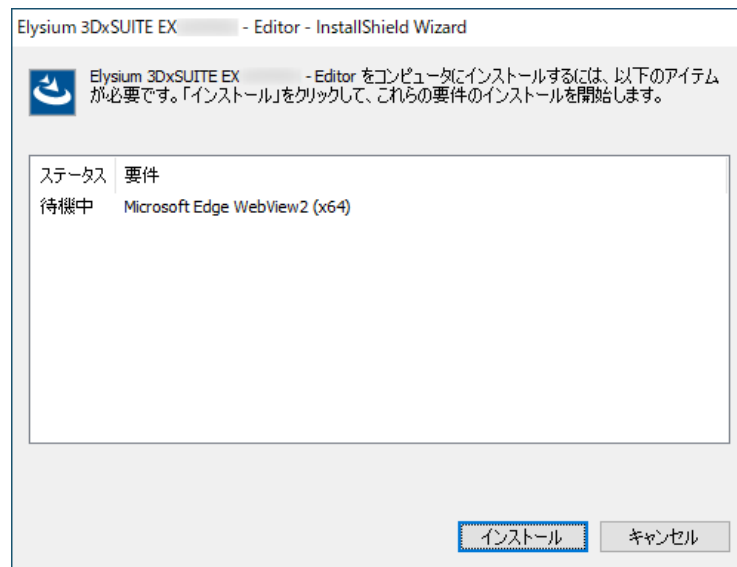
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。
事前にインストールする必要があるプログラムがインストールされていない場合、
実行が中止されます。

4.1.1. 手動インストール

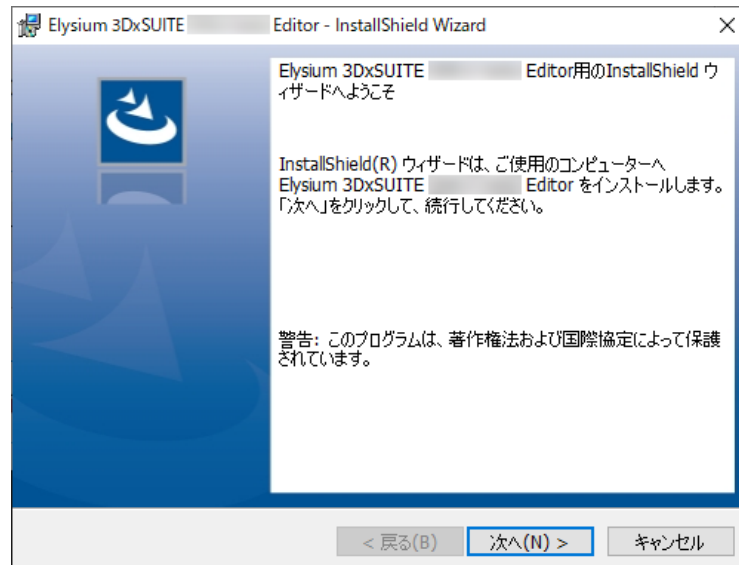
1. Editor のインストーラーを実行します。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <Editor パッケージ>\
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Editor.exe
2. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



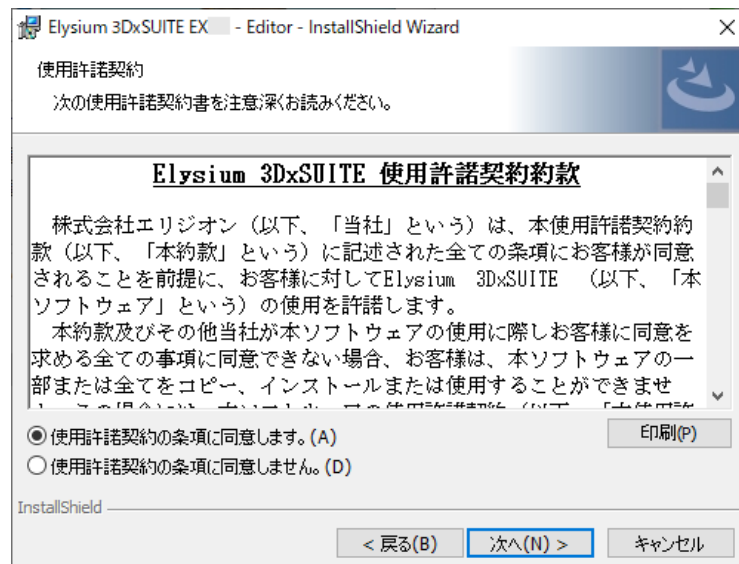
3. Microsoft Edge WebView2 がインストールされていない場合、以下の画面が表示されるので [インストール] をクリックします。すでにインストールされている場合は次の手順へ進んでください。



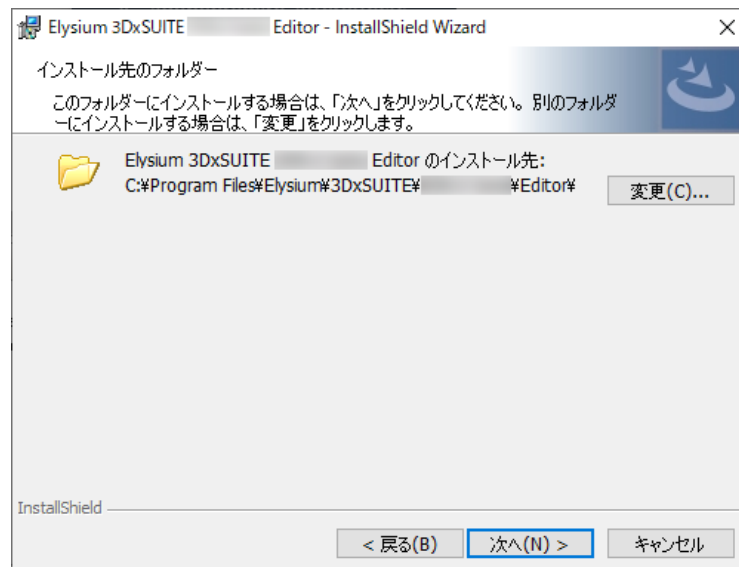
4. Editor のセットアップ画面が表示されます。[次へ] をクリックします。



5. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。

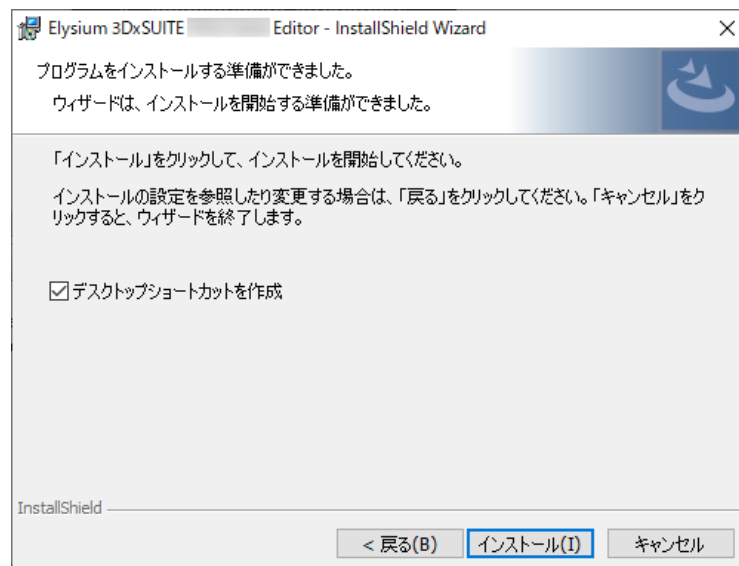


6. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら、[次へ] をクリックします。

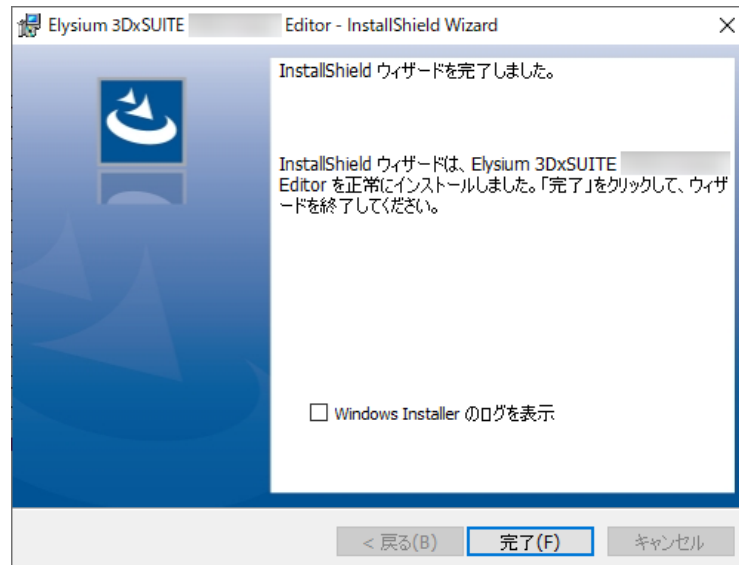


インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

- 以下のダイアログが表示されます。デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外した上で、[インストール] をクリックしてインストールを開始します。



- インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてダイアログを閉じます。



4.1.2. サイレントインストール

コマンドを実行して UI を表示せずに Editor の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明を参照してください。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Editor.exe /s /v"/l* "C:\temp\install.log"
INSTALLDIR="C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\EX10.0\Editor\" /qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /s | インストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /l* "<ログファイル>": ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 • INSTALLDIR="<インストールフォルダー>": インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。 • /qn: ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+: インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

4.1.3. CADmeister 独立型入出力オプション

CADmeister 独立型入出力オプションを使用するには、<Module for CADmeister パッケージ> 内の CRESTAM フォルダを、Components をインストールしたドライブのルートフォルダにコピーします。(例: C:\CRESTAM)

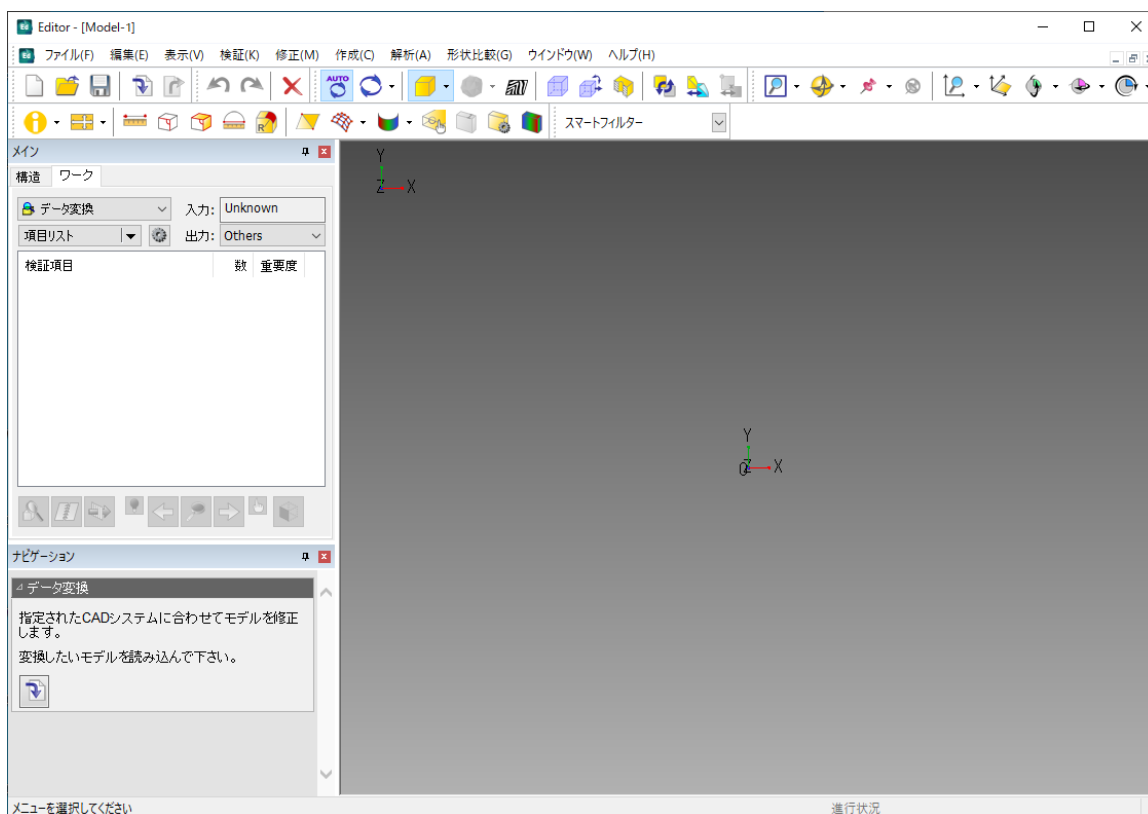


3DxSUITE EX9.1.8 以前の CRESTAM フォルダと、Editor EX10.0 および Components EX10.0 を組み合わせて使用することはできません。3DxSUITE EX10.0 の CRESTAM フォルダと Editor EX10.0 および Components EX10.0 を組み合わせてご利用ください。

なお、複数のバージョンの Editor でそれぞれ CADmeister 独立型入出力オプションを使用したい場合は、各バージョンの Components を別々のドライブに導入し、それらのドライブのルートに対応する CRESTAM フォルダを配置する必要があります。

4.2. 起動手順

Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE Editor] - [3DxSUITE Editor EX10.0] を選択し、Editor を起動してください。



Editor を最初に起動する前に 3DxSUITE 設定を起動し、入出力する CAD に関する設定を実施しておくことを推奨します。

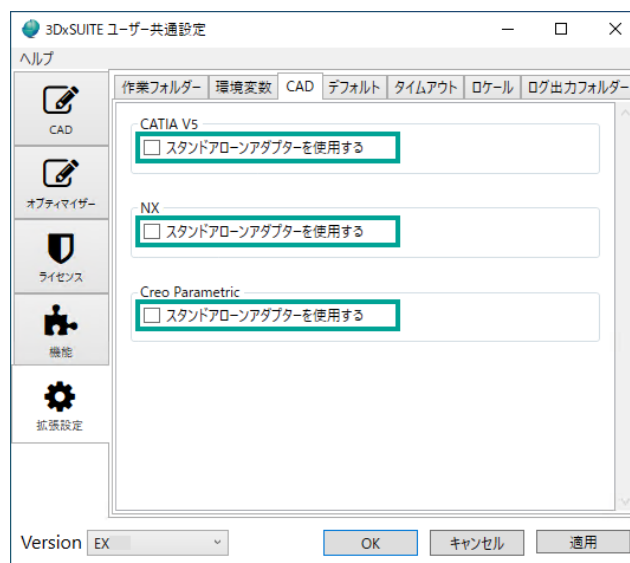


3DxSUITE 設定は、Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE] - [3DxSUITE ユーザー共通設定] または [Elysium 3DxSUITE] - [3DxSUITE ローカルユーザー設定] を選択することで起動します。

以下の CAD 形式のファイルを Editor にドラッグ&ドロップした場合、既定の設定では Plug-in Adapter が使用されます。

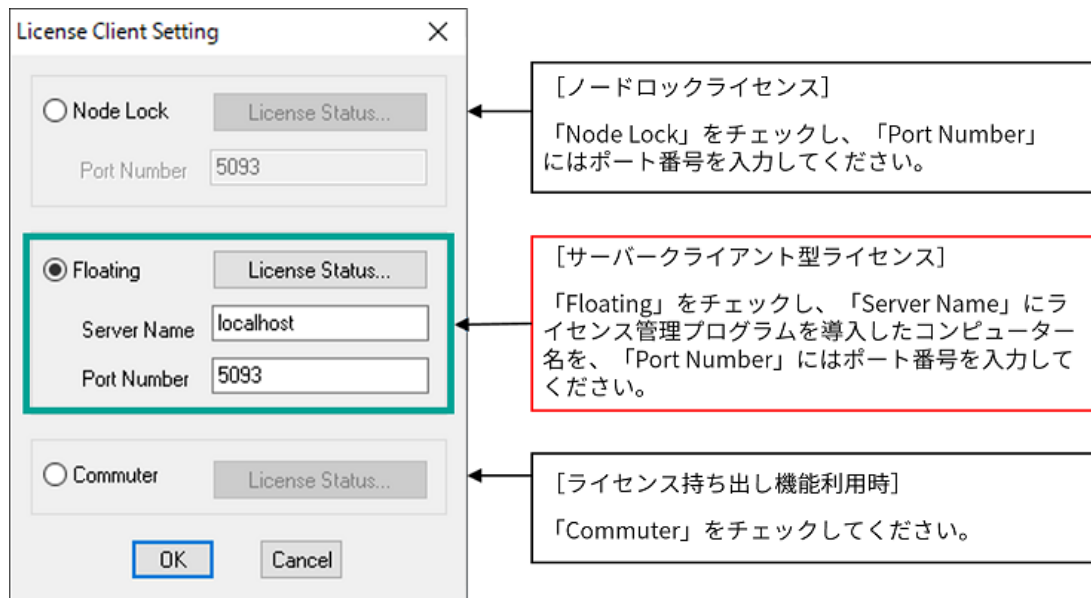
- CATIA V5
- NX
- Creo Parametric

このため Plug-in Adapter のライセンスを保有していない場合にはライセンスに関するエラーが発生します。これらの CAD 形式のファイルをドラッグ&ドロップした際に Plug-in Adapter ではなく Standalone Adapter が使用されるようにするためには、"3DxSUITE 設定" で "スタンドアロンアダプターを使用する" をオンにしてください。



4.2.1. ライセンス設定

Editor 起動時にライセンス設定ダイアログが表示された場合には、サーバー名、ポート番号、およびライセンスの種類(ノードロック / フローティング / コミューター)が正しく設定されているかを確認し、必要に応じて修正してください。



- [License Status] をクリックすることでライセンスの使用状況を確認することができます。
- ライセンスサーバーの詳細については別冊 "Sentinel RMS License Manager セットアップ&クイックスタートガイド" を参照してください。ドキュメントのパスは別冊 "Elysium 3DxSUITE: 製品概要" の 6 章に記載しています。



- License Client Setting ダイアログで初期値を変更して [OK] をクリックした場合、そのユーザーに個別の Editor 設定としてライセンス情報が保存されます。その場合、後で 3DxSUITE 設定からライセンスに関する設定を変更しても、Editor のライセンス情報は変更されません。
- License Client Setting ダイアログで初期値を変更しても [OK] を一度もクリックしていない場合、3DxSUITE 設定に設定されている内容を参照してライセンスを確保します。そのため 3DxSUITE 設定でライセンスに関する設定を変更すると、Editor のライセンス情報も変更されます。

4.3. 終了手順

メニューから [ファイル]-[アプリケーションの終了] を選択して終了してください。

4.4. アンインストール手順

4.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX10.0 - Editor" を選択して、アンインストールを実行します。

4.4.2. サイレントアンインストール

サイレントアンインストールを行うためのコマンドは以下の通りです。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。詳細については、以下のコマンド例とコマンド引数の説明を参照してください。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Editor.exe /s /x /v"/l* \"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /s | アンインストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /x | アンインストールを実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• /l* \"<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

5. Elysium 3DxSUITE SmartLauncher

事前にインストールする必要があるプログラム

- なし

5.1. インストール手順



"Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を用いて Components をインストールした場合、SmartLauncher も同時にインストールされます。この場合は、SmartLauncher を個別にインストールする必要はありません。

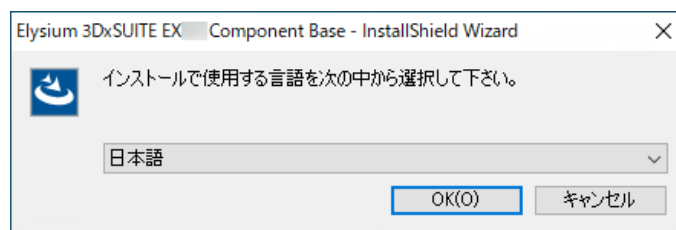
以下は、"Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を用いずに、各コンポーネントと SmartLauncher を個別にインストールする場合の手順になります。



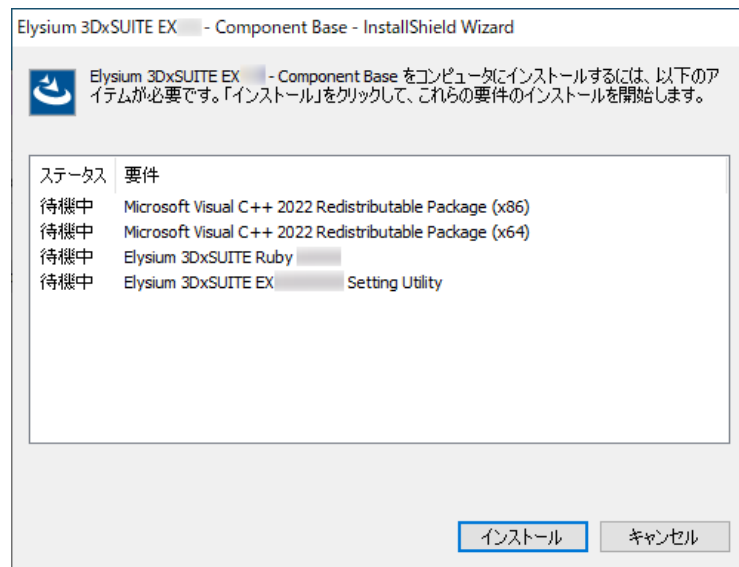
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

5.1.1. SmartLauncher (Standalone) の手動インストール

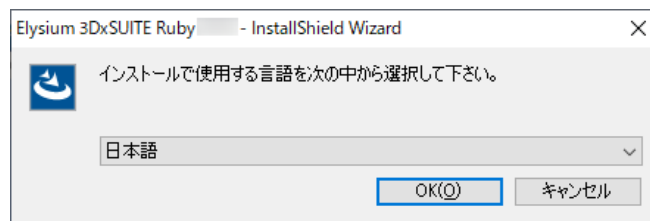
- 3DxSUITE Component Base のインストーラーを実行します。"3DxSUITE Component Base" をすでにインストールしている場合は "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_Base.exe" を実行する手順に進んでください。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>\Component_Base\
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Component_Base.exe
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



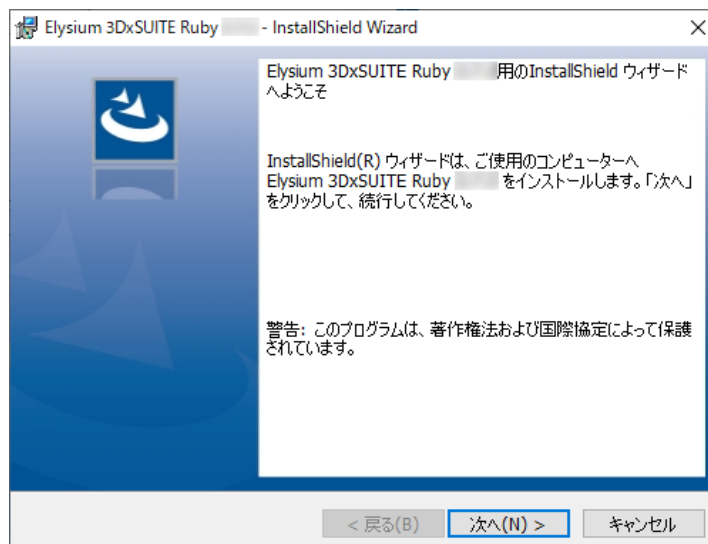
- このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックします。



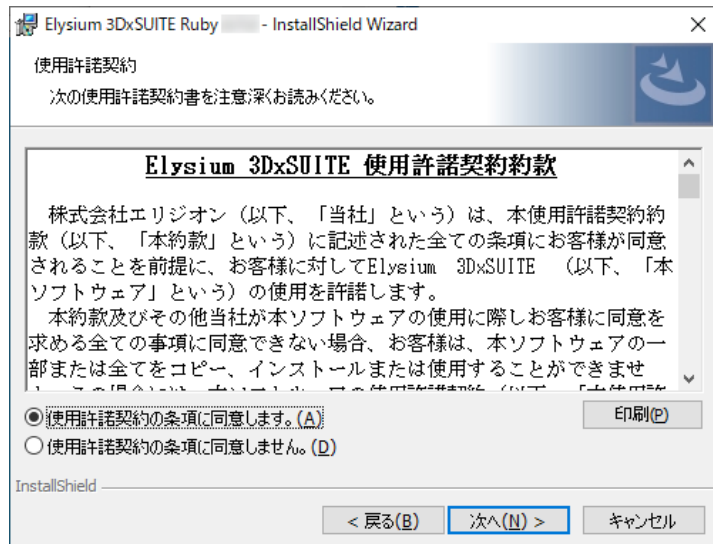
4. Elysium 3DxSUITE Ruby が導入されていない環境の場合、Elysium 3DxSUITE Ruby のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。すでに Elysium 3DxSUITE Ruby が導入されている場合は、Elysium 3DxSUITE Ruby インストール後の手順へ進んでください。
 - a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



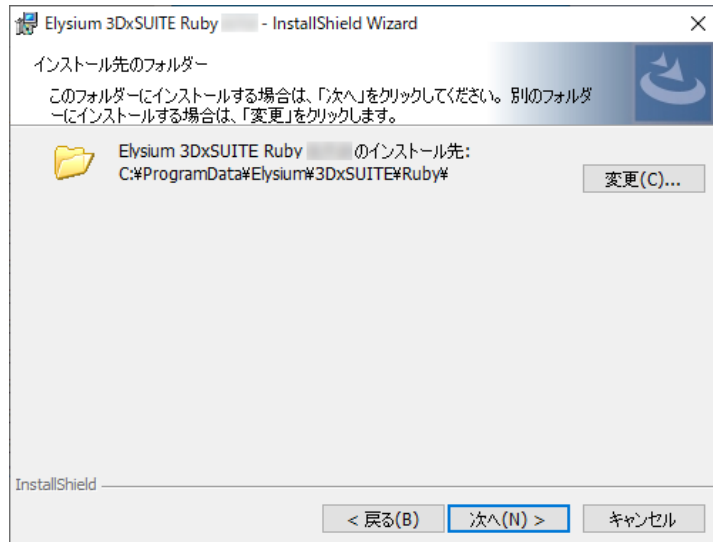
- b. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



- c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。

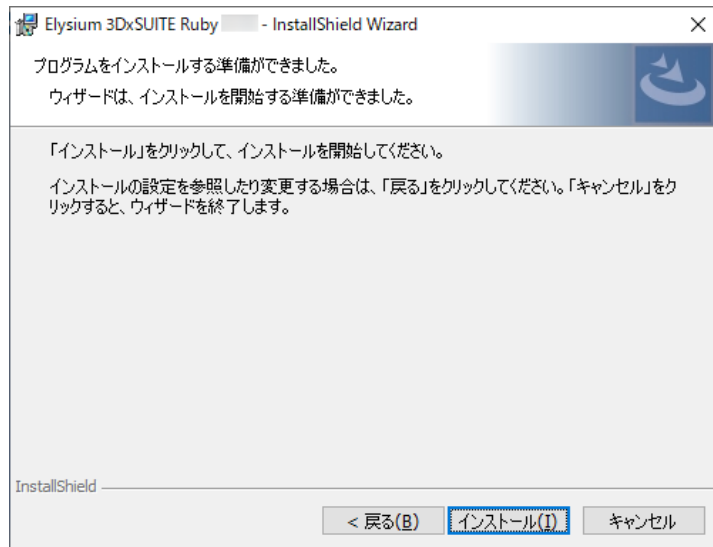


- d. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。

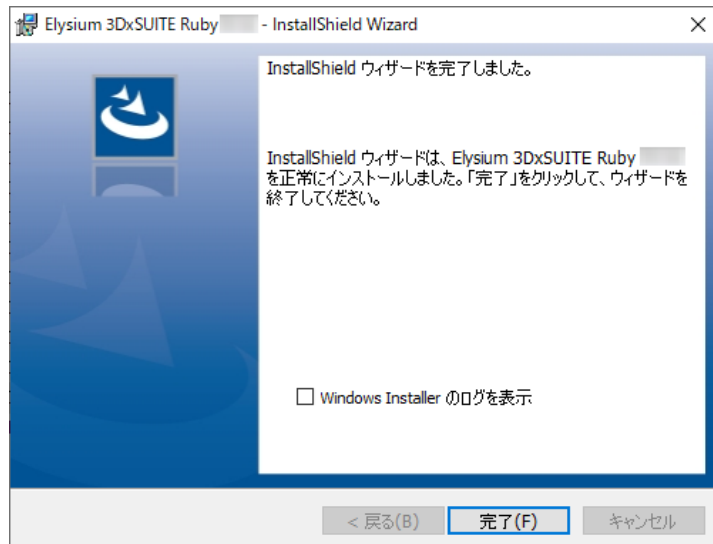


インストール先フォルダーのパスは半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

- e. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

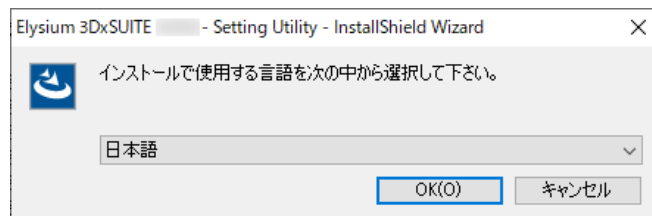


- f. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。

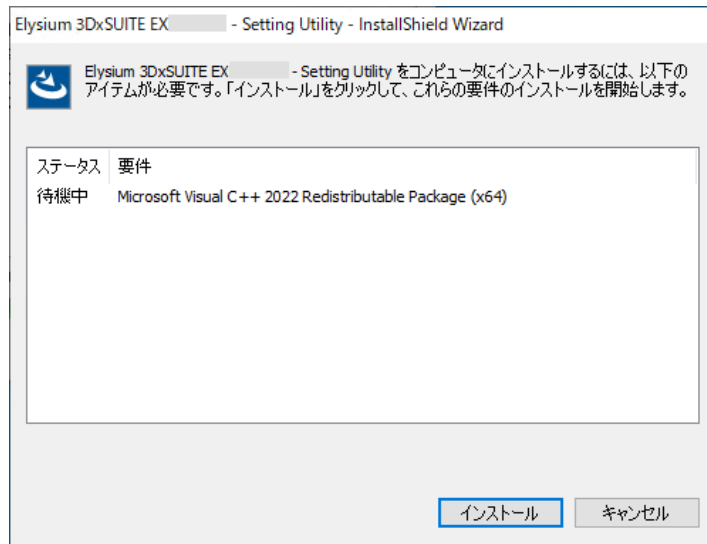


5. Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。

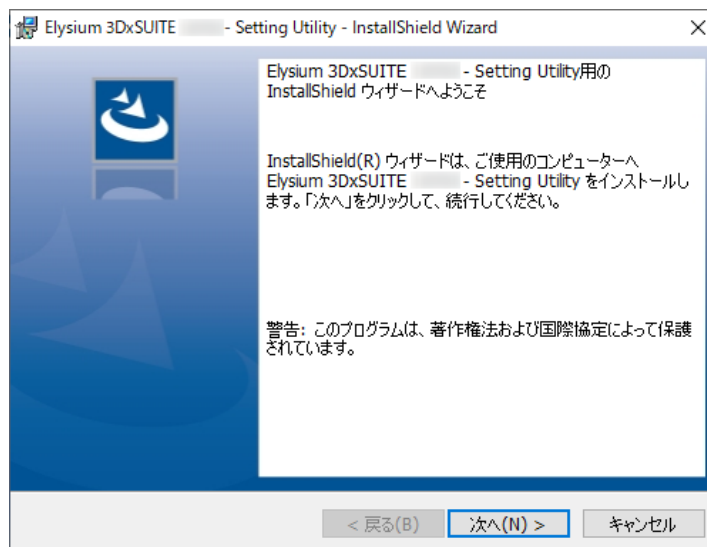
- a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



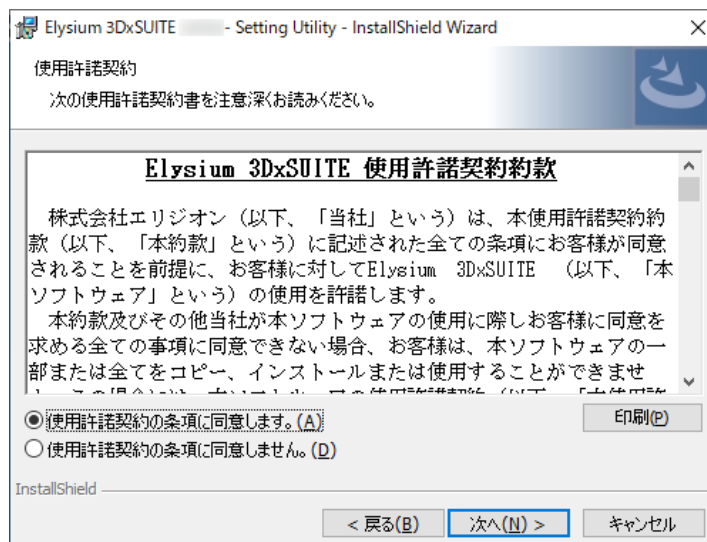
- b. このダイアログが表示された場合には [インストール] をクリックしてインストールを実行します。(すでにインストールされている環境では表示されません)



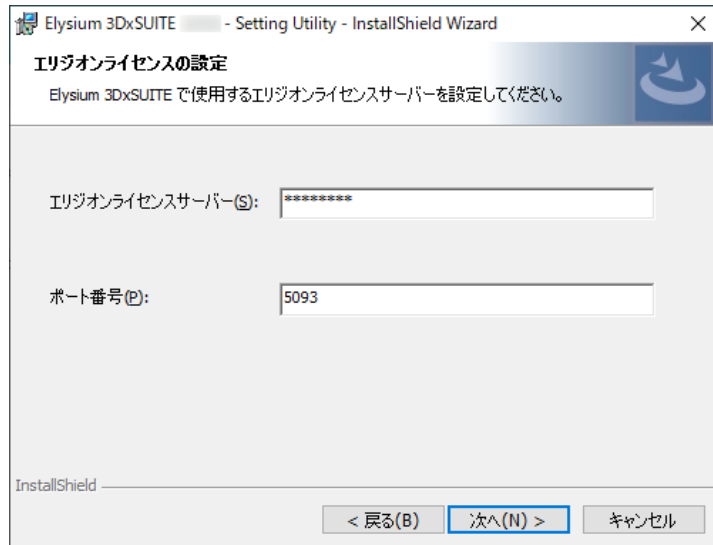
- c. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



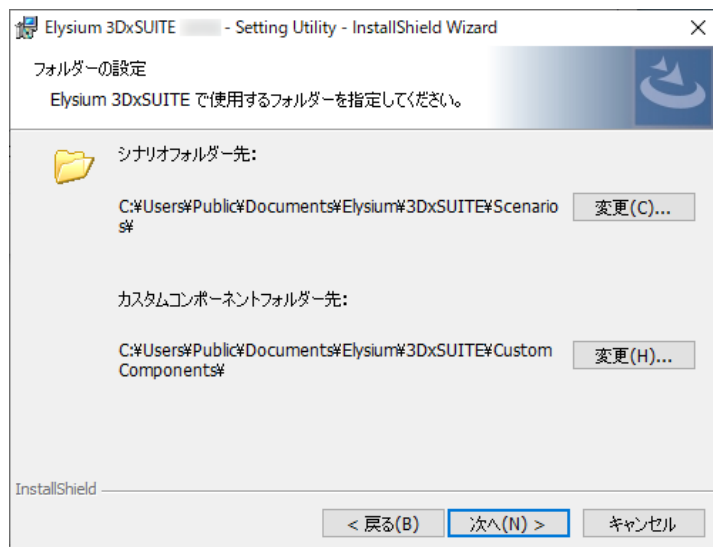
- d. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



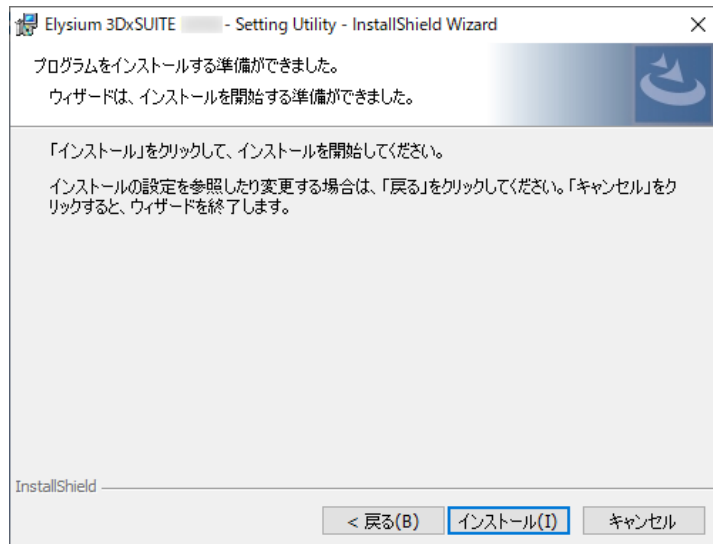
- e. ライセンスの設定画面が表示されます。Sentinel RMS License Manager をインストールしたコンピューターのホスト名を入力し、必要であればポート番号も変更した上で [次へ] をクリックします。



- f. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



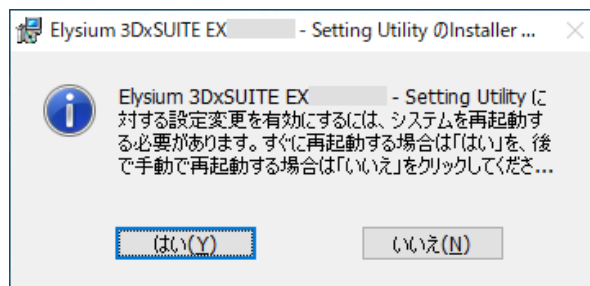
- g. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



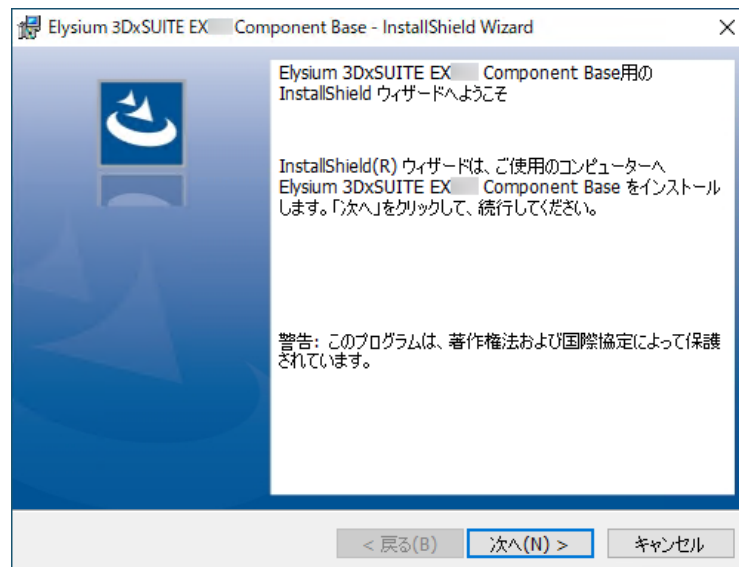
- h. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



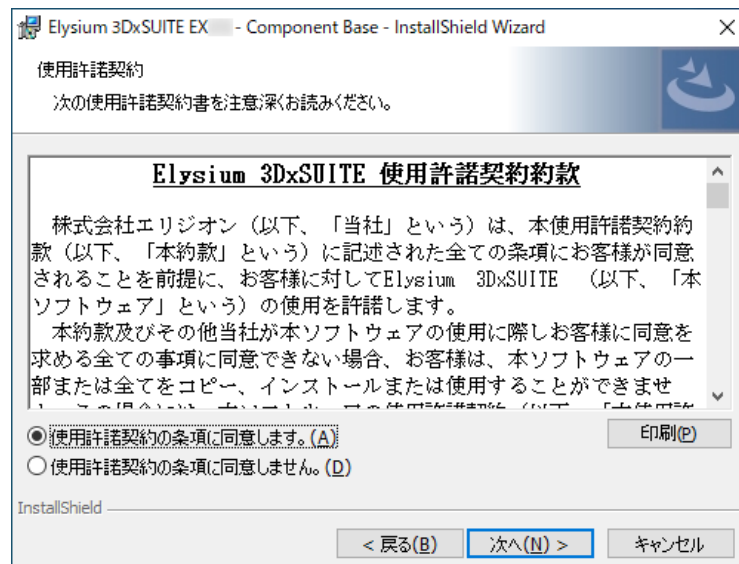
- i. 再起動を求めるダイアログが表示された場合には、OS を再起動します。再起動後に次のステップに進んでください。



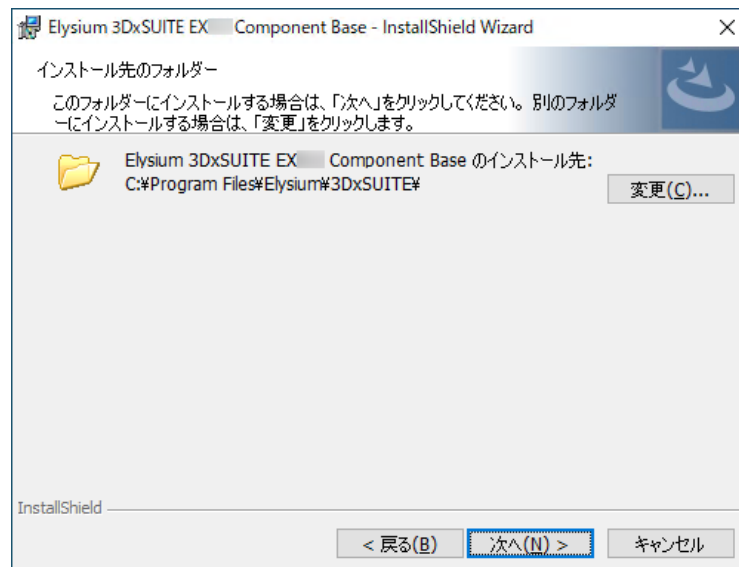
6. "3DxSUITE Component Base" のインストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



7. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。

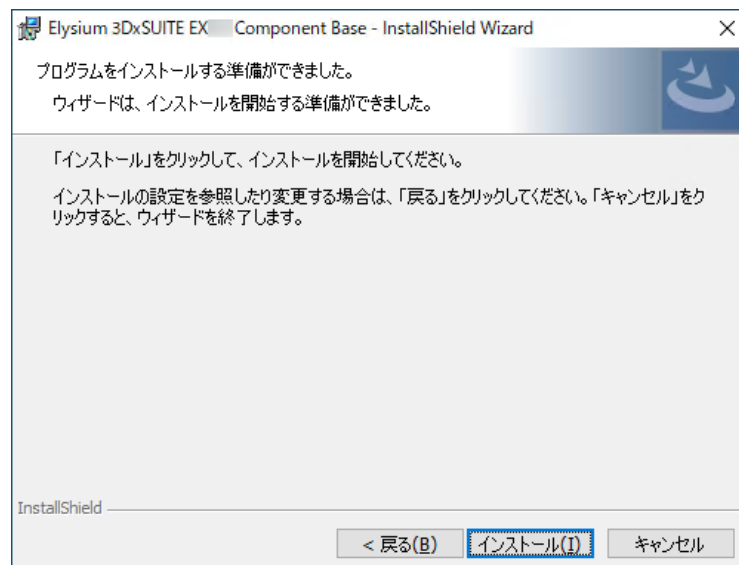


8. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

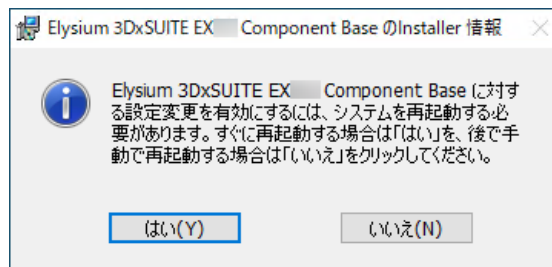
9. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



10. インストールが終了すると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックして "3DxSUITE Component Base" のインストールを終了します。



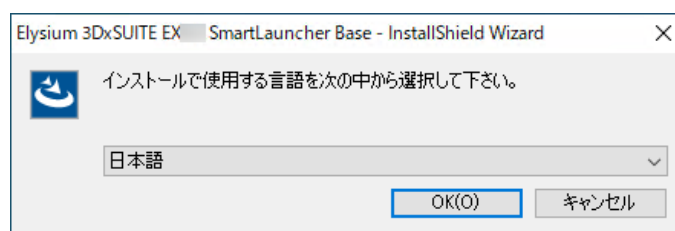
11. 再起動を求めるダイアログが表示された場合には、OS を再起動します。



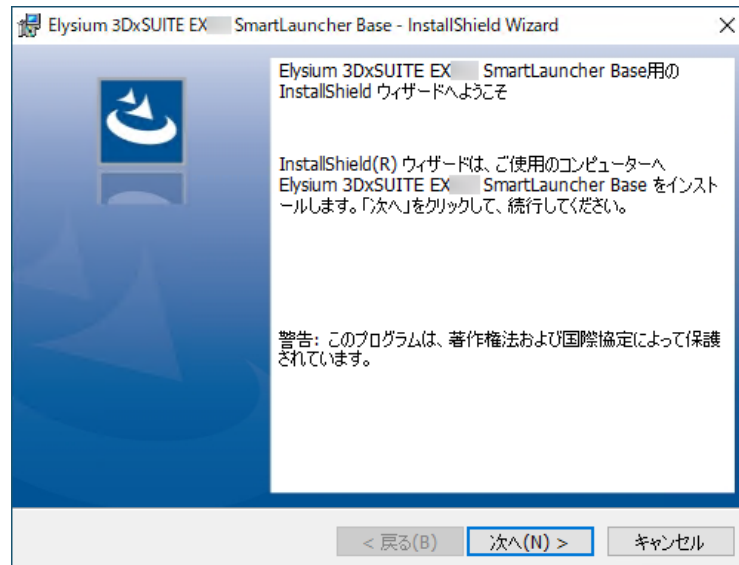
12. 続いて、3DxSUITE SmartLauncher Base のインストーラーを実行します。

- インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>\SmartLauncher_Base\
- インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_Base.exe

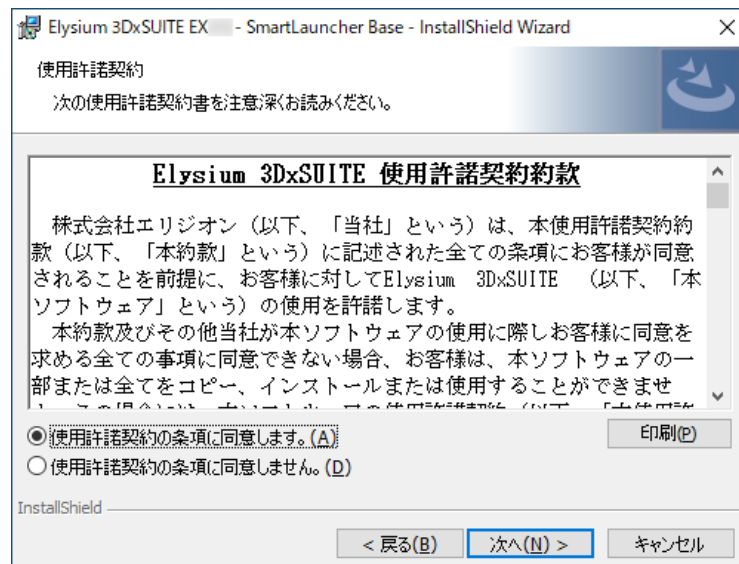
13. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



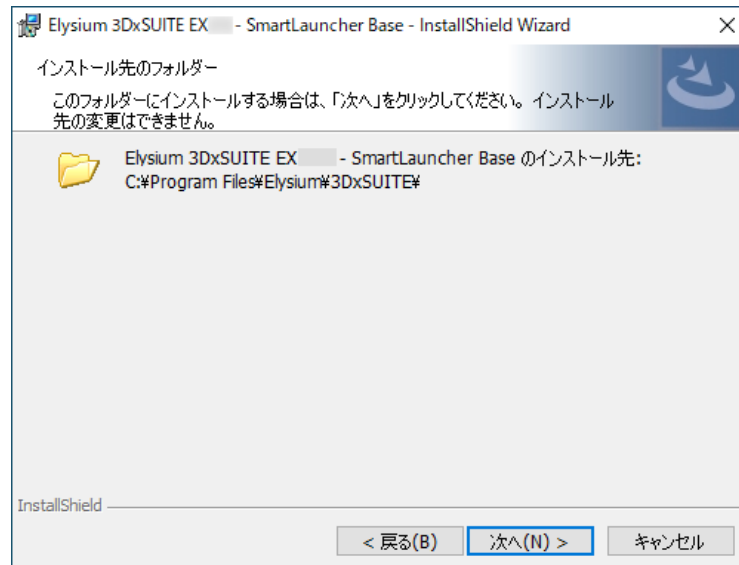
14. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



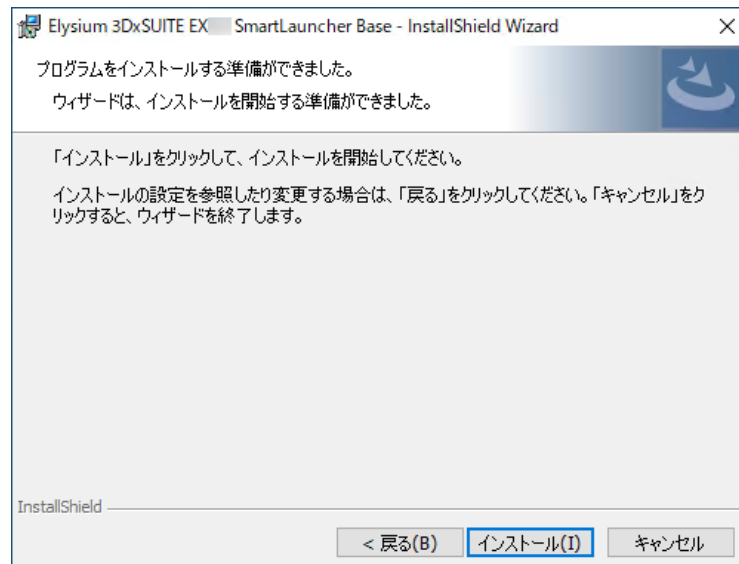
15. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



16. インストール先のフォルダーが表示されます。3DxSUITE Component Base で指定したフォルダーにインストールされるため、変更はできません。[次へ] をクリックします。



17. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



18. インストールが終了すると、以下のダイアログが表示されます。必要な項目を選択した上で [完了] をクリックします。

- SmartLauncher のコンテキストメニューを追加
オンにすると、SmartLauncher を Windows コンテキストメニューに追加します。
- Windows Installer のログを表示
オンにすると、インストール終了後に Windows Installer のログを表示します。



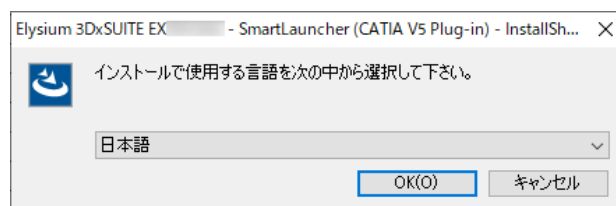
この時点では、SmartLauncher を利用するための基盤のみがインストールされた状態です。引き続き、実行する処理に必要な Component をインストールしてください。Component は <Components パッケージ> 内の各フォルダー内にあるインストーラーを実行することで、インストールすることができます。各インストーラーの詳細については、[Appendix A, 3DxSUITE インストーラー一覧](#) を参照してください。

5.1.2. SmartLauncher (Plug-in) の手動インストール

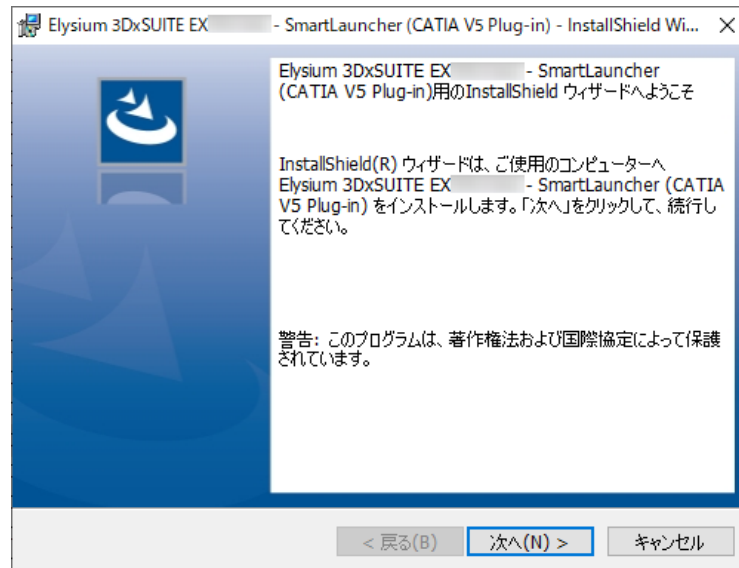


SmartLauncher (Plug-in) をインストールするためには、事前に対応する CAD Adapter、3DxSUITE Component Base、3DxSUITE SmartLauncher Base をインストールしておく必要があります。例えば CATIA V5 向けの SmartLauncher (Plug-in) をインストールする場合には、事前に CATIA V5 (Plug-in) Adapter、3DxSUITE Component Base、3DxSUITE SmartLauncher Base をインストールしてください。

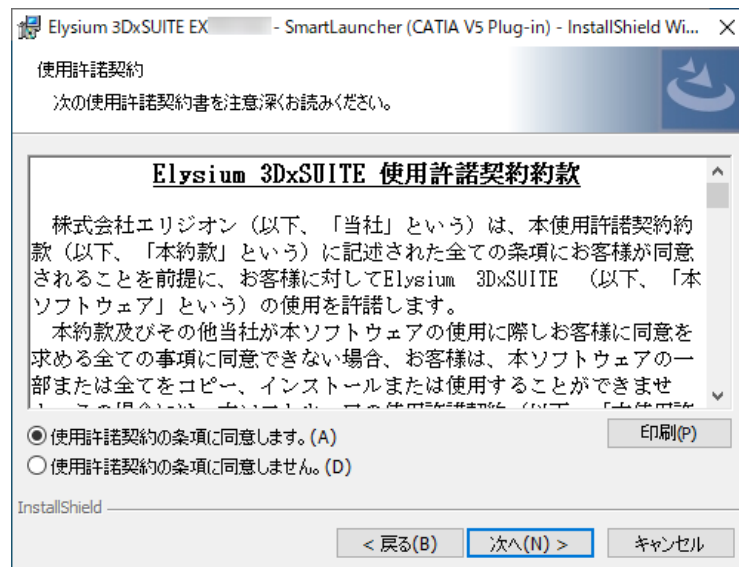
- SmartLauncher (Plug-in) のインストーラーを実行します。以降の手順では、CATIA V5 向け SmartLauncher (Plug-in) のインストーラーを実行した際の画像を例として説明しますが、いずれの CAD であっても手順は同じです。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>\SmartLauncher_***\
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_***.exe
(*** は SmartLauncher (Plug-in) をインストールする CAD の名称)
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



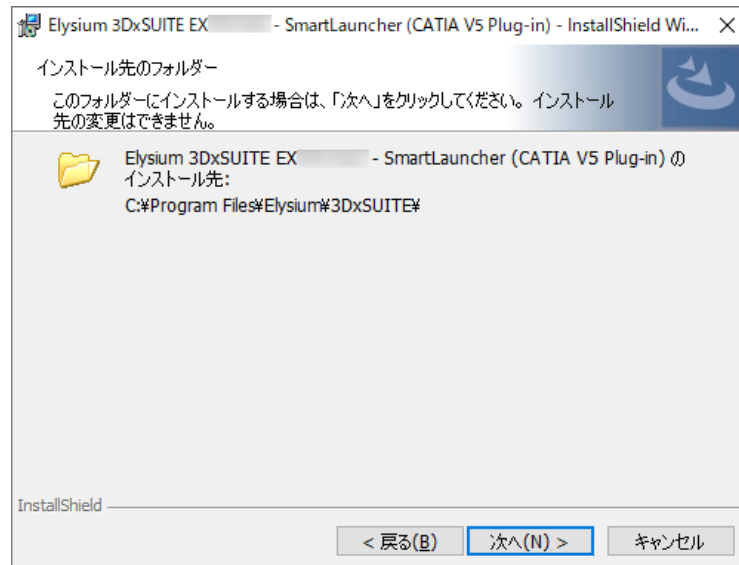
3. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



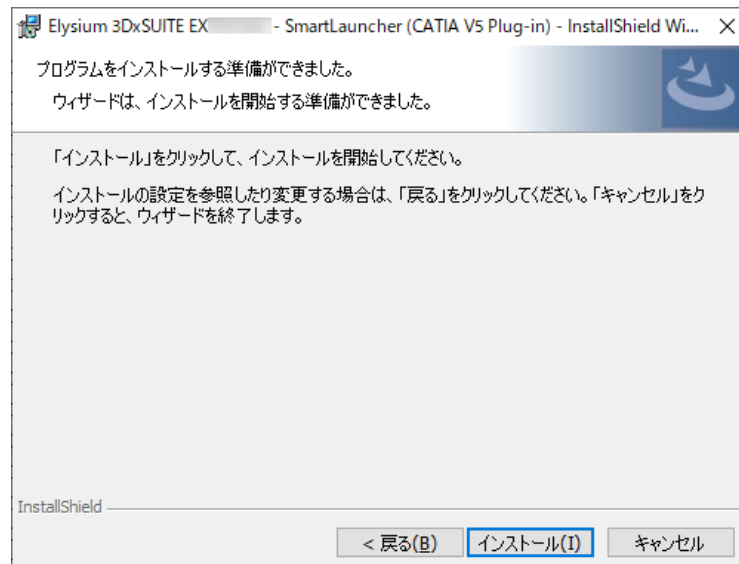
4. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



5. インストール先のフォルダーが表示されます。3DxSUITE Component Base で指定したフォルダーにインストールされるため、変更はできません。[次へ] をクリックします。



6. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



7. インストールが終了すると、以下のダイアログが表示されます。必要な項目を選択した上で [完了] をクリックします。

- SmartLauncher Plug-in のショートカット設定を行う
オンにすると、インストール終了後に SmartLauncher Plug-in のショートカット設定ダイアログを表示します。

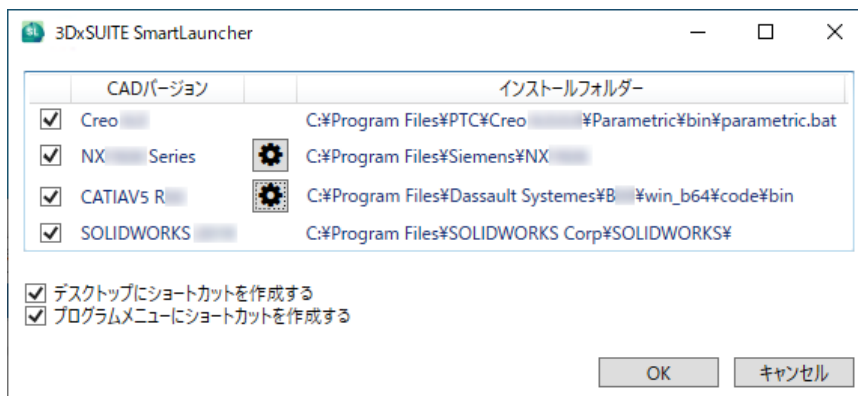


[完了] をクリックした際、OS の再起動を求めるダイアログが表示される場合があります。ショートカット設定を行う前にこのダイアログで [はい] をクリックすると、すぐに OS の再起動が実行されるため、この時点で設定を行うことができなくなります。



SmartLauncher Plug-in のショートカット設定を行う場合には、再起動を求めるダイアログで [はい] をクリックする前に実施してください。なおショートカット設定を行う前に [はい] をクリックした場合であっても、後ほど "3DxSUITE 設定" から同じ設定を実施することができます。

8. "SmartLauncher Plug-in のショートカット設定を行う" をオンにした場合、以下のダイアログが表示されます。必要に応じてチェックボックスのオン / オフを変更し、[OK] をクリックします。



このダイアログには、レジストリーから自動検知された各 CAD の導入フォルダーが表示されます。同一 CAD バージョンが複数導入されている場合や、過去の古い CAD 情報がレジストリーに残っている場合には自動検知に失敗する場合があります。

CAD を起動する際の環境ファイル (CATIA V5 の ENV ファイル、3DEXPERIENCE の ENV ファイル、NX の custom_dirs.dat) はダイアログ上の拡張設定アイコン () から指定できます。

上記ダイアログ内のオプション "デスクトップにショートカットを作成する"、"プログラムメニューにショートカットを作成する" は、チェックボックスをオンにした CAD バージョンに対してのみ有効

です。

表示されている CAD 導入環境を変更する場合、または導入されている CAD バージョンが表示されていない場合は、ダイアログを閉じた上で 3DxSUITE 設定から設定を行ってください。

5.1.3. SmartLauncher (Standalone) のサイレントインストール

管理者として実行したコマンドプロンプトからオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、SmartLauncher (Standalone) をユーザーの入力を必要とせずにインストールできます。実行するコマンドの例は以下の通りです。さらにオプションを追加することでインストールするコンポーネントや設定内容を細かく指定できます。

コマンドの例 (改行は不要):

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_Base.exe /s /v"/l* "C:\temp\install.log" /qn"
```

- インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>\SmartLauncher_Base\
- インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_Base.exe

指定可能なオプションは以下の通りです。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /s | インストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /l* \<ログファイル>\: ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 • INSTALLDIR="\<インストールフォルダー>": インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。 • INSTALL_SHELL_EXTENSION=0/1 : SmartLauncher のコンテキストメニューを追加するか否かを指定します。デフォルト値は 1 です。(0: SmartLauncherのコンテキストメニューを追加しない / 1: SmartLauncherのコンテキストメニューを追加する) • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

5.1.4. SmartLauncher (Plug-in) のサイレントインストール

管理者として実行したコマンドプロンプトからオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、SmartLauncher (Plug-in) をユーザーの入力を必要とせずにインストールできます。実行ファイルは、SmartLauncher (Plug-in) を利用する CAD に対応したものを指定してください。

コマンドの例 (Creo Parametric 向け SmartLauncher (Plug-in) の場合):

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_Creo_Parametric.exe /s /v"/l*
"C:\temp\install.log\"/qn"
```

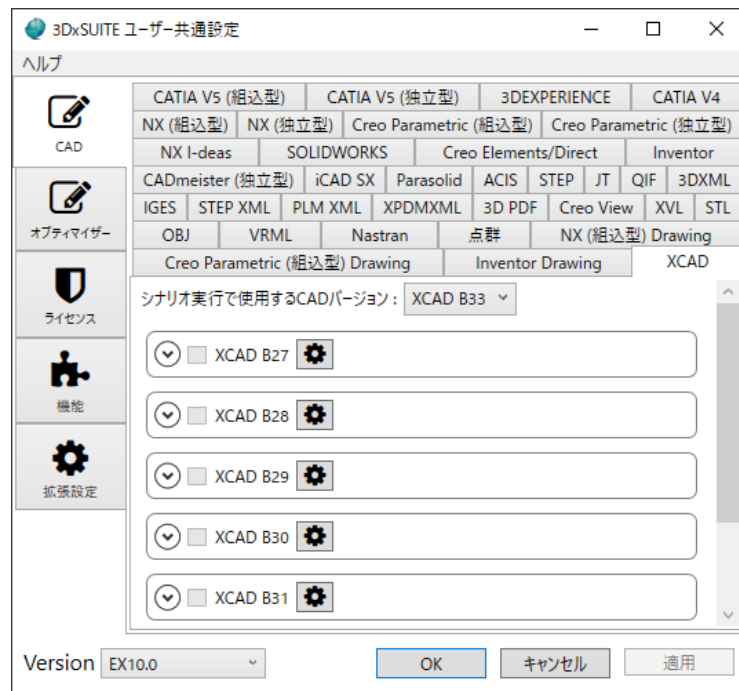
サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|--|---------|
| /s | インストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> /l* "\"<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 INSTALLDIR="<インストールフォルダー>\" : インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。 CREATE_ALL_SHORTCUTS=0/1 : 自動的に CAD 起動ショートカットを作成するか否かを指定します。デフォルト値は 1 です。(0 : インストール時に自動的に CAD 起動ショートカットを作成しない / 1 : インストール時に自動的に CAD 起動ショートカットを作成する) /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

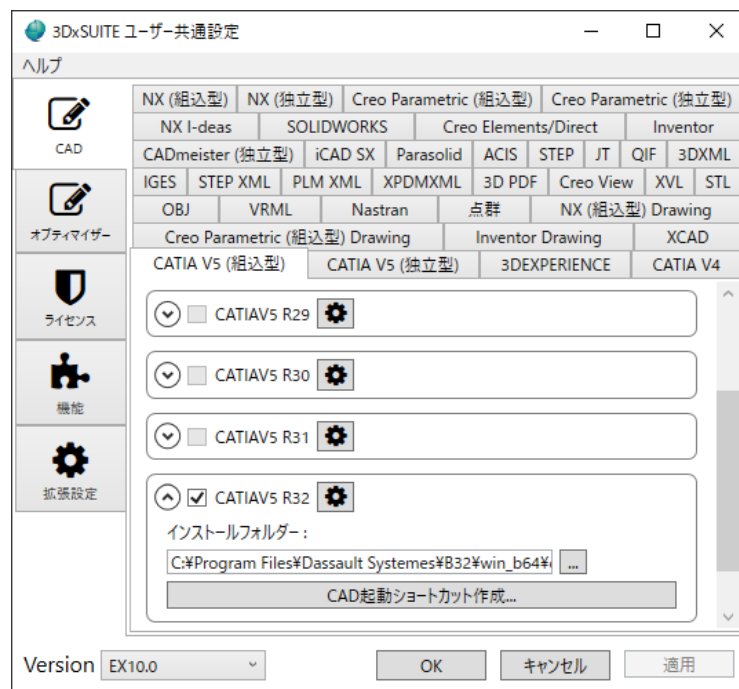
5.2. SmartLauncher (Plug-in) 設定手順

SmartLauncher (Plug-in) の設定は、3DxSUITE 設定で実行してください。手順は以下の通りです。

- Windows メニューから [Elysium 3DxSUITE] - [3DxSUITE ユーザー共通設定] または [Elysium 3DxSUITE] - [3DxSUITE ローカルユーザー設定] を選択します。
- [CAD] タブを選択します。



3. 設定を実施する CAD のタブを選択し、変換に用いるバージョンについて以下の内容を設定します。



- ・チェックボックスのオン / オフで、当該バージョンを変換に使用するか否かを指定できます。
- ・ギアマークを押すと表示されるダイアログで、変換のためのコンフィグキーワードを設定できます。(任意)
- ・"インストールフォルダー" に CAD の実行ファイルが配置されているフォルダーのパスを設定します。
- ・"CAD起動ショートカット作成" をクリックすると、SmartLauncher (Plug-in) を組み込んだ状態で CAD を起動するためのショートカットを作成できます。(*1)

*1: CAD の UI から SmartLauncher (Plug-in) を起動できるのは、以下の CAD の特定のバージョンのみです。UI から SmartLauncher (Plug-in) を起動できる CAD のバージョンについては、リリースノートの "サポートCAD バージョン一覧" を参照してください。



- CATIA V5
- 3DEXPERIENCE
- Creo Parametric
- NX
- SOLIDWORKS

UI から SmartLauncher (Plug-in) を起動できない CAD のバージョンについては "CAD 起動ショートカット作成" ボタンが表示されません。それらのバージョンの CAD については、コンテキストメニューからのみ変換を実行できます。

4. [OK] をクリックしてダイアログを閉じます。

5.2.1. CAD 別初期設定 / 注意事項

各 CAD Adapter の仕様や注意事項については、以下の内容と併せて "3DxSUITE コンポーネントマニュアル" の "3.1 Adapter" もご参照ください。

CATIA V5

- カスタマイズされた CATIA V5 環境に対して SmartLauncher (Plug-in) を導入するには、以下の 2 種類の方法があります。
 - カスタマイズ環境の設定を SmartLauncher (Plug-in) に引き継ぐ

5.2, "SmartLauncher (Plug-in) 設定手順" にある手順に従って "CAD 起動ショートカット作成" をクリックすると表示されるダイアログで拡張設定アイコン (⚙️) を押し、"以下の CATIA V5 ENV ファイルをコピーして使用する:" にカスタマイズされた CATIA V5 の環境ファイルを指定してください。またカスタマイズ環境で設定していた環境変数を使用する必要がある場合は、3DxSUITE 設定の "拡張設定" にある "環境変数" に設定してください。

- カスタマイズ環境に SmartLauncher (Plug-in) の設定を追加する


5.2, "SmartLauncher (Plug-in) 設定手順" にある手順に従って "CAD 起動ショートカット作成" をクリックすると表示されるダイアログで拡張設定アイコン (⚙️) を押し、"以下の CATIA V5 ENV ファイルをコピーして使用する:" にカスタマイズされた CATIA V5 の環境ファイルを指定してください。処理が終了すると、カスタマイズ環境と SmartLauncher (Plug-in) 環境が共存した、新しい環境ファイルが以下のパスに作成されます。(* は CAD のバージョン)

```
%Public%\Documents\Elysium\3DxSUITE\Config\SmartLauncher\CATIAV5\R*\ELY_CATIAV5_R*.txt
```


作成された環境ファイルをカスタマイズ環境にコピーし、このファイルを用いてカスタマイズ環境の CATIA V5 を起動してください。

3DEXPERIENCE

- カスタマイズされた 3DEXPERIENCE 環境に対して SmartLauncher (Plug-in) を導入するには、以下の 2 種類の方法があります。
 - カスタマイズ環境の設定を SmartLauncher (Plug-in) に引き継ぐ


5.2, “SmartLauncher (Plug-in) 設定手順” にある手順に従って "CAD 起動ショートカット作成" をクリックすると表示されるダイアログで拡張設定アイコン () を押し、"以下の 3DEXPERIENCE ENV ファイルをコピーして使用する:" にカスタマイズされた 3DEXPERIENCE の環境ファイルを指定してください。またカスタマイズ環境で設定していた環境変数を使用する必要がある場合は、3DxSUITE 設定の "拡張設定" にある "環境変数" に設定してください。

- カスタマイズ環境に SmartLauncher (Plug-in) の設定を追加する

5.2, “SmartLauncher (Plug-in) 設定手順” にある手順に従って "CAD 起動ショートカット作成" をクリックすると表示されるダイアログで拡張設定アイコン () を押し、"以下の 3DEXPERIENCE ENV ファイルをコピーして使用する:" にカスタマイズされた 3DEXPERIENCE の環境ファイルを指定してください。処理が終了すると、カスタマイズ環境と SmartLauncher (Plug-in) 環境が共存した、新しい環境ファイルが以下のパスに作成されます。(**** は CAD のバージョン)


```
%Public%\Documents\Elysium\3DxSUITE\Config\SmartLauncher\3DEX\R****x\ELY_3DEX_ASX_R****x.txt
```

作成された環境ファイルをカスタマイズ環境にコピーし、このファイルを用いてカスタマイズ環境の 3DEXPERIENCE を起動してください。

- SmartLauncher (Standalone) を使う場合は、5.2, “SmartLauncher (Plug-in) 設定手順” を参考にして 3DxSUITE 設定にある [CAD] タブの [3DEXPERIENCE] タブを開き、拡張設定アイコン () を押してコンフィグキーワード 3DEX_LoginTicket を設定してください。3DEX_LoginTicket の取得方法は "Elysium 3DxSUITE コンポーネントマニュアル" の 3DEXPERIENCE Importer / Exporter を参照してください。

NX

- カスタマイズされた NX 環境 (Teamcenter 環境の NX 含む) や既定の NX 起動用ショートカット経由で SmartLauncher (Plug-in) を利用する方法は以下の通りです。
 - カスタマイズ環境の設定を SmartLauncher (Plug-in) に引き継ぐ

5.2, “SmartLauncher (Plug-in) 設定手順” にある手順に従って "CAD 起動ショートカット作成" をクリックすると表示されるダイアログで拡張設定アイコン () を押し、"以下の

custom_dirs.dat をコピーして使用する:" にカスタマイズ環境の UGII_CUSTOM_DIRECTORY_FILE で指定されるファイル (custom_dirs.dat など) のパスを指定してください。

- カスタマイズ環境に SmartLauncher (Plug-in) の設定を追加する

以下のいずれかの方法で、カスタマイズ環境に SmartLauncher (Plug-in) の設定を追加してください。

- A. カスタマイズされた NX 環境を起動する際に参照している UGII_CUSTOM_DIRECTORY_FILE (custom_dirs.dat など) に、SmartLauncher (Plug-in) for NX の導入フォルダーのパスを追記する。
- B. 環境変数 UGII_USER_DIR に SmartLauncher (Plug-in) for NX の導入フォルダーのパスを指定する。

SmartLauncher (Plug-in) for NX の導入フォルダーのパスは以下の通りです。

- <3DxSUITE 導入フォルダー>\SmartLauncher\cad_plugin\114\<NXバージョン>

(例) C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\SmartLauncher\cad_plugin\114\NX1953

Teamcenter 経由で NX を起動して DFX 向けシナリオを実行すると、Teamcenter Rich Client を起動するバッチの中で PowerShell/Python のパスが消えてしまうため、DFX コンポーネントが実行できなくなります。以下のように環境変数 "AUX_PATH" に PowerShell/Python のフォルダーを指定することで正常に実行することができます。



```
AUX_PATH=C:\WINDOWS\System32\WindowsPowerShell\v1.0\;%LOCALAPPDATA%\Programs\Python\Python***\
```

*** の部分は Python のバージョン番号で置き換えてください。(例: Python311)

Creo Parametric

- カスタマイズされた Creo Parametric の環境や、既定の Creo Parametric 起動用ショートカット経由で SmartLauncher (Plug-in) を利用する方法は以下の通りです。
 1. 任意の場所に protk.dat ファイルを作成します。このファイルには以下の内容を記載してください。(SmartLauncher を既定のフォルダーに導入しており、Creo Parametric 6.0 を利用する場合)

```
NAME ELY_CREOP_CONVERTER_PLUG_IN
EXEC_FILE C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\SmartLauncher\cad_plugin\104\Creo6\dll\PDMPProe.dll
TEXT_DIR C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\SmartLauncher\cad_plugin\104\Creo6\text_fbt
REVISION Wildfire
STARTUP dll
END
```

- Creo Parametric が起動時に読み込む config.pro に下記の行を追加します。(既定では、<Creo Parametric のインストールフォルダー>\Common Files\text\config.pro が読み込まれます)

```
PROTKDAT <手順 1. で作成した protk.dat のフルパス>
```

- オンメモリ設定がオフの場合、Creo Parametric を起動したまま変換を実行すると、起動している Creo Parametric とは別に新たに Creo Parametric を使用する変換が実行されます。その際、Creo Parametric のライセンスファイルに "DUP_GROUP" というキーワードが含まれない場合には、Creo Parametric 自体のライセンスが 2 本必要となるのでご注意ください。オンメモリ設定がオンの場合は、従来同様、Creo Parametric のライセンスを 1 本のみ使用します。

SOLIDWORKS

- SOLIDWORKS 向けの SmartLauncher (Plug-in) は、インストールしただけではメニューに表示されません。以下の手順で有効化してください。
 - "3DxSUITE SmartLauncher for SOLIDWORKS 20**" を用いて SOLIDWORKS を起動します。(20** は SOLIDWORKS のバージョン)
 - メニューから [ツール] - [アドイン] を選択します。
 - "アドイン" ダイアログで "Elysium Tool for SOLIDWORKS" をオンにします。
 - [OK] をクリックして "アドイン" ダイアログを閉じます。

5.3. 起動手順

SmartLauncher (Standalone)、SmartLauncher (Plug-in) は以下の各メニューから起動できます。

5.3.1. SmartLauncher (Standalone) の起動

以下の手順でエクスプローラーのコンテキストメニューから起動できます。

- 変換対象ファイルを選択し右クリックします。
- 表示されるコンテキストメニューから [Elysium] - [変換] を選択します。"開く" ダイアログが表示されます。(Windows 11 の場合は [その他のオプションを表示] を選択してから、[Elysium] を選択してください)



5.3.2. SmartLauncher (Plug-in) の起動

SmartLauncher (Plug-in) は Windows メニューまたはデスクトップ上のショートカットから起動します。

- Windows メニューから起動する場合は、以下のメニューから起動したい CAD / バージョンのバッチを実行してください。
 - [Elysium 3DxSUITE SmartLauncher] - [3DxSUITE SmartLauncher for (CAD名) (Version)]
- ショートカットから起動する場合は、デスクトップ上にある "3DxSUITE SmartLauncher for (CAD名) (Version)" をダブルクリックしてください。

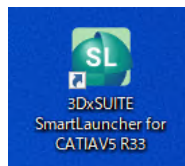


図 1. CATIAV5 R33 起動用ショートカットの例

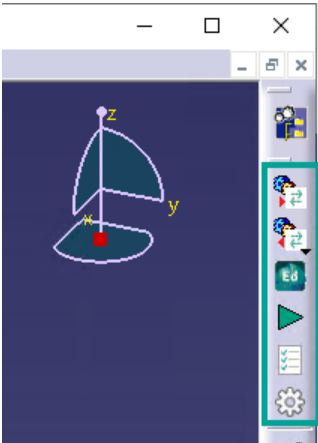

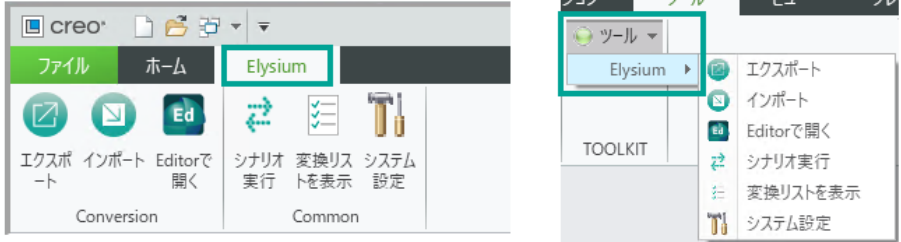
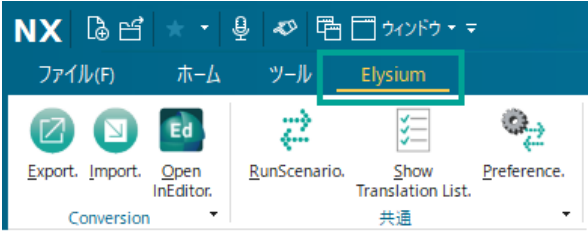
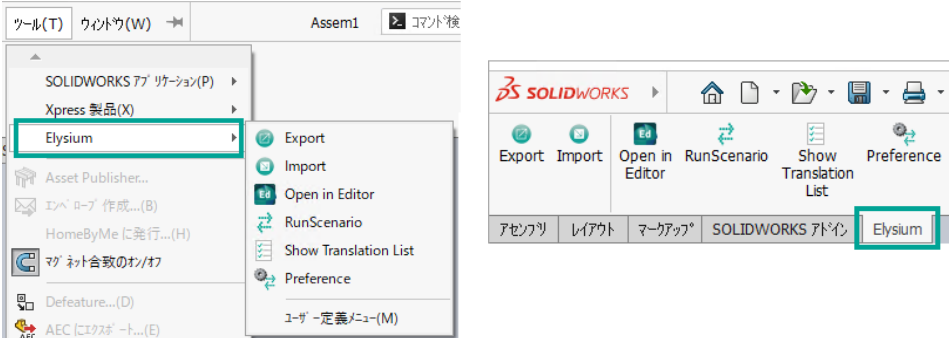
CAD の UI から SmartLauncher (Plug-in) を起動できるのは、以下の CAD の特定のバージョンのみです。UI から SmartLauncher (Plug-in) を起動できる CAD のバージョンについては、リリースノートの "サポートCAD バージョン一覧" を参照してください。



- CATIA V5
- 3DEXPERIENCE
- Creo Parametric
- NX
- SOLIDWORKS

UI から SmartLauncher (Plug-in) を起動できない CAD のバージョンについてはコンテキストメニューからのみ変換を実行できます。

SmartLauncher (Plug-in) は CAD のメニューに組み込まれて表示されます。

| CAD | SmartLauncher (Plug-in) 表示位置 |
|--------------|--|
| CATIA V5 |  |
| 3DEXPERIENCE |  <p>※入出力ファイル形式として *_Elysium を指定すると変換が実行されます。</p> |
| Creo |  |
| NX |  |
| SOLIDWORKS |  |

5.4. アンインストール手順



アンインストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

以下の手順で SmartLauncher (Plug-in) のアンインストールを実行した場合、処理は終了するもののアプリケーションは削除されません。



1. Components インストーラーを用いて 3DxSUITE SmartLauncher Base と SmartLauncher (Plug-in) をインストールする。
2. 3DxSUITE SmartLauncher Base を直接指定してアンインストールする。
3. Components をアンインストールする。

この現象は SmartLauncher (Plug-in) がインストールされている状態で 3DxSUITE SmartLauncher Base をアンインストールしたことに起因して発生しています。このような状況になった場合には、Components 経由ではなく SmartLauncher (Plug-in) を直接指定してアンインストールしてください。

5.4.1. SmartLauncher (Standalone) の手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX10.0 - SmartLauncher Base" を選択して、アンインストールを実行します。

5.4.2. SmartLauncher (Standalone) のサイレントアンインストール

管理者として実行したコマンドプロンプトから以下の通りオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、SmartLauncher (Standalone) をユーザーの入力を必要とせずアンインストールすることができます。

コマンドの例:

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_Base.exe /s /x /v"/l*  
\"C:\temp\uninstall.log\"/qn"
```

5.4.3. SmartLauncher (Plug-in) の手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX10.0 - SmartLauncher (***) Plug-in)" を選択して、アンインストールを実行します。(***) は CAD 名)

5.4.4. SmartLauncher (Plug-in) のサイレントアンインストール

管理者として実行したコマンドプロンプトから以下の通りオプションを引数に指定してインストーラーを実行することにより、SmartLauncher (Plug-in) をユーザーの入力を必要とせずアンインストールすることができます。実行ファイルは、アンインストールする SmartLauncher (Plug-in) に対応したものを指定してください。

コマンドの例 (CATIA V5 向け SmartLauncher (Plug-in) の場合):

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_CATIA_V5.exe /s /x /v"/l*
\C:\temp\uninstall.log\"/qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /s | アンインストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /x | アンインストールを実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> /l* "\<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

6. Elysium 3DxSUITE SmartController

事前にインストールする必要があるプログラム

- なし



- SmartController を起動する前に、3DxSUITE 設定でライセンスの設定を実行する必要があります。
- SmartController を最初に起動した際には、3DxSUITE 設定に設定されたライセンス設定が使用されます。2 回目以降の起動時には、SmartController に設定されているライセンス設定が優先的に使用されます。

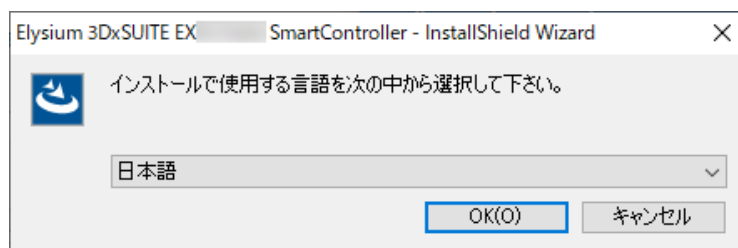
6.1. インストール手順



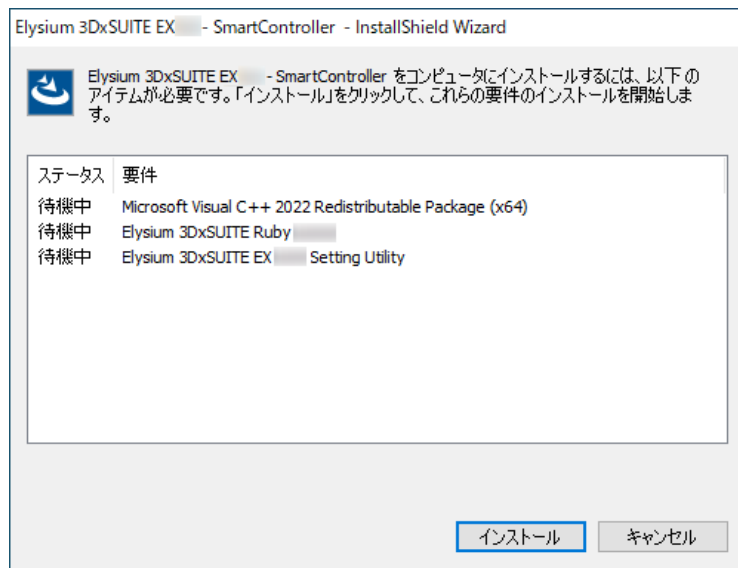
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。
事前にインストールする必要があるプログラムがインストールされていない場合、実行が中止されます。

6.1.1. 手動インストール

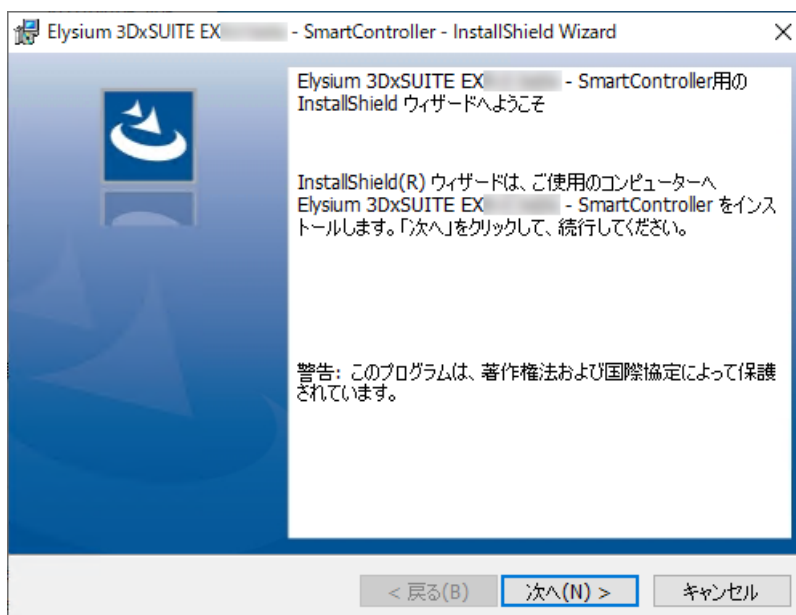
- SmartController のインストーラーを実行します。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <SmartController パッケージ>\
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController.exe
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



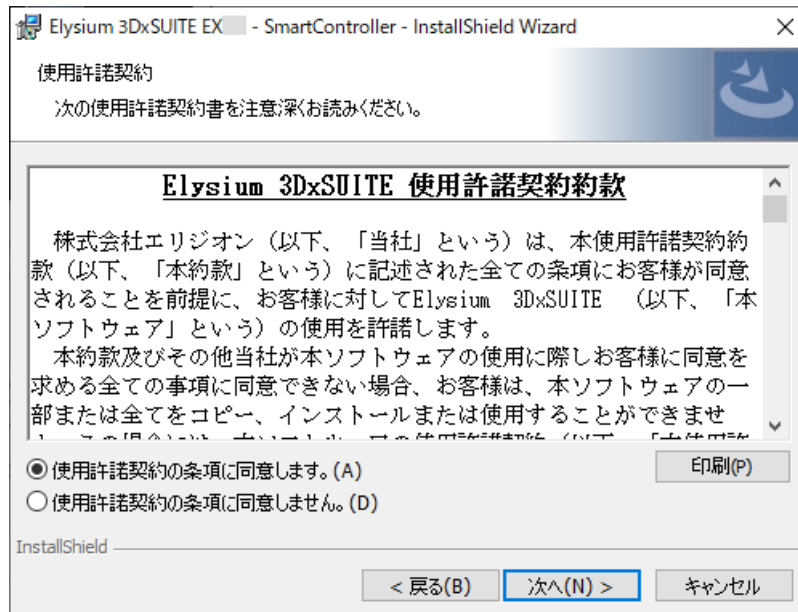
3. このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックします。



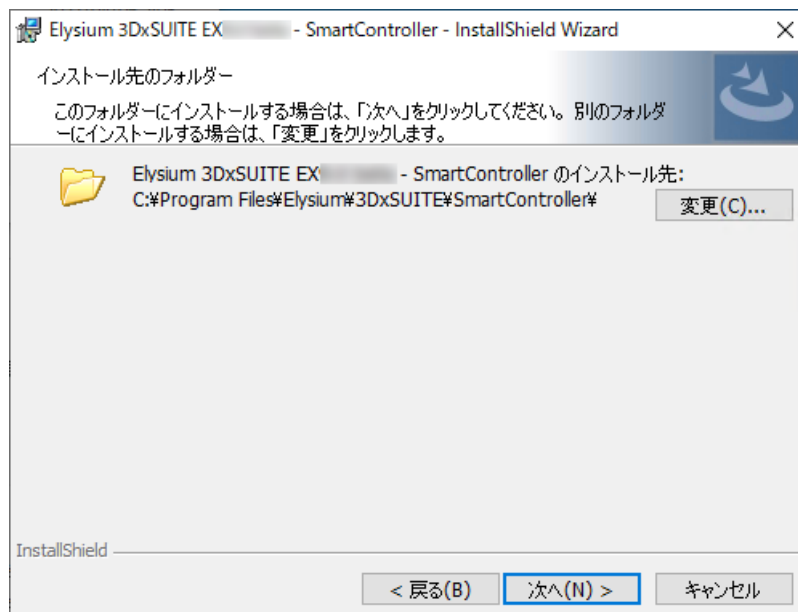
4. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



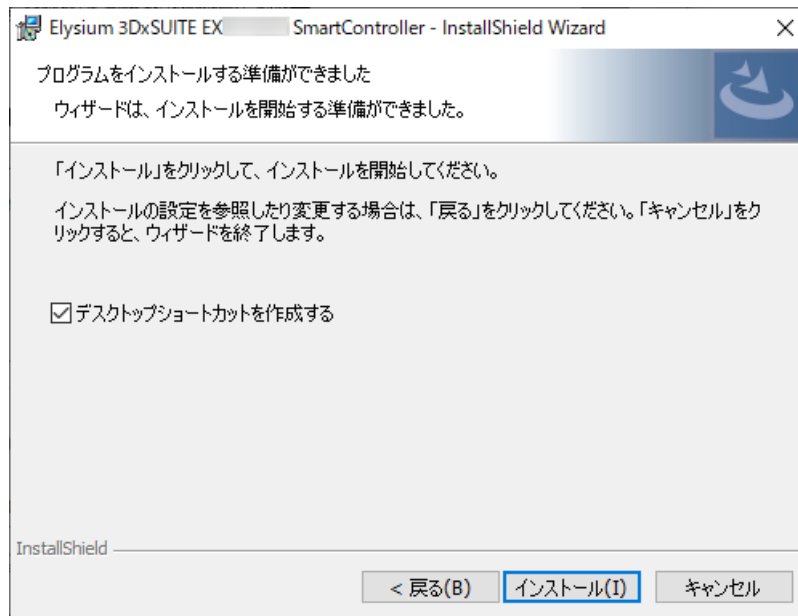
5. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



6. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



7. デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外します。[インストール] をクリックしてインストールを開始します。



8. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



6.1.2. サイレントインストール

コマンドにて SmartController の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明を参照してください。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController.exe /s /v"/l* \"C:\temp\install.log\"
INSTALLDIR=\"C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\EX10.0\SmartController\" /qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /s | インストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /l* \"<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 • INSTALLDIR=\"<インストールフォルダー>\" : インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。 • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

6.2. 起動手順

Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE] - [3DxSUITE SmartController] を選択して起動してください。デスクトップ上の [3DxSUITE SmartController] ショートカットをダブルクリックして起動することもできます。



6.3. 終了手順

ウインドウを閉じて終了します。

6.4. アンインストール手順

6.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX10.0 - SmartController" を選択して、アンインストールを実行します。

6.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。コマンドについては、以下のコマンド例と [コマンド引数](#) の説明を参照してください。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController.exe /s /x /v"/l*\  
"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

7. Elysium 3DxSUITE SmartController Pro

事前にインストールする必要があるプログラム

- なし



SmartController Pro を起動する前に、3DxSUITE 設定でライセンスの設定をする必要があります。



SmartController Pro を最初に起動した際には、3DxSUITE 設定に設定されたライセンス設定が使用されます。2 回目以降の起動時には、SmartController Pro に設定されているライセンス設定が優先的に使用されます。

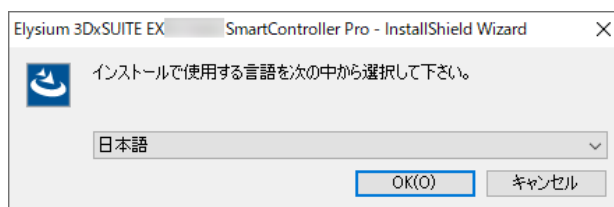
7.1. インストール手順



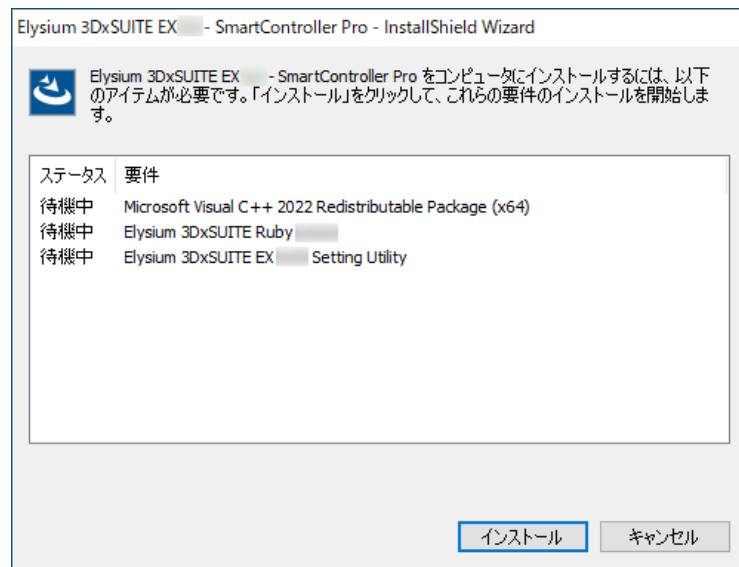
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

7.1.1. 手動インストール

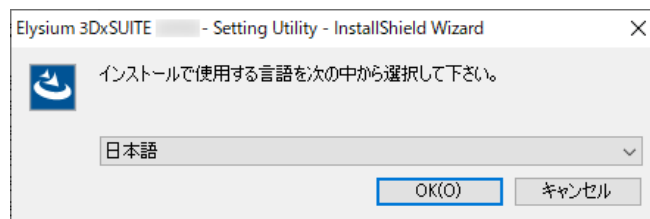
- SmartController Pro のインストーラーを実行します。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <SmartController Pro パッケージ>\
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController_Pro.exe
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



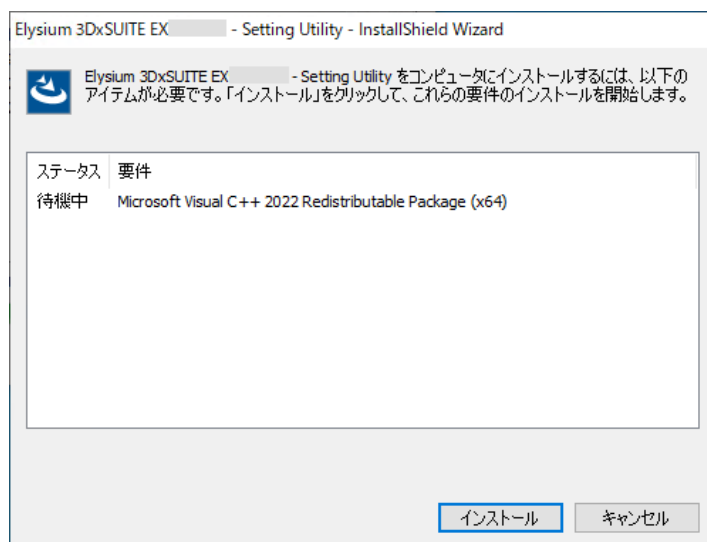
- このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックします。



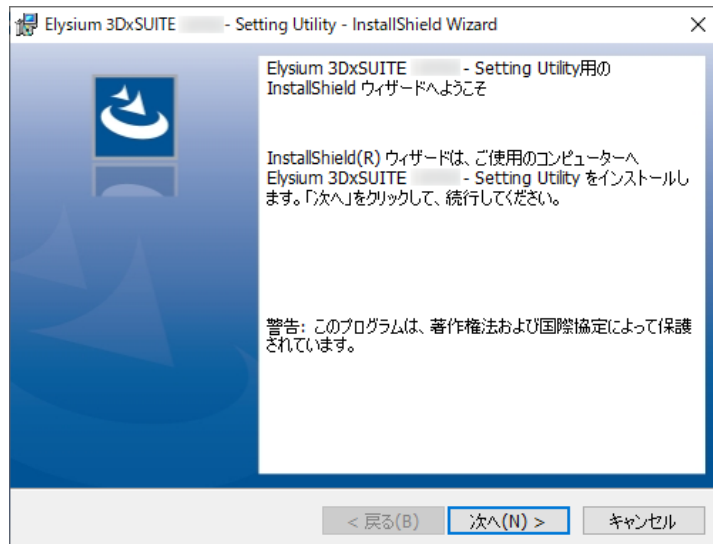
4. Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。
 - a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



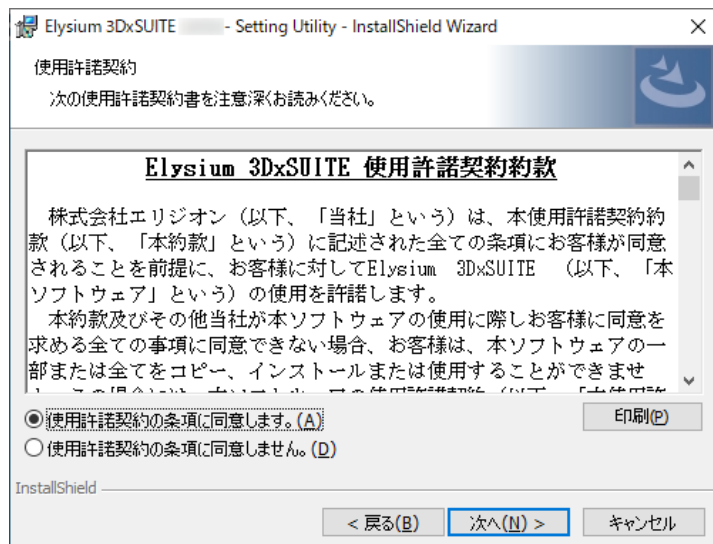
- b. このダイアログが表示された場合には [インストール] をクリックしてインストールを実行します。(すでにインストールされている環境では表示されません)



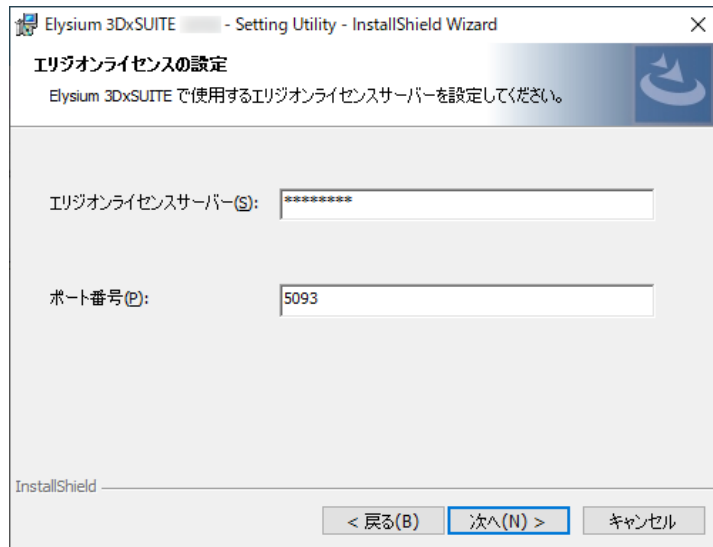
- c. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



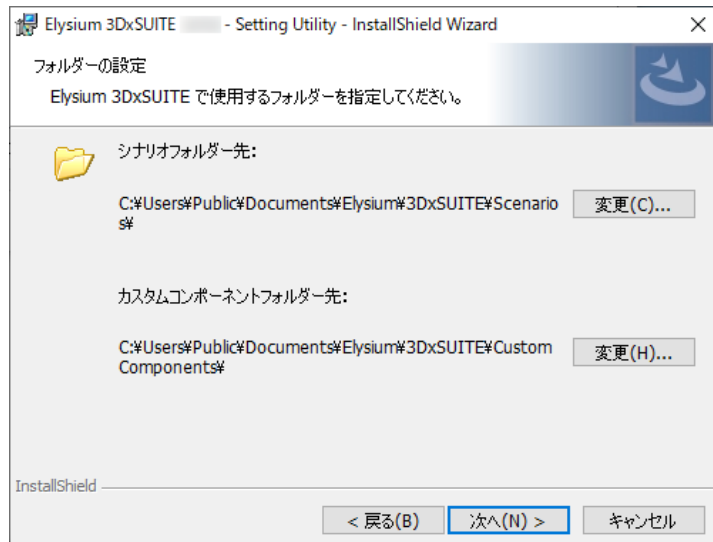
- d. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



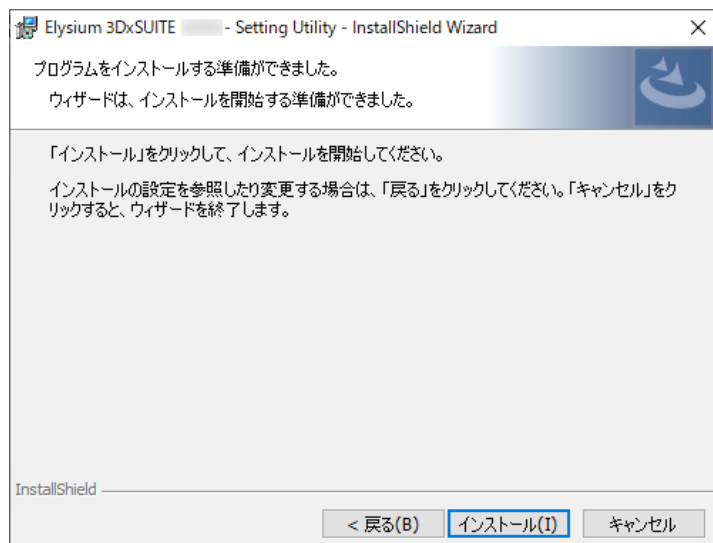
- e. ライセンスの設定画面が表示されます。Sentinel RMS License Manager をインストールしたコンピューターのホスト名を入力し、必要であればポート番号も変更した上で [次へ] をクリックします。



- f. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



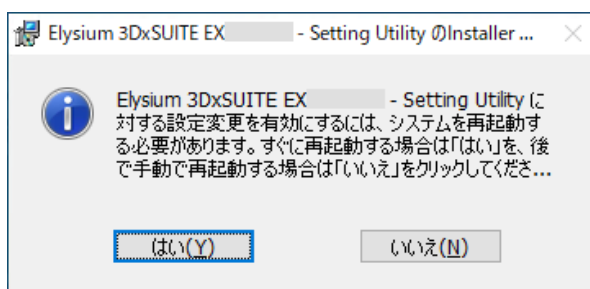
- g. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



- h. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。

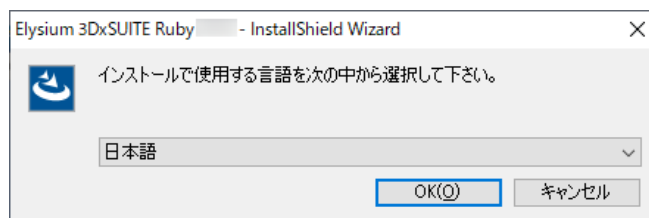


- i. 再起動を求めるダイアログが表示された場合には、OS を再起動します。再起動後に次のステップに進んでください。

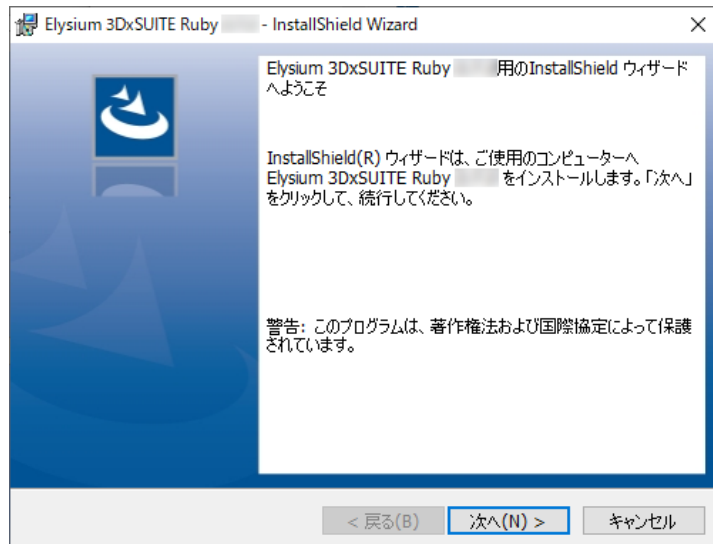


5. Elysium 3DxSUITE Ruby が導入されていない環境の場合、Elysium 3DxSUITE Ruby のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。すでに Elysium 3DxSUITE Ruby が導入されている場合は、Elysium 3DxSUITE Ruby インストール後の手順へ進んでください。

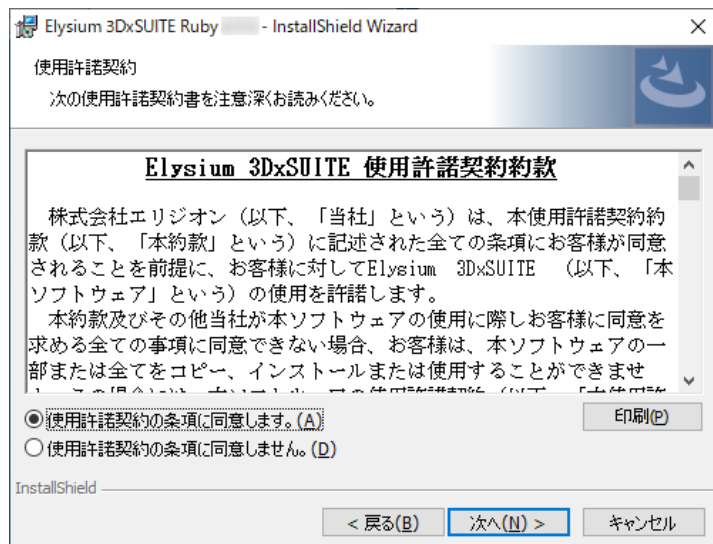
- a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



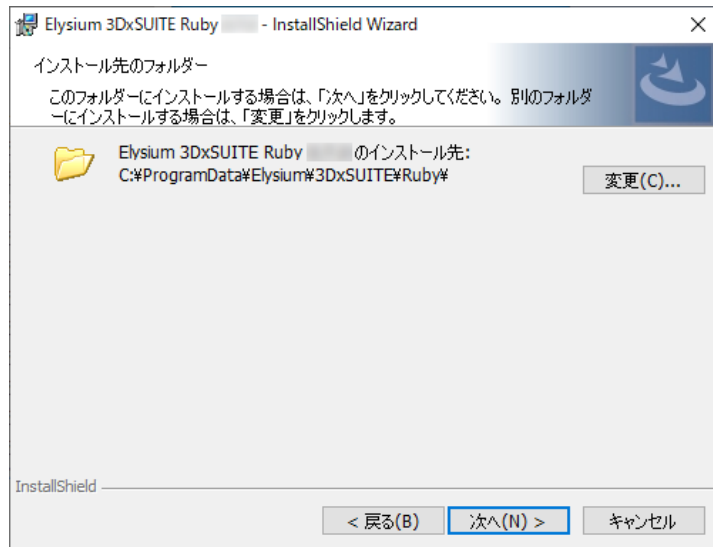
- b. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



- c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。

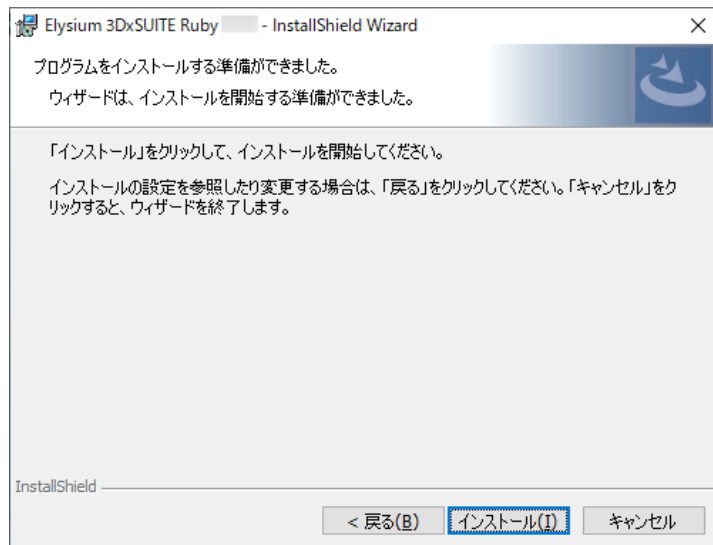


- d. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。

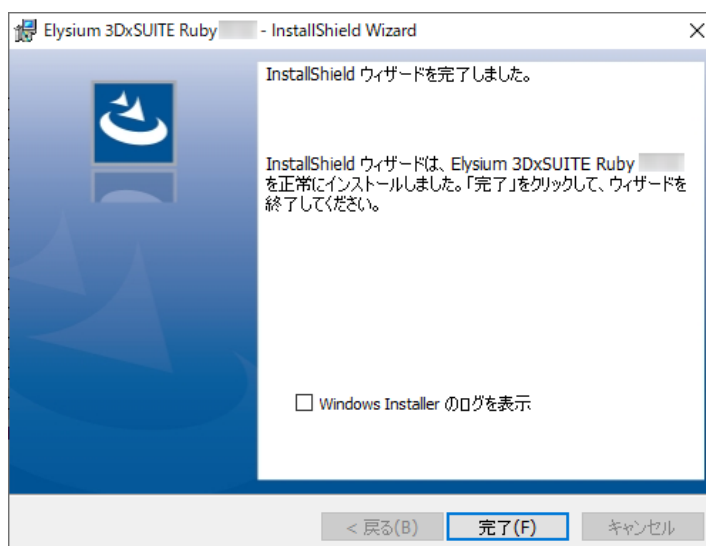


インストール先フォルダーのパスは半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

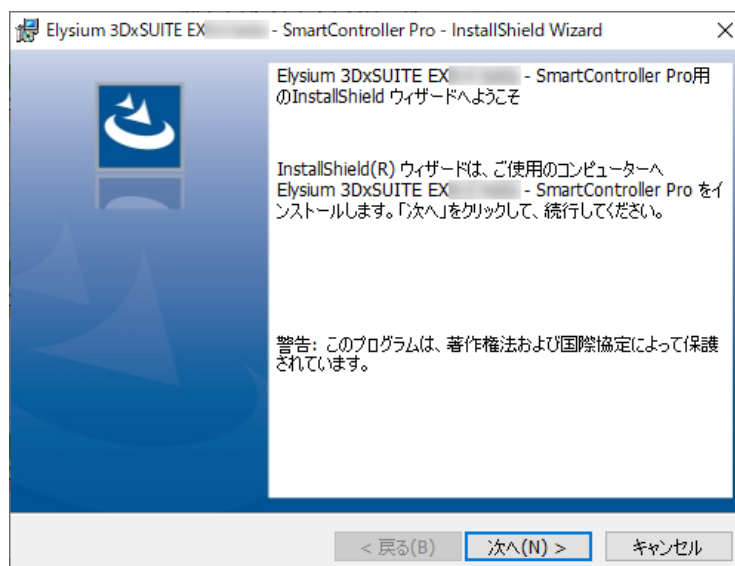
e. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



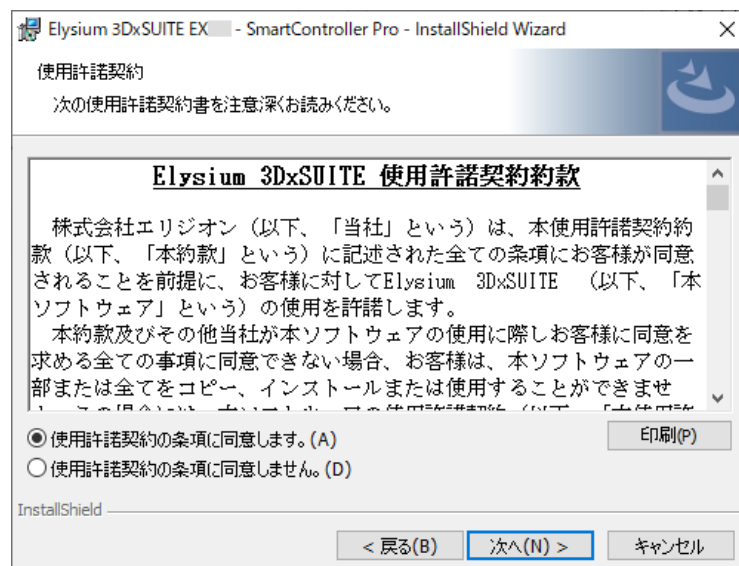
f. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



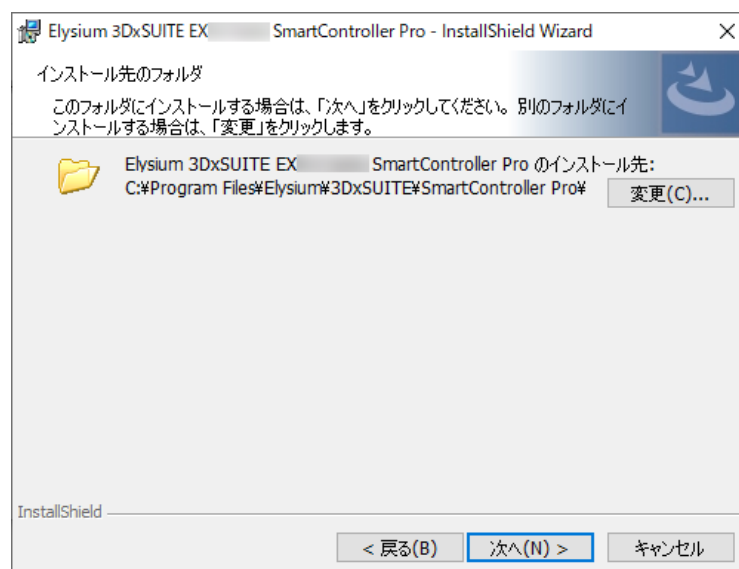
6. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



7. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。

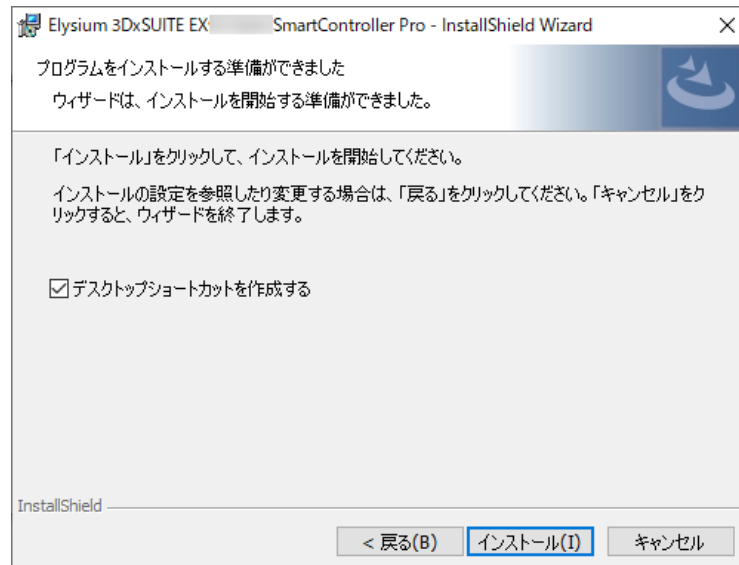


8. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

9. デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外します。[インストール] をクリックしてインストールを開始します。



10. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



7.1.2. サイレントインストール

コマンドにて SmartController Pro の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明を参照してください。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController_Pro.exe /s /v"/l*  
\"C:\temp\install.log\" INSTALLDIR=\"C:\Program  
Files\Elysium\3DxSUITE\EX10.0\SmartController_Pro\" /qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /s | インストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /l* "\<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 • INSTALLDIR="\<インストールフォルダー>\" : インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。 • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

7.2. 起動手順



SmartController Pro を最初に起動した際には、3DxSUITE 設定に設定されたライセンス設定が使用されます。2 回目以降の起動時には、SmartController Pro に設定されているライセンス設定が優先的に使用されます。

Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE] - [3DxSUITE SmartController Pro] を選択して起動してください。デスクトップ上の [3DxSUITE SmartController Pro] ショートカットをダブルクリックして起動することもできます。



7.3. 終了手順

ウィンドウを閉じて終了します。

7.4. アンインストール手順

7.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX10.0 - SmartController Pro" を選択して、アンインストールを実行します。

7.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController_Pro.exe /s /x /v"/l*  
"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|--|---------|
| /s | アンインストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /x | アンインストールを実行します。 | 必須 |
| /v | /v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。 <ul style="list-style-type: none">• /l*\"<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間に半角スペースが必要です。• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

8. Elysium 3DxSUITE TransServer

事前にインストールする必要があるプログラム

- なし

8.1. インストール手順



- TransServer と WorkerNode は同じライセンスサーバーを参照するようにしてください。
- TransServer は、既定の設定において、参照するライセンスサーバー上のライセンスをすべて利用できることを前提にジョブの割り振りを行います。他の Elysium 製品や他の TransServer も利用しているライセンスサーバーを参照するように設定した場合、ジョブの割り振りを行う際にエラーが発生することがあります。



インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

TransServer はサイレントインストールには対応していません。手動インストールを行ってください。

8.1.1. 入出力ファイルの授受に利用するファイルサーバーの設定

TransServer をインストールするコンピューターと WorkerNode をインストールするコンピューターの間では、ファイルサーバーを経由して入出力ファイルの授受を行います。



以降では、この "入出力ファイルの授受のためのファイルサーバー" のことを単純に "ファイルサーバー" と記載します。

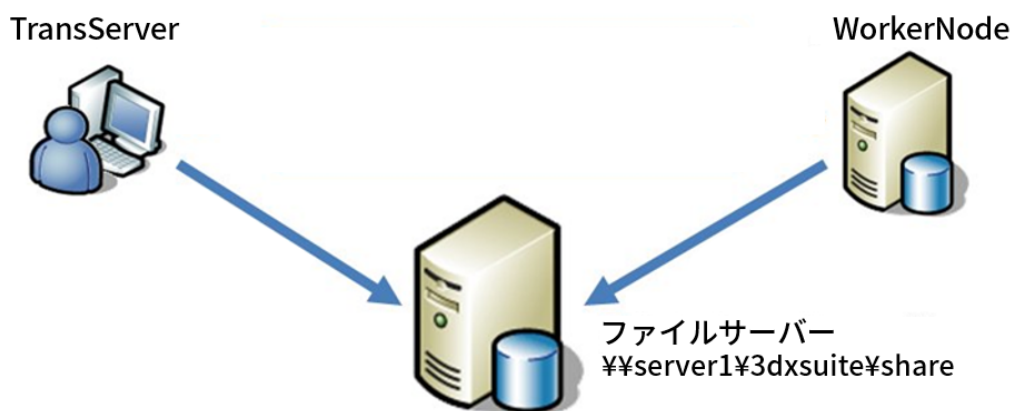
ファイルサーバーは、以下の条件を満たすように設定してください。

- TransServer をインストールするコンピューターと WorkerNode をインストールするコンピューターの両方からネットワーク経由でアクセスできる。
- TransServer を実行するユーザーと WorkerNode を実行するユーザーの両方が書き込み権限を持っている。

ファイルサーバーとしては、通常の Windows 共有フォルダーを用いることも可能ですし、SMB 3.0 以降をサポートする NAS を用いることも可能^{*1}です。ファイルサーバーは UNC パス (\\ で始まるパス) で指定できるため、上記の条件を満たすファイルサーバーがあれば、それ以外の設定は必要ありません。



*1: NAS を利用する場合、WorkerNode の作業フォルダーにはファイルサーバー上のパスを設定しないでください。そのような構成は製品としてサポートしていません。NAS を利用する場合には、WorkerNode のローカルドライブにあるフォルダーを作業フォルダーとして設定する必要があります。



上の例では、server1 というコンピューターのフォルダー "\\server1\3dxsuite\share" をファイルサーバーとしています。

[オプション] UNC パスを任意のドライブに割り当てる手順

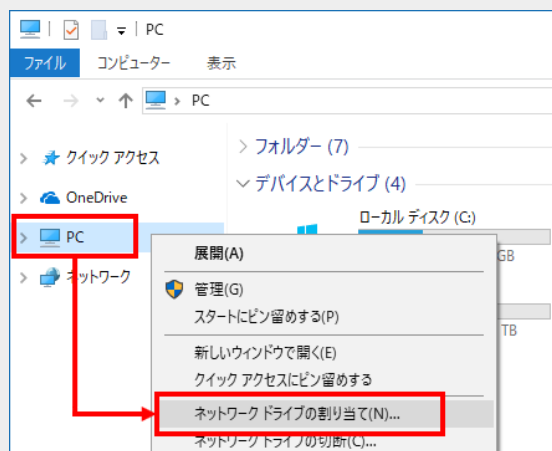
以前のバージョンの 3DxSUITE と同様に、WorkerNode で実行する処理の一時作業領域としてもファイルサーバーを利用する場合には、ファイルサーバーの UNC パスを任意のドライブに割り当てる必要があります。割り当てるための手順は以下の通りです。



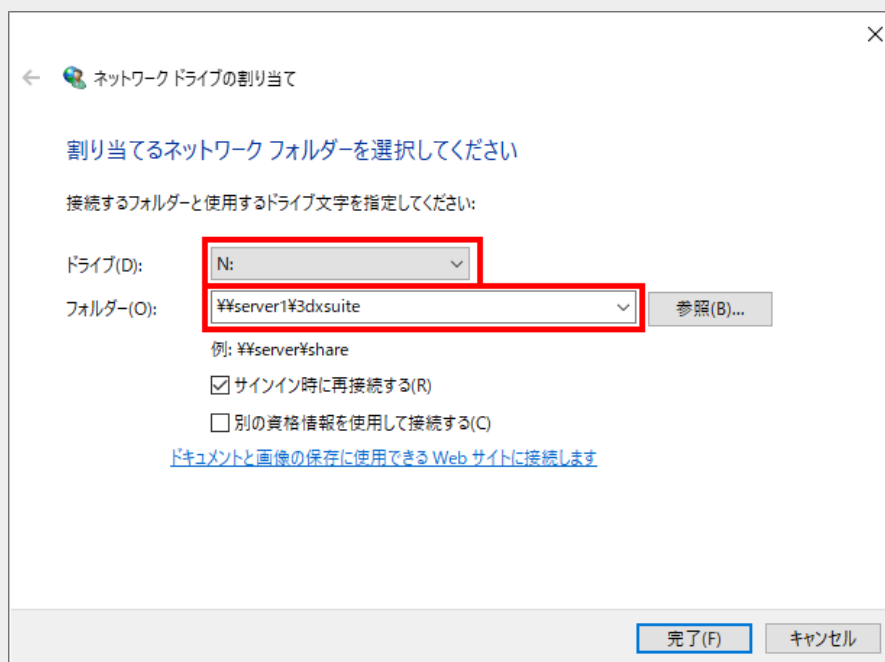
WorkerNode の設定項目にある "作業フォルダー設定" で作業フォルダーを設定しない場合にだけ、以下の作業が必要となります。

UNC パスを任意のドライブに割り当てる方法

1. [PC] を右クリックして、[ネットワーク ドライブの割り当て] を選択します。



2. ドライブ欄からドライブ名を選び、フォルダー欄には割り当てる予定の UNC パスを設定します。最後に [完了] をクリックします。



この設定は、TransServer をインストールするコンピューターと WorkerNode をインストールするコンピューターすべてで実施してください。

8.1.2. PostgreSQL のインストール



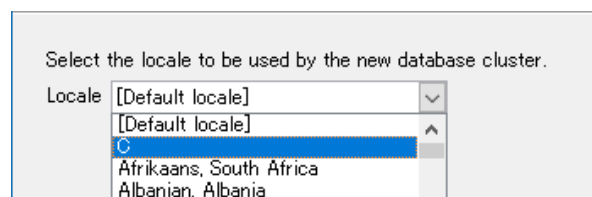
3DxSUITE TransServer EX10.0 からは、TransServer とは別のコンピューターにインストールされた PostgreSQL も使用できるようになりました。コンピューターの性能やネットワークの状況などを踏まえ、どのコンピューターに PostgreSQL をインストールするかを決定してください。

PostgreSQL を導入します。PostgreSQL のバージョンは 15.* を使用します。



以下に記載した手順はインストール方法の一例です。使用するインストーラーによっては、これとは異なる手順となる可能性もあるのでご注意ください。ただし、Locale については、以下に記載している内容に従って設定を行ってください。

- 下記ページから PostgreSQL 15.* (Windows x86-64) のインストーラーをダウンロードします。
 - <https://www.enterprisedb.com/downloads/postgres-postgresql-downloads>
- インストーラーを実行し、インストーラーの指示に従って PostgreSQL をインストールします。
 - インストールの実行には管理者権限が必要です。
 - Select Components
"PostgreSQL Server"、"pgAdmin4"、"Command Line Tools" は必ずインストールしてください。
 - Data Directory
デフォルトのパスは C:\Program Files\PostgreSQL{Postgre_Major_Version}\data となっておりますが、OS のバージョンによっては Program Files 以下のフォルダーにデータを格納すると問題が発生する場合があります。ドライブ直下にフォルダーを作成しそのフォルダーを指定することを推奨します。
例) D:\pgdata{Postgre_Major_Version}
 - Advanced Options
Locale プルダウンメニューから "C" を選択してください。



- インストール完了後に Windows のサービス一覧を開き、"postgresql-x64-15" もしくは "postgresql-x64-15 - PostgreSQL Server 15" というサービスがあることを確認します。サービスがあれば次の手順に進みます。
 - サービス一覧は、Windows キーと R キーを同時に押すと表示される "ファイル名を指定して実行" ウィンドウに "services.msc" と入力して [OK] をクリックすると表示されます。
 - サービスがない場合は、PostgreSQL の導入に失敗していると考えられます。トラブルシューティングやインターネット上の情報を参考に、PostgreSQL の導入を成功させてください。



PostgreSQL のインストール手順は動画も公開しています。下記ページの "PostgreSQLのインストール" を参照してください。

- https://www.elysium-global.com/ja/support/3dxsuite/guide_movie/

8.1.3. PostgreSQL への接続を許可するための設定 (オプション)

TransServer とは別のコンピューターに PostgreSQL をインストールした場合には、TransServer から PostgreSQL への接続を許可するための設定を行う必要があります。設定手順は以下の通りです。

1. PostgreSQL をインストールしたコンピューターにログインし、テキストエディターで以下のファイルを開きます。

```
<PostgreSQL の Data Directory>\pg_hba.conf
```

2. ファイルの最終行に、以下の内容を追記します。

```
host all postgres <TransServer の動作するコンピューターのホスト名もしくは IP  
アドレス>/0 scram-sha-256
```

以下は設定例です。

```
# TYPE  DATABASE          USER              ADDRESS           METHOD
# IPv4 local connections:
host    all              all               127.0.0.1/32     scram-sha-256
# IPv6 local connections:
host    all              all               ::1/128          scram-sha-256
# Allow replication connections from localhost, by a user with the
# replication privilege.
host    replication     all               127.0.0.1/32     scram-sha-256
host    replication     all               ::1/128          scram-sha-256
host    all              postgres         192.168.123.123/0 scram-sha-256
```



pg_hba.conf の詳細については、以下の URL を参照してください。

<https://www.postgresql.jp/document/9.3/html/auth-pg-hba-conf.html>

3. 変更内容を保存してテキストエディターを終了します。
4. 続いて、テキストエディターで以下のファイルを開きます。

```
<PostgreSQL の Data Directory>\postgresql.conf
```

5. ファイル内の "listen_addresses = " の部分に、他のコンピューターからの接続を受け付けるための IP アドレスを指定します。アドレスは IPv4 と IPv6 のいずれの形式でも指定できます。また "listen_addresses = '*'" というように * を指定した場合、すべての IP アドレスで接続を受け付けます。

設定例: listen_addresses = '192.168.0.1'



詳細については、以下のページを参照して下さい。

<https://www.postgresql.jp/document/9.1/html/runtime-config-connection.html>

6. 変更内容を保存してテキストエディターを終了します。
7. PostgreSQL に対するファイアウォール経由の通信を許可するよう設定します。以下は、Windows ファイアウォールを使用している場合の設定方法の例です。別のファイアウォール製品を使用している場合には、通信が許可されるように適宜設定してください。
 - a. Windows キーと R キーを同時に押して "ファイル名を指定して実行" を起動します。
 - b. "名前" に "control.exe /name Microsoft.WindowsFirewall" と入力して [OK] をクリックします。
 - c. 左側のウィンドウで、[Windows Defender ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可] を選択します。
 - d. [設定の変更] がクリックできる状態の場合にはクリックします。
 - e. [別のアプリの許可] を選択し、以下のプログラムの通信を許可します。

<PostgreSQL のインストールフォルダー>\bin\postgres.exe

- f. [OK] をクリックします。
8. PostgreSQL のサービスを再起動します。

8.1.4. Command Line Tools のインストール (オプション)

TransServer のインストール先とは別のコンピューターに PostgreSQL をインストールした場合には、TransServer のインストール先となるコンピューターに PostgreSQL の Command Line Tools をインストールする必要があります。インストール手順は以下の通りです。

1. PostgreSQL 15.* (Windows x86-64) のインストーラーを、TransServer をインストールするコンピューターの任意のフォルダーにコピーします。
2. インストーラーを実行し、指示に従って Command Line Tools と pgAdmin4 をインストールします。
 - インストールの実行には管理者権限が必要です。
 - Select Components

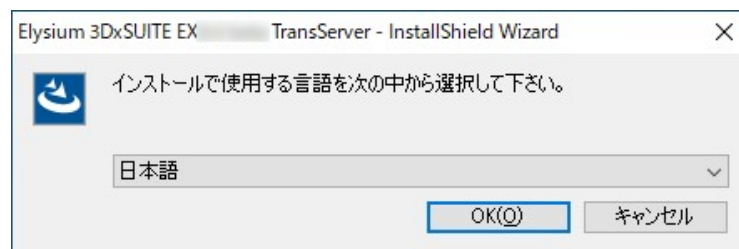
"pgAdmin4" と "Command Line Tools" は必ずインストールしてください。

3. インストール完了後に pgAdmin4 を起動し、TransServer で使用する PostgreSQL に問題なく接続できることを確認します。

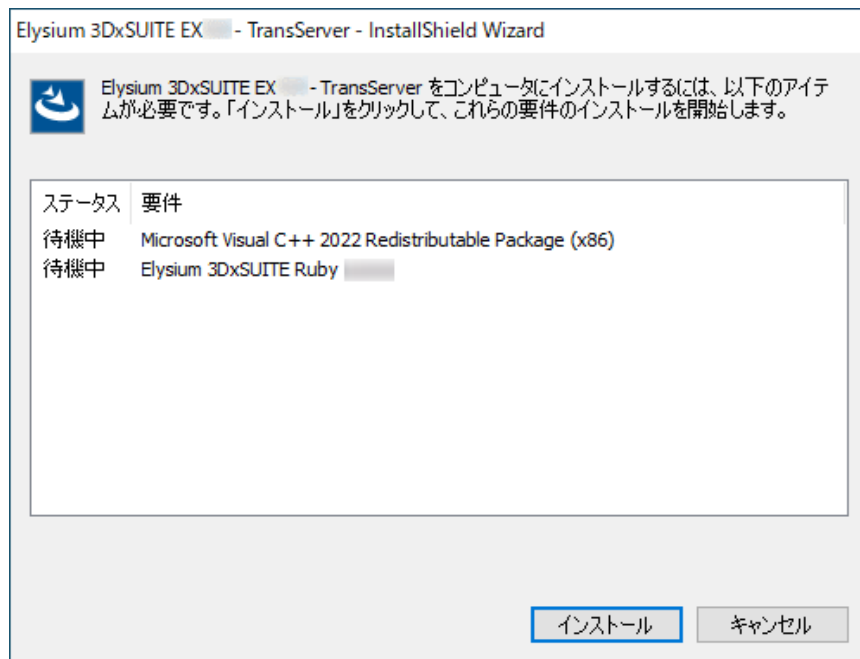
8.1.5. TransServer のインストール

以下の手順に従って導入、設定を行ってください。

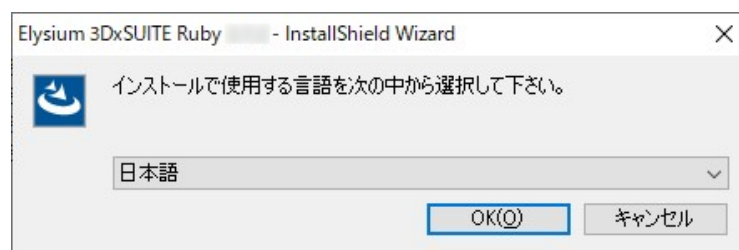
1. TransServer のインストーラーを実行します。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <TransServer パッケージ>\
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_TransServer.exe
2. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



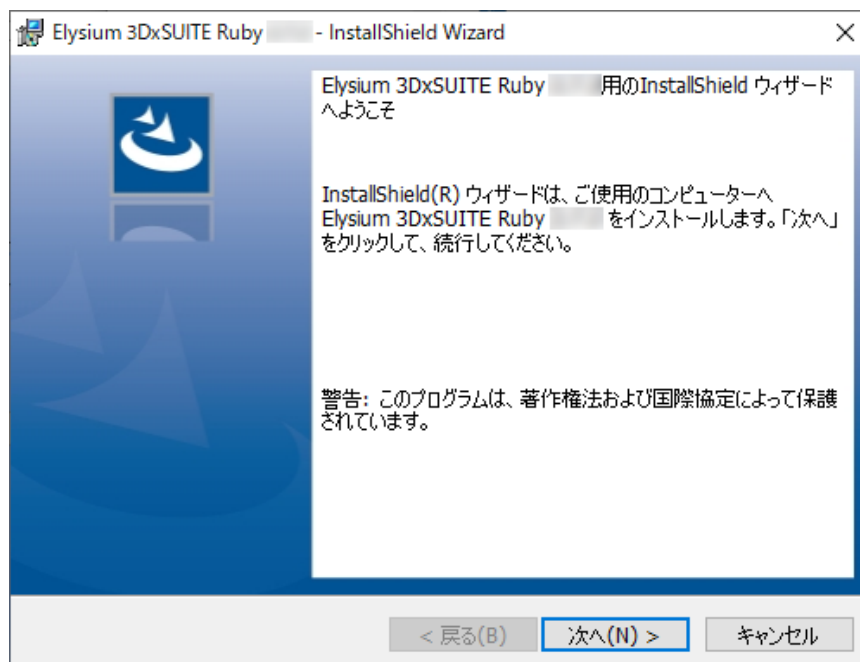
3. このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックし Ruby のインストールを行います。(すでにインストールされている環境では、このダイアログは表示されません。)



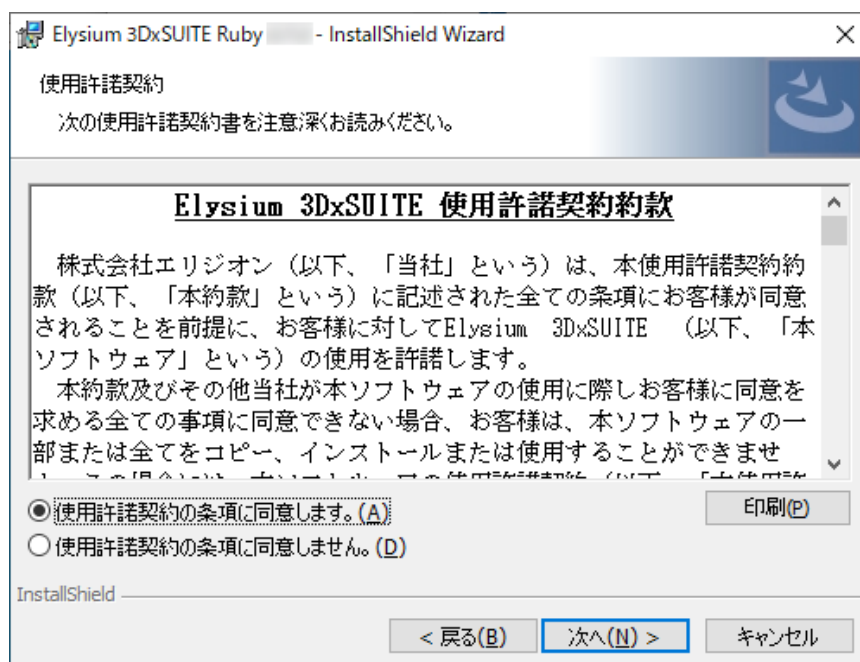
4. Elysium 3DxSUITE Ruby のインストーラーが起動します。すでに Elysium 3DxSUITE Ruby が導入されている場合は、11. へ進んでください。
5. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



6. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。

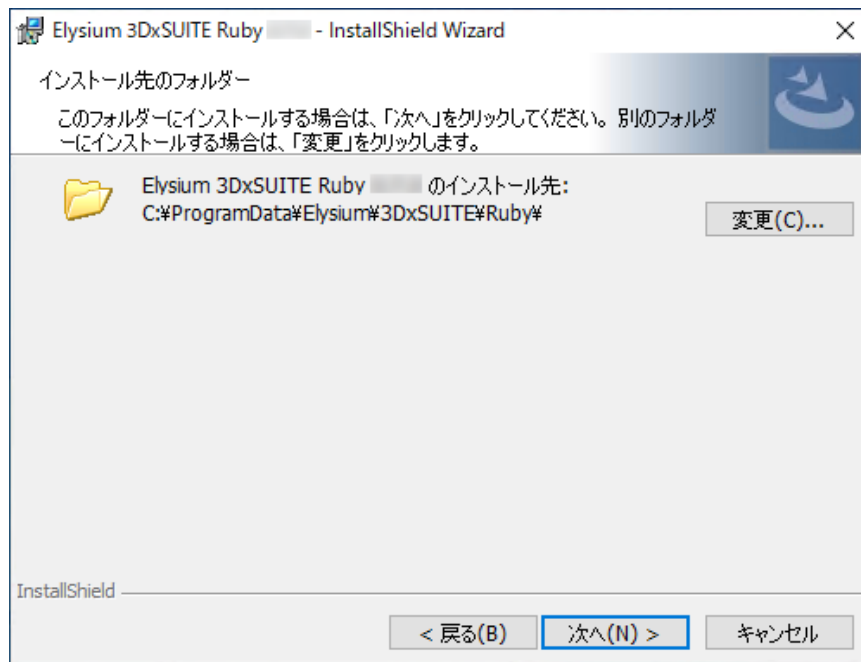


7. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



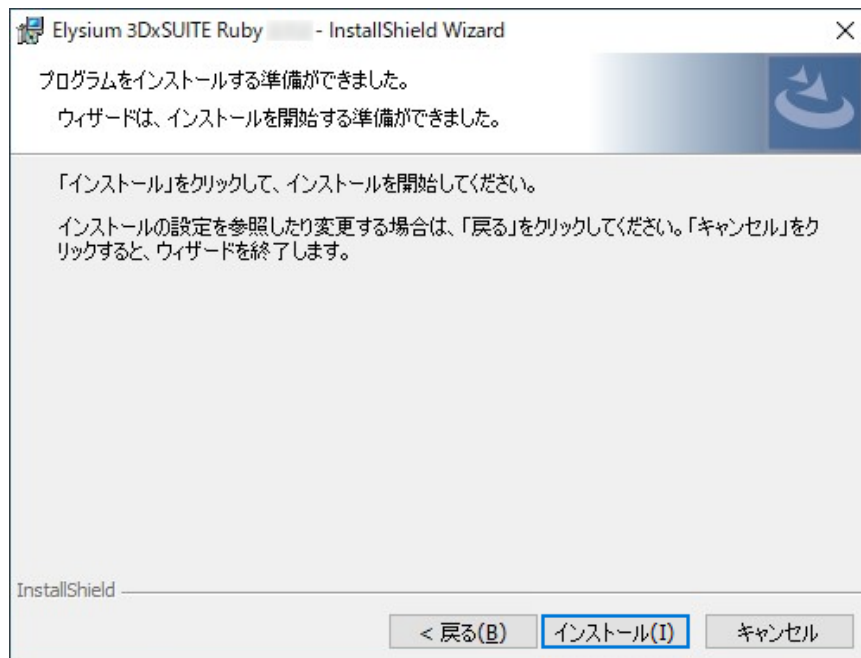
8. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先

から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら、[次へ] をクリックします。

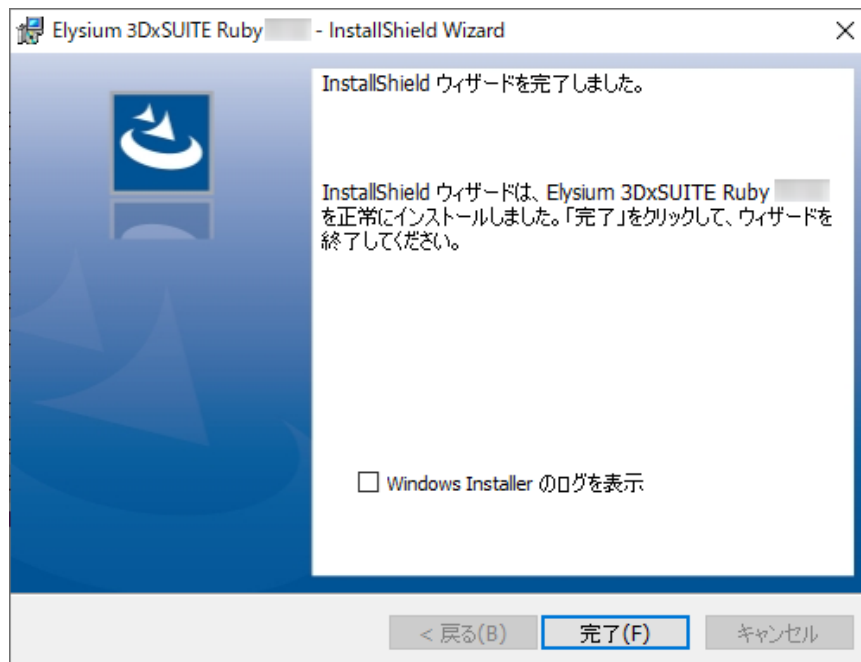


インストール先フォルダーのパスは半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

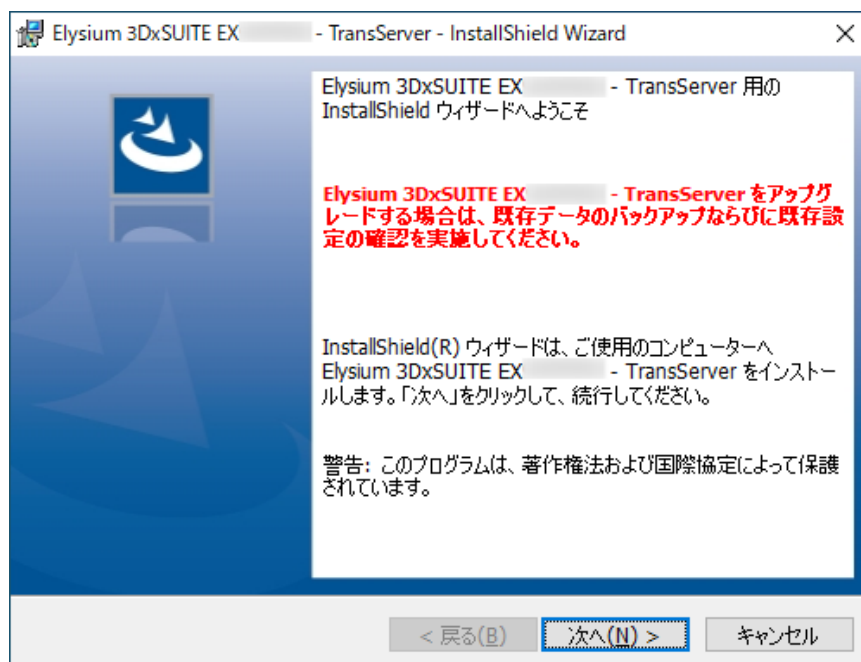
9. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



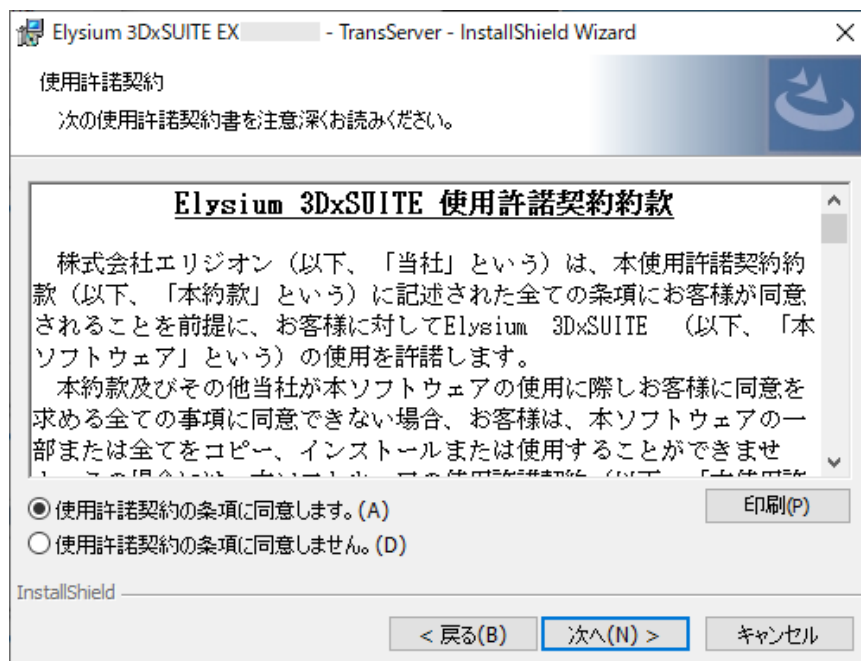
10. インストールが完了すると、以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックして Elysium 3DxSUITE Ruby のインストーラーを終了し、TransServer のインストーラーに戻ります。



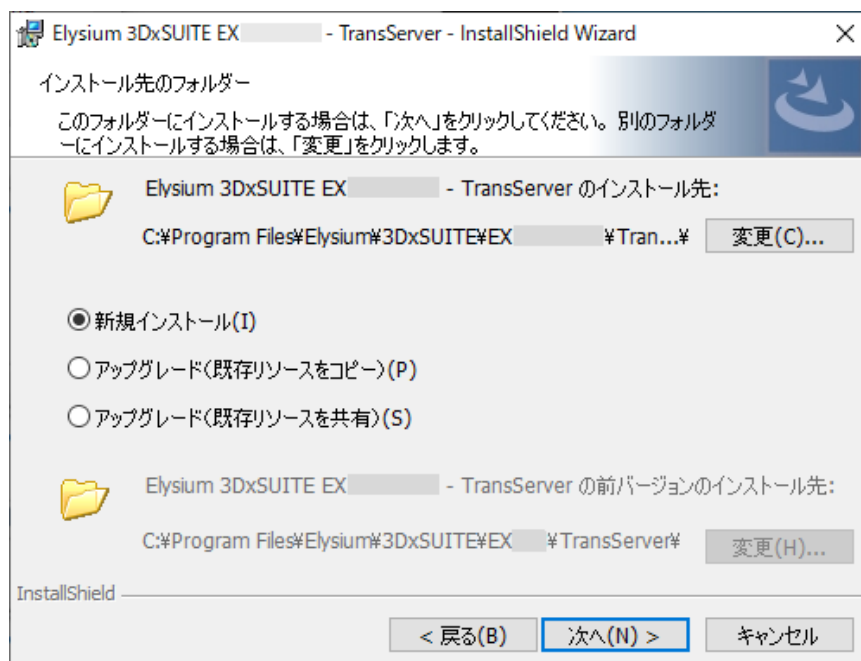
11. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



12. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。

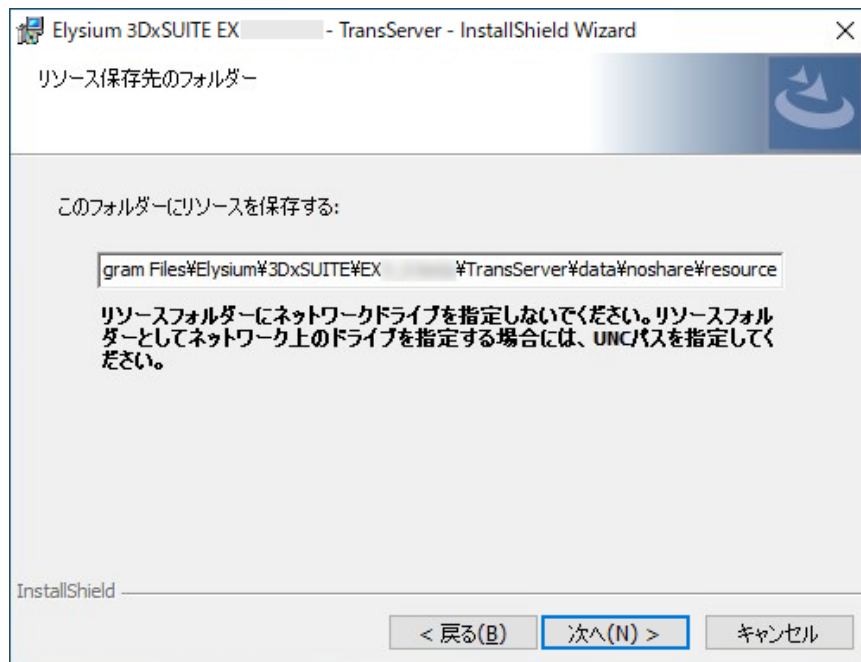


13. インストールフォルダーを指定するダイアログが表示されます。必要に応じて画面上部 "Elysium 3DxSUITE TransServerのインストール先" を変更します。新規インストールが選択されていることを確認し、[次へ] をクリックします。



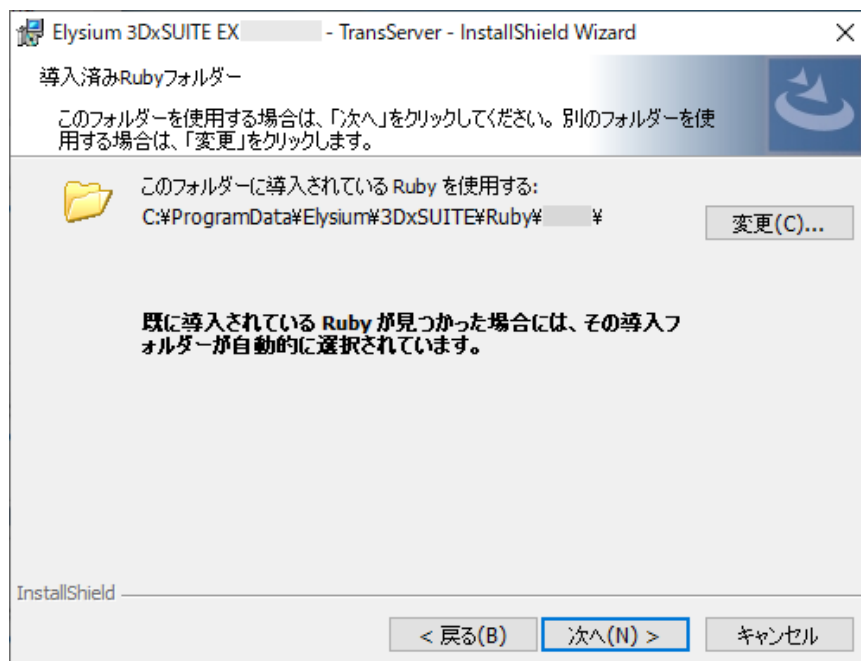
インストールフォルダーのパスは 80 文字以下となるように設定してください。80 文字より長いパスを指定した場合、TransServer が正常に動作しないことがあります。

14. リソースの保存先フォルダーを指定し [次へ] をクリックします。

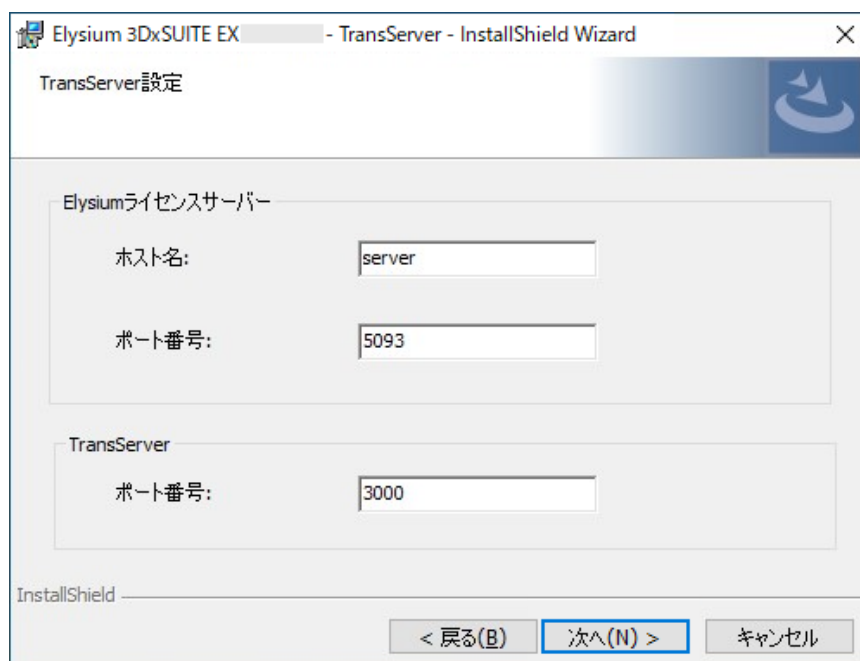


リソースフォルダーにはローカルドライブのパスか UNC パスを指定するようにしてください。ネットワークマウントしたドライブを含むパスを指定した場合、TransServer が正常に動作しないことがあるので指定しないでください。

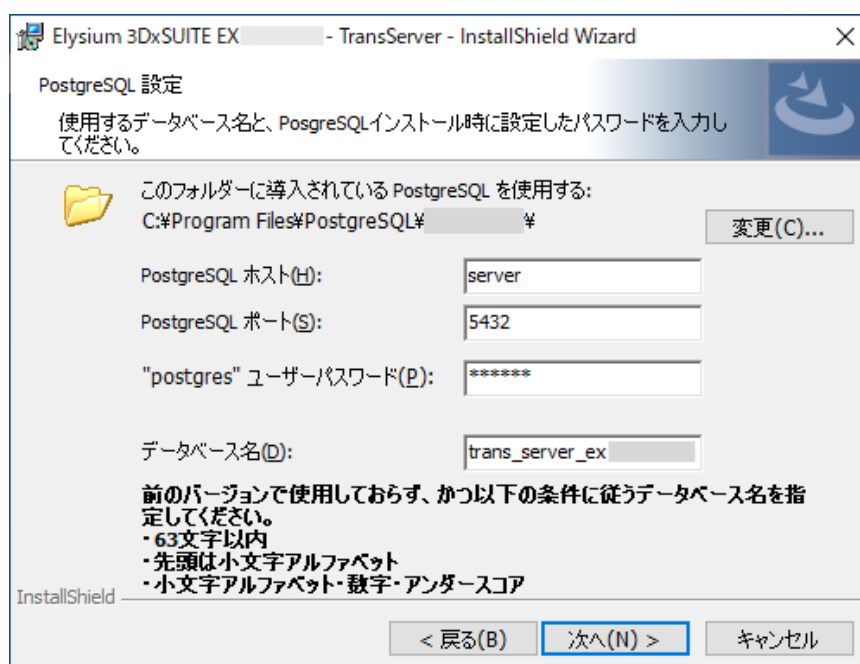
15. Ruby のインストールフォルダーを指定し [次へ] をクリックします。



16. エリジオンライセンスが登録されているサーバーのホスト名とポート番号および TransServer が使用するポート番号を指定して [次へ] をクリックします。Elysium ライセンスサーバーは WorkerNode と同じライセンスサーバーを指定してください。



17. PostgreSQL をインストールしたコンピューターのホスト名または IP アドレス、PostgreSQL の使用するポート番号、PostgreSQL の導入時に設定したパスワード、PostgreSQL のデータベース名を入力します。



- PostgreSQL を別のコンピューターにインストールしている場合、インストーラーは PostgreSQL のインストールフォルダーを自動的に取得することができません。手動で正しいインストール先フォルダーの情報を設定してください。
- インストールフォルダーの情報が間違っている場合、TransServer のインストールは成功しますが、TransServer のバックアップとリストアの機能が正しく動作しません。



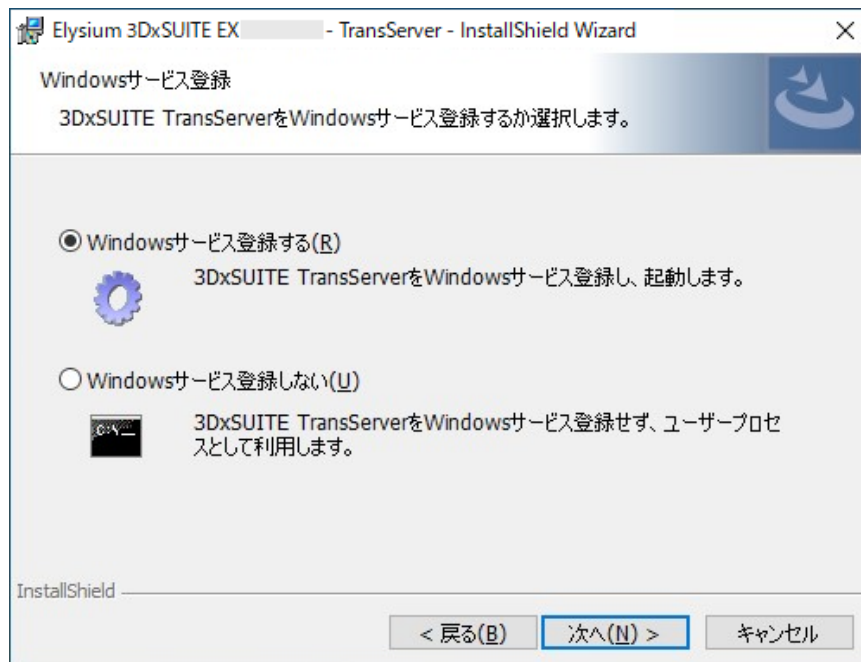
- TransServer をインストールするコンピューターに PostgreSQL をインストールしている場合、ホスト名は既定値の "localhost" から変更する必要はありません。
- PostgreSQL の使用するポート番号の既定値は 5432 です。
- データベース名の初期値として trans_server_ex*_* が指定されています (*_* は TransServer のバージョン番号)。通常は変更する必要はありません。ただし初めてのインストールではなく、かつ以前のデータベースが削除されていない場合、過去に使用したことのないデータベース名を指定してください。

18. 8.1.1, “入出力ファイルの授受に利用するファイルサーバーの設定” で設定したファイルサーバーを指定します。

(例: \\server1\3dxsuite\share)



19. Windows サービスとして登録するか否かを選択します。"Windowsサービス登録する" を選択した場合は、手順 20. に進みます。"Windowsサービス登録しない" を選択した場合は、手順 22. に進みます。



Windows サービスとして登録する場合、コンピューターの起動に併せて TransServer も自動的に起動するため、ユーザーが対話的ログインを行って起動する必要がありません。

これに対し Windows サービスとして登録しない場合、処理に関する情報がコマンドプロンプトに出力されるため、問題が発生した場合にはより多くの情報を得ることができます。

運用の一例としては、定常的に TransServer を稼働させる際にはサービスとして起動し、問題発生時の調査を行う場合や一時的な試験などを実施する場合には対話的ログインで起動するという方法が考えられます。

使用目的や想定される使用状況などを踏まえた上で、適切な方法を選択してください。



- 手順 18 と同じファイルサーバーのパスと任意のドライブレターを設定して [次へ] をクリックします。



- ここで指定するドライブレターは、WorkerNode の共通設定で指定するドライブレターと同一のものを指定してください。
- WorkerNode の設定で、作業フォルダーとしてローカルドライブにあるフォルダーを指定する場合には、ここでドライブレターを指定する必要はありません。

21. ファイルサーバーに対して読み取りおよび書き込みが可能なユーザーのユーザー名とパスワードを入力して [次へ] をクリックします。Active Directory に登録されているユーザーを指定する場合、画面下部の入力欄は空欄のままにしてください。

Active Directory が導入されていない環境にインストールする場合、および Active Directory に登録されていないユーザーを使用する場合には、"Active Directory外のユーザーを指定する" をオ

ンにした上で、画面下部の入力欄に UNC パスに対する読み取りおよび書き込みの権限を持ったユーザーのユーザー名とパスワードを入力してください。

22. [インストール] をクリックします。インストールが開始されます。

23. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてダイアログを閉じます。



インストールが失敗した場合には、以下のログを確認してください。

```
<TransServer インストールフォルダー>\log\install_k2.log
```



"no pg_hba.conf entry..." または "server closed the connection unexpectedly..." というメッセージが出力されている場合には、[8.1.3, "PostgreSQL への接続を許可するための設定 \(オプション\)"](#)などを参考にして pg_hba.conf が正しく設定されているか確認してください。正しく設定されている場合には、以下のドキュメントなどを参考に、接続に関する PostgreSQL のチューニングを行ってから再度インストールを実行してください。

<https://www.postgresql.jp/document/15/html/runtime-config.html>

<https://www.postgresql.jp/document/15/html/runtime-config-connection.html>

24. TransServer を Windows サービスとして登録した場合には、Windows のサービス一覧を開き、"3DxSUITE EX10.0 TransServer Service" というサービスがあることを確認します。サービスが存在し、起動していればインストールは成功です。



- サービス一覧は、Windows キーと R キーを同時に押すと表示される "ファイル名を指定して実行" ウィンドウに "services.msc" と入力して [OK] をクリックすると表示されます。
- サービスが起動していても TransServer を使用できない場合があります。そのような場合には、タスクマネージャーを起動して httpd.exe プロセスが実行中であるかを確認してください。

25. TransServer 実行ユーザーに対する TransServer 導入フォルダーのアクセス許可をフルコントロールに設定します。

TransServer の設定を変更することで、導入フォルダーに対するフルコントロール権限を設定せずに運用することも可能です。設定を変更する場合には、"k2server.ini" に記載されている以下のパラメーターの値を編集します。

- TemporaryDir
- LogFile
- PrivateResourcePath^{*1}

これらのパラメーターに設定されているパスを、"TransServer 実行ユーザーが書き込み権限のあるフォルダーのパス" に変更してください。
なお、"k2server.ini" のパスは以下の通りです。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\k2server.ini
```

*1: PrivateResourcePath を変更した場合には、併せて以下の設定を行う必要があります。



vaults テーブルの編集

以下の手順で vaults テーブルを編集してください。

1. Windows のスタートメニューから [PostgreSQL 15.*] - [pgAdmin 4] を選択します。
2. TransServer のデータベースがある PostgreSQL に接続します。
3. vaults テーブルを開きます。
4. "path" 列の値が変更前の PrivateResourcePath の値を含む行について、"path" 列の値を現在の PrivateResourcePath に合わせて修正します。変更対象となる行は 2 行です。

リソース用フォルダーの作成

上で修正した vaults テーブルの path 列の値に対応するフォルダーを手動で作成してください。"protected" と "volatile" の 2 フォルダーを作成する必要があります。



TransServer のインストール手順を動画で公開しています。下記ページの "TransServerのインストール" を参照してください。

- https://www.elysium-global.com/ja/support/3dxsuite/guide_movie/

8.1.6. Apache のインストール

以下の手順で Apache をインストールしてください。

1. x64 VS17 版の Apache と mod_log_rotate をダウンロードします。

Apache を公開しているサイトは複数あります。いずれかのサイトからダウンロードしてください。

<https://httpd.apache.org/docs/current/platform/windows.html#down>

エリジオンでは、Apache Lounge からダウンロードした Apache を用いて結合テストを実施しています。



<https://www.apachelounge.com/download/>

3DxSUITE TransServer EX10.0 でエリジオンとして結合テストを実施したモジュールは以下の通りです。

- <https://www.apachelounge.com/download/VS17/binaries/httpd-2.4.58-win64-VS17.zip>
- https://www.apachelounge.com/download/VS17/modules/mod_log_rotate-1.0.2-win64-VS17.zip

2. ダウンロードしたファイルを、TransServer をインストールしたコンピューターの任意のフォルダーにコピーします。
3. ダウンロードしたファイルに含まれるドキュメントに従って Apache をセットアップします。以下では、Apache Lounge からダウンロードしたファイルを用いる場合の手順を記載します。それ以外のサイトからダウンロードした場合には、ダウンロードしたファイルに含まれるドキュメントを参照してください。
4. zip ファイルに含まれる Apache24 フォルダを任意のフォルダーに配置します。ここでは、以下のフォルダーに配置したとします。

```
C:\Apache24
```



上記以外のパスに配置した場合には、httpd.conf にある SRVROOT の値を変更してください。

httpd.conf のパス:

```
Apache24\conf\httpd.conf
```

5. コマンドプロンプトを管理者として実行し、以下のパスに移動します。

```
C:\Apache24\bin
```

6. 以下のコマンドを実行します。

`httpd.exe`

コマンドを実行した際、以下のようなメッセージが表示されることがありますが、通常の場合 TransServer の動作に影響することはありません。



```
AH00558: httpd.exe: Could not reliably determine the server's
fully qualified domain name, using *. Set the 'ServerName'
directive globally to suppress this message
```

このメッセージは、httpd.conf に含まれる ServerName 設定に関連して出力されています。詳細については以下のページを参照してください。

<https://httpd.apache.org/docs/2.4/ja/mod/core.html#servername>

当該コンピューター上で 80 番ポートが既に使用されている場合、以下のようなエラーが表示されます。

```
AH00072: make_sock: could not bind to address 0.0.0.0:80
AH00451: no listening sockets available, shutting down
AH00015: Unable to open logs
```



このような場合には、httpd.conf をテキストエディターで開き、以下の行の "80" を使用されていないポート番号に変更した上で、再度 Apache が起動するか確認して下さい。

```
Listen 80
```

httpd.conf のパス:

```
Apache24\conf\httpd.conf
```

7. ブラウザーで以下の URL を開きます。

"It works!" と表示されれば Apache は正常に動作しています。

<http://localhost/>



ポート番号を既定の 80 から変更している場合には、以下のようにポート番号も指定してください。 <port_num> はポート番号で置き換えてください。

http://localhost:<port_num>/

8. コマンドプロンプトに戻って Ctrl + C を入力し、Apache のプロセスを停止します。
9. 続いて以下のコマンドを実行し、Apache を Windows サービスとして登録します。(Apache をサービスとして登録しない場合には、この手順をスキップしてください)

```
httpd.exe -k install -n "Apache for 3DxSUITE TransServer"
```



"Apache for 3DxSUITE TransServer" の部分はサービス名を指定しています。必要に応じて適宜変更してください。

"The 'Apache for 3DxSUITE TransServer' service is successfully installed." と表示されればサービスの登録は成功です。

10. <TransServer パッケージ>\doc に含まれている modules_for_apache フォルダの内容を以下のフォルダにコピーします。(同名のフォルダを上書きする形になります)

```
C:\Apache24
```



modules フォルダ内の mod_auth_kerb.so は、統合 Windows 認証を利用しない場合、コピーする必要はありません。

11. [最初のステップ](#)でダウンロードした mod_log_rotate の zip ファイルを展開し、"mod_log_rotate.so" を以下のフォルダにコピーします。

```
C:\Apache24\modules
```

12. TransServer のログイン画面をカスタマイズする場合は、以下のファイルを編集します。カスタマイズしない場合には、この手順をスキップしてください。

```
<TransServer インストールフォルダ>\config\httpd.conf.erb  
<TransServer インストールフォルダ>\config\k2server.ini
```

13. テキストエディターで以下のファイルを開き、"InstallDir" の値として Apache をインストールしたフォルダのフルパスを指定します。

```
<TransServer インストールフォルダ>\config\k2server.ini
```



フォルダのフルパスはダブルクォーテーションで囲まないでください。

14. 変更内容を保存して、テキストエディターを終了します。
15. テキストエディターで以下のファイルを開き、"ServerName" をアンコメントした上で、値とし

て "TransServer のインストール先ホスト名:80" を指定します。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\httpd.conf.erb
```

修正前:

```
#ServerName www.example.com:80
```

修正後の例:

```
ServerName server:80
```

16. 以下のファイルをダブルクリックして、コンソールを起動します。

```
<TransServer インストールフォルダー>\k2dashboard\start-console.bat
```

17. 以下のコマンドを実行します。

```
bundle exec rake ats:httpd_conf > <任意のパス>\httpd.conf
```

18. 指定したパスに出力された httpd.conf を以下のフォルダーに配置します。

```
C:\Apache24\conf
```

19. TransServer と Apache を起動します。

Apache については、手順 9 でサービス登録した場合には、サービス一覧から Apache サービスを起動してください。サービス一覧は、Windows キーと R キーを同時に押すと表示される "ファイル名を指定して実行" ウィンドウに "services.msc" と入力して [OK] をクリックすると表示されま

す。
手順 9 でサービス登録しなかった場合には、手順 6 と同じコマンドで起動してください。
TransServer をサービスとしてインストールしていない場合であれば、"TransServer" というタイトルのコンソールに "TransServer started successfully!" と表示されたら、TransServer の起動は成功です。Apache の起動が成功したか否かは、次のステップで確認してください。

- TransServer が正常に起動しない場合には、以下のログを確認してください。



```
<TransServerインストールフォルダー>\TransServer\log\transserver.log
```

- Apache が正常に起動しない場合には、アプリケーションイベントログを確認してください。
- TransServer と Apache はどちらを先に起動しても問題ありません。

20. 以下の URL にアクセスして、TransServer のログイン画面が正しく表示されることを確認します。

<http://localhost:3000/>

21. Apache に対するファイアウォール経由の通信を許可するよう設定します。以下は、Windows ファイアウォールを使用している場合の設定方法の例です。別のファイアウォール製品を使用している場合には、通信が許可されるように適宜設定してください。
- Windows キーと R キーを同時に押して "ファイル名を指定して実行" を起動します。
 - "名前" に "control.exe /name Microsoft.WindowsFirewall" と入力して [OK] をクリックします。
 - 左側のウィンドウで、[Windows Defender ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可] を選択します。
 - [設定の変更] がクリックできる状態の場合にはクリックします。
 - [別のアプリの許可] を選択し、以下のプログラムの通信を許可します。
 - Apache HTTP Server:
 <Apache のインストールフォルダー>\bin\httpd.exe
 - [OK] をクリックします。

8.1.7. WorkerNode の設定

以下の手順で WorkerNode を設定してください。

1. TransServer を起動します。起動方法については、8.4, “起動手順” を参照してください。
2. 管理者ユーザーとしてログインし、[管理者機能] - [サービスモニター] を開きます。
3. [編集] を選択します。
4. [追加] を選択します。
5. 追加する WorkerNode のホスト名、ポートおよび TransServer と WorkerNode の間の通信で利用するプロトコルを入力した上で、[保存] をクリックします。



プロトコルとして "https" を設定した場合には、別途 WorkerNode の TLS 設定で証明書と秘密鍵を指定する必要があります。

8.1.8. 複数の WorkerNode の導入

9.2.5, “複数の WorkerNode の設定” を参照してください。

WorkerNode を 5 つ以上設定する場合、PostgreSQL の最大同時接続数を調整する必要があります。管理者マニュアルの "DBの最大同時接続数の設定" を参照し設定を行ってください。

8.2. アップグレードインストール

8.2.1. インストール前の注意事項

- 3DxSUITE TransServer EX10.0 では、3DxSUITE TransServer EX9.1* からのアップグレードインストールに対応しています。現在 EX9.1 より前のバージョンを利用している場合は、先に 3DxSUITE TransServer EX9.1 にアップグレードを行い、その後 3DxSUITE TransServer EX10.0 へのアップグレードを行ってください。
- 3DxSUITE TransServer EX10.0 では、PostgreSQL のサポートバージョンが 12.* から 15.* に変更になりました。8.1.2, “PostgreSQL のインストール” を参照して PostgreSQL 15.* をインストールしてください。また、事前に <TransServer パッケージ> 内の "ts_upgrade_pgver15¥upgrade_pg_15.bat" を実行して、データベースのアップグレードを行ってください。詳細な手順は、ts_upgrade_pgver15¥README_ja.txt を参照してください。
- アップグレードインストールでは、現在ご利用の TransServer の各種設定およびデータは自動的に引き継がれます。
- アップグレードによってアップグレード前の環境が影響を受けることはありませんが、万一に備えて事前にバックアップを行うことを推奨します。バックアップの方法は、管理者マニュアルの "バックアップ/リストア" をご参照ください。
- アップグレードインストールを実施する際には、事前に 3DxSUITE TransServer を停止してください。
- 以前のバージョンの 3DxSUITE TransServer がサービスとして登録されている場合には、事前にサービスを停止して、"スタートアップの種類" を "手動" に変更してください。これは複数バージョンの 3DxSUITE TransServer サービスが同時に起動しないようにするためです。手順は以下の通りです。
 1. Windows キーと R キーを同時に押して "ファイル名を指定して実行" ウィンドウを開き、"services.msc" と入力して OK をクリックします。
 2. "3DxSUITE EX*. * TransServer Service" サービスを停止します。
 3. "3DxSUITE EX*. * TransServer Service" サービスのプロパティを開き、"スタートアップの種類" を "手動" に変更します。
 4. [OK] をクリックしてプロパティを閉じます。
 5. アップグレードを実施します。

8.2.2. TransServer のインストール

以下の手順に従って導入、設定を行ってください。

1. TransServer のインストーラーを実行します。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <TransServer パッケージ>
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_TransServer.exe
2. Elysium 3DxSUITE Ruby のインストールおよび TransServer インストーラーの画面遷移は、新規インストールと同様です。
3. TransServer インストーラーの "インストール先のフォルダー" 画面では以下のように指定してください。

"Elysium 3DxSUITE TransServerのインストール先"

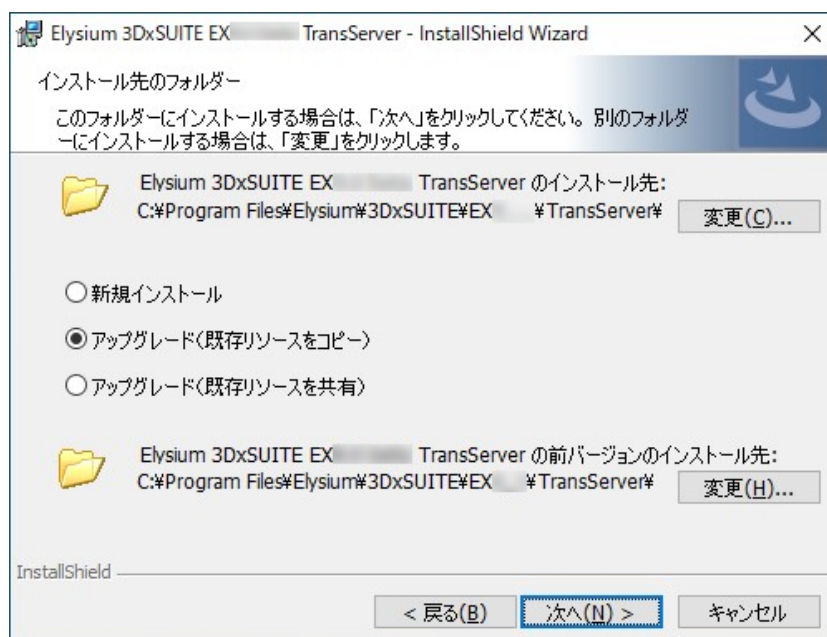
TransServer をインストールするフォルダーを指定します。[変更] からフォルダーを変更できます。"Elysium 3DxSUITE TransServerの前バージョンのインストール先"とは異なるフォルダーを指定してください。

"Elysium 3DxSUITE TransServerの前バージョンのインストール先"

前バージョンの TransServer をインストールしたフォルダーを指定します。[変更] をクリックするとフォルダーを変更することができます。

アップグレード (既存リソースをコピー) または アップグレード (既存リソースを共有) を選択します。

- アップグレード (既存リソースをコピー) の場合、前バージョンのリソースをコピーして使用します。
- アップグレード (既存リソースを共有) の場合、前バージョンのリソースをそのまま参照します。ディスク容量の制限などでリソースの保存先を変更している場合は、こちらを選択してください。



4. PostgreSQL をインストールしたコンピューターのホスト名または IP アドレス、PostgreSQL の使用するポート番号、PostgreSQL の導入時に設定したパスワード、PostgreSQL のデータベース名を入力します。データベース名の初期値として trans_server_ex*_* が指定されています (*_* は

TransServer のバージョン番号)。アップグレードインストールの場合は、必ず **過去に使用したことのないデータベース名を指定してください。**



- PostgreSQL を別のコンピュータにインストールしている場合、インストーラーは PostgreSQL のインストールフォルダーを自動的に取得することができません。手動で正しいインストール先フォルダーの情報を設定してください。
- インストールフォルダーの情報が間違っている場合、TransServer のインストールは成功しますが、TransServer のバックアップとリストアの機能が正しく動作しません。

5. 画面に従ってインストールを進めます。インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてダイアログを閉じます。



- Windows サービス登録を行う場合には、ファイルサーバーの情報を指定する際、ファイルサーバーに対して読み取りおよび書き込みが可能なユーザーのユーザー名とパスワードを入力してください。
- Active Directory が導入されていない環境で TransServer を Windows サービスとして登録する場合は、ウィザードの中で "Windows サービス登録しない" を選択してください。その上で 9.2.4, “Windows サービスの登録と削除” に従って手動でサービス登録を実施してください。

Windows サービスとして登録する場合、コンピューターの起動に併せて TransServer も自動的に起動するため、ユーザーが対話的ログインを行って起動する必要はありません。



これに対し Windows サービスとして登録しない場合、処理に関する情報がコマンドプロンプトに出力されるため、問題が発生した場合にはより多くの情報を得られます。

運用の一例としては、定常的に TransServer を稼働させる際にはサービスとして起動し、問題発生時の調査を行う場合や一時的な試験などを実施する場合には対話的ログインで起動するという方法が考えられます。

使用目的や想定される使用状況などを踏まえた上で、適切な方法を選択してください。

6. TransServer を Windows サービスとして登録した場合には、Windows のサービス一覧を開き、"3DxSUITE EX10.0 TransServer Service" というサービスがあることを確認します。サービスが存在し、起動していればインストールは成功です。



- サービス一覧は、Windows キーと R キーを同時に押すと表示される "ファイル名を指定して実行" ウィンドウに "services.msc" と入力して OK をクリックすると表示されます。
- サービスが起動していても TransServer を使用できない場合があります。そのような場合には、タスクマネージャーを起動して httpd.exe プロセスが実行中であるかを確認してください。

7. TransServer 実行ユーザーに対する TransServer 導入フォルダーのアクセス許可をフルコントロールに設定します。

TransServer の設定を変更することで、導入フォルダーに対するフルコントロール権限を設定せずに運用することも可能です。設定を変更する場合には、"k2server.ini" に記載されている以下のパラメーターの値を編集します。

- TemporaryDir
- LogFile
- PrivateResourcePath^{*1}

これらのパラメーターに設定されているパスを、"TransServer 実行ユーザーが書き込み権限のあるフォルダーのパス" に変更してください。
なお、"k2server.ini" のパスは以下の通りです。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\k2server.ini
```

*1: PrivateResourcePath を変更した場合には、併せて以下の設定を行う必要があります。



vaults テーブルの編集

以下の手順で vaults テーブルを編集してください。

1. Windows のスタートメニューから [PostgreSQL 15.*] - [pgAdmin 4] を選択します。
2. TransServer のデータベースがある PostgreSQL に接続します。
3. vaults テーブルを開きます。
4. "path" 列の値が変更前の PrivateResourcePath の値を含む行について、"path" 列の値を現在の PrivateResourcePath に合わせて修正します。変更対象となる行は 2 行です。

リソース用フォルダーの作成

上で修正した vaults テーブルの path 列の値に対応するフォルダーを手動で作成してください。"protected" と "volatile" の 2 フォルダーを作成する必要があります。

8. 必要に応じて Apache のインストールと設定を行います。手順は [8.1.6, “Apache のインストール”](#) を参照してください。

8.2.3. データベースの削除

アップグレード後に古いバージョンの TransServer データベースを削除する場合は、次の手順に従います。なお、この作業はアップグレードインストールに必須ではありません。

1. Windows のスタートメニューから [PostgreSQL 15] - [pgAdmin 4] を選択します。

- Object Explorer から TransServer のデータベースが含まれるサーバーの名前をダブルクリックし、表示されたダイアログにパスワードを入力します。
- Databases を開き、データベース名 (デフォルトでは trans_server_ex*_*)。*_* はバージョン番号) を右クリックして [削除/抹消] を選択します。

8.3. インストール後の設定変更

8.3.1. アプリケーションサーバーのインスタンス数変更方法

同時利用ユーザー数に応じてアプリケーションサーバー数を変更してください。設定方法は管理者マニュアルの "アプリケーションサーバー管理設定のチューニング" を参照してください。

8.3.2. リソースの保存フォルダー変更方法

ディスク容量に応じてリソースの保存フォルダーを変更してください。

- TransServer を停止します。
- 以下を実行してコマンドプロンプトを起動します。

```
<3DxSUITE TransServer の導入フォルダー>\k2dashboard\start-console.bat
```

- 以下のコマンドを実行します。

```
bundle exec rake ats:resources:copy RESOURCE_PATH=(リソースの保存先に指定する  
フォルダーのフルパス)
```

- 変更前のリソースフォルダーを削除します。
- 以下のファイルをテキストエディターで開きます。

```
<3DxSUITE TransServer の導入フォルダー>\config\k2server.ini
```

- K2server セクションにある PrivateResourcePath の値を、リソースの保存先に指定するフォルダーの絶対パスに変更します。(*)
- TransServer を再起動します。

(*) ここで指定した内容はアップグレードを行う際に必要となります。何らかの方法で記録しておいてください。



リソースフォルダーにはローカルドライブのパスか UNC パスを指定してください。ネットワークマウントしたドライブを含むパスを指定した場合、TransServer が正常に動作しないことがあるので指定しないでください。

8.3.3. ライセンスサーバーの変更方法

ライセンスサーバーを変更する場合は WorkerNode、TransServer それぞれに対して以下の手順で設定を変更してください。

TransServer

1. テキストエディターで以下のファイルを開きます。

```
<3DxSUITE TransServer 導入フォルダー>\set_ruby_env.bat
```

2. ELY_SEC_SERVER, ELY_SEC_PORT の値を新しいライセンスサーバーにあわせて変更し上書き保存します。
3. TransServer を再起動します。

WorkerNode

1. スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE WorkerNode] - [3DxSUITE WorkerNode EX10.0 の設定] を起動します。
2. ノード一覧からノードを選択し、"共通" タブの "エリジオンライセンスサーバー" にてホスト名とポート番号を変更し、[適用] をクリックします。
3. WorkerNode を再起動します。



TransServer と WorkerNode は同じライセンスサーバーを参照するようにしてください。

8.3.4. ファイルサーバーの変更方法

インストール時に指定したファイルサーバーのパスを変更したい場合は、以下の手順で設定を変更してください。

1. TransServer を停止します。
2. テキストエディターで以下のファイルを開きます。

```
<3DxSUITE TransServer の導入フォルダー>\set_ruby_env.bat
```

3. "@set SHARED_FOLDER=" に続く部分の内容を変更します。
4. 変更内容を保存してテキストエディターを終了します。
5. TransServer を開始します。

また TransServer を Windows サービス登録しており、かつネットワークドライブの設定 (UNC パスおよびドライブレター) を変更した場合には、以下の手順も併せて実行してください。

1. TransServer サービスを停止します。

2. テキストエディターで以下のファイルを開きます。

```
<3DxSUITE TransServer の導入フォルダー>\config\k2server.ini
```

3. 以下の部分について値を変更します。

```
SharedFolderDriveLetter=  
SharedFolderUncPath=
```

4. 変更内容を保存してテキストエディターを終了します。
5. TransServer サービスを開始します。

8.3.5. データベース名の変更方法

TransServer のセットアップ後にデータベースの名前を変更する場合には、以下の手順を実施してください。

1. TransServer を停止します。
2. Windows のスタートメニューから [PostgreSQL 15.*] - [pgAdmin 4] を選択します。
3. Object Explorer から TransServer のデータベースが含まれるサーバーの名前をダブルクリックし、表示されたダイアログにパスワードを入力します。
4. Databases を開き、データベース名 (デフォルトでは trans_server_ex*_*)。*_* はバージョン番号) を右クリックして [Properties] を選択します。
5. [General] タブにある "Database" の値を、新たに設定したいデータベース名に変更してから [Save] をクリックします。
6. 以下のファイルをテキストエディターで開き、"DATABASE_NAME" の値を変更後のデータベース名に修正します。

```
<3DxSUITE TransServer の導入フォルダー>\install_conf.ini
```

7. 以下のファイルをテキストエディターで開き、"production" セクションにある "database" の値を、変更後のデータベース名に修正します。

```
<3DxSUITE TransServer の導入フォルダー>\k2dashboard\config\database.yml
```

8.3.6. データベースパスワードの変更方法

TransServer のセットアップ後にデータベースのパスワードを変更する場合には、以下の手順を実施してください。

1. 以下の URL を参照して、PostgreSQL のパスワードを変更します。

<https://www.postgresql.jp/document/15/html/sql-alterrole.html>

2. 以下を実行してコマンドプロンプトを起動します。

```
<3DxSUITE TransServer の導入フォルダー>\k2dashboard\start-console.bat
```

3. 以下のコマンドを実行します。改行は不要です。

```
bundle exec rake ats:update_credentials PG_USER=postgres  
PG_PASSWORD=<新しいパスワード>
```

<新しいパスワード> は手順 1 で設定したパスワードで置き換えてください。

8.3.7. Apache の更新方法

TransServer が利用する Apache を更新する場合には、以下の手順を実施してください。

1. Apache が起動している場合には停止します。
2. TransServer が起動している場合には停止します。
3. Apache がサービスとして登録されている場合には、以下のコマンドを実行してサービス登録を解除します。

```
httpd.exe -k uninstall
```

コマンドはカレントフォルダーを Apache インストールフォルダー内の bin フォルダーに変更した上で実行してください。

4. 8.1.6, “Apache のインストール” にある手順に沿って Apache と TransServer を設定します。

8.3.8. TransServer を Windows サービスとして登録する方法

インストール後に TransServer を Windows サービスとして登録することが必要になった場合には、以下の手順で登録を行ってください。



インストール中に TransServer を Windows サービスとして登録した場合には、本手順を実施する必要はありません。

1. TransServer がプロセスとして実行されている場合には終了します。
2. 以下のフォルダーに "install_error.txt" というファイルが存在しないことを確認します。

```
<TransServer インストールフォルダー>\log
```

ファイルが存在した場合は TransServer のインストールが失敗しています。以下のファイルを参照して失敗の原因を特定し、TransServer を再インストールしてください。

```
<TransServer インストールフォルダー>\log\install_k2.log
```

3. 以下のファイルをテキストエディターで開きます。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\k2server.ini
```

4. "k2server.ini" の [Service] セクションの値を以下の通り更新します。

- SharedFolderDriveLetter: ファイルサーバーを TransServer と WorkerNode の両方でネットワークドライブとして利用する場合に、ネットワークドライブとしてマウントする際のドライブレターを設定してください。末尾にコロンが必要です。ファイルサーバーをネットワークドライブとして利用しない場合には、値を設定しないでください。
- SharedFolderUncPath: ファイルサーバーへの UNC パスを含むパスを設定してください。この項目は必ず設定する必要があります。SharedFolderDriveLetter を設定した場合には、ここで設定したパスがネットワークドライブのルートになります。
- UserName: SharedFolderUncPath のマウントを行うユーザーを設定してください。ここでユーザーを設定しなかった場合、Windows サービスのログオンユーザーでマウントを行います。
- UserPassword: 上で設定した UserName に対応するパスワードを設定してください。UserName を設定しない場合には、UserPassword も設定しないでください。

5. 変更内容を保存してテキストエディターを終了します。

6. 管理者権限でコマンドプロンプトを起動し、以下のフォルダーに移動します。

```
<3DxSUITE TransServer の導入フォルダー>\installer_data
```

7. 以下のコマンドを実行します。

```
register_service.bat <UserName> <Password> <StartFlag>
```

それぞれの引数は以下の情報で置き換えてください。

- <UserName>: Windows サービスのログオンユーザーを指定してください。
- <Password>: ログオンユーザーのパスワードを指定してください。

- <StartFlag>: Windows サービス登録後にそのまま Windows サービスを起動する場合には "1" を指定してください。起動したくない場合には "0" を指定してください。

コマンドの実行例:

```
register_service.bat domain\user password 1
```

8. 以下のフォルダーに "install_error.txt" というファイルが存在しないことを確認します。

```
<TransServer インストールフォルダー>\log
```

ファイルが存在した場合は TransServer サービスの登録に失敗しています。以下のファイルを参照して失敗の原因を特定および解決した上で "install_error.txt" を削除し、再度手順 3 に戻ってサービスの登録を実施してください。

```
<TransServer インストールフォルダー>\log\install_k2.log
```

8.3.9. TransServer の Windows サービスを登録解除する方法

TransServer の Windows サービスを削除したい場合には、以下の手順で登録を解除してください。

1. TransServer の Windows サービスが起動している場合には停止します。
2. 管理者権限でコマンドプロンプトを起動し、以下のフォルダーに移動します。

```
<3DxSUITE TransServer の導入フォルダー>\installer_data
```

3. 以下のコマンドを実行します。

```
unregister_service.bat
```

8.3.10. アップロードされたモデルを一時的に格納するフォルダーの変更方法

TransServer にアップロードされたモデルは、一時的に TransServer の動作するコンピューター上にある作業フォルダーに格納されます。既定では、作業フォルダーとして以下のパスが設定されています。

```
<TransServer インストールフォルダー>\k2dashboard\tmp
```

作業フォルダーを変更する場合には、以下の手順を実施してください。

1. TransServer が起動している場合には停止します。
2. 以下のファイルをテキストエディターで開きます。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\k2server.ini
```

3. "TemporaryDir" の値として、TransServer 実行ユーザーが書き込み権限を持つフォルダーのパスを設定します。

```
例: TemporaryDir=D:\somewhere\tmp
```

4. 変更内容を保存してテキストエディターを終了します。
5. TransServer を起動します。

8.4. 起動手順

Windows サービスとして登録している場合

TransServer サービスは OS 起動時に自動的に起動するように設定されています。特に作業は必要ありません。

正常に起動した場合、アプリケーションイベントログに ID 0 のイベントが記録されます。起動時に問題が起きた場合には、ID 818 のイベントや ID 819 のイベントが記録されます。

Windows サービスとして登録していない場合

スタートメニューの [Elysium 3DxSUITE TransServer] - [3DxSUITE TransServer EX10.0 の起動] を実行します。



TransServer サービスが実行中の場合、スタートメニューから起動することはできません。

8.4.1. サーバー設定

クライアントコンピューターのブラウザから以下のアドレスを開き、管理者ユーザーとしてログインします。

| | |
|---------|--|
| アドレス | http://<TransServerホスト名>:<ポート番号(初期値:3000)> 例) http://server:3000 |
| 初期アカウント | ユーザー名: admin パスワード: admin |

初回ログイン時に表示されるダイアログで以下の内容を設定します。

| | 設定名 | 説明 |
|----|-------------------------------------|--|
| 1 | admin の表示言語 | ユーザー "admin" でログインした際の表示言語です。 |
| 2 | 言語優先度 | 各ユーザーにデフォルトで設定される言語優先度です。 |
| 3 | scheduler.error_mail.sender | Job 実行に失敗した際に送信されるメールの送信者を指定します。 |
| 4 | system.default.timezone | ユーザー新規登録時に使われる既定のタイムゾーンです。 |
| 5 | system.mail.smtp_port | メール送信用の SMTP ポートを指定します。 |
| 6 | system.mail.smtp_server | メール送信用の SMTP サーバーを FQDN(完全修飾ドメイン名) で設定します。 |
| 7 | system.monitor.error_mail_recipient | システム監視時に異常が発生した際に送信されるメールの受信者を指定します。 |
| 8 | scheduler.error_mail.recipient | Job 実行に失敗した際に送信されるメールの受信者を指定します。 |
| 9 | system.mail.smtp_default_domain | メール送信時に使用するデフォルトのドメインを設定します。 |
| 10 | web.common.server_base_address | TransServer 利用者向けの起点となる URL を設定します。 |

このダイアログを再度表示して設定をやり直したい場合には、TemporaryDir で指定されるフォルダーにある "initialized.txt" を削除してください。TemporaryDir に指定されているパスの値は、以下のファイルで確認することができます。

```
<TransServer インストールフォルダー>\config\k2server.ini
```

8.5. 終了手順

Windows サービスとして登録している場合

サービス一覧から TransServer サービスを停止します。

正常に終了した場合、アプリケーションイベントログに ID 0 のイベントが記録されます。終了時に問題が起きた場合には、ID 818 のイベントや ID 819 のイベントが記録されます。


Windows サービスとして登録していない場合

スタートメニューの [Elysium 3DxSUITE TransServer] - [3DxSUITE TransServer EX10.0 の停止] を実行します。

8.6. アンインストール手順

TransServer を再インストールする場合は、あらかじめデータベースの情報をバックアップしておき、再インストール後にリストアしてください。バックアップ、リストアの手順については別冊の "3DxSUITE TransServer 管理者マニュアル" をご参照ください。

TransServer はサイレントアンインストールには対応していません。手動アンインストールを行ってください。

1. Windows メニューから  [設定] を選択し、表示されたウィンドウで [アプリ] を選択します。
2. アプリの一覧から以下のプログラムを選択してアンインストールします。
 - i. Elysium 3DxSUITE EX10.0 - TransServer
 - ii. Elysium 3DxSUITE Ruby 3.2.2
同じコンピューターに他の 3DxSUITE 製品がインストールされており、その使用を継続する場合は、Ruby のアンインストールは行わないでください。
 - iii. PostgreSQL 15
PostgreSQL を TransServer 以外の用途にも使用している場合は、TransServer のデータベースの削除を実行してください。
データベースの削除手順は [8.2.3, “データベースの削除”](#) を参照してください。



アンインストールを実行する前に TransServer を停止してください。Windows サービスとして登録している場合にはサービスを停止してください。

3. アンインストールしたプログラムのインストールフォルダーを削除します。
4. Apache をサービスとして登録している場合には、コマンドプロンプトを管理者として実行し、以下のフォルダーに移動します。
登録していない場合には、手順 7 に進んでください。

```
C:\Apache24\bin
```



Apache を "C:\Apache24" 以外のフォルダーにインストールしている場合には適宜読み替えてください。

5. 以下のコマンドを実行します。

```
httpd.exe -k uninstall -n "Apache for 3DxSUITE TransServer"
```



Apache のサービスを "Apache for 3DxSUITE TransServer" 以外の名前で登録している場合には適宜読み替えてください。

6. コマンドプロンプトを終了します。
7. Apache のインストールフォルダーを削除します。

9. Elysium 3DxSUITE WorkerNode

事前にインストールする必要があるプログラム

- [Components](#)

9.1. インストール手順

9.1.1. 事前準備: 入出力ファイルの授受に利用するファイルサーバーの設定

WorkerNode をインストールするコンピューターと WorkerNode を使用するアプリケーションをインストールするコンピューターの間では、ファイルサーバーを経由して入出力ファイルの授受を行います。



以降では、この "入出力ファイルの授受のためのファイルサーバー" のことを単純に "ファイルサーバー" と記載します。

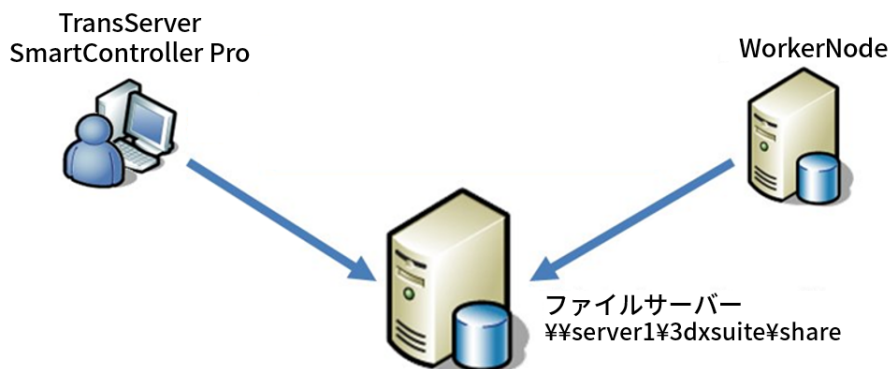
ファイルサーバーは、以下の条件を満たすように設定してください。

- WorkerNode を使用するアプリケーションをインストールするコンピューターと WorkerNode をインストールするコンピューターの両方からネットワーク経由でアクセスできる。
- WorkerNode を使用するアプリケーションを実行するユーザーと WorkerNode を実行するユーザーの両方が書き込み権限を持っている。

ファイルサーバーとしては、通常の Windows 共有フォルダーを用いることも可能ですし、SMB 3.0 以降をサポートする NAS を用いることも可能^{*1}です。ファイルサーバーは UNC パス (\\ で始まるパス) で指定できるため、上記の条件を満たすファイルサーバーがあれば、それ以外の設定は必要ありません。



*1: NAS を利用する場合、WorkerNode の作業フォルダーにはファイルサーバー上のパスを設定しないでください。そのような構成は製品としてサポートしていません。NAS を利用する場合には、WorkerNode のローカルドライブにあるフォルダーを作業フォルダーとして設定する必要があります。



上の例では、server1 というコンピューターのフォルダー "\\server1\3dxsuite\share" をファイルサー

バーとして設定しています。

[オプション] UNC パスを任意のドライブに割り当てる手順

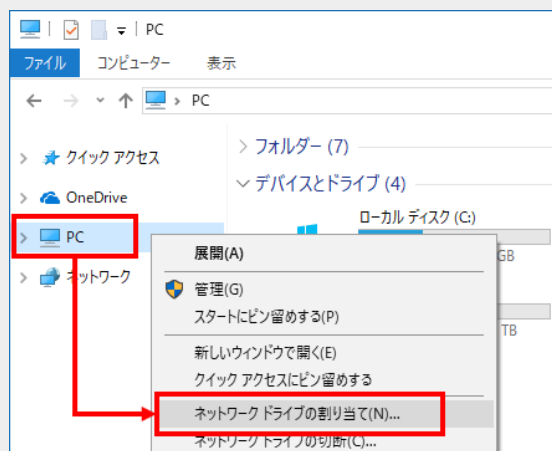
以前のバージョンの 3DxSUITE と同様に、WorkerNode で実行する処理の一時作業領域としてもファイルサーバーを利用する場合には、ファイルサーバーの UNC パスを任意のドライブに割り当てる必要があります。割り当てるための手順は以下の通りです。



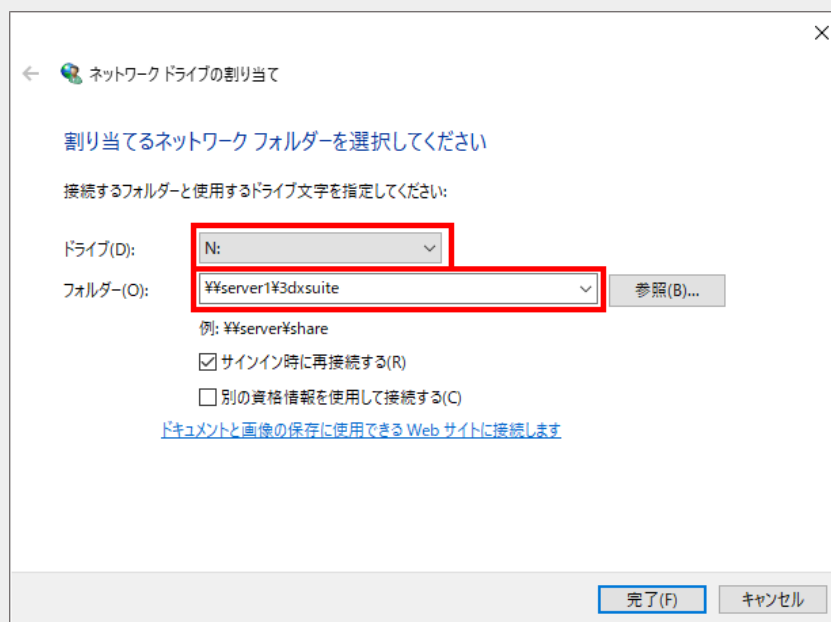
WorkerNode の設定項目にある "作業フォルダー設定" で作業フォルダーを設定しない場合にだけ、以下の作業が必要となります。

UNC パスを任意のドライブに割り当てる方法

1. [PC] を右クリックして、[ネットワーク ドライブの割り当て] を選択します。



2. ドライブ欄からドライブ名を選び、フォルダー欄には割り当てる UNC パスを設定します。最後に [完了] をクリックします。



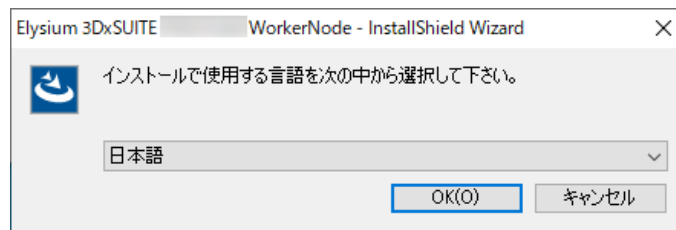
上記の設定は、WorkerNode をインストールするコンピューターと、WorkerNode を利用するアプリケーションをインストールするすべてのコンピューターで実施してください。

9.1.2. 手動インストール

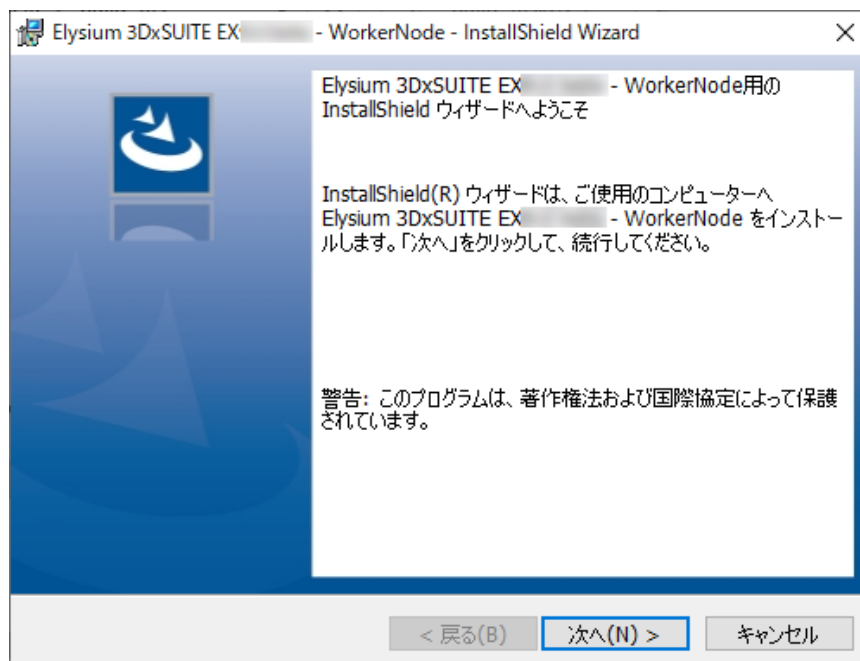


インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。
事前にインストールする必要のあるプログラムがインストールされていない場合、
実行が中止されます。

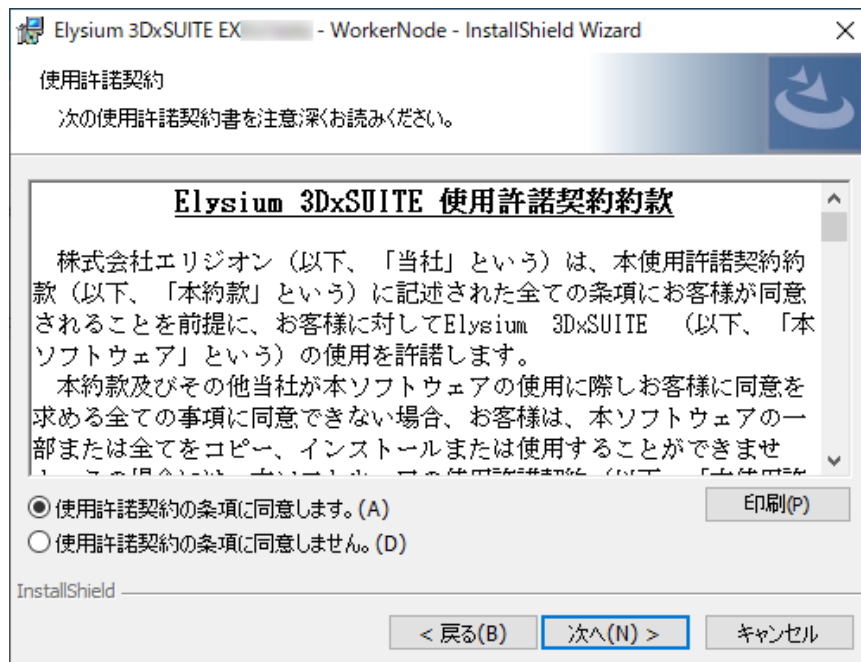
1. WorkerNode のインストーラーを実行します。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <WorkerNode パッケージ>
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_WorkerNode.exe
2. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。日本語と英語が選択可能です。



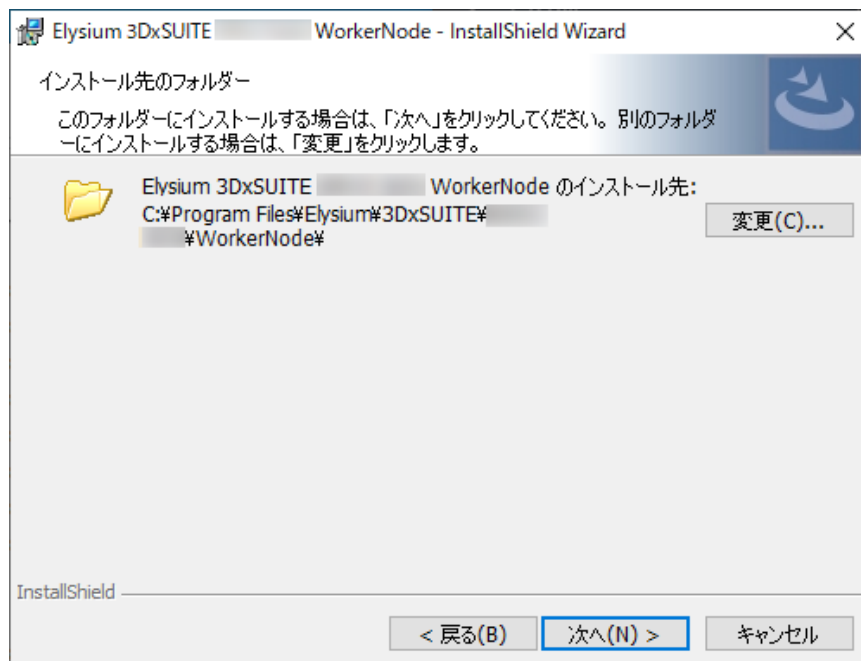
3. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



4. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。

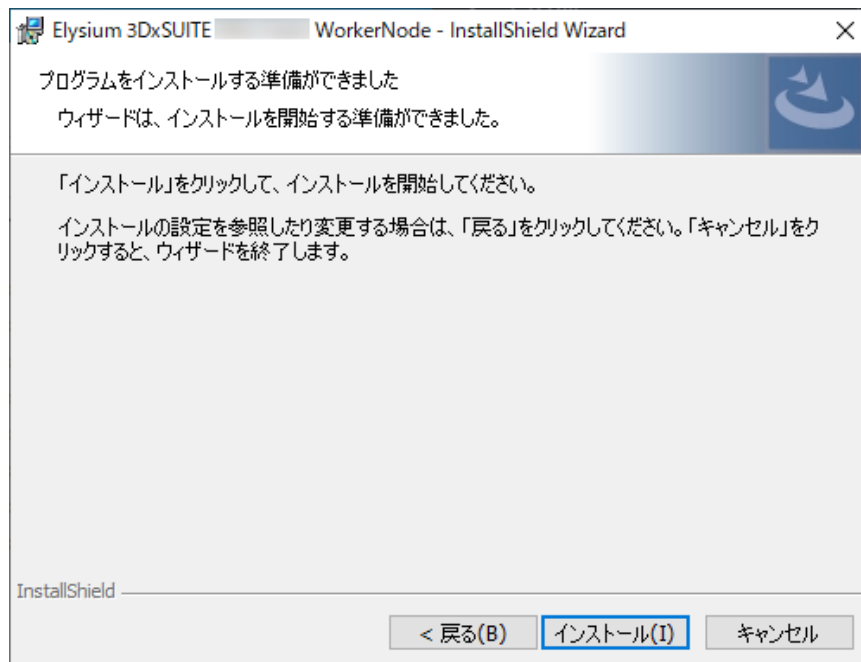


5. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。

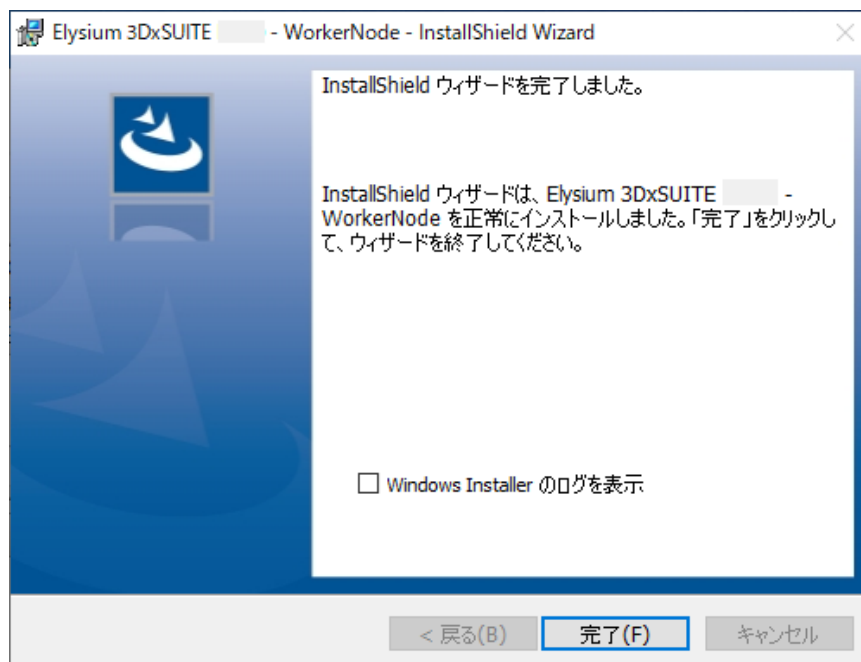


インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

6. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



7. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



SmartController Pro もしくは TransServer が動作するコンピューターから WorkerNode が動作するコンピューターの名前を解決できるようにしておく必要があります。同じく WorkerNode から SmartController Pro もしくは TransServer が動作するコンピューターの名前も解決できるようにしておく必要があります。

9.1.3. サイレントインストール

コマンドにて WorkerNode の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについて

では、以下のコマンド例とコマンド引数の説明を参照してください。

- コマンド例

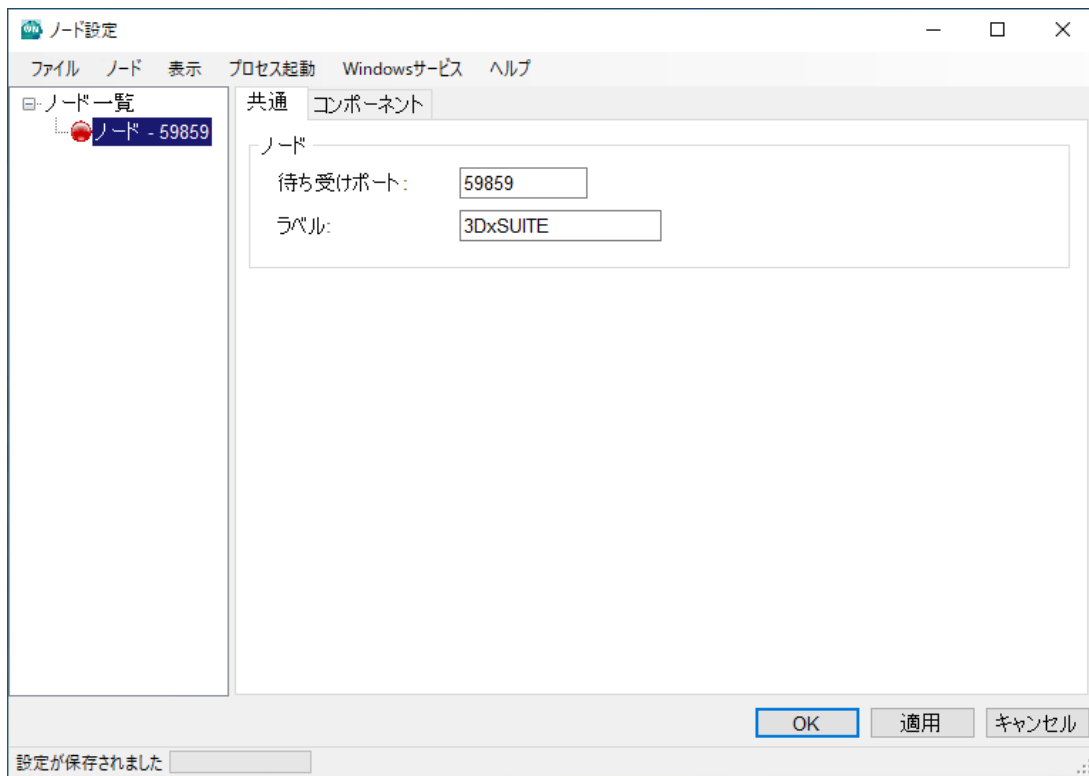
```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_WorkerNode.exe /s /v"/l* \"C:\temp\install.log\"
INSTALLDIR=\"C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\EX10.0\WorkerNode\" /qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|--|---------|
| /s | インストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /l*\"<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 • INSTALLDIR=\"<インストールフォルダー>\" : インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。 • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

9.2. WorkerNode の設定

Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE WorkerNode] - [3DxSUITE WorkerNode EX10.0の設定] を選択すると以下のダイアログが起動します。WorkerNode の設定はこのダイアログ上で行います。



導入済みの WorkerNode から設定を引き継ぐことも可能です。手順については [9.2.5, “複数の WorkerNode の設定”](#) を参照してください。

9.2.1. [共通設定] ダイアログ

[共通設定] ダイアログは、メニューから [ファイル] - [共通設定] を選択すると表示されます。このダイアログでは、以下の内容を設定できます。

- エリジオンライセンスサーバー
ライセンスサーバーの動作しているコンピューターのホスト名とポート番号を指定します。
- ファイルサーバー設定 (Windowsサービス起動時)
 - WorkerNode を Windows サービスとして実行する場合に指定します。
 - WorkerNode をインストールしたコンピューターが、SmartController Pro や TransServer をインストールしたコンピューターと入出力ファイルを受受するために利用するファイルサーバーの情報を UNC パスで設定します。
 - "ユーザー"、"パスワード"、"パスワード(再入力)" は、WorkerNode のプロセスを起動するユーザー、もしくは WorkerNode のサービスを実行するユーザーが、指定した UNC パスにアクセスできない場合のみ指定してください。それらのユーザーが指定した UNC パスにアクセスできる場合、指定する必要はありません。
- 作業フォルダー設定
WorkerNode で実行する処理で利用する一時作業領域のパスを指定します。



作業フォルダーとして UNC パスを指定することはできません。

- TLS 設定

TransServer と WorkerNode の間の通信プロトコルとして https を利用する場合に、証明書と秘密鍵を設定します。https で通信したい場合には、両方の項目を設定する必要があります。

- その他

- バインドアドレス:

WorkerNode が TransServer あるいは SmartController Pro からの通信を待ち受ける際に利用する IP アドレスを指定します。IPv4 と IPv6 のどちらの形式でも指定できます。



- "0.0.0.0" を指定すると、すべての IPv4 アドレスで待ち受けるように設定できます。
- "::" を指定すると、すべての IPv6 アドレスで待ち受けるように設定できます。

- ログファイルを開くために使用するアプリケーション:

WorkerNode の出力するログを開く際に使用するアプリケーションを指定します。

共通設定

エリジオンライセンスサーバー

ホスト:
license_server

ポート番号:
5093

ファイルサーバー設定 (Windowsサービス起動時)

ファイルサーバー(UNCパス):
¥¥server1¥3dxsuite¥share

Windowsサービス起動時にファイルサーバーにアクセスするためのユーザーを指定してください。
Windowsサービスのログオンユーザーでアクセスできる場合は指定の必要はありません。

ユーザー: domain¥user

パスワード: *****

パスワード(再入力): *****

ドライブレター(ファイルサーバー上で作業する場合は必須):

作業フォルダー設定

指定しない時はネットワークドライブ上で実行します。

C:¥work

TLS設定

TLS証明書ファイル:

TLS証明書の秘密鍵ファイル:

その他

バインドアドレス:

ログファイルを開くために使用するアプリケーション:
Notepad.exe

OK キャンセル

9.2.2. [共通] タブ

[共通] タブでは、以下の内容を設定できます。

共通 コンポーネント

ノード

待ち受けポート: 59859

ラベル: 3DxSUITE

【ノードの設定】

- 待ち受けポート

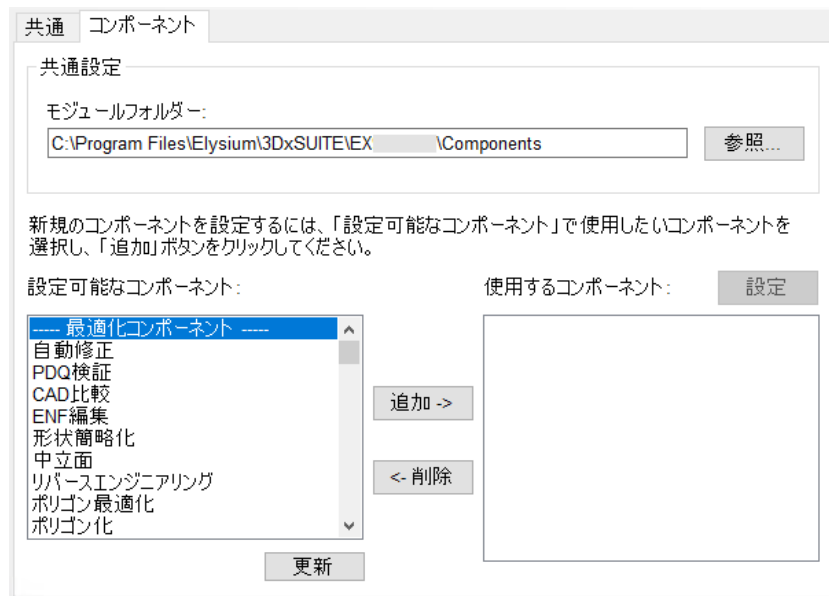
WorkerNode を利用するアプリケーションからの通信を受信するポートの番号を指定します。
他のプログラムで使用していない番号を指定してください。

- ラベル

複数の WorkerNode をグループ化するための項目です。コンポーネントの WorkerNodeLabel パラメーターにグループのラベルを指定することで、グループに属するいずれかの WorkerNode に処理を実行させることができます。同一のラベルを指定した WorkerNode が同一のグループに所属するものとして扱われます。グループ化する必要がない場合は変更する必要はありません。

9.2.3. [コンポーネント] タブ

[コンポーネント] タブでは、使用したい Component の有効化および CAD の導入フォルダーなどコンポーネントの動作に必要な情報を設定します。



【共通設定】

- モジュールフォルダー
WorkerNode で使用する Component が導入されているフォルダーを指定します。

【使用するコンポーネントの設定】

- 設定可能なコンポーネント
この WorkerNode で設定可能な Component (Adapter および Optimizer) の一覧です。
- 使用するコンポーネント
この WorkerNode で動作するように指定された Component の一覧です。

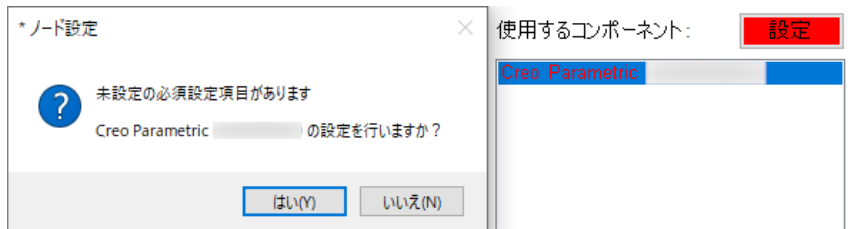
コンポーネントの追加と削除

- 設定可能なコンポーネントの一覧から使用したいコンポーネントを選択して [追加] をクリックします。

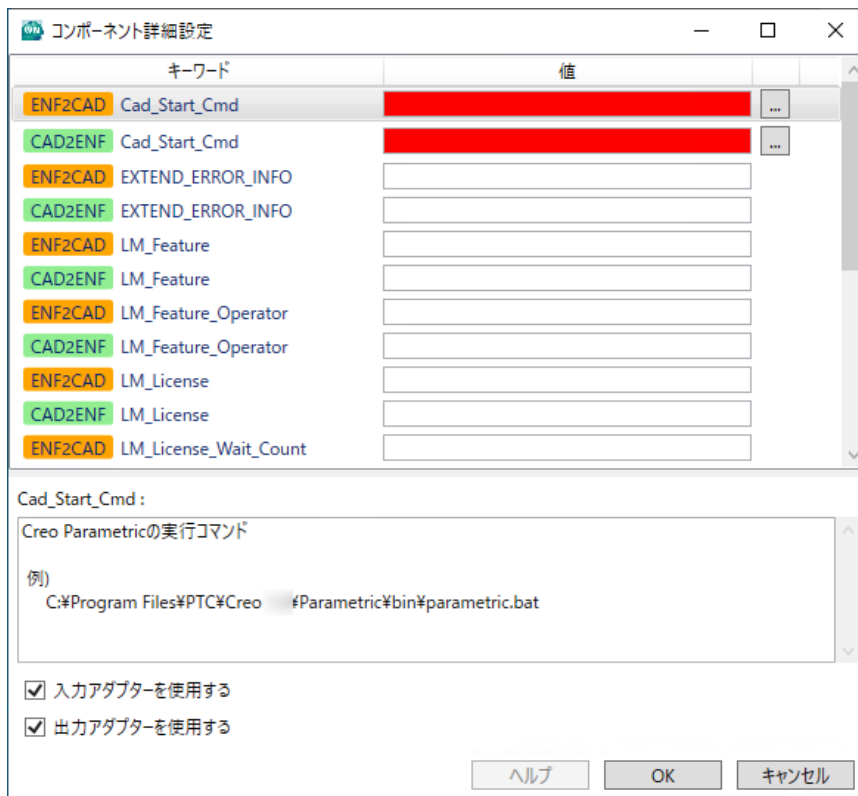


"自動修正" コンポーネントは必ず追加してください。

2. 必須設定項目が存在する Component を追加した場合は、以下のようなダイアログが表示されます。[はい] をクリックして設定を開始します。[いいえ] をクリックした場合も、使用する Component の [設定] をクリックすることで後から設定できます。



3. 手順 2. で [はい] をクリックした場合や後から [設定] をクリックした場合は、"コンポーネント詳細設定" ダイアログが表示されます。CAD の導入フォルダーや起動プログラムなどの必須情報 (値の列の背景が赤色で表示されています)、テンプレートファイルやライセンスタイムアウトなどの任意の設定項目を設定できます。

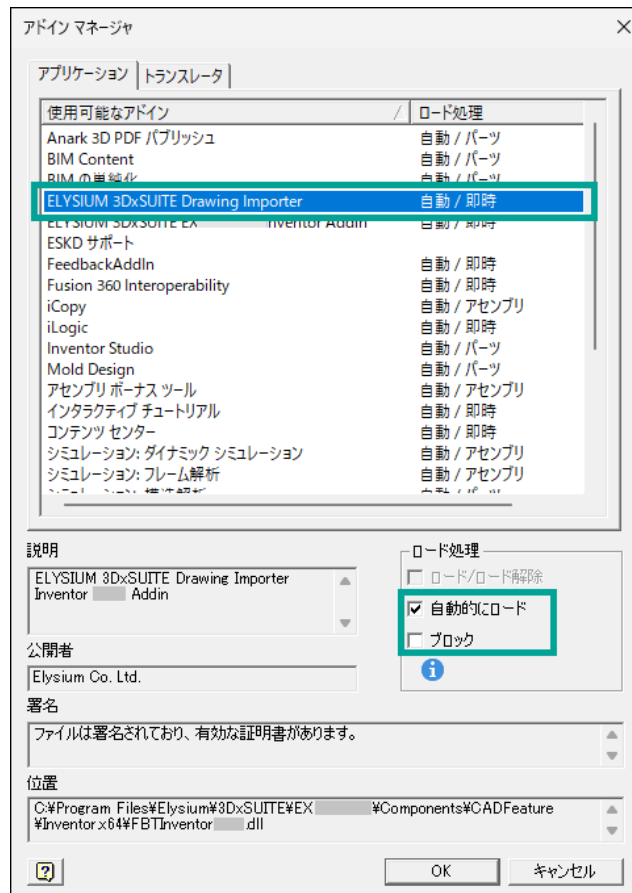




コンポーネント詳細ダイアログの設定内容は 3DxSUITE 設定ユーティリティーと同期しています。変更する際には使用状況などを踏まえた上で、適切な設定を選択してください。

4. [OK] をクリックして設定を完了します。

Inventor Adapter を使用する場合、Inventor の [ツール] タブにある [アドイン] を選択してアドイン マネージャを起動し、"Elysium 3DxSUITE Inventor Addin" のブロックを解除しておく必要があります。



9.2.4. Windows サービスの登録と削除

WorkerNode を Windows サービスとして登録し、動作させることができます。登録した場合、コンピュータの起動に併せて WorkerNode も自動的に起動するため、ユーザーが対話的ログインを行って起動する必要がありません。Windows サービスを登録 / 削除する手順は以下の通りです。

Windows サービスの登録

1. メニューから [Windowsサービス] - [サービス登録] を選択します。
2. 表示されたダイアログでサービス実行ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
3. ユーザーアカウント制御の警告ダイアログが表示されます。問題なければ [はい] をクリックします。
4. サービスの登録に成功したことを示すダイアログが表示されたことを確認します。

5. メニューから [ファイル] - [共通設定] を選択します。
6. "エリジオンライセンスサーバー" に各 Component が使用するライセンスサーバーのホスト名とポート番号を設定します。
7. "作業フォルダー" にドライブレター、ネットワークフォルダーパス (9.1.1, “事前準備: 入出力ファイルの授受に利用するファイルサーバーの設定” で指定したものと同一内容) を入力します。また、手順 2. で設定したサービス実行ユーザーがこのパスにアクセスする権限を持っていない場合には、アクセス権のあるユーザーのユーザー名とパスワードも入力します。
8. [OK] をクリックして設定を保存します。

一部の Component はサービスとして実行されている WorkerNode での実行に対応していません。サービス化未対応のコンポーネントについては、Windows サービスとして動作していない WorkerNode で実行してください。現時点における各 Component のサービス化対応状況は以下の通りです。

| Component | 対応状況 |
|-------------------------------|---|
| CATIA V5(Plug-in) | 対応済み |
| CATIA V5(standalone) | 対応済み |
| 3DEXPERIENCE | 3DEXPERIENCE to ENF: 対応済み ENF to 3DEXPERIENCE: 未対応 |
| CATIA V4 | 対応済み |
| NX(Plug-in) | 対応済み |
| NX(standalone) | 対応済み |
| Creo Parametric(Plug-in) | 対応済み |
| Creo Parametric(standalone) | 対応済み |
| NX I-deas | 未対応 |
| SOLIDWORKS | 未対応 |
| Creo Elements/Direct Modeling | 対応済み |
| Autodesk Inventor | 対応済み |
| CADmeister(standalone) | 対応済み |
| iCAD SX | 対応済み |
| Solid Edge | 対応済み |
| Parasolid | 対応済み |
| ACIS | 対応済み |
| STEP | 対応済み |
| JT | 対応済み |
| QIF | 対応済み |

| Component | 対応状況 |
|-------------|------|
| 3DXML | 対応済み |
| IGES | 対応済み |
| STEP XML | 対応済み |
| PLM XML | 対応済み |
| XPDMXML | 対応済み |
| 3D PDF | 対応済み |
| XVL | 対応済み |
| Creo View | 対応済み |
| STL | 対応済み |
| OBJ | 対応済み |
| VRML | 対応済み |
| Nastran | 対応済み |
| Point Cloud | 対応済み |
| HTML | 対応済み |
| 自動修正 | 対応済み |
| PDQチェッカー | 対応済み |
| 形状簡略化 | 対応済み |
| CAD比較 | 対応済み |
| ENF ポリゴン | 対応済み |
| ポリゴン最適化 | 対応済み |
| ENF編集 | 対応済み |
| DFXA作成 | 対応済み |
| DFXA更新 | 対応済み |
| DFXA統合 | 対応済み |
| DFXレポート作成 | 未対応 |
| Drawing比較 | 対応済み |



カスタムコンポーネントが Windows サービスとして動作することの可否については、カスタムコンポーネントから呼び出される実行ファイルやバッチファイルのサービス対応状況に依存します。

Windows サービスの削除

1. メニューから [Windowsサービス] - [サービス削除] を選択します。
2. ユーザーアカウント制御の警告ダイアログが表示されます。問題なければ [はい] をクリックします。
3. サービスの削除に成功したことを示すダイアログが表示されたことを確認します。



Windows サービスとして登録する場合、コンピューターの起動に併せて WorkerNode も自動的に起動するため、ユーザーが対話的ログインを行って起動する必要がありません。これに対し Windows サービスとして登録しない場合、処理に関する情報がコマンドプロンプトに出力されるため、問題が発生した場合にはより多くの情報を得ることができます。

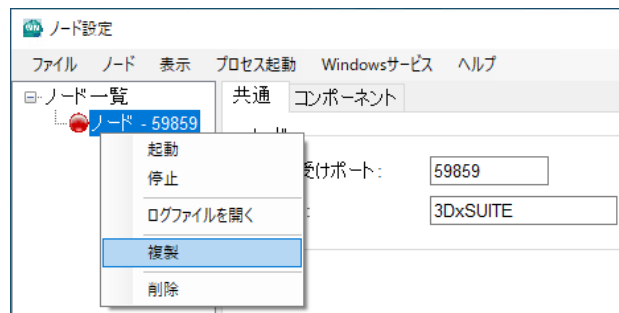
運用の一例としては、定常的に WorkerNode を稼働させる際にはサービスとして起動し、問題発生時の調査を行う場合や一時的な試験などを実施する場合には対話的ログインで起動するという方法が考えられます。使用目的や想定される使用状況などを踏まえた上で、適切な起動方法を選択してください。

9.2.5. 複数の WorkerNode の設定

ノード設定では、異なる設定を持った複数のノードを設定できます。

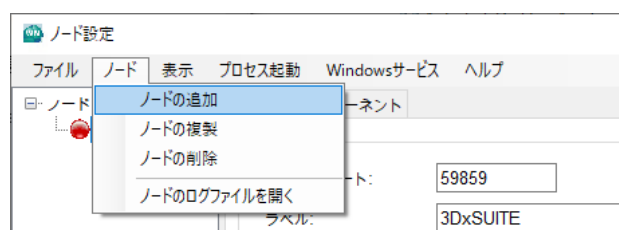
既存のノード設定を複製

1つのノードでは同時に1つの処理しか実行されません。そのため、同一のコンポーネントに対して複数のライセンス (エリジオンライセンス・CAD ライセンス) を所有している場合には、同一設定のノードを複数設定することでライセンスを有効に活用できます。



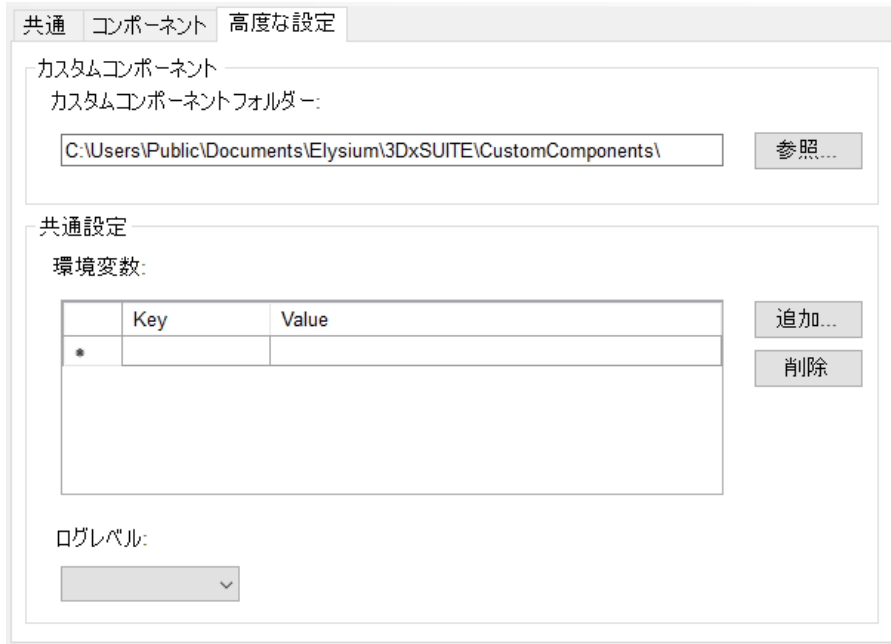
新規ノード作成

特定の CAD 専用のノードを作成したい場合など、既存のノードとはまったく異なるコンポーネントを持ったノードを作成したい場合は、新規にノードを追加してください。



9.2.6. 高度な設定

メニューの [表示] - [高度な設定] にチェックを付けると、[高度な設定] タブが表示されません。WorkerNode でのみ使用する環境変数の設定などを行うことができます。



【カスタムコンポーネント】

- カスタムコンポーネントフォルダー
3DxSUITE 以外の外部モジュールをコンポーネントとして追加するためのフォルダーです。

【共通設定】

- 環境変数
WorkerNode で使用する環境変数を設定できます。ここで設定した環境変数は WorkerNode 内でのみ有効です。
- ログレベル
WorkerNode の出力するログのレベルを、"info" と "debug" から選択します。ログレベルを選択していない状態では、"info" レベルのログが出力されます。ログの出力先については、[9.5.2, “WorkerNode のログについて”](#) を参照してください。

9.2.7. 設定の引き継ぎ

過去に導入済みの WorkerNode がある場合、設定済みの内容を引き継ぐことができます。手順は以下の通りです。

1. Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE WorkerNode] - [3DxSUITE WorkerNode EX10.0 の設定] を選択します。
2. [ノード設定] ウィンドウでメニューから [ファイル] - [インポート] を選択します。
3. ファイル選択ウィンドウで "ServiceConfig.xml" を選択して [開く] をクリックします。ファイルのパスは以下の通りです。

。 %Public%\Documents\Elysium\3DxSUITE\Config\WorkerNode\ServiceConfig.xml

4. [ノードの設定] ダイアログが表示されたら内容を確認し、インポートを実行する場合には [OK] をクリックします。
5. [ノード設定] ウィンドウで [適用] をクリックします。

9.3. 起動と停止

WorkerNode を通常プロセスとして動作させるか Windows サービスとして動作させるかで、起動と停止の方法が異なります。



Windows サービスとして実行されている WorkerNode と通常プロセスとして実行されている WorkerNode は同一コンピューター上で併存しないように運用してください。



WorkerNode がサービスとして実行されている状態でノードの追加や設定変更を行う場合には、サービスを停止した上で [ノード設定] から変更を行い、設定後にサービスを再起動してください。



WorkerNode が通常プロセスとして実行されている場合には、WorkerNode の Windows サービスを開始しないでください。既定の設定ではコンピューター起動時に WorkerNode の Windows サービスが自動的に起動するため、必要に応じてサービスの自動起動設定を無効化してください。

通常プロセスとして実行する場合にノードの追加や設定変更を行う際には、ノードを停止した上で [ノード設定] から設定変更を行い、再度ノードを起動してください。

通常プロセスの場合

WorkerNode を通常プロセスとして起動 / 停止する方法は以下の 3 種類です。

【プログラムメニューから起動 / 停止する】

起動:

Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE WorkerNode] - [3DxSUITE WorkerNode EX10.0の起動] を実行してください。

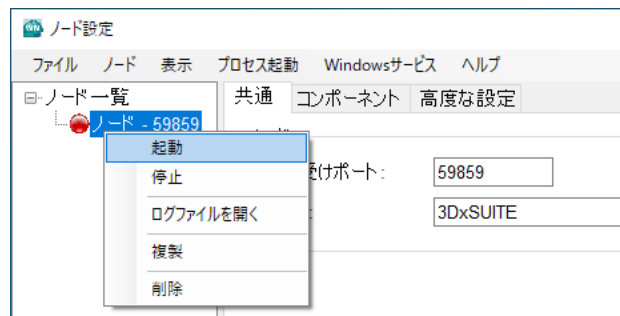
停止:

3DxSUITE -... で始まる名称のコマンドプロンプトを、ウィンドウ右上の × ボタンを押して閉じてください。

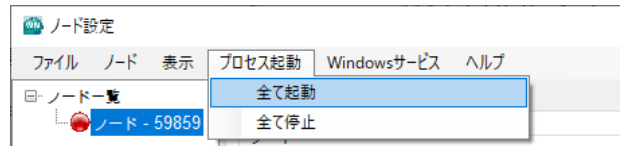
【ノード設定ダイアログから起動する】

起動:

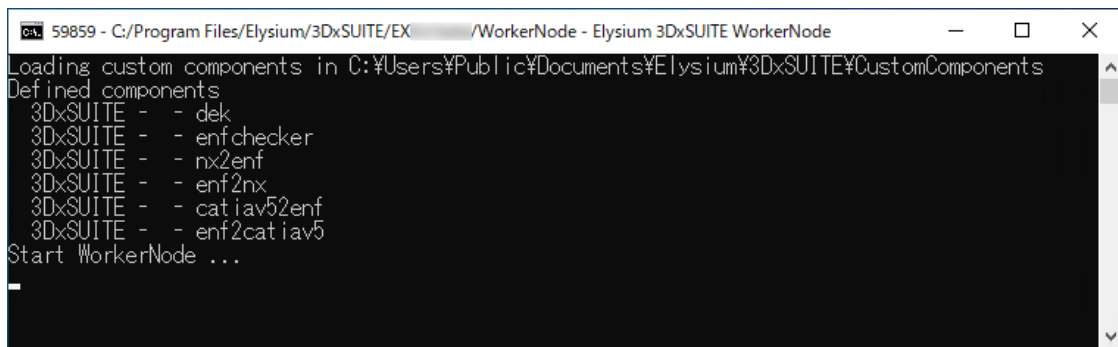
ノード一覧から起動したいノードを右クリックして "起動" を選択してください。



メニューの [プロセス起動] - [全て起動] を実行することでもノードの起動を行うことができます。



WorkerNode の起動に成功すると、以下のウィンドウが表示されます。



停止:

ノード一覧から停止したいノードを右クリックして "停止" を選択してください。
メニューの [プロセス起動] - [全て停止] を実行することでもノードを停止できます。

【コマンドラインから起動する】

<3DxSUITE インストールフォルダー>\EX10.0\WorkerNode\bin 内の WorkerLauncher.exe を使用することで、WorkerNode の起動 / 停止をコマンドラインから実行できます。オプションの詳細については、以下のように "/" を引数として WorkerLauncher.exe を実行し、確認してください。

```
> WorkerLauncher.exe /?
```

以下、WorkerNode の起動 / 停止のためのコマンド例を示します。

- すべての WorkerNode を起動 / 終了する場合

起動:

以下のコマンドを実行

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=start
```

停止:

以下のコマンドを実行

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=stop
```

- 特定ポートの WorkerNode を起動 / 停止する場合

起動:

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=start /ListenPort={起動したい 3DxSUITE WorkerNode  
のポート番号}
```

停止:

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=stop /ListenPort={停止したい 3DxSUITE WorkerNode  
のポート番号}
```

(例) ポート番号 59859 で定義されている WorkerNode を起動する場合

以下のコマンドを実行

```
> WorkerLauncher.exe /Mode=start /ListenPort=59859
```

Windows サービスの場合

以下の手順でサービスの起動および停止を実行してください。

a. Windows サービスの起動

1. ノード設定ウィンドウのメニューから [Windowsサービス] - [サービス開始] を選択します。
2. ユーザーアカウント制御の警告ダイアログが表示されます。問題なければ [はい] をクリックします。
3. サービスの起動に成功したことを示すダイアログが表示されたことを確認します。

b. Windows サービスの停止

1. ノード設定ウィンドウのメニューから [Windowsサービス] - [サービス停止] を選択します。
2. ユーザーアカウント制御の警告ダイアログが表示されます。問題なければ [はい] をクリックします。
3. サービスの停止に成功したことを示すダイアログが表示されたことを確認します。



各ノードに設定されているすべてのポートが使用可能な場合のみ、WorkerNode の Windows サービスを起動できます。いずれかのポートが通常プロセスとして起動された WorkerNode もしくは別のアプリケーションによって利用されている場合、Windows サービスの起動に失敗します。

9.4. アンインストール手順

9.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX10.0 - WorkerNode" を選択して、アンインストールを実行します。

9.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_WorkerNode.exe /s /x /v"/l* \"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /s | アンインストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /x | アンインストールを実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /l* \"<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

9.5. 補足

9.5.1. WorkerNode の実行状態を確認する方法について

以下のコマンドの戻り値で WorkerNode の実行状態を確認できます。<port> には WorkerNode の使用するポート番号を指定してください。

- <3DxSUITE インストールフォルダー>\EX10.0\WorkerNode\bin\check-worker-node-status.bat <port>

戻り値

- WorkerNode が起動している場合: 0
- WorkerNode が起動していない場合: 1

実行例

- a. ポート 59859 を使用する WorkerNode が起動している場合

```
>C:\Program Files\ELYSIUM\3DxSUITE\EX10.0\WorkerNode\bin\check-worker-  
node-status.bat 59859  
>echo %ERRORLEVEL%  
>0
```

- b. ポート 59860 を使用する WorkerNode が起動していない場合

```
>C:\Program Files\ELYSIUM\3DxSUITE\EX10.0\WorkerNode\bin\check-worker-  
node-status.bat 59860  
>echo %ERRORLEVEL%  
>1
```

9.5.2. WorkerNode のログについて

WorkerNode の動作ログは、既定の設定では以下のフォルダーに出力されます (<3DxSUITE Version> は 3DxSUITE のバージョン)。動作に問題があった場合などには、このフォルダーに出力されているログを参照して処理状況を確認してください。

```
%PUBLIC%\Documents\Elysium\3DxSUITE\Logs\WorkerNode\<3DxSUITE Version>\
```

なお出力先のフォルダーは、設定ユーティリティーで変更することができます。

10. Elysium 3DxSUITE Inspector

事前にインストールする必要があるプログラム

- Viewer



Viewer をインストールしていない状態でも Inspector は動作しますが、実際に使用する上では、Viewer もインストールしておくことを推奨します。

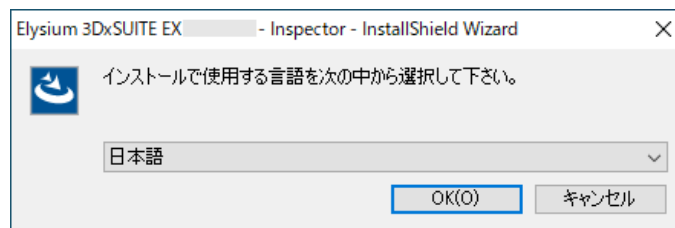
10.1. インストール手順



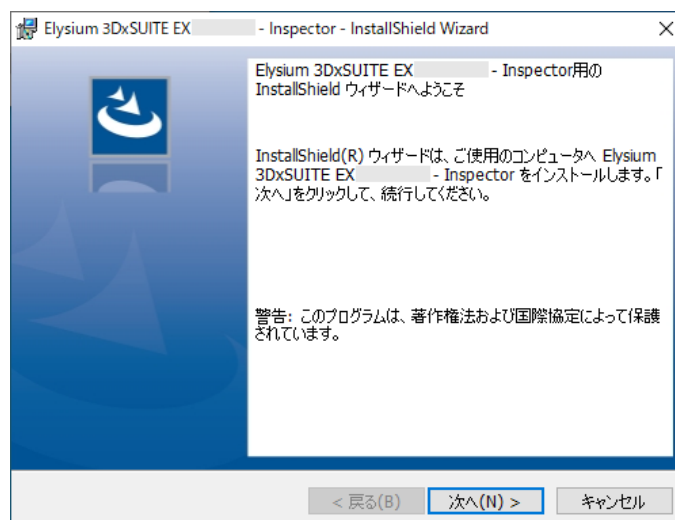
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

10.1.1. 手動インストール

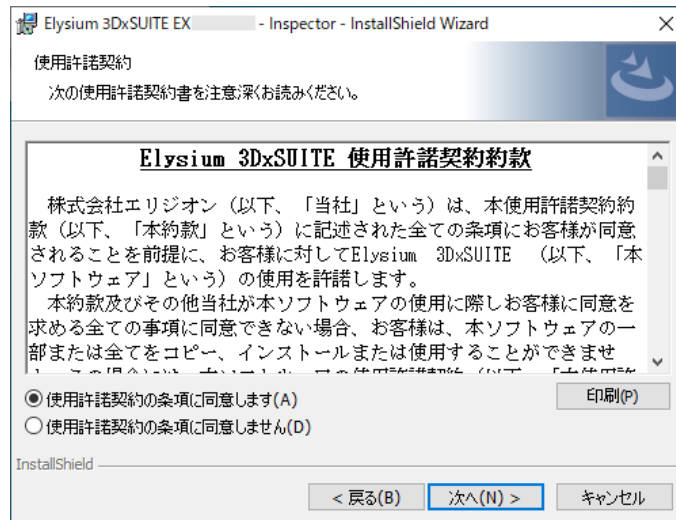
1. Inspector のインストーラーを実行します。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <Inspector パッケージ>
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Inspector.exe
2. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



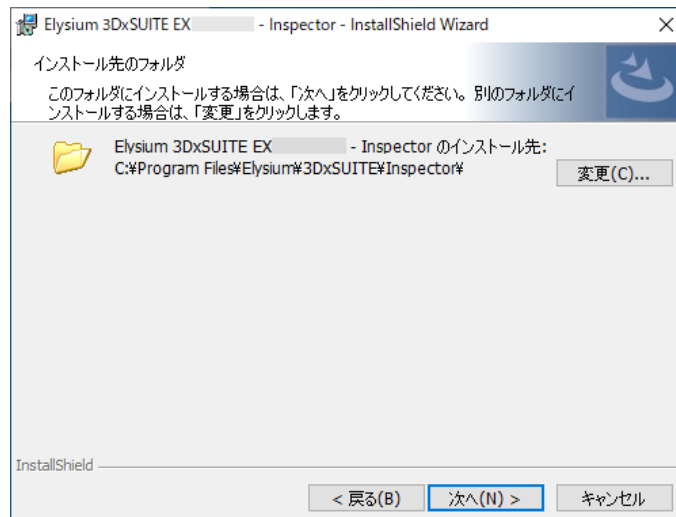
3. Inspector のインストールウィザードが表示されます。[次へ] をクリックします。



4. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択してから [次へ] をクリックします。

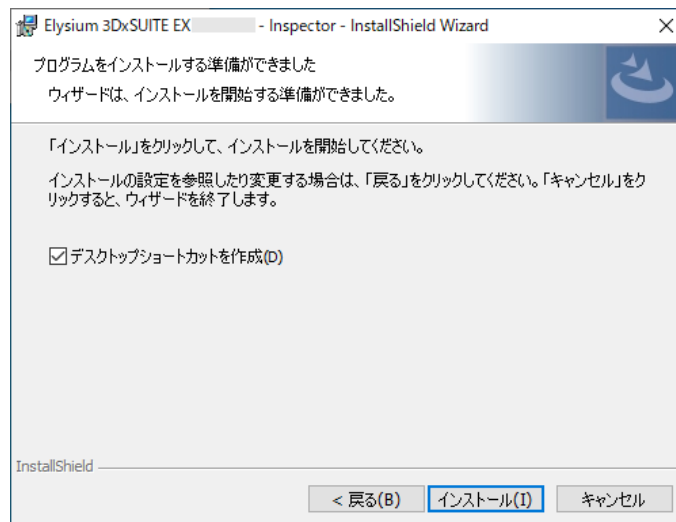


5. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら、[次へ] をクリックします。



インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

6. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



7. インストールが終了したら [完了] をクリックしてダイアログを閉じます。



8. スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE Inspector] - [3DxSUITE Inspector EX*.*] を選択して Inspector が正常に起動することを確認します。



Inspector 実行時には、以下のフォルダーの変更権限が必要です。起動に失敗する場合は、これらのフォルダーに対する変更権限があるかを確認してください。

- %TMP%、%TEMP%、%APPDATA%
- ファイル出力フォルダー

10.1.2. サイレントインストール

管理者権限で起動したコマンドプロンプトで以下のコマンドを実行してください。このコマンドはサンプルです。

```
D:\share\installer\Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Inspector.exe /s /v"/l*
"^"C:\temp\install.log"^" INSTALLDIR="^"C:\Program Files\Elysium\Inspector\v"^"
/qn"
```

コマンドライン引数

サイレントインストールを実行する際にインストーラー (Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Inspector.exe) に渡すコマンドライン引数の一覧です。

| コマンド引数 | 説明 |
|--------|--|
| /s | インストールやアンインストールをサイレントモードで実行します。 |
| /x | アンインストールを実行します。 |
| /x | 設定しない場合はインストールが実行されます。 |
| /v | <p>/v"<引数 1> <引数 2> ..." という形式で以下の引数を指定します。 (Msiexec に引数を渡す)</p> <ul style="list-style-type: none"> • /qn : インストール時にダイアログを表示しません。 • /qn+ : インストール完了時にダイアログを表示します。 • /l* "\"<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。 (/l* とファイル名の間には半角スペースが必要) • INSTALLDIR="\"<インストールフォルダー>\" : インストール先のフォルダーを指定します。 (インストール時のみ指定が必要) |

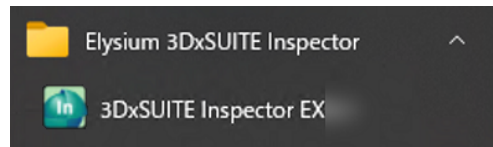
10.2. 起動手順


Inspector を起動する方法には以下の 4 種類があります。

- インストール時に作成されたショートカットから起動する

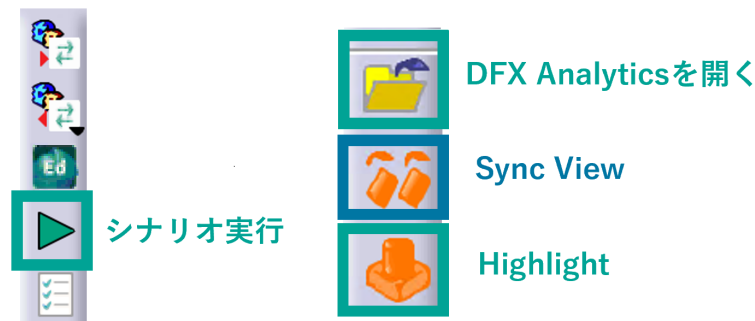


- Windows メニューから起動する

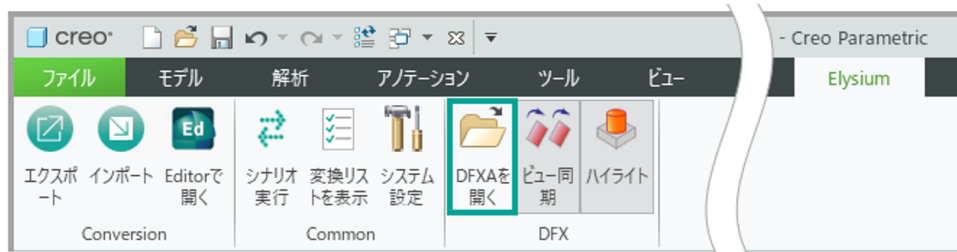


- SmartLauncher の変換リストから起動する
 - [開く]  をクリックすると Inspector が起動します (Inspector が起動していない場合)。
- SmartLauncher の CAD プラグインメニューから起動する
 - CAD のメニューに組み込まれている [DFXAを開く]、[Open Analytics]、[Open DFX Analytics] のいずれかをクリックした上で検証結果 (*.dfxa) を選択すると Inspector が起動します (Inspector が起動していない場合)。

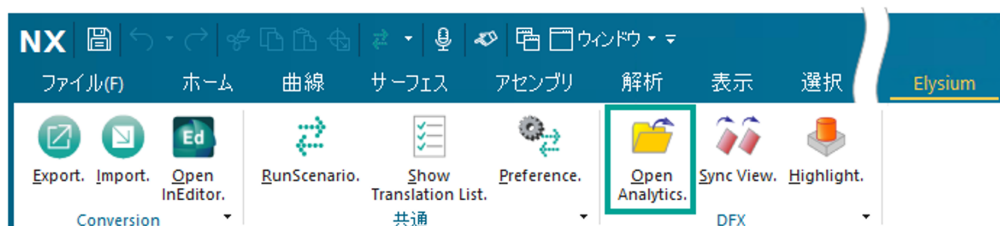
CATIA V5



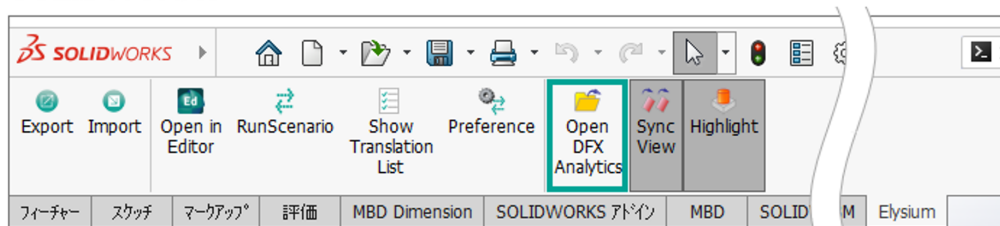
Creo Parametric



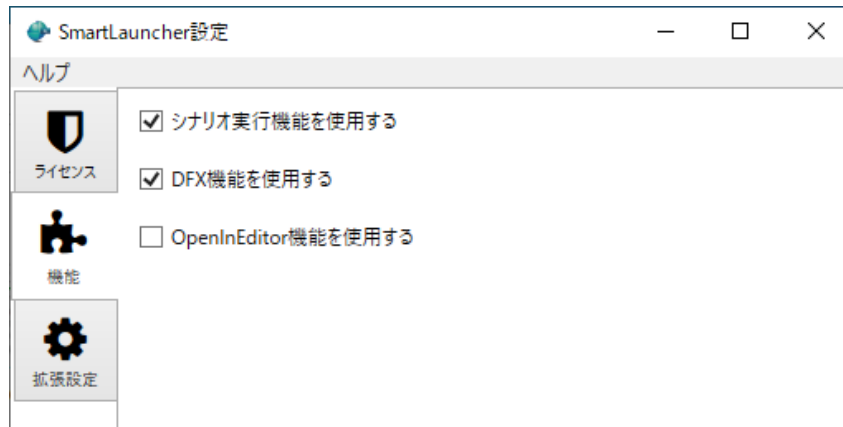
NX



SOLIDWORKS



SmartLauncher の CAD プラグインメニューに [DFXAを開く]、[Open Analytics]、[Open DFX Analytics] のいずれかが表示されていない場合には、"SmartLauncher設定" の [機能] タブにある "DFX機能を使用する" を有効化してください。



"SmartLauncher設定" の起動方法については、以下のマニュアルを参照してください。

<Base パッケージ>\doc\Front-End\3DxSUITE_SmartLauncher_Manual_ja.pdf

10.3. 終了手順

ウィンドウを閉じて終了します。

10.4. アンインストール手順



アンインストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

10.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE Inspector EX10.0" を選択して、アンインストールを実行します。

10.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
D:\share\installer\Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Inspector.exe /s /x /v"/l*  
"^\temp\uninstall.log"^\ " /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|--|---------|
| /s | アンインストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /x | アンインストールを実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• /l* \<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

11. Elysium 3DxSUITE ScenarioEditor

事前にインストールする必要があるプログラム

- なし

11.1. インストール手順



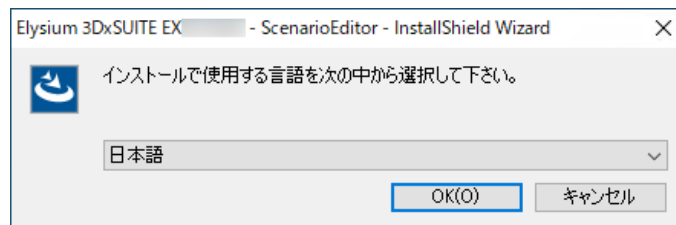
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。



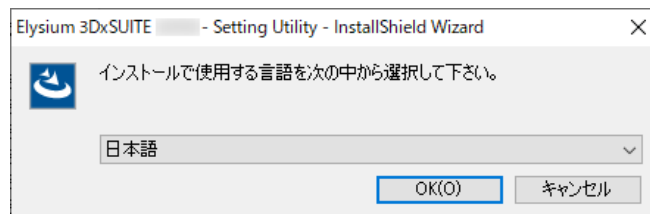
"Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" を用いて Components をインストールした場合、ScenarioEditor も同時にインストールできます。Components と同時にインストールしている場合には、ScenarioEditor を個別にインストールする必要はありません。

11.1.1. 手動インストール

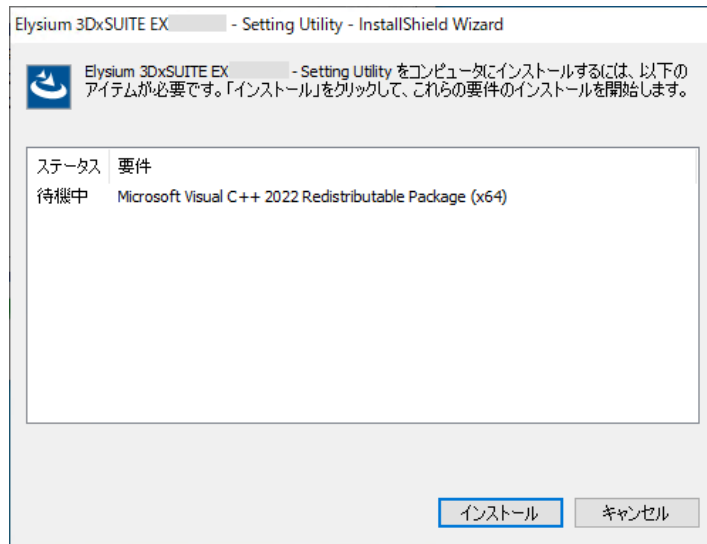
- ScenarioEditor のインストーラーを実行します。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <Components パッケージ>\ScenarioEditor\
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_ScenarioEditor.exe
- インストールで使用する言語を指定して [OK] をクリックします。



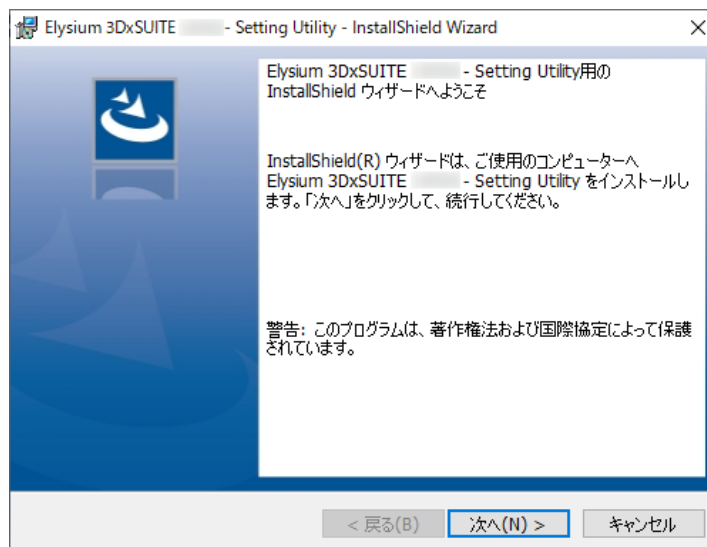
- Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。
 - インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



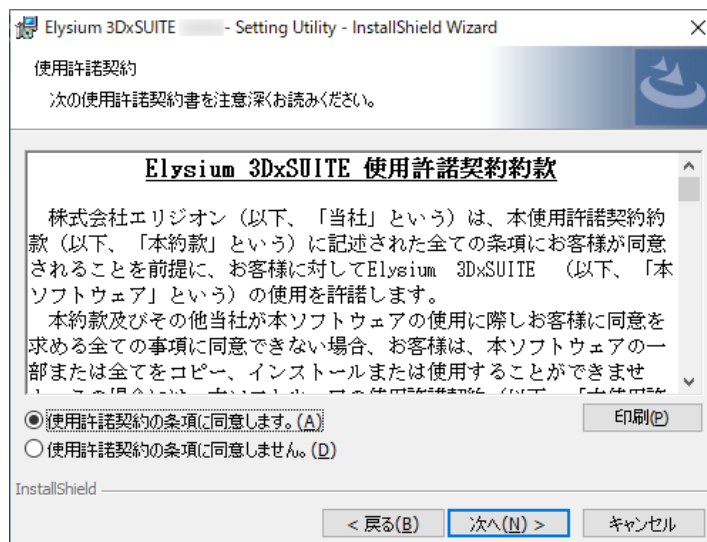
- このダイアログが表示された場合には [インストール] をクリックしてインストールを実行します。(すでにインストールされている環境では表示されません)



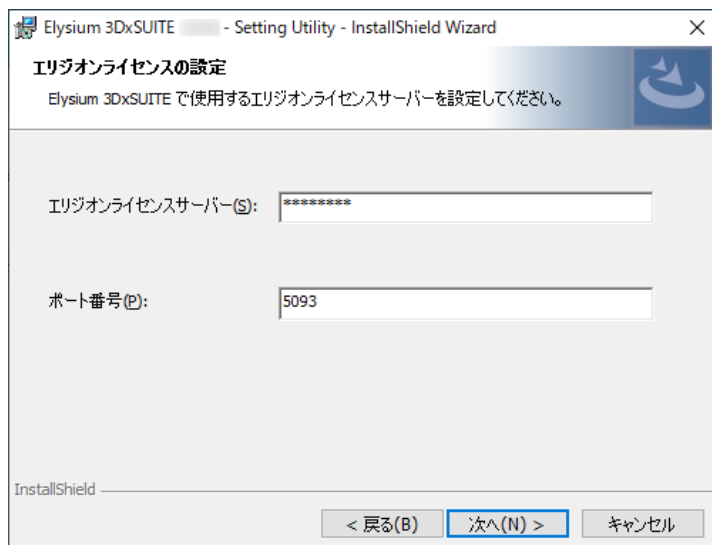
- c. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



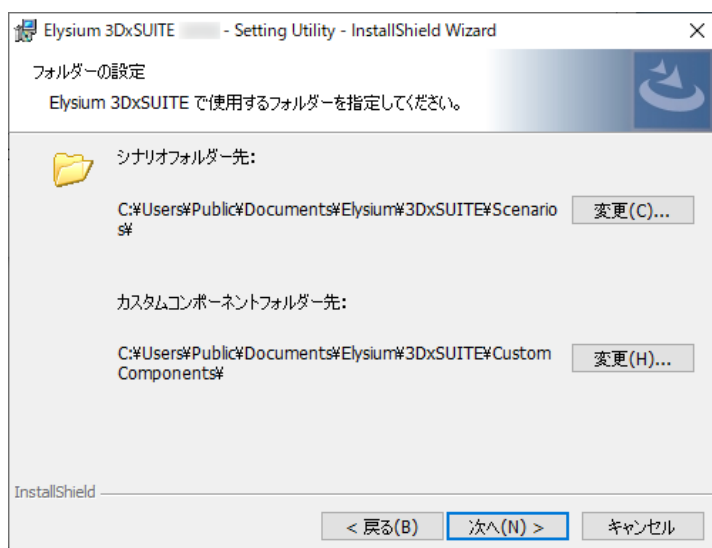
- d. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



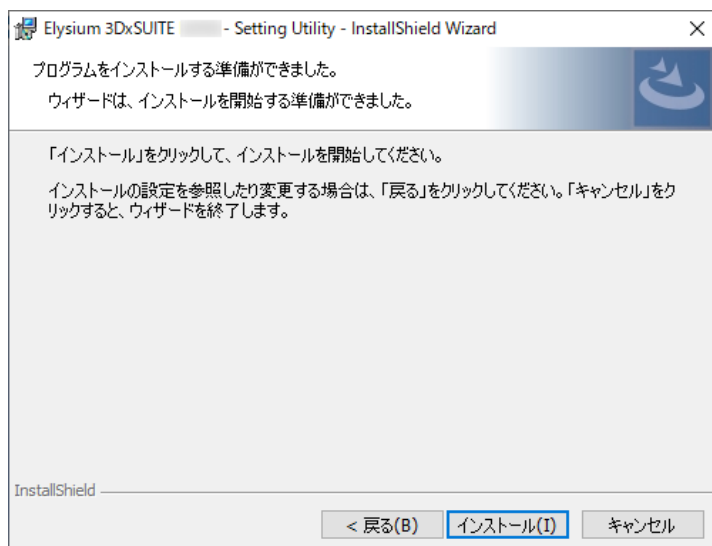
- e. ライセンスの設定画面が表示されます。Sentinel RMS License Manager をインストールしたコンピューターのホスト名を入力し、必要であればポート番号も変更した上で [次へ] をクリックします。



- f. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



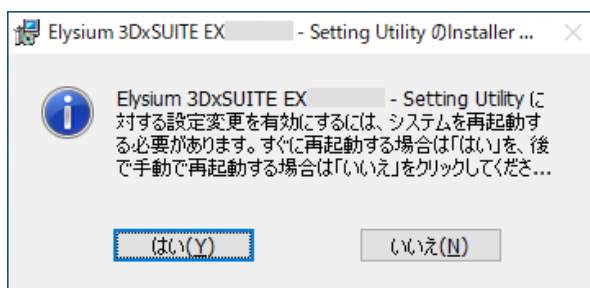
- g. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



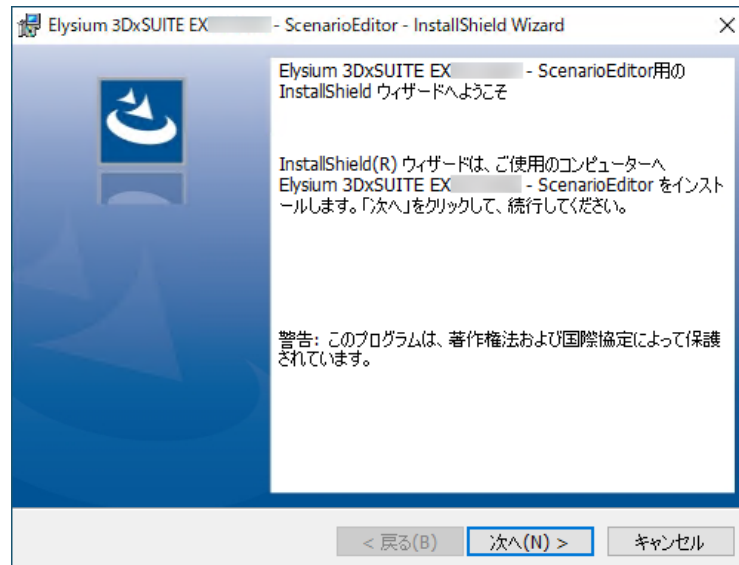
- h. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



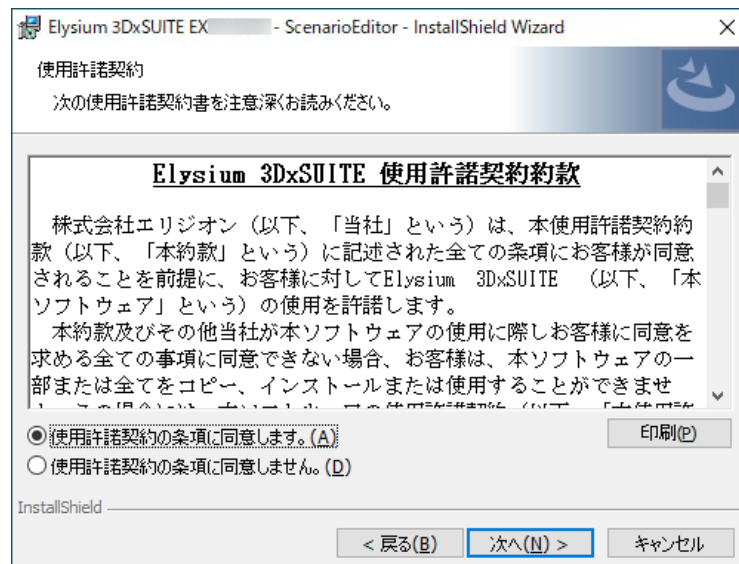
- i. 再起動を求めるダイアログが表示された場合には、OS を再起動します。再起動後に次のステップに進んでください。



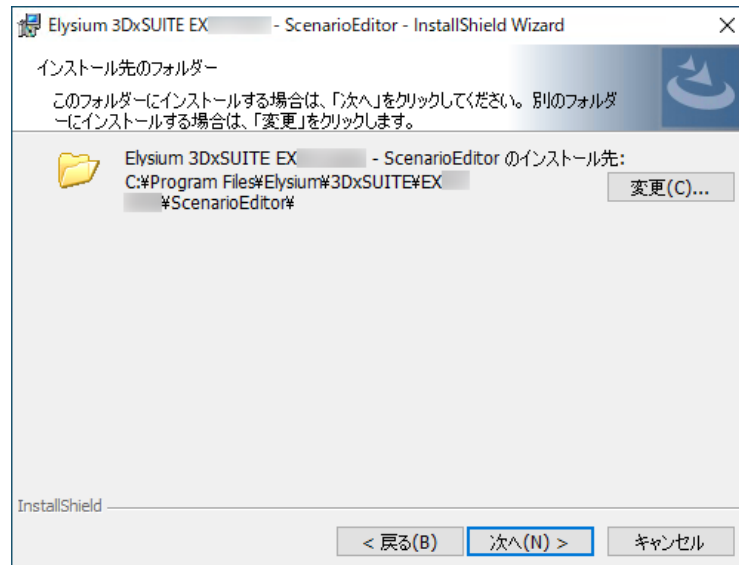
4. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



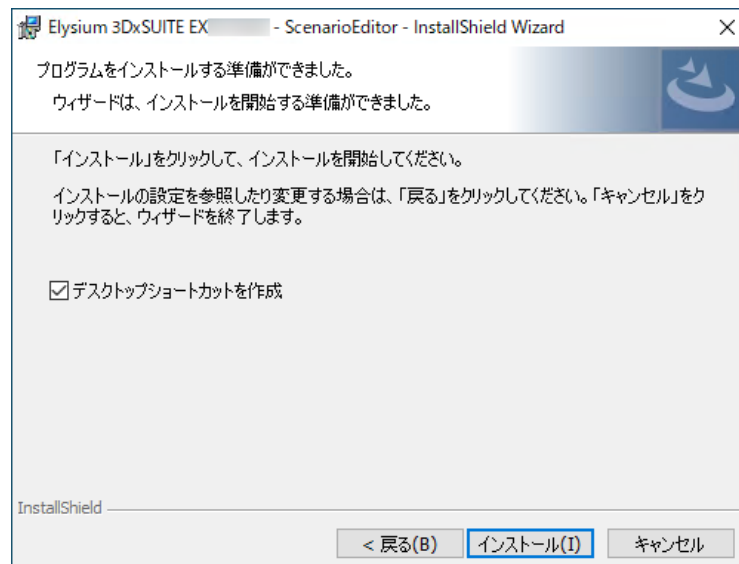
5. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



6. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。



7. デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外します。[インストール] をクリックしてインストールを開始します。



8. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



11.1.2. サイレントインストール

コマンドにて ScenarioEditor の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明をご参照ください。

- コマンド例

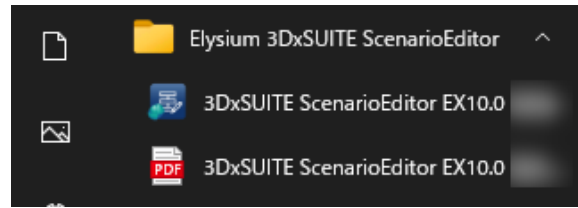
```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_ScenarioEditor.exe /s /v "/l* \"C:\temp\install.log\"
INSTALLDIR=\"C:\Program Files\Elysium\3DxSUITE\EX10.0\ScenarioEditor\" /qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

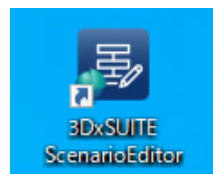
| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /s | インストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /l* \"<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 • INSTALLDIR=\"<インストールフォルダー>\" : インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。 • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

11.2. 起動手順

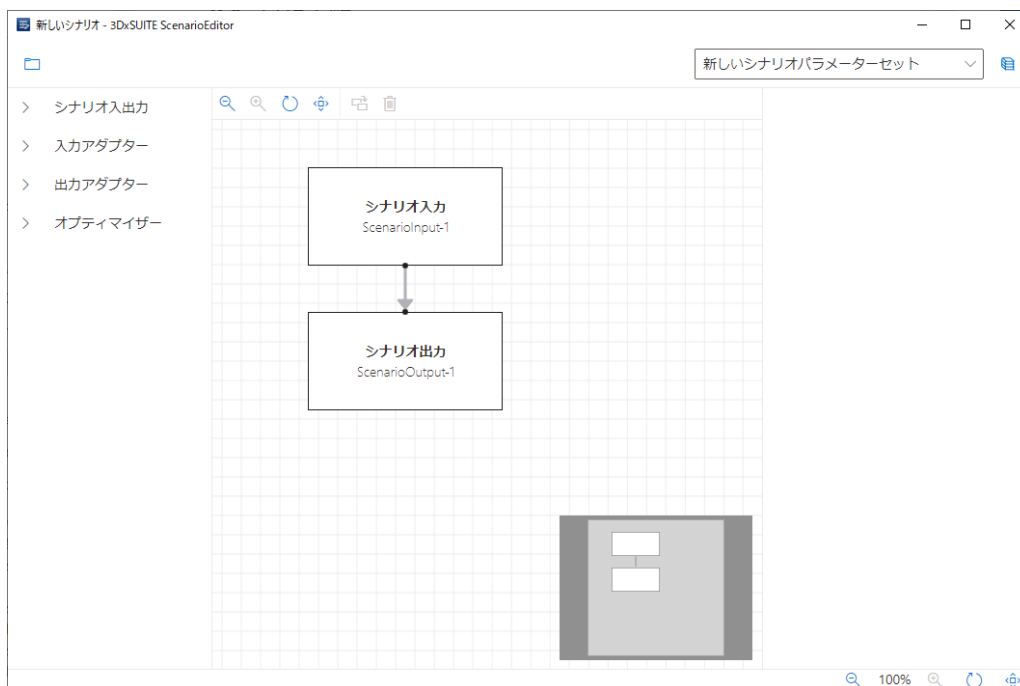
Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE ScenarioEditor] - [3DxSUITE ScenarioEditor EX10.0] を選択して起動してください。



デスクトップ上の [3DxSUITE ScenarioEditor EX10.0] ショートカットをダブルクリックして起動することもできます。



ScenarioEditor が起動します。



11.3. 終了手順

メニューの [ファイル] - [終了] を選択するか、ウィンドウを閉じて終了してください。

11.4. アンインストール手順

11.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX10.0 - ScenarioEditor" を選択して、アンインストールを実行します。

11.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_ScenarioEditor.exe /s /x /v"/l*
\C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /s | アンインストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /x | アンインストールを実行します。 | 必須 |
| /v | /v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • /l* "\<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の上に半角スペースが必要です。 • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

12. Elysium 3DxSUITE Data Package Studio

事前にインストールする必要があるプログラム

- Adobe Acrobat Pro

12.1. インストール手順



インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

12.1.1. 手動インストール

1. Data Package Studio のインストーラーを実行します。

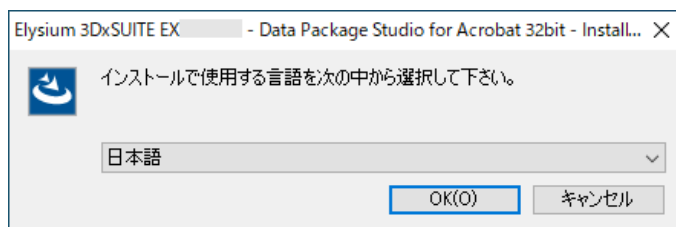
- インストーラーが含まれるフォルダー: <Data Package Studio パッケージ>\
- インストーラー:
 - Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_32bit.exe
 - Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_64bit.exe



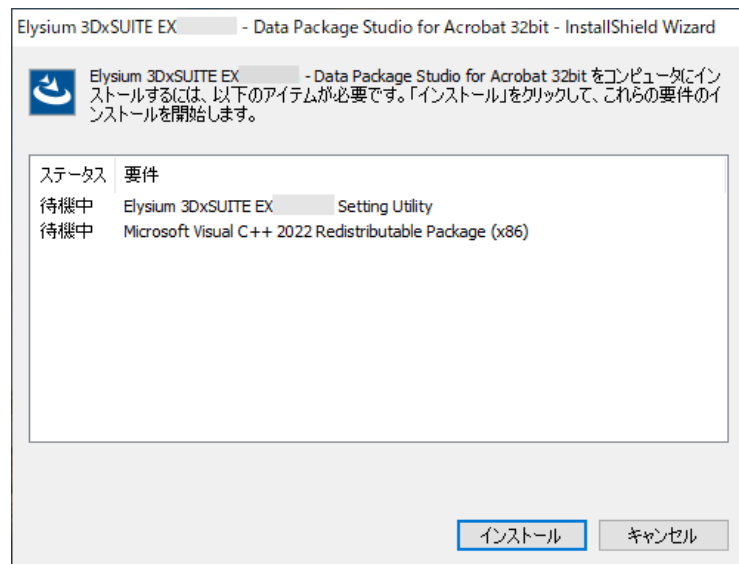
Data Package Studio のインストーラーには 64 ビット版と 32 ビット版の 2 種類があります。コンピューターにインストールされている Adobe Acrobat 製品が 32 ビット版と 64 ビット版のどちらであるかに合わせて、同じ種類のインストーラーを実行する必要がありますのでご注意ください。各 Adobe Acrobat 製品が 32 ビット版と 64 ビット版のどちらであるかは以下の表の通りです。

| 製品名 | 32 ビット/64 ビット |
|---|---------------|
| Adobe Acrobat Pro DC Continuous (古いバージョン) | 32 ビット |
| Adobe Acrobat Pro DC Continuous (最新バージョン) | 32 ビット/64 ビット |

2. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。

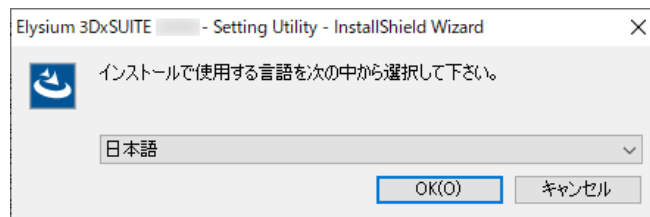


3. このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックします。

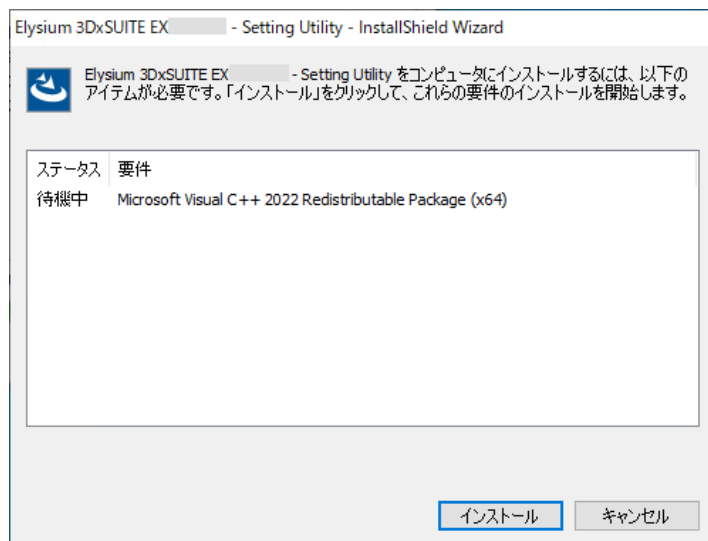


4. Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。

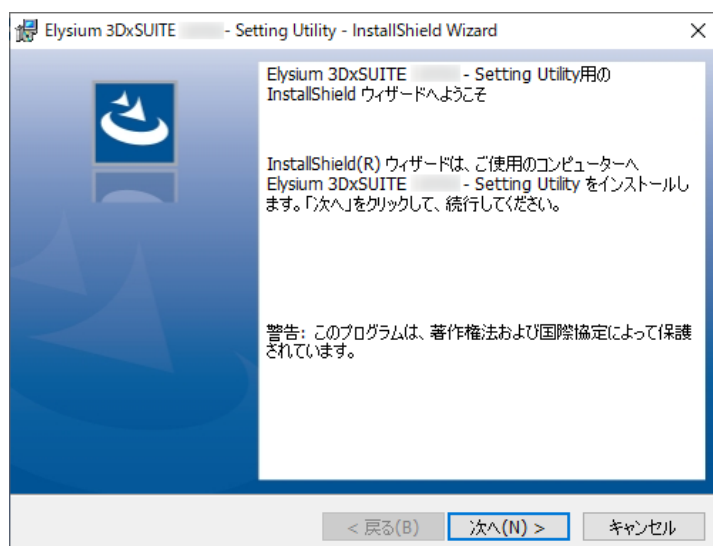
- a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



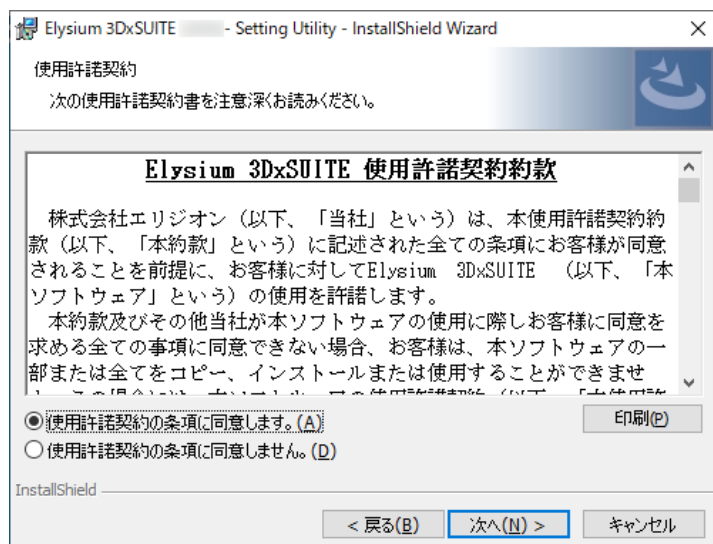
- b. このダイアログが表示された場合には [インストール] をクリックしてインストールを実行します。(すでにインストールされている環境では表示されません)



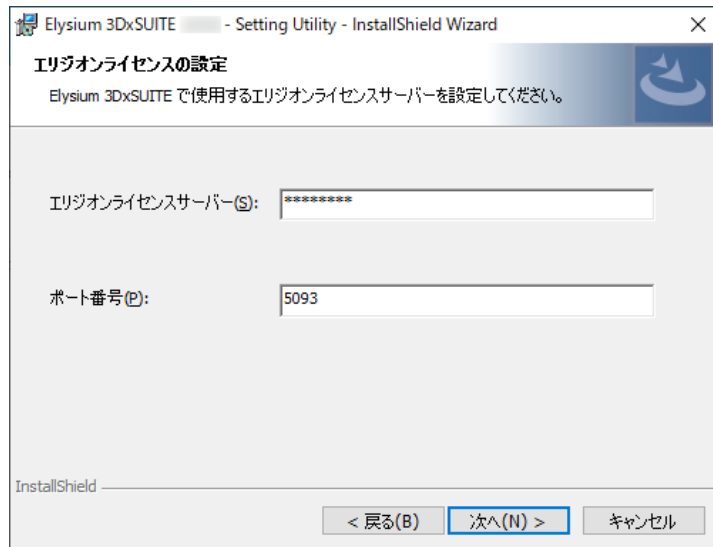
- c. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



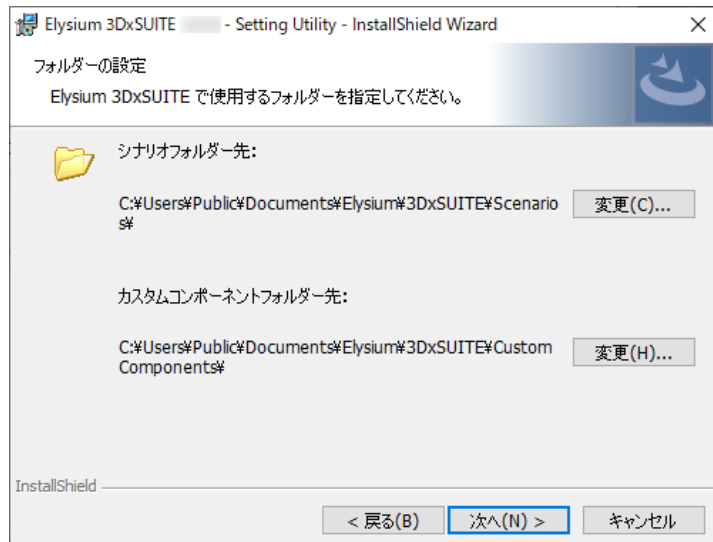
- d. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



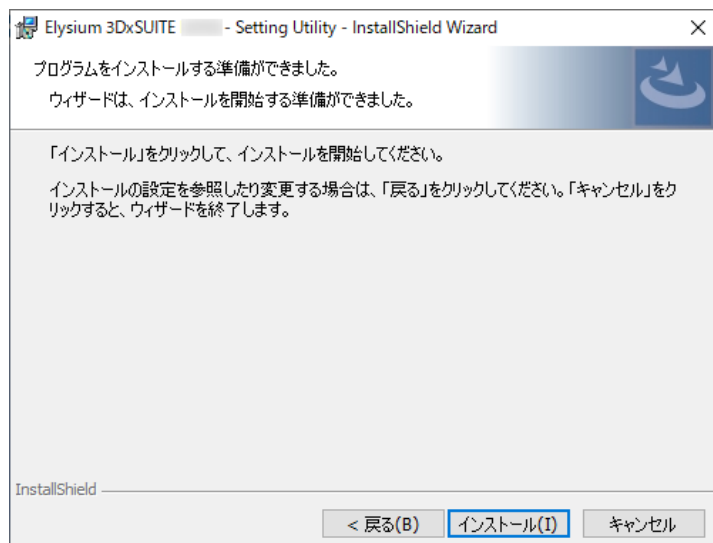
- e. ライセンスの設定画面が表示されます。Sentinel RMS License Manager をインストールしたコンピューターのホスト名を入力し、必要であればポート番号も変更した上で [次へ] をクリックします。



- f. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



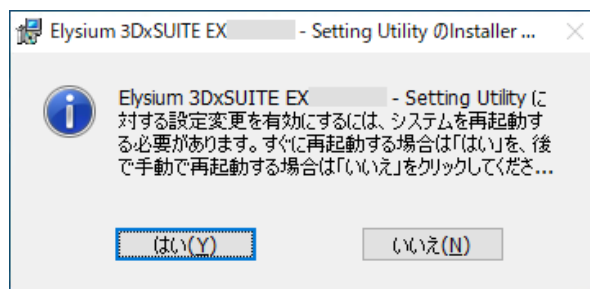
- g. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



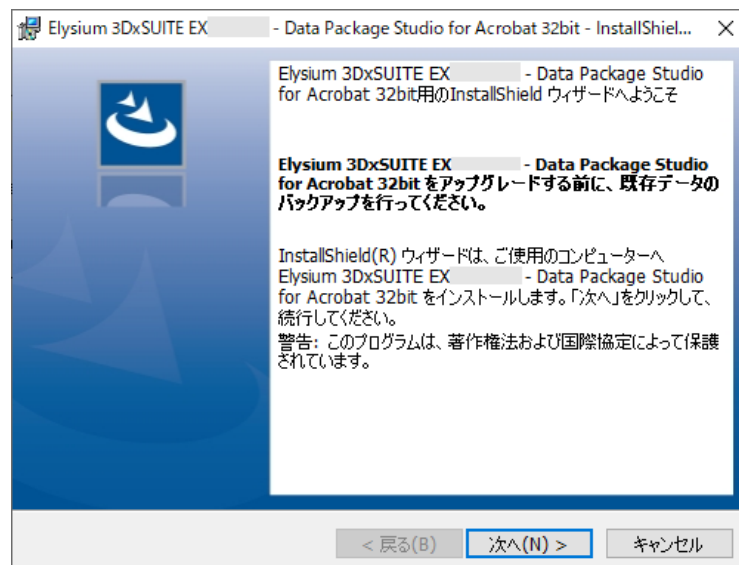
- h. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



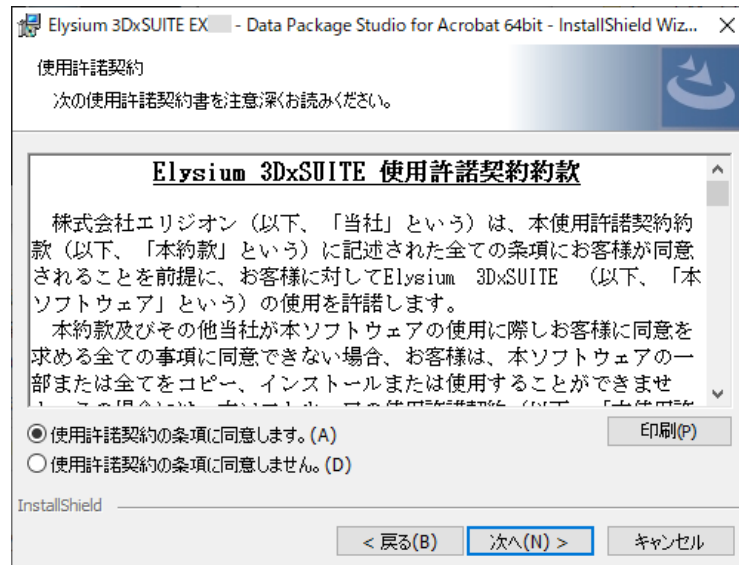
- i. 再起動を求めるダイアログが表示された場合には、OS を再起動します。再起動後に次のステップに進んでください。



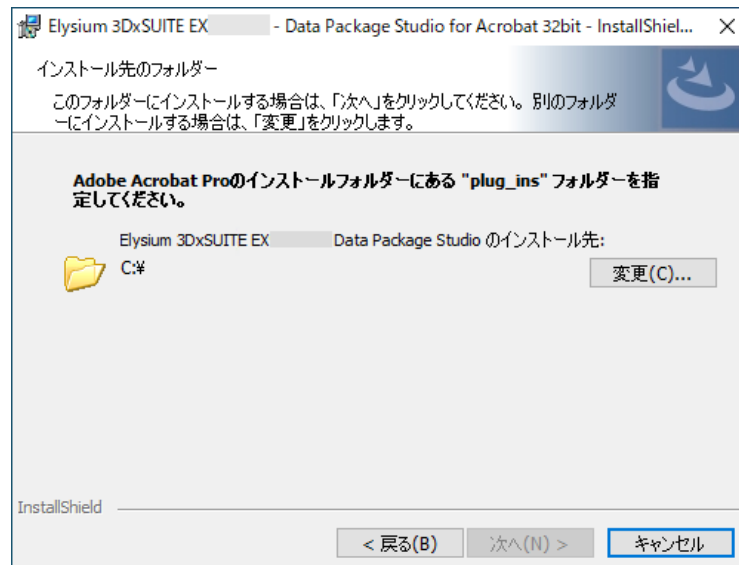
5. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



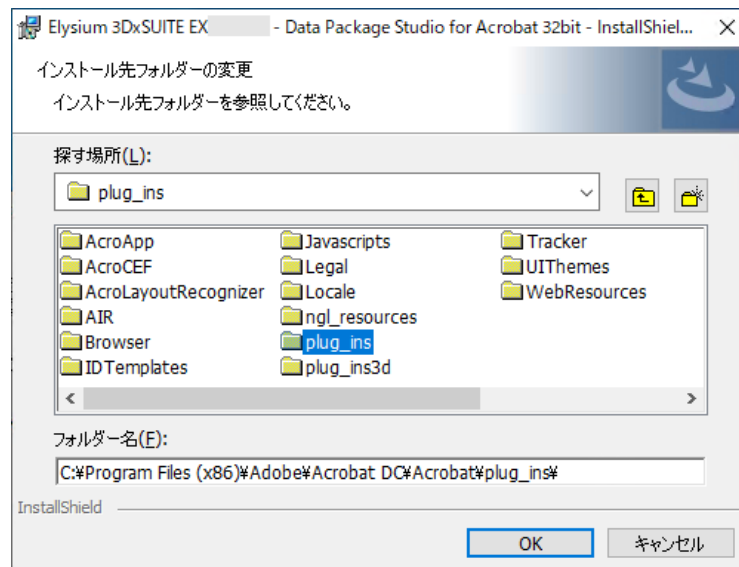
6. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません。



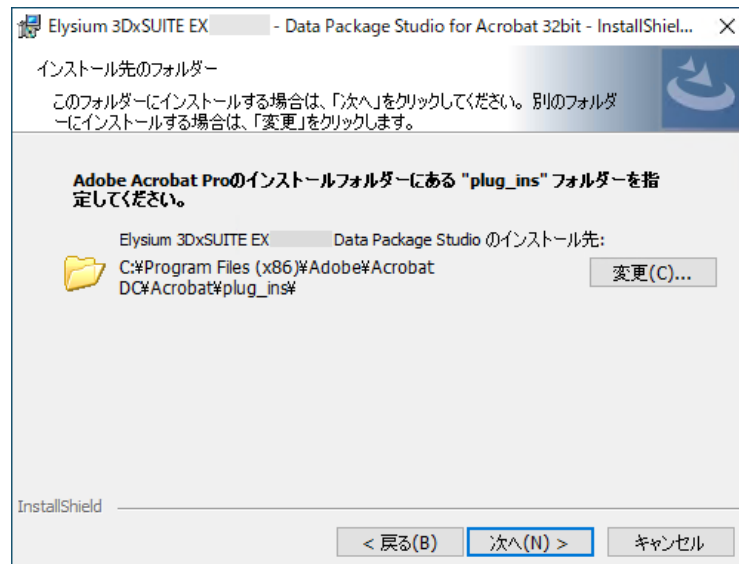
7. インストール先のフォルダー (plug_ins) を指定するダイアログが表示されます。[変更] をクリックします。



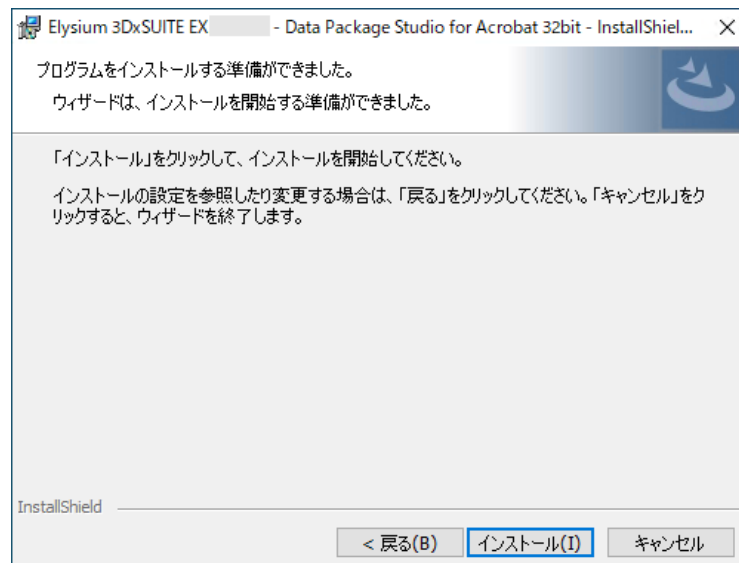
8. 変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [OK] をクリックします。



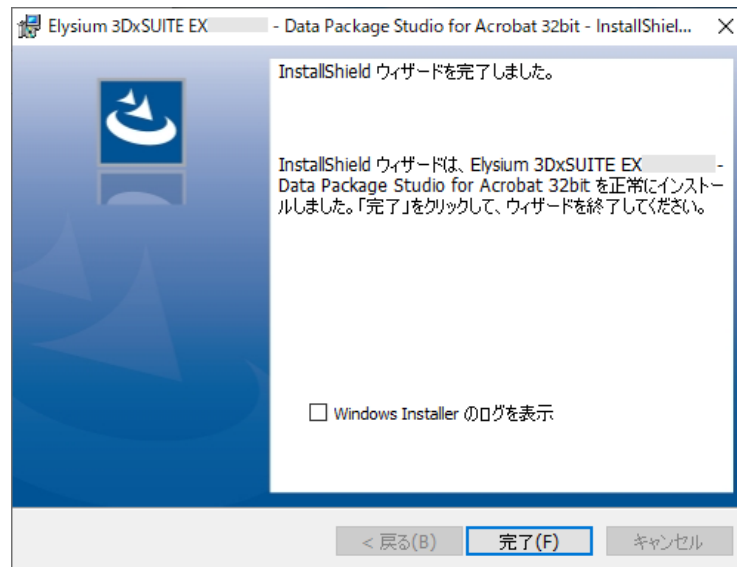
9. 表示されたインストール先のフォルダーを確認して [次へ] をクリックします。



10. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



11. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



12.1.2. サイレントインストール

コマンドにて Data Package Studio の新規導入を行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明をご参照ください。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_32bit.exe /s
/v"INSTALLDIR="C:\Program Files (x86)\Adobe\Acrobat DC\Acrobat\plug_ins\" /qn"
```

または

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_64bit.exe /s
/v"INSTALLDIR="C:\Program Files (x86)\Adobe\Acrobat DC\Acrobat\plug_ins\" /qn"
```

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|------------------------|---------|
| /s | インストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /I* \<"<ログファイル>" : ログファイルのパスを指定します。"/I*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 • INSTALLDIR="\<インストールフォルダー>" : インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。 • /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

12.2. 起動手順

1. Adobe Acrobat Pro を起動します。
2. メニューから [Elysium] - [Start Data Package Studio] を選択します。



12.3. 終了手順

Adobe Acrobat Pro を終了することで、Data Package Studio も終了します。

12.4. アンインストール手順

12.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、以下のいずれかを選択してアンインストールを実行します。
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 - Data Package Studio for Acrobat 32-bit
 - Elysium 3DxSUITE EX10.0 - Data Package Studio for Acrobat 64-bit

12.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_32bit.exe /s /x /v"/l*  
"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

または

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Data_Package_Studio_for_Acrobat_64bit.exe /s /x /v"/l*  
"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /s | アンインストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /x | アンインストールを実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• /l* "\<ログファイル>\" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

13. Elysium 3DxSUITE Validation Configurator

事前にインストールする必要があるプログラム

- なし

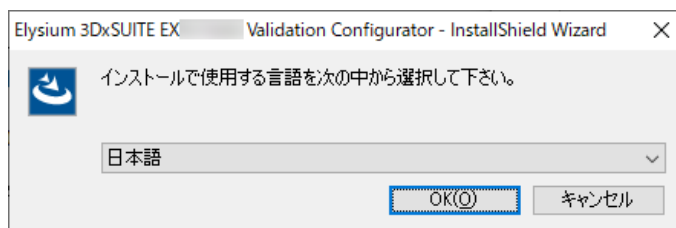
13.1. インストール手順



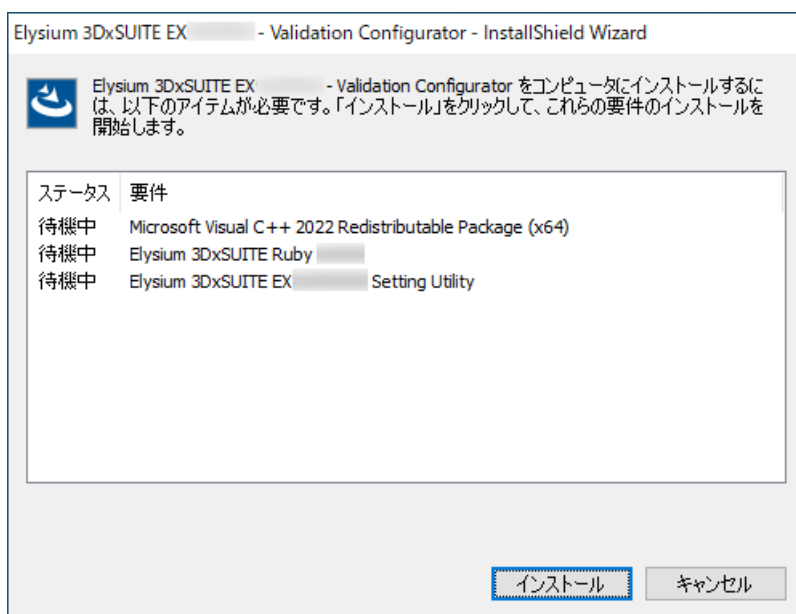
インストールは管理者権限のあるユーザーで実行してください。

13.1.1. 手動インストール

- Validation Configurator のインストーラーを実行します。
 - インストーラーが含まれるフォルダー: <Validation Configurator パッケージ>
 - インストーラー: Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Validation_Configurator.exe
- インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



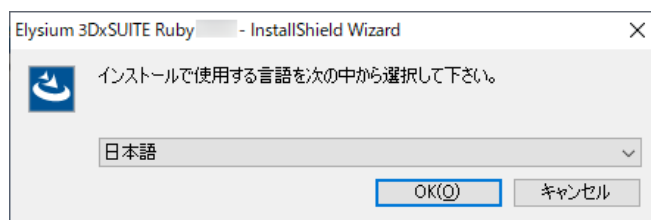
- このダイアログが表示された場合、[インストール] をクリックします。



- Elysium 3DxSUITE Ruby が導入されていない環境の場合、Elysium 3DxSUITE Ruby のインス

トローラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。すでに Elysium 3DxSUITE Ruby が導入されている場合は、Elysium 3DxSUITE Ruby インストール後の手順へ進んでください。

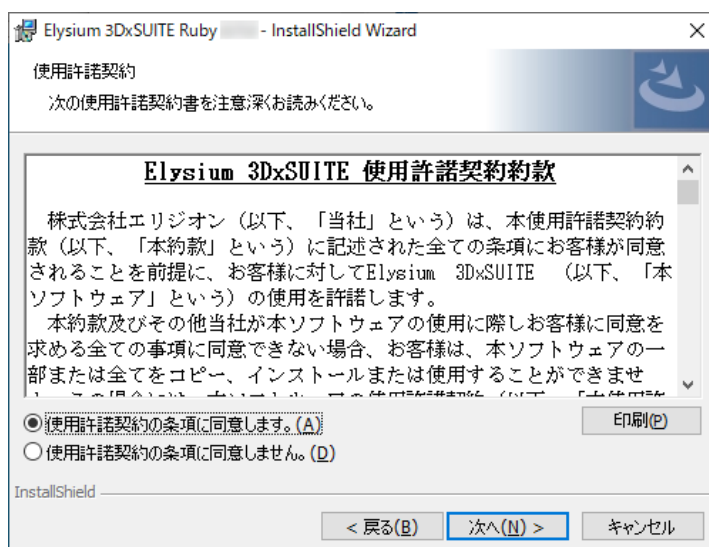
- a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



- b. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。

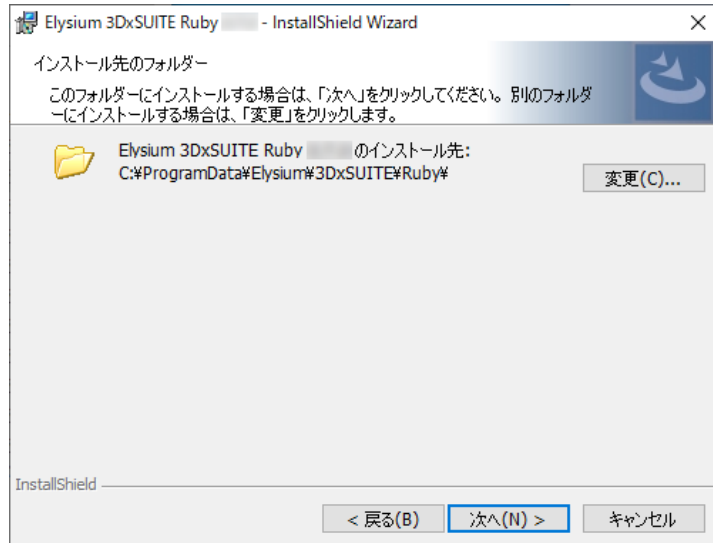


- c. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



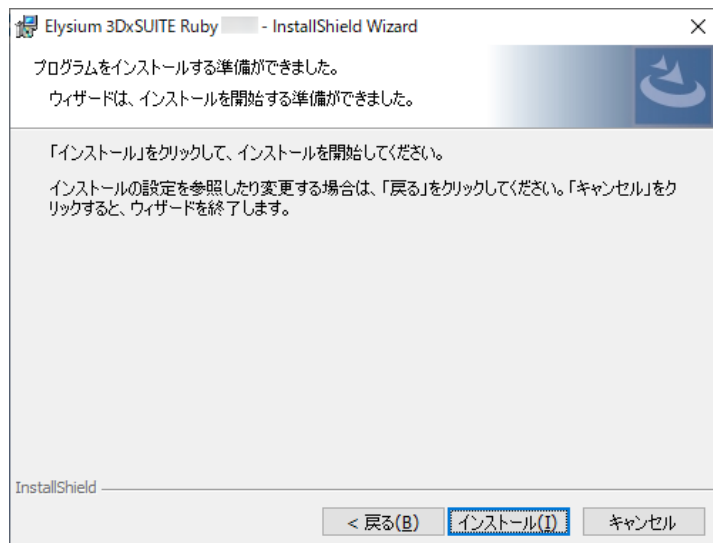
- d. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了

したら [次へ] をクリックします。

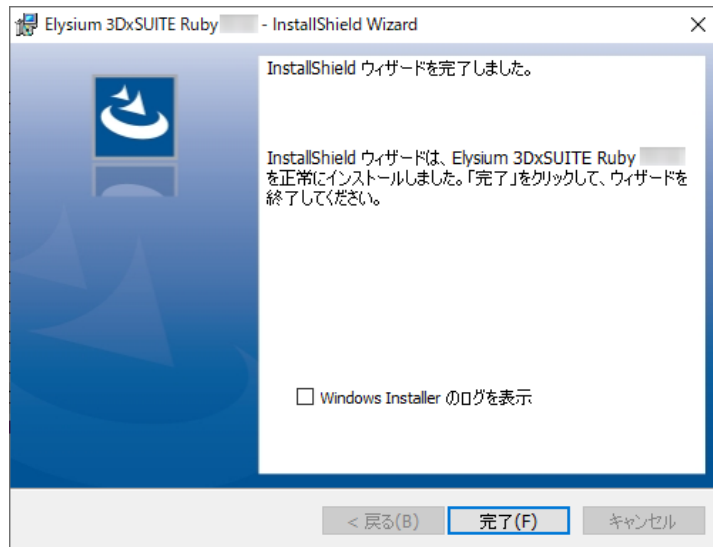


インストール先フォルダーのパスは半角英数字および一部の半角記号（「#」「+」「-」「_」「.」「\$」「/」「:」）のみで構成されるようにしてください。これら以外の文字がパスに含まれている場合にはエラーとなります。

e. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。

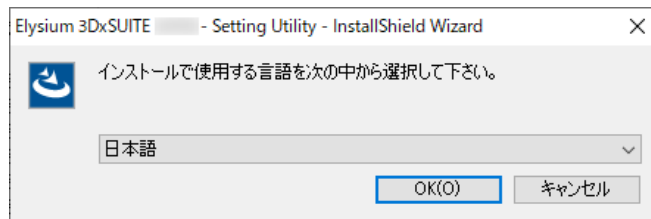


f. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。

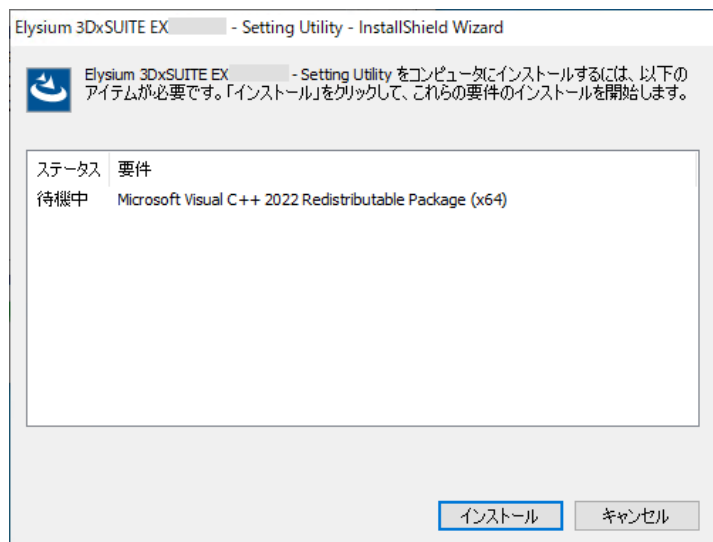


5. Setting Utility がインストールされていない場合、Setting Utility のインストーラーが起動します。以下の手順でインストールを実行します。Setting Utility がすでに導入されている場合は、Setting Utility インストール後の手順へ進んでください。

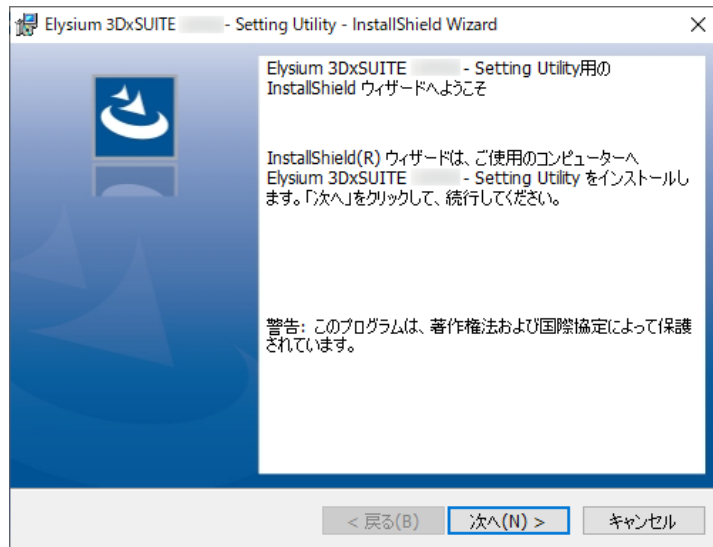
a. インストールで使用する言語を選択して [OK] をクリックします。



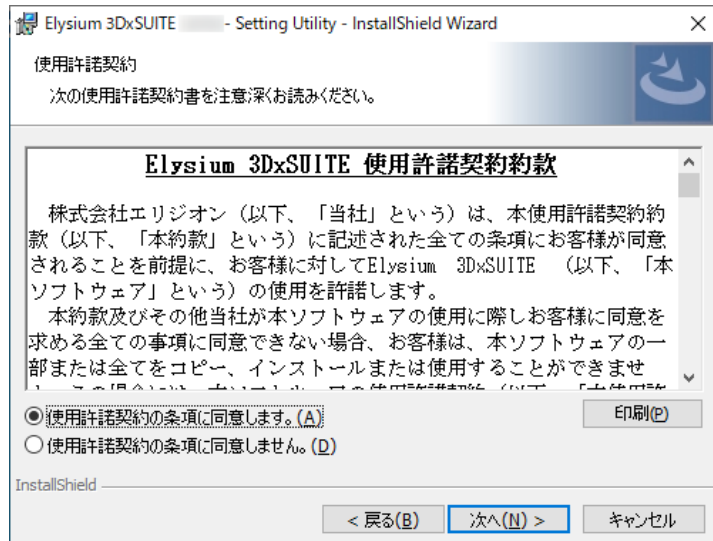
b. このダイアログが表示された場合には [インストール] をクリックしてインストールを実行します。(すでにインストールされている環境では表示されません)



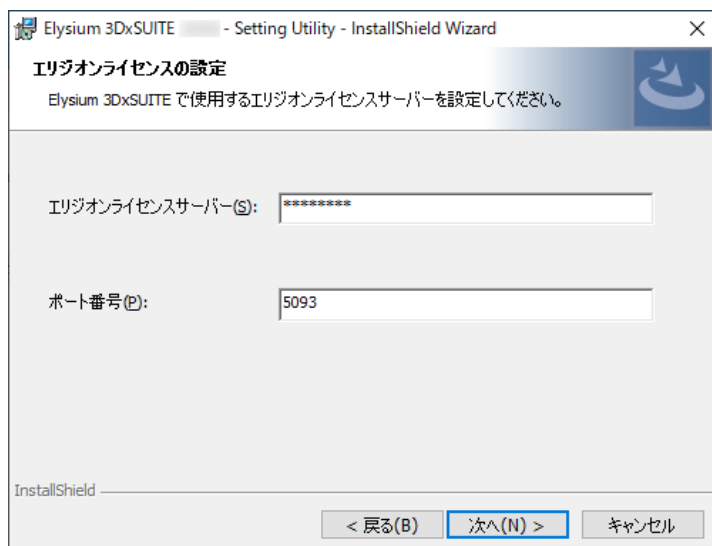
c. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。



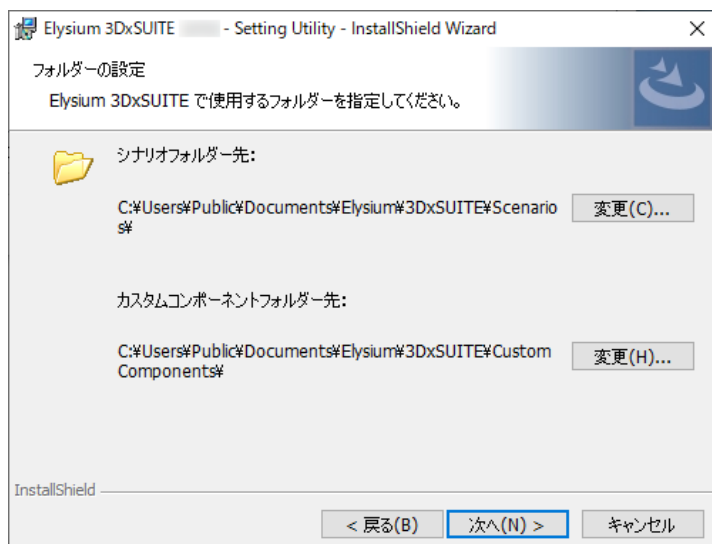
- d. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続ける事はできません。



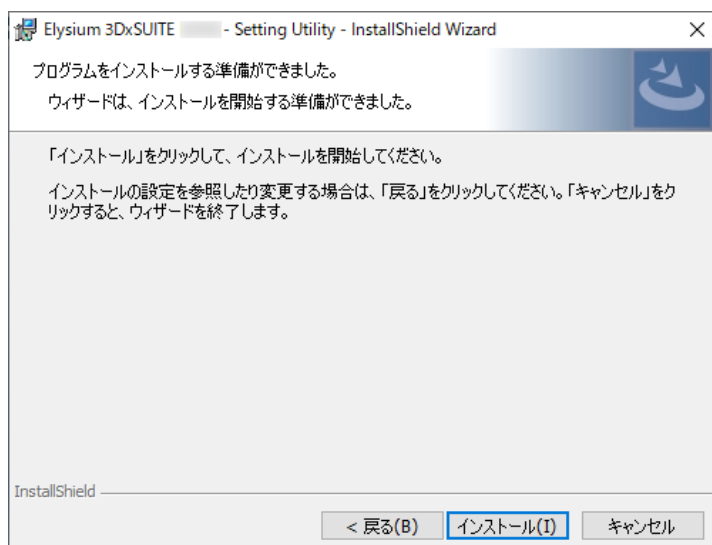
- e. ライセンスの設定画面が表示されます。Sentinel RMS License Manager をインストールしたコンピューターのホスト名を入力し、必要であればポート番号も変更した上で [次へ] をクリックします。



- f. シナリオフォルダーとカスタムコンポーネントフォルダーを設定する画面が表示されます。必要に応じてフォルダーのパスを変更し、[次へ] をクリックします。



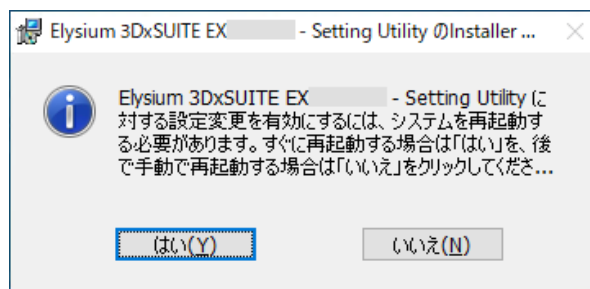
- g. [インストール] をクリックしてインストールを開始します。



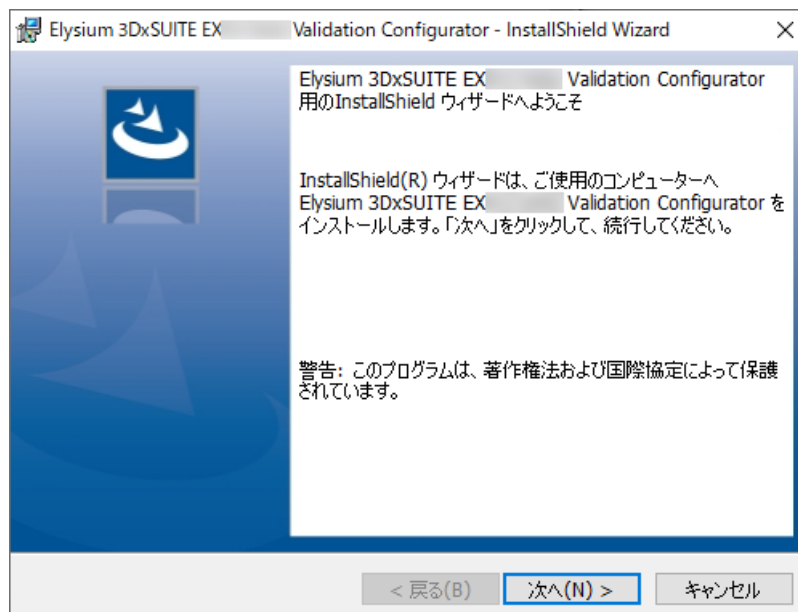
- h. Setting Utility のインストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



- i. 再起動を求めるダイアログが表示された場合には、OS を再起動します。再起動後に次のステップに進んでください。

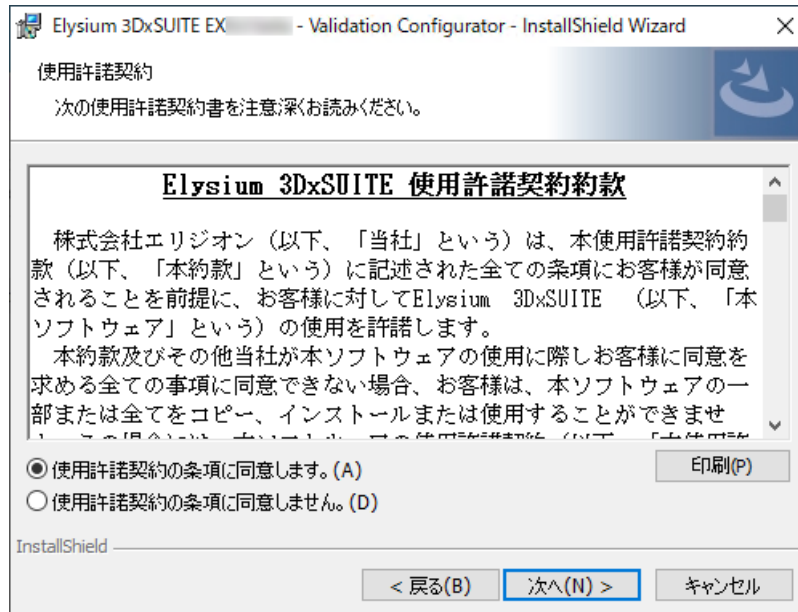


6. インストールウィザードが起動します。[次へ] をクリックします。

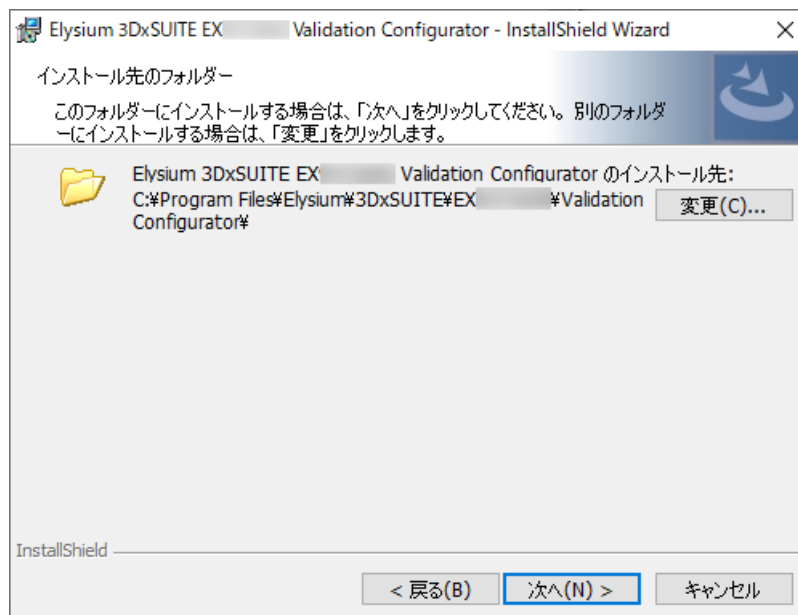


7. 使用許諾契約が表示されます。使用許諾契約に同意する場合には "使用許諾契約の条項に同意します" を選択して [次へ] をクリックします。同意しない場合、インストールを続けることはできません

ん。

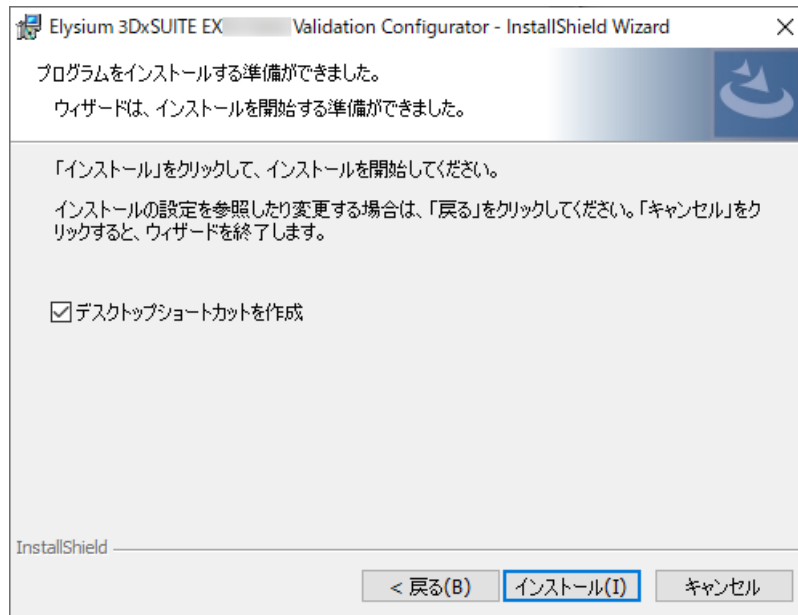


8. インストール先のフォルダーを指定するダイアログが表示されます。デフォルトのインストール先から変更する場合は、[変更] をクリックして変更先フォルダーを指定します。指定が完了したら [次へ] をクリックします。

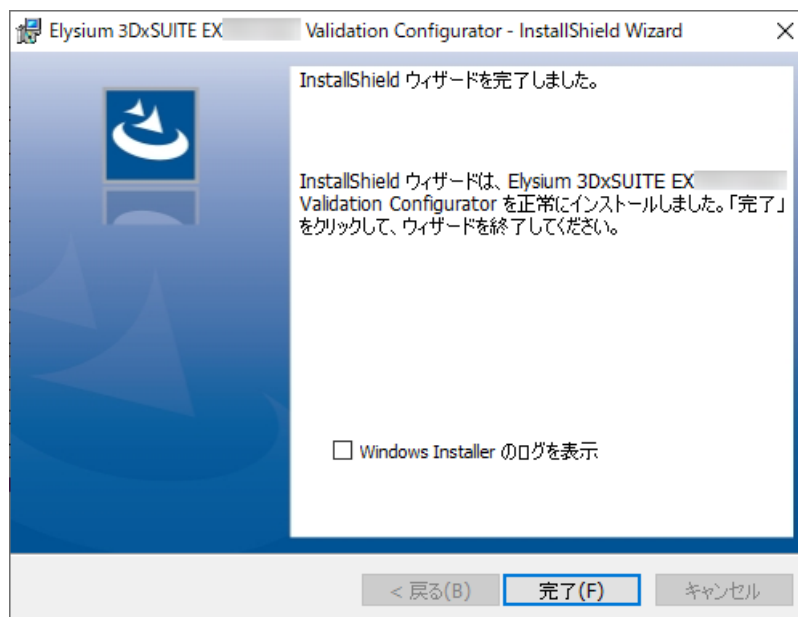


インストール先フォルダーのパスは ASCII 文字のみで構成されるようにしてください。フォルダーパスに非 ASCII 文字が含まれている場合、アプリケーションが想定通りに動作しない場合があります。

9. デスクトップショートカットを作成しない場合はチェックを外します。[インストール] をクリックしてインストールを開始します。



10. インストールが終わると以下のダイアログが表示されます。[完了] をクリックしてインストーラーを終了します。



13.1.2. サイレントインストール

コマンドにて Validation Configurator の新規導入やアップグレードを行うことができます。実行コマンドについては、以下のコマンド例とコマンド引数の説明をご参照ください。

- コマンド例 (改行は不要)

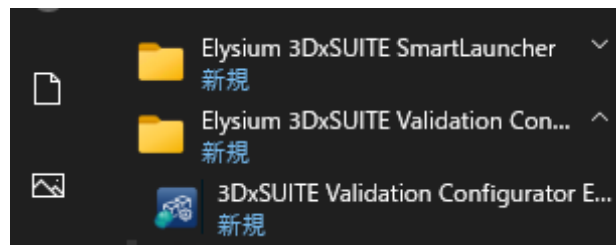
```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Validation_Configurator.exe /s /v"/l*
"C:\temp\install.log\" INSTALLDIR="C:\Program
Files\Elysium\3DxSUITE\EX10.0\VaLidation Configurator\" /qn"
```

サイレントインストールの際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧は以下の通りです。

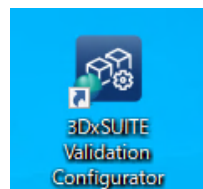
| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /s | インストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /v | <p>/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /l* \<ログファイル>\: ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。 • INSTALLDIR="<インストールフォルダー>": インストール先のフォルダーを指定します。インストール時のみ指定が可能です。 • /qn: ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。 • /qn+: インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

13.2. 起動手順

1. Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE Validation Configurator] - [3DxSUITE Validation Configurator EX10.0] を選択します。



デスクトップ上の [3DxSUITE Validation Configurator EX10.0] ショートカットをダブルクリックして起動することもできます。



Validation Configurator が起動しメインダイアログが表示されます。



13.3. 終了手順

ウィンドウを閉じて終了してください。

13.4. アンインストール手順

13.4.1. 手動アンインストール

1. Windows スタートメニューから [設定](ギアマーク) を選択します。
2. [アプリ] を選択します。
3. "アプリと機能" に表示されたアプリケーションの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX10.0 - Validation Configurator" を選択して、アンインストールを実行します。

13.4.2. サイレントアンインストール

コマンドでサイレントアンインストールを行うことができます。現在導入されているバージョンのインストーラーが必要です。

- コマンド例

```
Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Validation_Configurator.exe /s /x /v"/l*
"C:\temp\uninstall.log\" /qn"
```

サイレントアンインストールを実行する際にインストーラーに渡すコマンド引数の一覧です。

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|--------------------------|---------|
| /s | アンインストールをサイレントモードで実行します。 | 必須 |
| /x | アンインストールを実行します。 | 必須 |

| コマンド引数 | 説明 | 必須 / 任意 |
|--------|---|---------|
| /v | <p data-bbox="384 232 1177 264">/v"<引数1> <引数2> ..." という形式で以下の引数を指定します。</p> <ul data-bbox="405 309 1203 582" style="list-style-type: none"><li data-bbox="405 309 1203 385">• /l* \<"<ログファイル>" : ログファイルのパスを指定します。"/l*" とファイル名の間には半角スペースが必要です。<li data-bbox="405 407 1203 483">• /qn : ダイアログを表示せずにインストールやアンインストールを実行します。<li data-bbox="405 506 1203 582">• /qn+ : インストールやアンインストールの完了時にダイアログを表示します。 | 任意 |

14. Elysium 3DxSUITE PDQ Checker Configurator

事前にインストールする必要があるプログラム

- ・ なし

14.1. インストール手順

PDQ Checker Configurator のインストーラーはありません。 <PDQ Checker Configurator パッケージ> に含まれる "PDQCheckerSetting.xlsm" と "MakeChkParam.exe" を任意の場所にコピーして使用してください。

14.2. 起動手順

"PDQCheckerSetting.xlsm" を Microsoft Excel で開いてください。

14.3. 終了手順

Microsoft Excel を終了してください。

14.4. アンインストール手順

"PDQCheckerSetting.xlsm" および "MakeChkParam.exe" を削除してください。

15. Elysium 3DxSUITE 設定ユーティリティー

事前にインストールする必要があるプログラム

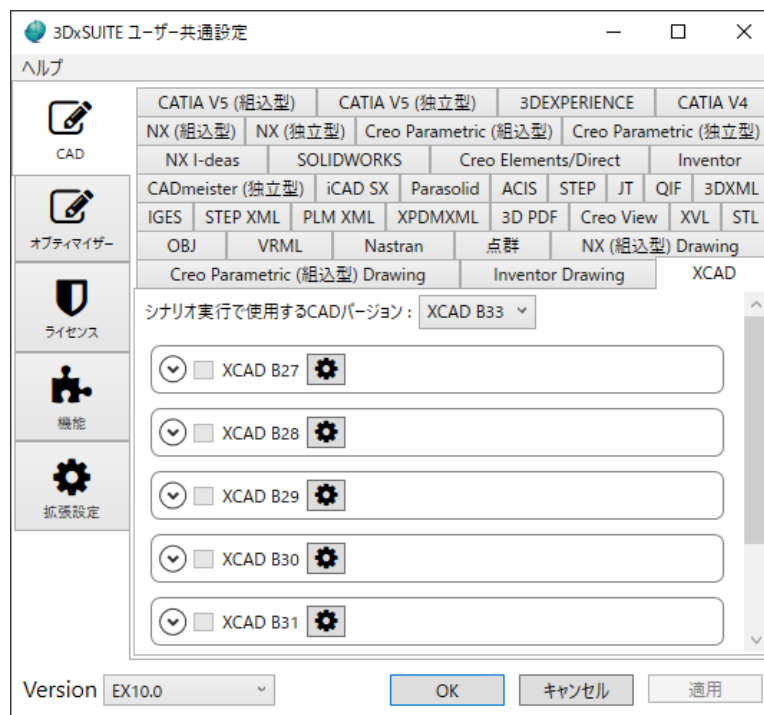
- なし

15.1. インストール手順

3DxSUITE 設定ユーティリティーは、各製品のインストーラーを実行した際、必要に応じて自動的にインストールされます。個別にインストールする必要はありません。

15.2. 起動手順


Windows スタートメニューから [Elysium 3DxSUITE] - [3DxSUITE ユーザー共通設定] または [Elysium 3DxSUITE] - [3DxSUITE ローカルユーザー設定] を選択して起動してください。



15.3. 終了手順

ウインドウ下部の [OK] をクリックするか、ウインドウを閉じて終了してください。

15.4. アンインストール手順

- Windows メニューから  [設定] を選択し、表示されたウインドウで [アプリ] を選択します。
- 表示されたアプリの一覧から、"Elysium 3DxSUITE EX10.0 - Setting Utility" を選択します。
- [アンインストール] をクリックします。

16. トラブルシューティング

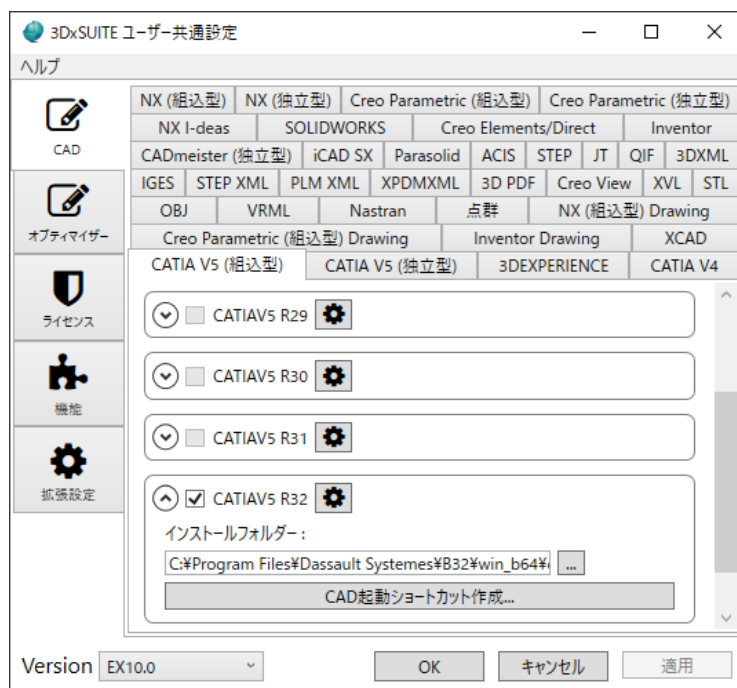
現象 1: SmartLauncher (Plug-in) for CATIA V5 を起動した際、CATIA V5 の環境ファイルに記載されている内容が反映されない。

[対処方法] CATIA V5 環境ファイルの情報が正しく指定されていない可能性があります。 [CAD 別初期設定 / 注意事項 - CATIA V5](#) に記載している内容に従って、CATIA V5 環境ファイルの情報を指定して下さい。

現象 2: エクスプローラーのコンテキストメニューから SmartLauncher (Standalone) による変換を実行すると、CATIA V5 のライセンスに関するエラーが発生する。通常の手順で CATIA V5 を起動した場合、エラーは発生しない。

[対処方法] CATIA V5 環境ファイルの情報が正しく指定されていない可能性があります。以下の手順に従って CATIA V5 環境ファイルを指定してください。

1. Windows メニューから [Elysium 3DxSUITE] - [3DxSUITE ユーザー共通設定] または [Elysium 3DxSUITE] - [3DxSUITE ローカルユーザー設定] を選択します。
2. [CAD] タブを開きます。
3. CATIA V5 のタブを選択し、変換に用いるバージョンのギアマークをクリックします。



4. "CAD2ENF" および "ENF2CAD" の "CATIAV5_EnvPath" に CATIA V5 環境ファイルの絶対パスを入力して [OK] をクリックします。
5. [OK] をクリックして [3DxSUITE ユーザー共通設定] ウィンドウまたは [3DxSUITE ローカルユーザー設定] ウィンドウを閉じます。

現象 3: カスタマイズされた NX 環境 (Teamcenter 環境を含む) で SmartLauncher (Plug-in) for NX のメニューが表示されない。

[対処方法] [CAD 別初期設定 / 注意事項 - NX](#) に記載している内容に従って設定を行ってください。

現象 4: 使用したい CAD のバージョンに対応する SmartLauncher (Plug-in) のインストーラーが見つからない。

[対処方法] SmartLauncher (Plug-in) は、3DxSUITE がサポートする CAD バージョンの一部のみをサポートしています。詳細については、リリースノートにある "サポートCAD バージョン一覧" を参照してください。

現象 5: サイレントインストール実行中に OS が再起動される。

[対処方法] こちらは想定された動作となるため、回避方法はありません。手動インストールではインストール完了時に再起動を求めるダイアログが表示されますが、サイレントインストールではこのダイアログが表示されず、そのまま再起動が実行されます。

現象 6: "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" の実行を途中でキャンセルした際に完了画面がフリーズする。

[対処方法] タスクマネージャーを起動して、"Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" プロセスを強制終了してください。

現象 7: "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe" の実行が失敗する。

[対処方法] "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Component_Base.exe" によるインストールのみが実行されている場合にこのような現象が起きることがあります。該当する場合には、追加で "Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_Base.exe" によるインストールを実行するか、Windows の "アプリと機能" から "Elysium 3DxSUITE EX10.0 - Component Base" をアンインストールしてください。

現象 8: 3DxSUITE 製品のいずれかが、インストールに成功しているように見えるにも関わらず起動しない。

[対処方法] ジャンクションを含むパスにアプリケーションをインストールするとこのような現象が起きることがあります。インストールの際にジャンクションが含まれないパスを指定してください。なおジャンクションの詳細については、以下の URL を参照してください。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/junction>

Appendix A: 3DxSUITE インストーラー一覧

| インストール対象製品 | 説明 |
|---|---|
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Viewer.exe | |
| 3DxSUITE Viewer | 3DxSUITE Viewer をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Editor.exe | |
| 3DxSUITE Editor | 3DxSUITE Editor をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher.exe | |
| 3DxSUITE SmartLauncher | 3DxSUITE SmartLauncher をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController.exe | |
| 3DxSUITE SmartController | 3DxSUITE SmartController をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartController_Pro.exe | |
| 3DxSUITE SmartController Pro | 3DxSUITE SmartController Pro をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_TransServer.exe | |
| 3DxSUITE TransServer | 3DxSUITE TransServer をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_WorkerNode.exe | |
| 3DxSUITE WorkerNode | 3DxSUITE WorkerNode をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Inspector.exe | |
| 3DxSUITE Inspector | 3DxSUITE Inspector をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Drawing_Validator_Viewer.exe | |
| 3DxSUITE Drawing Validator Viewer | 3DxSUITE Drawing Validator Viewer をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Components.exe | |
| 一部を除く製品全体 | 一部の Front-End と Utility Tool を除く全製品を一括インストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Data_Package_Studio.exe | |
| 3DxSUITE Data Package Studio | 3DxSUITE Data Package Studio をインストールするためのインストーラーです。 |

| インストール対象製品 | 説明 |
|--|--|
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Validation_Configurator.exe | |
| 3DxSUITE Validation Configurator | 3DxSUITE Validation Configurator をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_3D_PDF_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE 3D PDF Adapter | 3DxSUITE 3D PDF Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_3DEXPERIENCE_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE 3DEXPERIENCE Adapter | 3DxSUITE 3DEXPERIENCE Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_3DXML_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE 3DXML Adapter | 3DxSUITE 3DXML Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_ACIS_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE ACIS Adapter | 3DxSUITE ACIS Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_CADmeister_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE CADmeister Adapter | 3DxSUITE CADmeister Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_CATIA_V4_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE CATIA V4 Adapter | 3DxSUITE CATIA V4 Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_CATIA_V5_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE CATIA V5 Adapter | 3DxSUITE CATIA V5 (Plug-in) Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_CATIA_V5_Standalone_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE CATIA V5 Standalone Adapter | 3DxSUITE CATIA V5(Standalone) Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_CATIA_V5_XCAD_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE CATIA V5 XCAD Adapter | 3DxSUITE CATIA V5 XCAD Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Component_Base.exe | |
| 3DxSUITE Component Base | 3DxSUITE Component Base をインストールするためのインストーラーです。 |

| インストール対象製品 | 説明 |
|---|---|
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Creo_Elements_Direct_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE Creo Elements Direct Adapter | 3DxSUITE Creo Elements Direct Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Creo_Parametric_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE Creo Parametric Adapter | 3DxSUITE Creo Parametric (Plug-in) Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Creo_Parametric_Drawing_Importer.exe | |
| 3DxSUITE Creo Parametric Drawing I mporter | 3DxSUITE Creo Parametric Drawing Importer をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Creo_Parametric_Standalone_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE Creo Parametric Standalone Adapter | 3DxSUITE Creo Parametric(Standalone) Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Creo_View_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE Creo View Adapter | 3DxSUITE Creo View Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_iCAD_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE iCAD SX Adapter | 3DxSUITE iCAD SX Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_IGES_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE IGES Adapter | 3DxSUITE IGES Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Inventor_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE Inventor Adapter | 3DxSUITE Inventor Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Inventor_Drawing_Importer.exe | |
| 3DxSUITE Inventor Drawing Importer | 3DxSUITE Inventor Drawing Importer をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_JT_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE JT Adapter | 3DxSUITE JT Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Nastran_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE Nastran Adapter | 3DxSUITE Nastran Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |

| インストール対象製品 | 説明 |
|---|--|
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_NX_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE NX Adapter | 3DxSUITE NX(Plug-in) Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_NX_Drawing_Importer.exe | |
| 3DxSUITE NX Drawing Importer | 3DxSUITE NX Drawing Importer をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_NX_I-deas_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE NX I-deas Adapter | 3DxSUITE NX I-deas Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_NX_Standalone_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE NX Standalone Adapter | 3DxSUITE NX(Standalone) Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_OBJ_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE OBJ Adapter | 3DxSUITE OBJ Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Parasolid_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE Parasolid Adapter | 3DxSUITE Parasolid Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_PLM_XML_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE PLM XML Adapter | 3DxSUITE PLM XML Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_Point_Cloud_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE Point Cloud Adapter | 3DxSUITE Point Cloud Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_QIF_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE QIF Adapter | 3DxSUITE QIF Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_3DEXPERIENCE.exe | |
| 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in for 3DEXPERIENCE | 3DEXPERIENCE 向けの 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_Base.exe | |
| 3DxSUITE SmartLauncher Base | 3DxSUITE SmartLauncher Base をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_CATIA_V5.exe | |
| 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in for CATIA V5 | CATIA V5 向けの 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in をインストールするためのインストーラーです。 |

| インストール対象製品 | 説明 |
|--|---|
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_Creo_Parametric.exe | |
| 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in for Creo Parametric | Creo Parametric 向けの 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_NX.exe | |
| 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in for NX | NX 向けの 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SmartLauncher_SOLIDWORKS.exe | |
| 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in for SOLIDWORKS | SOLIDWORKS 向けの 3DxSUITE SmartLauncher Plug-in をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SOLIDWORKS_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE SOLIDWORKS Adapter | 3DxSUITE SOLIDWORKS Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_SolidEdge_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE Solid Edge Adapter | 3DxSUITE Solid Edge Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_STEP_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE STEP Adapter | 3DxSUITE STEP Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_STEP_XML_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE STEP XML Adapter | 3DxSUITE STEP XML Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_STL_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE STL Adapter | 3DxSUITE STL Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_VRML_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE VRML Adapter | 3DxSUITE VRML Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_XPDMXML_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE XPDMXML Adapter | 3DxSUITE XPDMXML Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |
| Elysium_3DxSUITE_EX10_0_XVL_Adapter.exe | |
| 3DxSUITE XVL Adapter | 3DxSUITE XVL Adapter をインストールするためのインストーラーです。 |

Appendix B: サンプルシナリオについて

DFM Studio、DFAS Studio、CAD Validator、Drawing Validator を実行するためのサンプルシナリオを製品に同梱しています。サンプルシナリオを利用することにより、これらの機能をすぐに利用することができます。

それぞれのサンプルシナリオの詳細は以下の通りです。

B.1. DFM Studio を実行するためのサンプルシナリオ

DFM Studio を実行するためのサンプルシナリオは以下のフォルダーに含まれています。

```
<Base パッケージ>\sample\scenario\dfms
```

フォルダー内にある `install_dfms_scenarios.bat` を実行すると自動的にシナリオフォルダーが作成され、その作成されたフォルダーに `dfms` フォルダー内のシナリオが一括でコピーされます。また、作成されたシナリオフォルダーはラベル付きで "3DxSUITE 設定" に登録されます。

- 作成されるシナリオフォルダーのフォルダー名: Scenarios_DFMS
- シナリオフォルダーに割り当てられるラベル: Check, Merge, Update, Report

3DxSUITE EX9.1.x と DFM Studio v2.1 が導入されている環境に対して、上記の `install_dfms_scenarios.bat` を用いてシナリオを導入すると、古いシナリオが残ったまま新しいシナリオが導入される可能性があります。古いシナリオと新しいシナリオは表示名が同一のため、このような場合には誤って古いシナリオを実行してしまう恐れがあります。

このような場合には、以下の手順で古いシナリオフォルダーのパスを削除してください。



1. 3DxSUITE 設定を起動します。
2. [機能] ページの [シナリオ] タブを開きます。
3. 表示されているシナリオフォルダーのうち、3DxSUITE EX9.1.x の時点で DFM Studio 向けのシナリオを格納していたものを削除します。

なお古いシナリオフォルダーのパスを削除すると、それらのシナリオに設定されていたシナリオパラメーターセット (SPS) も使用できなくなります。既存の SPS を最新バージョンのシナリオで利用したい場合には、エリジオンもしくは購入元の代理店へお問い合わせください。

B.2. DFAS Studio を実行するためのサンプルシナリオ

DFAS Studio を実行するためのサンプルシナリオは以下のフォルダーに含まれています。

```
<Base パッケージ>\sample\scenario\dfass
```

フォルダー内にある `install_dfass_scenarios.bat` を実行すると自動的にシナリオフォルダーが作成され、その作成されたフォルダーに `dfass` フォルダー内のシナリオが一括でコピーされます。また、作成されたシナリオフォルダーはラベル付きで "3DxSUITE 設定" に登録されます。

- 作成されるシナリオフォルダーのフォルダー名: Scenarios_DFASS
- シナリオフォルダーに割り当てられるラベル: Check, Update, Report

3DxSUITE EX9.1.x と DFAS Studio v1.1 が導入されている環境に対して、上記の `install_dfass_scenarios.bat` を用いてシナリオを導入すると、古いシナリオが残ったまま新しいシナリオが導入される可能性があります。古いシナリオと新しいシナリオは表示名が同一のため、このような場合には誤って古いシナリオを実行してしまう恐れがあります。

このような場合には、以下の手順で古いシナリオフォルダーのパスを削除してください。



1. 3DxSUITE 設定を起動します。
2. [機能] ページの [シナリオ] タブを開きます。
3. 表示されているシナリオフォルダーのうち、3DxSUITE EX9.1.x の時点で DFAS Studio 向けのシナリオを格納していたものを削除します。

なお古いシナリオフォルダーのパスを削除すると、それらのシナリオに設定されていたシナリオパラメーターセット (SPS) も使用できなくなります。既存の SPS を最新バージョンのシナリオで利用したい場合には、エリジオンもしくは購入元の代理店へお問い合わせください。

B.3. CAD Validator を実行するためのサンプルシナリオ

CAD Validator を実行するためのサンプルシナリオは以下のフォルダーに含まれています。

```
<Base パッケージ>\sample\scenario\cv
```

フォルダー内にある `install_cv_scenarios.bat` を実行すると自動的にシナリオフォルダーが作成され、その作成されたフォルダーに `cv` フォルダー内のシナリオが一括でコピーされます。また、作成されたシナリオフォルダーはラベル付きで "3DxSUITE 設定" に登録されます。

- 作成されるシナリオフォルダーのフォルダー名: Scenarios_CV
- シナリオフォルダーに割り当てられるラベル: CAD Validator (Pre-defined)

サンプルシナリオとは別に、"JAMA 同一性検証ガイドライン" に沿った比較設定ファイルを出力するための Excel マクロも製品に同梱しています。こちらのファイルは以下のフォルダーにあります。



```
<Base パッケージ>\sample\jama
```

使用方法については、同じフォルダーにある "README.txt" を参照してください。

参考: CAxデータ変換における同一性検証ガイドライン

https://www.jama.or.jp/cgi-bin/it/download_03.cgi

B.4. Drawing Validator を実行するためのサンプルシナリオ

Drawing Validator を実行するためのサンプルシナリオは以下のフォルダーに含まれています。

```
<Base パッケージ>\sample\scenario\drwv
```

フォルダー内にある install_drwv_scenarios.bat を実行すると自動的にシナリオフォルダーが作成され、その作成されたフォルダーに drwv フォルダー内のシナリオが一括でコピーされます。また、作成されたシナリオフォルダーはラベル付きで "3DxSUITE 設定" に登録されます。

- 作成されるシナリオフォルダーのフォルダー名: Scenarios_DRWV
- シナリオフォルダーに割り当てられるラベル: Drawing Validator (Pre-defined)

シナリオフォルダーの作成場所について

install_***_scenarios.bat を実行した際、既定では以下のパスにシナリオフォルダーが作成されます。

- %PUBLIC%\Documents\Elysium\3DxSUITE

シナリオフォルダーの作成されるパスを変更したい場合には、以下のファイルの 2 行目をアンコメントし、シナリオフォルダーを作成したいパスを指定してください。

- <Base パッケージ>\sample\scenario\lib\config.ini

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの
行為をすることは禁じられています。